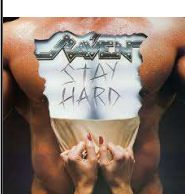
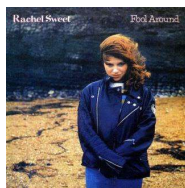
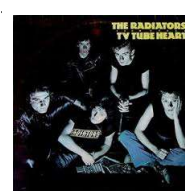
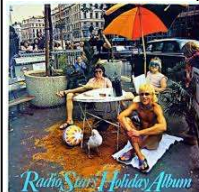
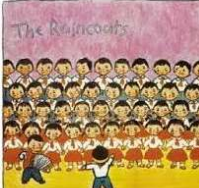
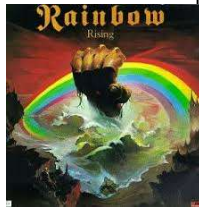
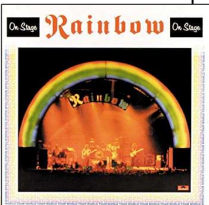
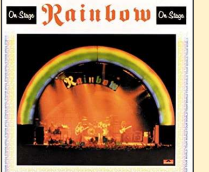
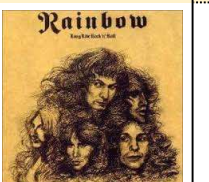
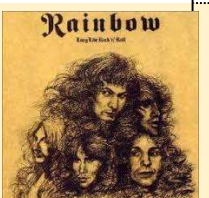
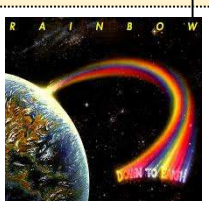
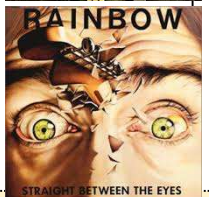
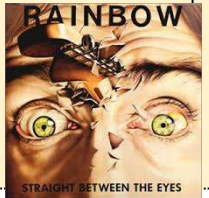
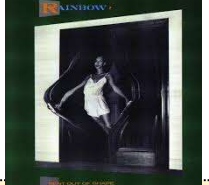
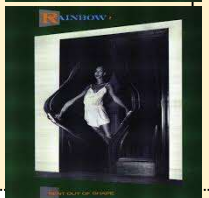
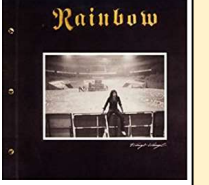
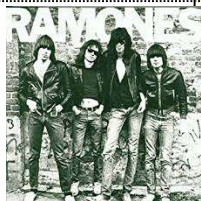
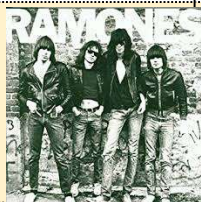
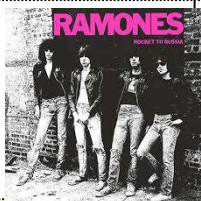
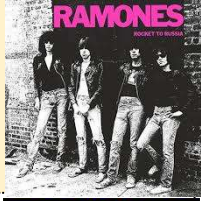
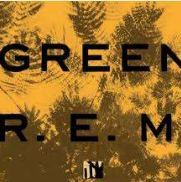
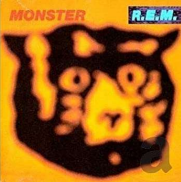
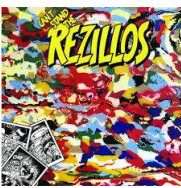
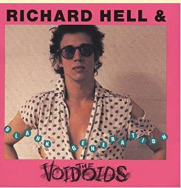
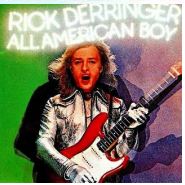
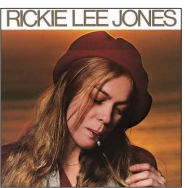
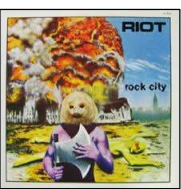


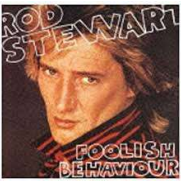
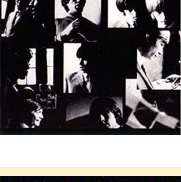
	アーティスト名	日本タイトル	発売日	ジャンル	レコード or CD	アルバム内容	収録曲		
R	RAVEN	ステイ・ハード		1985年	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	三人組パワー・メタル。アメリカで最高81位を記録した「Stay Hard」が彼等にとつてのセールス面での頂点。最高傑作は「Wiped Out」か「All for One」あたりだ。一部ではスラッシュ・メタルの原点などと言われている。トラック1のタイトル曲の出来が良い。「ステイハー、ステイウェツツ」のバック・コーラスが印象的で力強く元気を貰えて、力が漲ってくる。全く速さを感じないが、レイプンらしさは全開のミディアム・テンポ。トラック3「On And On」は「All for One」の流れを汲む叙情的メタルで、更に彼等の良さが出てるかも？。演奏も良いが、メジャーレーベルの本領発揮、音がクリアーでギターの爆音、ジョンの絶叫が耳に炸裂する。心地イイ時間だ。しかし、トラック2は明らかに曲がつまらないし、トラック7のバラードは特に不出来というしかない。本来のスピードを伴ったトラック9「Extract the Action」、インストながら本作最速のトラック10「The Bottom Line」等はハイレベルな演奏に聞き入ってしまう。	Side A 1. ステイ・ハード 2. ゴーイング・ゲッツ・タフ 3. オン・アンド・オン 4. ゲット・イット・ライト 5. レストレス・チャイルド	Side B 1. パワー・アンド・グロリー 2. プレイ・フォー・ザ・サン 3. ハード・ライド 4. アクション 5. ボトム・ライン
	RACHL SWEET	フル・ア라운드		1979	ニューウェ イブ	レコード	レイチェル・スウィートは、12歳にして「We Live In Two Different World」などカントリー・ミュージック歌手としてレコーディングした経験が示唆するように、彼女の魅力を引き出すのは、カントリー・バラード、そして、激甘ロリータ・ヴォイスを活かしたポップス寄りのサウンドでしたが、デビューアルバム『フル・ア라운드』は、ロカビリーやパンク、パブロック、カントリーや60's R&Bなどごった煮な音楽を詰め込んだ一枚です。当時の流行りはパンク〜ニューウェーブであり、レーベルもニューウェーブ専門レーベルであるSTIFF、サポートミュージシャンもイアン・デューリーと彼のバンド(ブローケン・ヘッズ)、そして、プリンスレー・シュワルツと、STIFF色が色濃くでています。(プロデュース & アレンジにはBarrie Guard、Dave Mackay、Liam Sternberg等が参加) プロモーションも異能のシンガー、リーナ・ラヴィッチと併せておこなわれたようで、果たしてイメージ戦略としてプラスになったのでしょうか。「Who Does Lisa Like?」を始めとする、シャウトしてロックンロールを歌うレイチェルもいいですが、エルビス・コストロが提供したカントリー・バラード調の「Stranger In The House」、デル・シャノンのカバー「I Go To Pieces」(US版)や「Stay Awhile」で聴かせる透き通った声は胸キュンもので、彼女の激甘ロリータ・ヴォイスをもっと活かしていたらロック・アイドルとしてブレークしていたのではないかと、と思います。	Side A 1. ジャスト・マイ・スタイル[3:14] 2. ベイビー [3:06] 3. フー・ダズ・リサ・ライク[3:01] 4. ワイルドウッド・サルーン[3:57] 5. ステイ・アホワイル[3:02] 6. サスペンデッド・アニメーション[3:18]	Side B 1. イッツ・ソー・ディファレント・ヒア[2:50] 2. カッコ〜クロック[2:46] 3. ピン・ア・メダル・オン・メアリー[3:12] 4. ガール・ウィズ・ア・シンセサイザー[2:34] 5. ストレンジャー・イン・ザ・ハウス[4:07]
	RACHL SWEET	汚れなき憧れ		1980年	ニューウェ イブ	レコード	STIFFのアイドル的存在だったレイチェルの1980年リリースした2ndアルバム。ルー・リード、ダムド、グレアム・パーカーのカヴァーを披露。)セカンドアルバムでは、ヴェルベツ・アンダーグラウンドの「NEW AGE」、ダムドの「NEW ROSE」、グラハム・パーカーの「FOOLS GOLD」など、よりニューウェーブ、パンク色を増す結果となりました。一方、アルバムの中で異彩を放つ「TONIGHT RICKY」ではジャジーな大人の色気を魅せています。その後、1981年、コロンビアへ移籍し、アルバム「... And Then He Kissed Me」や「Blame it on Love」、そして、レックス・スミスとのデュエットシングル「Everlasting Love」などをリリース、1988年にはMCAよりジョン・ウォーターズ監督映画『ヘアスプレー』の主題歌をリリースしました。	Side A 1. トゥナイト 2. ジェラス 3. アイヴ・ガット・ア・リーズン 4. ニュー・エイジ 5. ベイビー・レッツ・プレイ・ハウス 6. ニュー・ローズ	Side B 1. フールズ・ゴールド 2. テイク・グッド・ケア・オブ・ミー 3. スペルバウンド 4. ラヴァーズ・レーン 5. ファウル・プレイ 6. トゥナイト・リッキー
	RADIATORS	テレビ・チューブ・ハート		1977	パンク	レコード	伝説的アイリッシュ・パンクロックのパイオニア。超名作1stアルバム。U2のボノが彼らに触発されてバンドを始めたというほど強く影響を受けており、ボーカルのSteve AverillはU2の名付け親でジャケットを手掛けるグラフィックデザイナーとしても有名。	A1. Television Screen A2. Prison Bars A3. Great Expectations A4. Roxy Girl A5. Press Gang A6. Contact A7. Sunday World	B1. Electric Shares B2. Enemies B3. Ripped And Torn B4. Not Too Late B5. Blitzin' At The Ritz B6. Party Line
	RADIATORS	ゴーストタウン		1978	パンク	レコード	ラジエーターズの1978年のセカンドアルバム。プロデュースはデイヴィッド・ボウイやトレックス(マーク・ボラン)らを手掛けたトニー・ウィスコンティ。パンクを基調にしたサウンドに70年代アイルランド・ダブリンの混沌とした世相を反映した文学的メッセージが込められた、“アイルランドでしか生まれ得なかった”と評される名盤。ギター & ヴォーカルのフィリップ・シェヴロンは後に結成するザ・ボーグスでこのテーマ & スタイルをさらに発展させていった。		
	RADIO STARS	ソングス・フォー・スウィング・ラヴァーズ		1978	ニューウェ イブ	レコード			
	RADIO STARS	ホリデイ・アルバム		1979	ニューウェ イブ	レコード			
	RADIO STARS	ホリデイ・アルバム		1979	ニューウェ イブ	レコード			
	RAILWAY CHILDREN	再会		1986	ネオアコ	レコード			
	RAINCOATS	レインコーツ		1979	ニューウェ イブ	レコード			
	RAINBOW	銀嶺の覇者		1975	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	75年作、レインボーの記念すべきファーストとなったアルバムです。パープル脱退から1年も置かずに、リッチーはソロ・アルバム制作のため、クォーターマスの「BLACK SHEEP OF THE FAMILY」をレコーディングします。ちなみにブラック・シープは厄介者という意味がありますが、当時の邦題は「黒い羊」とまんまのタイトルが冠せられています。この時に集められたのはアメリカのバンド、エルフで、リッチーはロニー・ジェイムズ・ディオと運命的な出会いを果たし、そのままバンド結成、当初のソロ・アルバムのアイデアを流用しながら、以降のレインボーの様式美路線を僅かではありますが生み出す事に成功しています。アルバム全体のサウンドは、「嵐の使者」で聴けたファンキーなハード・ロック路線が目立ち、かなり親しみやすいポップ作になったと思います。	Side A 1. 銀嶺の覇者 Man on the Silver Mountain - 4:42 2. 自画像 Self Portrait - 3:17 3. 黒い羊 (ブラック・シープ・オブ・ザ・ファミリー[3]) Black Sheep of the Family - 3:22 4. 虹をつかもう Catch the Rainbow - 6:27	Side B 1. へび使い Snake Charmer - 4:33 2. 王様の神殿 The Temple of the King - 4:45 3. もしもロックがきらいなら If You Don't Like Rock 'n' Roll - 2:38 4. 16世紀のグリーンズリーヴス Sixteenth Century Greensleeves - 3:31 5. スティル・アィム・サッド Still I'm Sad - 3:51
	RAINBOW	銀嶺の覇者		1975	ハードロック &ヘビー メタル	CD	ロニー以外のエルフのメンバーが結構頑張っているのですが、ご存知の様に本作のみで解雇される事となり、リッチーの厳しい人選管理体制がここから始まり出しました。そのアメリカンなダイナミズムが爆発した「SNAKE CHARMER」や、「IF YOU DON'T LIKE ROCK 'N' ROLL」、ヤードバーズのカヴァーとなった「STILL I'M SAD」等は、このラインナップならではの味わいがあるのは確かです。ただやはりロニーのヴォーカリストとしての魅力が爆発した名曲、「CATCH THE RAINBOW」、あるいは「MAN ON THE SILVER MOUNTAIN 銀嶺の覇者」で、すでにリッチーは自分の進むべき道を見出していたのだと思います。	【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター ミッキー・リー・ソウル - キーボード クレイグ・グルーパー - ベース ゲイリー・ドリスコール - ドラムス ジョシャナ - バックコーラス	
	RAINBOW	虹を翔る覇者		1976	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	76年作。レインボーのセカンド・アルバム。全英11位 / 全米48位。日本オリジナル盤。バンド名義がRitchie Blackmore's RainbowからBlackmore's Rainbowに変更され、しかもアルバム・タイトルは「RISING」とされる事も多いため、レインボーの「ライジング」とシンブル呼ばれるというややこしい1枚。本作からコージー・パウエルが参加し、いよいよリッチー、ロニーとの三頭政治と呼ばれる時代が始まる。前作での土臭いハード・ロック色は完全に払拭され、ロニーの中世ロマンを盛り込み、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団を呼び込んでの圧倒的なドラマ性を生み出している。いわゆる様式美HR/HMという呼び名も、本作から始まったと言ってもいい。特にアルバムを締めくくるラスト2曲、「STARGAZER」、「A LIGHT IN THE BLACK」が、組曲的構成となった大作となり、美しくも激しいリッチーの美学が理想的なメンバーにより具現化に成功。本作限りの参加となったトニー・ケアリー、ジミー・ペインの貢献もかなり大きい。本作がレインボーのベスト・メンバーであった。オープニングの「TAROT WOMAN」のスペーシーかつ荘厳な響きは、ケアリーの流麗なプレイによって演出されていて、また「STARSTRUCK」や「DO YOU CLOSE YOUR EYES」といったキャッチーなナンバーではジミーがコージーと共にタイトに締めてくれている。今となってはこのメンバー中3人が逝ってしまったため、もう二度と本作でのスリリングなプレイは望めないのが、本当に残念に思われます。全6曲という非常にコンパクトな構成ではありませんが、各曲全てに無駄が無く、途中挟まれる唯一パープル色の強い「RUN WITH THE WOLF」も素晴らしいアクセントとなっています。何度聴いても胸熱くなるドラマティックなハード・ロック作品として、メタルファンに必須の1枚と言える。	【プロデュース】マーティン・バーチ Side A 1. タロット・ウーマン Tarot Woman - 5:58 2. ラン・ウィズ・ザ・ウルフ Run with the Wolf - 3:48 3. スターストラック Starstruck - 4:06 4. ドゥ・ユー・クローズ・ユア・アイズ Do You Close Your Eyes - 2:58	Side B 1. スターゲイザー Stargazer - 8:26 2. ア・ライト・イン・ザ・ブラック A Light in the Black - 8:12 【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター トニー・カレイ - キーボード ジミー・ペイン - ベース コージー・パウエル - ドラムス

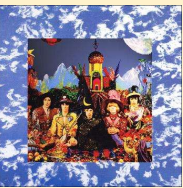
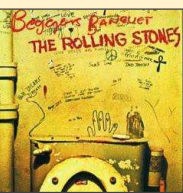
RAINBOW	レインボー・オン・ステージ		1977	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	77年リリース、レインボーの初のライブ盤となったアルバムです。 収録は76年の初来日となった日本武道館、そして同年のドイツ公演の音源も一加入されています。 「オーヴァー・ザ・レインボー」のSEから始まり、オープニングは当時の新曲として発表された「キル・ザ・キング」。この劇的でスリリングな展開には、今聴いても鳥肌が立つ程です。 リッチー、ロニー、コージーという、今ではもう二度と叶わぬラインナップは、レインボーの三頭政治とも呼ばれていましたが、やはり強力なバンド・サウンドだったと思います。 メドレーとなった2曲目、そして名バラード「虹をつかもう」への流れ、更にロニー版「ミストウリーテッド」へと続く構成も見事です。 非常にコンパクトな選曲とはなっていますが、60分を超える収録となっており、実に聴き応えのある1枚です。	Disc1 Side A イントロ：虹のかたに Intro: Over the Rainbow 1. キル・ザ・キング Kill the King - 5:32 2. メドレー 銀嶺の覇者 (Man on the Silver Mountain) / ブルース / スターストラック - 11:12 Side B 1. 虹をつかもう Catch the Rainbow - 15:35	Disc2 Side A 1. ミストウリーテッド - 13:03 Side B 1. 16世紀のグリーンスリーヴス (Sixteenth Century Greensleeves) 7:36 2. スティル・アイム・サッド - 11:01 【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター トニー・カレイ - キーボード ジミー・ペイン - ベース コージー・パウエル - ドラムス
RAINBOW	レインボー・オン・ステージ		1977	ハードロック &ヘビーメタル	CD			
RAINBOW	バビロンの城門		1978	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	78年作。レインボーの3作目となったアルバムで、リッチー、ロニー、コージーによる三頭政治と言われた体制での最後の作品です。ベース、キーボードがまたしても交代し、バンドの状態は混乱状態、レコーディングも一部リッチーがベースを担当する等、けって良好な状況とは言えない中、各曲の完成度は恐ろしく高いものとなっています。 シンブルかつキャッチーなリフがグイグイ引っ張るアルバム・タイトル曲で見事に掴み、ロニーのメロディアスな歌メロが印象的な2曲が続き、アナログA面でのラスト曲はミステリアスなメロディとスリリングな展開、そしてこれぞリッチー大先生と言えるドラマチックなソロへと続いていく「GATES OF BABYLON」となっています。 完璧な構成は更に後半へと受け継がれ、様式美ハード・ロックの超名曲、「KILL THE KING」で一気に頂点へと向かっていきます。 コージーのパワフルなドラムが先導する疾走感と、一度聴いたら忘れられないメロディの絡みは、ロニー時代の最も熱い曲として昇華していると思います。 続くミドル・テンポでのヘヴィ・ナンバー、「THE SHED」、そして本作中最もポップと思われる「SENSITIVE TO LIGHT」、そしてバンド史上最高の美しさでせつなさを誇るバラード大作で、「RAINBOW EYES」で幕を閉じるわけです。 この完璧すぎる内容が、レインボーのピークを象徴し、リッチーはポップ化の促進、一方のロニーは様式美路線の追求の決心をさせる事になりましたが、以降多くのバンドが本作を超えるべく四苦八苦してきたのも事実だと思います。 息をつく暇も無い程の吸引力を持つ構成とメロディの充実度は、今は亡きコージー、ロニーの偉大な同名の凄さをより明らかにしていて、特にラスト・ナンバーでは涙する人も多いのではないのでしょうか。	Side A 1. ロング・リヴ・ロックン・ロール - 4:21 2. レディ・オブ・ザ・レイク - 3:39 3. LAコネクション - 5:02 4. バビロンの城門 (Gates of Babylon) - 6:49	Side B 1. キル・ザ・キング - 4:29 2. ザ・シェッド - 4:47 3. センシティブ・トゥ・ライト - 3:07 4. レインボー・アイズ - 7:11 【メンバー】 ロニー・ジェイムス・ディオ - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター／ベース (1,2,3,6) コージー・パウエル - ドラムス デヴィッド・ストーン - キーボード ボブ・デイズリー - ベース (4,5,7)
RAINBOW	バビロンの城門		1978	ハードロック &ヘビーメタル	CD			
RAINBOW	ダウン・トゥ・アース		1979	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	79年作、レインボーの4枚目のアルバムであり、不世出のヴォーカリスト、グラハム・ボネット、更にリッチーの旧友であり、プロデュースも務めたロジャー・グローヴァーが加わった大名盤です。 本作限りとなったこのメンバーでのレインボーに思い入れも強い人は少なくないと思います。「オール・ナイト・ロング」、そして「シンス・ユー・ビーン・ゴーン」という超ポップ・ナンバーを揃え、完全にアメリカン・マーケットを意識したサウンドへのシフト・チェンジは、ロニー・ジェイムス・ディオ時代のレインボーとは全く違ったバンドとなりましたが、それでもスリリングな展開を見せるドラマチック・ハード・ロックの名残りは十分に残っている部分もあります。 80年代メタルはこう有るべきと予見したかの様な内容は、レインボーの歴史の中でも特筆すべき1枚だと思います。全英6位 / 全米66位。日本オリジナル盤。	Side A 1. オール・ナイト・ロング - 3:53 2. アイズ・オブ・ザ・ワールド - 6:42 3. ノー・タイム・トゥ・ルーズ - 3:45 4. メイキン・ラヴ - 4:38	Side B 1. シンス・ユー・ビーン・ゴーン - 3:25 2. ラヴズ・ノー・フレンド - 4:55 3. デンジャー・ゾーン - 4:31 4. ロスト・イン・ハリウッド - 4:51 【メンバー】 グラハム・ボネット - ボーカル リッチー・ブラックモア - ギター コージー・パウエル - ドラムス ドン・エイリー - キーボード ロジャー・グローヴァー - ベース
RAINBOW	ダウン・トゥ・アース		1979	ハードロック &ヘビーメタル	CD			
RAINBOW	アイ・サレンダー		1981	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	81年作。レインボーの第6作目で、前作の商業的路線を更に推し進めた快作となったアルバムです。 前作を最後に、バンドの人気を支えていたコージー・パウエル、グラハム・ボネットが相次いで脱退します。 NWOBHMが勃発していた中、最大のピンチを迎えたリッチーが迎えたヴォーカリストが、後にハード・ロック界の名シンガーとなるジョー・リン・ターナーでした。 この人のルックスを含めたカリスマ性、華やかな声と、ラス・バラード作の「アイ・サレンダー」が合体した時、以降のメタルの重要な要素となる、メロディアスかつポップなハード・ロックのモデル・ケースが誕生したのでした。 初期レインボーらしさはますます希薄になりましたが、所々に見られるリッチー・ブラックモアのセンスがまさに80年代的なキラキラ度で輝いています。 加速化するフォリナー路線も魅力的ですが、リッチーの職人的なクラシック指向も見逃せません。	Side A 1. アイ・サレンダー I Surrender - 4:10 2. スポットライト・キッド Spotlight Kid - 5:10 3. ノー・リリース No Release - 5:42 4. マジック Magic - 4:15 5. メイビー・ネクスト・タイム Vielleicht Das Nächste Mal[4] (Maybe Next Time) - 3:23	Side B キャント・ハブン・ヒア Can't Happen Here - 5:09 フリーダム・ファイター Freedom Fighter - 4:28 ミッドタウン・タネル・ヴィジョン Midtown Tunnel Vision - 4:44 治療不可 Difficult To Cure - 5:58
RAINBOW	アイ・サレンダー		1981	ハードロック &ヘビーメタル	CD			
RAINBOW	闇からの一撃		1982	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	82年作、レインボーの6作目となり、ジョー・リン・ターナーが加入してからの第二弾となったアルバムです。 ラス・バラードの力を借りずに、ますますフォリナー化したシングル「ストーン・コールド」を中心に、レインボーが本格的にアメリカン・マーケットを意識しています。 前作の「アイ・サレンダー」よりも洗練されたハード・ロック・アルバムとなっており、ポップなメロディも話題になりました。		
RAINBOW	闇からの一撃		1982	ハードロック &ヘビーメタル	CD	全く新しいレインボーのサウンドに賛否両論がより大きくなりましたが、後の80年代メタルのプロト・タイプとも言えるべき内容は無視できない素晴らしいがあります。5位(UK) / 30位(US)。		
RAINBOW	ストリート・オブ・ドリームス		1983	ハードロック &ヘビーメタル	レコード	83年作、レインボー名義としてはラスト作として知られるアルバムです。ジャケットはご存知ヒプノシスが担当しています。 前作、前々作と続いたフォリナー的メロディアス・ハード路線を更に強化する一方、欧州的な陰りを増し、80年代初期のポップ・メタル名盤としての香りは今も衰えていません。 全体的にキーボード主体、そしてジョー・リン・ターナーの歌の上手さが際立つメロディ・ラインによりハード・ロックとしてのダイナミズムより商業的性質を意識しすぎた感もありますが、それでも本作をお手本としてきたバンドは多いと思われます。もう1枚この路線で作って欲しかった気がします、リッチーのアメリカ戦略は、ここで最終的ピークを迎えたという事なのでしょう。アルバム前半の冒頭3曲の完璧さには、何度聴いても震えがきてしまいます。		
RAINBOW	ストリート・オブ・ドリームス		1983	ハードロック &ヘビーメタル	CD			
RAINBOW	ファイナル・ヴァイナル		1986	ハードロック &ヘビーメタル	CD	86年リリース作、レインボーのライヴ・アルバムとしては二作目となったものですが、本作はバンド解散後にロジャー・グローヴァーが特別に編集、言わばファンサービスともなったありがたい作品です。 ロニー・ジェイムス・ディオ、グラハム・ボネット、ジョー・リン・ターナーと、歴代ヴォーカリストをフィーチャーした音源がまとめられ、バンドの歴史一望、更にベスト盤的なセレクトがされています。 更にオリジナル・アルバム未収録であったスタジオ・テイク曲、「Jealous Lover」、「Weiss Heim」、「Bad Girl」が加入されています。 特に「Bad Girl」は、シングル「Since You Been Gone」のB面曲で発表されましたが、その後ベスト盤等にも収録されなかったもので、グラハム・ボネットの熱いヴォーカルが聴ける流石なナンバーなので貴重と思われます。 ライヴ音源に関しては、ジョー在籍時の1984年3月の来日公演の武道館からの収録が4曲も含まれているため、日本人にとってはかなり嬉しい内容になっています。	1. スポットライト・キッド Spotlight Kid (1984年3月14日 ライヴ) - 6:03 2. アイ・サレンダー I Surrender (1984年3月14日 ライヴ) - 5:43 3. ミス・ミストウリーテッド Miss Mistreated (1984年3月14日 ライヴ) - 4:21 4. ジェラース・ラヴァー Jealous Lover - 3:10 5. キャント・ハブン・ヒア Can't Happen Here (1981年4月 ライヴ) - 4:14 6. シンス・ユー・ビーン・ゴーン Since You Been Gone (1980年8月16日 ライヴ) - 3:47 7. バッド・ガール Bad Girl - 4:51 8. 治療不可 Difficult to Cure (1984年3月14日 ライヴ) - 11:15 9. ストーン・コールド Stone Cold (1982年8月18日 ライヴ) - 4:28 10. パワー Power (1982年8月18日 ライヴ) - 4:25 11. 銀嶺の覇者 Man on the Silver Mountain (1978年6月23日 ライヴ) - 8:16 12. ロング・リヴ・ロックン・ロール Long Live Rock' n' Roll (1978年6月23日 ライヴ) - 7:08 13. ワイス・ハイム Weiss Heim - 5:15	

RAINBOW	孤高のストレンジャー		1995	ハードロック &ヘビー メタル	CD	95年作、12年ぶりに伝説のレインボーを復活したアルバム。リッチー・ブラックモアズ・レインボー名義としては、「銀嶺の覇者」以来20年ぶりという事になります。再結成というよりは、事情があったのかバンド名を生かす事が条件だったとは思いますが、「Bent Out Of Shape」の延長線上が基本となるサウンドには感慨深いものがあります。「Wolf To The Moon」や「Black Masquerade」といったナンバーに、ジョー・リン・ターナーの面影をどうしても思い浮かべてしまう人も多かったのでは。ドゥギー・ホワイトという達者なヴォーカリストを得たリッチーは、本作でいくつか実験的な試みもしています。ホーン・セクションを導入した派手な試みや、クラシック指向を更に効果的にメタルに導入したり、ゴシック調のナンバーにも挑戦しています。キャンディス・ナイトが参加した曲は、そのままブラックモアズ・ナイトに流用され、以降のリッチーの転機ともなった重要な作品とも言える。「Can't Happen Here」パート2とても言うべきリフやメロディはご愛嬌といったところでしょうか。本作が地味な印象を持っているのは、あまり話題にならなかったせいもあるのですが、もっと再評価がされていい大作だ。	特記なき楽曲はリッチー・ブラックモアとドゥギー・ホワイトの共作。 1. ウルフ・トゥ・ザ・ムーン - “Wolf to the Moon” (Ritchie Blackmore, Doogie White, Candice Night) - 4:16 2. コールド・ハーテッド・ウーマン - “Cold Hearted Woman” - 4:31 3. ハンティング・ヒューマンズ(インセインシャブル) - “Hunting Humans (Insatiable)” - 5:45 4. スタンド・アンド・ファイト - “Stand and Fight” - 5:22 5. アリエル - “Ariel” (R. Blackmore, C. Night) - 5:39 6. トゥー・レイト・フォー・ティアーズ - “Too Late for Tears” (R. Blackmore, D. White, Pat Regan) - 4:56 7. ブラック・マスカーレード - “Black Masquerade” (R. Blackmore, Paul Morris, D. White, C. Night) - 5:35 8. サイレンス - “Silence” - 4:04 9. ホール・オブ・ザ・マウンテン・キング - “Hall of the Mountain King” (Edvard Grieg, C. Night / arr. by R. Blackmore) - 5:34 10. スティル・アイム・サッド - “Still I’m Sad” (Paul Samwell-Smith, Jim McCarty) - 5:22 11. エモーションナル・クライム - “Emotional Crime” (R. Blackmore, D. White, P. Regan) - 3:50 【メンバー】 リッチー・ブラックモア - ギター ドゥギー・ホワイト - ボーカル、バックグラウンド・ボーカル ポール・モリス - キーボード グレッグ・スミス - ベース、バックグラウンド・ボーカル ジョン・オライリー - ドラムス
RAMONES	ラモーンズの激情		1976年4月23日	パンク	レコード	ラモーンズが1976年に発表したデビューアルバム。ラモーンズは1975年末にサイアー・レコードとの契約を得て、ニューヨーク・パンクのシーンにおいてはパティ・スミスに続きレコード契約を得たアーティストとなった。1曲目の「ブリッツクリーグ・バップ」は、本作に先駆けてのデビュー・シングル。リリース当時は大きな成功に至らず全米111位に終わり、リリースから1年で6千枚ほどしか売れなかった。破れまくったジーンズとライダーズ・ジャケット、マッシュルーム・カットを半年くらい伸ばしっぱなしにしたヘアスタイルのむさい男4人が叩きつけるのは、ほとんどすべての曲が3分以内で終わってしまう高速のスリーコード・ロックンロール。その後、20年以上に渡って「偉大なるワンパターン」を繰り返しながら、世界中のパンク・バンドからのリスペクトを受け続けることになるラモーンズのデビュー・アルバムだ。 ニューヨークのアンダーグラウンドシーンから発生した彼らのプリミティブなロック・サウンドは、テクニクばかりが重視されがちだった70年代のアメリカの音楽シーンに新鮮なショックを与えるとともにロックンロールが持つ本質的な魅力を取り戻すことになる。初めて聴いた人にはすべて同じに思える超シンプルなエイト・ビート・サウンド、異様な興奮を呼び起こすポップ・メロ、まるでアメリカン・コミックから飛び出てきたようなメンバーのキャラ。音楽性に対する評価より、そのあまりにもキャッチーな存在自体が愛されたラモーンズの歴史は、ここから始まった。	Side A 1. ブリッツクリーグ・バップ - 2:13 2. ビート・オン・ザ・プラット - 2:32 3. ジュディ・イズ・ア・パンク - 1:32 4. アイ・ウオナ・ビー・ユア・ボーイフレンド - 2:24 5. チェイン・ソウ - 1:56 6. スニッフ・サム・グルー - 1:36 7. ダウン・トゥ・ザ・ベースメント - 2:40 Side B 1. ラウドマウス - - 2:15 2. ハヴァナ・アフター - 1:57 3. リッスン・トゥ・マイ・ハート - 1:58 4. 53rd & 3rd - 2:21 5. レッツ・ダンス - 1:52 6. ウォーク・アラウンド・ウィズ・ユー - 1:43 7. トゥモロウ・ザ・ワールド - 2:17
RAMONES	ラモーンズの激情(デジタルリマスター)		1976年4月23日	パンク	CD	ニューヨークのアンダーグラウンドシーンから発生した彼らのプリミティブなロック・サウンドは、テクニクばかりが重視されがちだった70年代のアメリカの音楽シーンに新鮮なショックを与えるとともにロックンロールが持つ本質的な魅力を取り戻すことになる。初めて聴いた人にはすべて同じに思える超シンプルなエイト・ビート・サウンド、異様な興奮を呼び起こすポップ・メロ、まるでアメリカン・コミックから飛び出てきたようなメンバーのキャラ。音楽性に対する評価より、そのあまりにもキャッチーな存在自体が愛されたラモーンズの歴史は、ここから始まった。	リマスターCDボーナス・トラック(デモ) 15. アイ・ウオナ・ビー・ユア・ボーイフレンド - 3:02 16. ジュディ・イズ・ア・パンク - 1:36 17. アイ・ドント・ケアー - 1:55 18. アイ・キャン・ト・ビー - 1:56 19. スニッフ・サム・グルー - 1:42 20. ドント・ウオナ・ビー・ラウンド/ドント・ウオナ・ビー・タイムド - 1:05 21. ネヴァー・オーブンド・ザット・ドアー - 1:54 22. ブリッツクリーグ・バップ(シングル) - 2:12
RAMONES	リーブ・ホーム		1977年1月	パンク	レコード	ラモーンズが1977年に発表した2作目。ラモーンズのアルバムでは、1stや3rdが名盤とされがちだがポップな2ndも見逃せない作品だ。NYドールズやストゥー・ジス、MC5に影響を受けたつも、フレイキャノンや60年代のガールズグループのシャングリラスなんかをリスペクトしていることが表れていてキャッチーな曲が多く1stや3rd同様ニヤリとさせられる。ラモーンズの偉大なところは、50年代から70年代の過去のロックを否定せずに敬意を払い自分達のスタイルを確立したところだが、その本質が表れているのが1stから3rdまでの作品だと思う。「オー・オー・アイ・ラヴ・ハー・ソー」は、フレイ・キャノンの曲「ハリセイズ・バーク」にインスパイアされた曲である。「ピンヘッド」でフィーチャーされている「ガバ、ガバ、ヘイ!」というチャントは、1932年公開の映画『フリース』のワン・シーンからの影響で生まれた。初回盤LPの5曲目には「カーボナ・ノット・グルー」が収録されていたが、同年に発売されたアメリカ盤再発LP (SR 6031)では、同曲が外されて当時のシングル・ヒット曲「シーナはパンク・ロッカー」に差し替えられた。また、イギリス盤再発LP (9103-254)では、「カーボナ・ノット・グルー」の代わりに「ベイ・ビーンッター」が収録された。 アメリカでは148位と振るわずだが、全英チャートでは45位となり、バンド初の全英チャート入りを果たした。	Side A 1. グラッド・トゥ・シー・ユー・ゴー - 2:14 2. ギミ・ギミ・ショック・トリートメント - 1:44 3. アイ・リメンバー・ユー - 2:21 4. オー・オー・アイ・ラヴ・ハー・ソー - 2:09 5. カーボナ・ノット・グルー - 1:55 6. スー・イズ・ア・ヘッドバンガー - 2:14 7. ピンヘッド - 2:45 Side B 1. アイ・ウオナ・ビー・ア・グッド・ボーイ - 2:16 2. スワロウ・マイ・ブライド - 2:10 3. ホワッツ・ユア・ゲーム - 2:41 4. カリフォルニア・サン (Henry Glover, Morris Levy) - 2:07 5. コマンド - 1:53 6. キル・ザット・ガール - 2:43 7. ネヴァー・オーブンド・ザット・ドアー - 1:59
RAMONES	ロケット・トゥ・ロシア		1977年11月4日	パンク	レコード	ラモーンズが1977年に発表した3作目。全米49位となり、バンド初の全米トップ100アルバムとなった。ラモーンズのアルバムの中でもファーストアルバムがこのサードアルバムが最高傑作と言われることが多く、とにかく楽曲が良い。基本理念は不変のバンドだが、今回からメジャー・プロダクションに移行したせいもあり、サウンドに貴様がついてきた。ベスト盤に入っていないマイ曲も多い。尚、本作リリース後、トミー・ラモンはプロデューサーとしての仕事に集中するためバンドを脱退した。	Side A 1. クレティン・ポップ - 1:56 2. ロッカウェイ・ビーチ - 2:06 3. ゴーン・トゥ・モロウ - 2:49 4. ロケット・ラヴ - 2:11 5. アイ・ドント・ケアー - 1:39 6. シーナはパンク・ロッカー - 2:49 7. ハッピー・ファミリー - 2:40 Side B 1. ティーンエイジ・ロボトミー - 2:01 2. ドゥ・ユー・ウオナ・ダンス - 1:55[14] 3. アイ・ウオナ・ビー・ウェル - 2:28 4. アイ・キャン・ギヴ・ユー・エニシング - 2:01 5. ラモナー - 2:38 6. サーフ・イン・バード - 2:37 7. ホワイ・イズ・イット・オール・ウェイズ・ディ・ス・ウェイ - 2:22
RAMONES	ロケット・トゥ・ロシア(デジタルリマスター)		1977年11月4日	パンク	CD		
RAMONES	ロード・トゥ・ルーイン		1978年	パンク	レコード	1979年リリース。ラモーンズの4枚目のアルバム。デビュー以来2年間で3枚のグレートなアルバムを出しながら商業的成功を得られず、その間にイギリス勢がパンクの主役に躍り出たことのフラストレーションが彼らにしてはシリアスでダークな1978年の本作を生んだことがつづさに説明されている。「Needles & Pins」カバーやバラード、アコースティック曲は今までのままでは売れないという気持ちから生まれたのだろうか結果的にバンドの音楽性に幅をもたらした。初期三枚がパンクの大名盤で、それに比べると少し評価がおちるがコレも紛れもなくファンの間では人気の高い名盤で彼等の代表作の1つ！このアルバムからドラムがマーキー・ラモンに移り、そのかいあって曲のピッチがまた1つ上ったように思える。プロデュース面では初期4枚の中でこのアルバムがベストだと僕は思う！タイトルはロードの暗黒面という意味らしくツアーからインスピレーションを得た曲が多い(この時期彼等は凄いツアー・スケジュール)。代表曲1、7なんかはまさにそんな曲でラストの12も、ツアー先のホテル？で1人、生まれ故郷のベルリンに想いをはせるのか、またまた過去の自分、ベルリン時代の自分に戻るにはもう遠くに來過ぎたと言う意味か、ベースのディー・ラーモンの曲だ。また3や9はそれまでなかった新路線っぽい曲。特にカントリー・テイストの9は素朴な味わいが、にゅるっとしみ出る曲で、これは彼等のカタログの中では唯一の事である。	Side A 1. I Just Want To Have Something To Do 2. I Wanted Everything 3. Don't Come Close 4. I Don't Want You 5. Needles & Pins 6. I'm Against It Side B 1. I Wanna Be Sedated 2. Go Mental 3. Questioningly 4. She's The One 5. Bad Brain 6. It's A Long Way Back
RAMONES	エンド・オブ・センチュリー		1979年	パンク	レコード	1979年リリース。ラモーンズの5枚目のアルバム。フィル・スペクターのプロデュースによるラモーンズの作品の中では恐らく一番ポップという形容詞がふさわしい作品。バックでサックスが鳴り響く一曲目からして正に20世紀最後のウォール・オブ・サウンド！！そのサウンドは典型的なスペクター・サウンドのカヴァー、Baby,I Love You (オリジナルはロネッツ)で最高調に達します。この曲、ストリングスがちょっとマヌケでコミカルなアレンジに聞こえるのですが、その脱力加減がラモーンズらしくもあり私は大好きです。フィルのプロデュースはミュージシャンには過酷でラモーンズのメンバーもそれに耐えきれず何度もスタジオを出ていったらしいですが、出来上がった作品はラモーンズを使った完全なフィル・スペクターのソロ・アルバム(w それだけにラモーンズのファンやメンバーにはあまり好まれない作品かもしれませんが、ポップス/ロック・ファンには最後のフィル・スペクターのアルバム(正確には分かりませんが))としてかなり楽しめる作品になっていると思います。	Side A 1. Do You Remember Rock & Roll Radio? 2. I'm Affected 3. Danny Says 4. Chinese Rock 5. The Return of Jackie and Judy 6. Let's Go Side B 1. Baby I Love You 2. I Can't Make It on Time 3. This Ain't Havana 4. Rock & Roll High School 5. All the Way 6. High Risk Insurance
The Raspberries	ラズベリーズ・ベスト 〜フィーチャリング・エリック・カルメン〜		1976年	ロック	レコード	ラズベリーズは、エリック・カルメンが大学生の時に結成したバンドで、1971年頃にデビューするや『Go All the Way』などをヒットさせるが、1975年に解散したグループのベストアルバム。「ゴー・オール・ザ・ウェイ」「トゥナイト」「エクスタシー」「レッツ・プリテンド」「スターティング・オーバー」・・・等々、全曲が素晴らしい。最高のパワフルでメロディアスなロックンロールで満たされています。	Side A 1. ゴー・オール・ザ・ウェイ 3:18 2. トゥナイト 3:39 3. 君に首ったけ 3:35 4. 明日を生きよう 3:06 5. アイ・キャン・リメンバー 8:01 Side B 1. オーバーナイト・センセーション 5:27 2. レッツ・プリテンド 3:40 3. ドライヴィン・アラウンド 3:02 4. スターティング・オーバー 4:09 5. さよならは言わないで 5:05
RATT	情欲の炎		1984	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	84年作、ラットのメジャー・デビュー・アルバム。本作こそLAメタルの最もキラキラした部分を表現していたアルバム、と言っても過言ではないと思います。彼等のグラマラスなルックスとファッションをきっかけに、メタル、ハード・ロックに踏み込んだ女性ファンも多かったのではないのでしょうか。	Side A 1. ウォンテッド・マン 2. ユア・イントラブル 3. ラウンド・アヘッド・ラウンド 4. イン・ユア・ディレクション 5. シー・ウォンツ・マナー Side B 1. ラック・オブ・コミュニケーション 2. バック・フォー・モア 3. モーニング・アフター 4. 狂気 5. 殺しの情景
RATT	情欲の炎		1984	ハードロック &ヘヴィ メタル	CD	そのキャッチーなメロディと、フラッシュなギターは当時の少年達をも虜にした感があります。モトリー・クルーと共に時代の寵児になりながら、彼等自身が提唱したラットン・ロールは、確かに独自の響きを持った新しいアメリカン・ハードの形でもあったと思われます。サウンド的には正当評価がずっとされてこなかったと思いますが、「ラウンド・アヘッド・ラウンド」のインパクトこそが、明快なハード・ロックの楽しさと妖しさをわかりやすく教えてくれていました。	

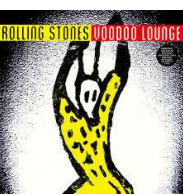
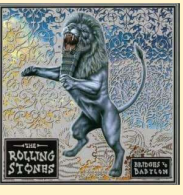
	RATT	インヴェイジョン・オブ・ユア・プライバシー		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	ラットが前作の大ヒットによりもたらした最大の功績は、グラマラスなルックスとポップなハード・ロックを定着させた事でした。日本でもその先見性には定評のあるロック少女達を巻き込み、LAメタルという言葉もすっかり浸透する事となります。間髪を入れずにリリースされた85年作のセカンドである本作では、いよいよ80年代メタルの基礎ともなる、フラッシーなギターと色気のあるリフ、そしてキャッチーな歌メロの完成が見られてはいます。彼等自身がラッتونロールと呼んだミドル・テンポをベースとした個性は、バンドのヴィジュアル・イメージと共に強烈な印象を残す事になり、同期と言えるモトリー・クルーの猿雑さとは真逆の良く整理されたサウンド・プロダクションが目立ちます。彼等がLAメタルと共に衰退していったのは、逆にこれしかできなかったのではと思える程職人的な芸の細かさが感じられ、この辺は後にWINGERでも独特の音処理を施す事となるプロデューサーのボー・ヒルの手腕が大きかったと思います。「ROUND AND ROUND」の様なキラキラしたポップ・メタルは影を潜めましたが、抑制された高揚感とでも言うべきクールなキャッチーさが目立つ様になっています。「LAY IT DOWN」に代表される様な、地味ながらも確実に耳に残る心地良さは、スティーヴン・バーシーの本調子とも思えるヴォーカルさえもスルメイカ的な味わいとなっています。元々幅広い音楽センスを武器にしていけないせいもあるのだと思いますが、ややもすると全曲が似た様に聴こえてしまう危険性もあるのですが、唯一メロディアスと言えるバラード・タイプのナンバー、「CLOSER TO MY HEART」がアルバム・アクトンとなっています。	Side A 1. ユア・イン・ラヴ 2. ネヴァー・ユース・ラヴ 3. レット・イット・ダウン 4. ギヴ・イット・オール 5. クローサー・トゥ・マイ・ハート	Side B 1. ビトウィーン・ジ・アイズ 2. ホワット・ユー・ギヴ・イズ・ホワット・ユー・ゲット 3. ガット・ミー・オン・ザ・ライン 4. ユー・シュッド・ノウ 5. デンジヤラス・バット・ワース
	RATT	ダンシング・アンダー・カヴァー		1988年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	ラットの86年作、サード・アルバム。LAメタルの象徴として快進撃を続けてきた彼等の「Ratt'n Roll」が極まった好盤。圧倒的なドライブ感、成熟をみせる音楽性、ヒット曲「ダンス」で幕を開け一気に駆け抜けるラットン・ロールの爽快感が楽しめる名作。最もグラマラスな存在と言えたラットはサウンド的にはけっしてブームに触発される事なく自らの道を追求。良く言われる様に、スティーヴン・バーシーのヴォーカリストとしての限界が確かに曲調の幅を狭めていた事もあると思うのですが、彼等は器用さよりもシンプルなものを選択してクールに聴かせる手腕を売りにしている。「SLIP OF THE LIP」や「IT DOESN'T MATTER」等は、その代表例。見た目の派手さと対照的なモノクロ、重厚なメタリックさが光っていた事が、今まであまり語られてこなかった気がするが、そういう意味ではサウンド志向はキラキラした時代と逆行していたとも思える。	Side A 1. ダンス 2. ワン・グッド・ラヴァー 3. ドライヴ・ミー・クレイジー 4. スリッ・オブ・ザ・リップ 5. ボディ・トーク	Side B 1. ルッキング・フォー・ラヴ 2. セヴンス・アヴェニュー 3. イット・ダズント・マター 4. テイク・ア・チャンス 5. イナフ・イズ・イナフ
	REAL KIDS			1977	パンク	レコード	ボストンが生んだ伝説のパンク「リアル・キッズ」の77年リリースのデビュー・アルバム。レッド・スターレーベルから発売される、汚れたジーンパンとスニーカーを穿いた4人の若者から解き放たれる、荒々しくもキャッチーでポップなパンクロック。ヴォーカルのジョン・フェリスは初期モダン・ラヴァーズのギタリストとしても知られている。9曲目のピアノには同郷バンドのDMZのヴォーカル、モノ・マンが参加。メンバーを入れ替えながら活動する。その後、ヨーロッパでのツアーのために再編成され、1983年にフランスのレーベル、ニュー・ローズ（New Rose）から新たなアルバム『Hit You Hard』をリリースした。	Side A 1. オール・カインズ・ア・ガールズ 2. ソリッド・ゴールド（スルー・アンド・スルー） 3. レイヴ・オン 4. ベター・ビー・グッド 5. タクシー・ボーイズ	Side B 1. ジャスト・ライク・ダーツ 2. シーズ・オールライト 3. マイ・ベイビーズ・ブック 4. ロベルタ 5. ドゥ・ザ・プープ 6. マイ・ウェイ 7. レゲエ・レゲエ
	RECORDS	シェイズ・イン・ベッド		1979	ニューウェイブ	レコード			
	RECORDS	シェイズ・イン・ベッド		1979	ニューウェイブ	レコード			
	RECORDS	君をこの胸に		1980	ニューウェイブ	レコード			
	R.E.M.	ライフズ・リッチ・ページェント		1986年7月28日	ニューウェイブ	CD	ドラマーのビルバileyの顔が配されたジャケットが印象的な彼らの四枚目のアルバムです。冒頭の（その名も！）ビギンザビギンから、前3作とは明らかに趣が違う、カラッとしたREM流ロックンロールを聴かせてくれます。疾走感とコーラスへの強引ともいえる展開が耳に残るジーズデイズ、印象的なギターのアレジオから始まり、コーラスでのマイケルスタイルのどこか悲痛、でも力強い声が染みるREM屈指の名曲フォール・オン・ミー、こちらはマイクミルズの音数の多いメロディアスなベースで幕をあげるクヤボガ、これも疾走感のあるハイエナ、ボーカルのマイケルスタイルが好きだという東洋インスト風な（歌もあります！）アンダーニースザハンカーをはさみ、これも名曲フラワーズオブガメラ（短いです！）中盤のピーターバックのギターソロが盛りません！）、ストレートな曲名で、曲中でも何度も歌われるアイビリープ（個人的に本作で一番好きな曲です！）、（本作では）フォキーな、「ほくがあきらめたら、どうなるんだろう」と歌われる、ホワット・イフ・ウィ・ギブ・イット・アウェイ、楽しいピアノがノリのいいポップな、ジャスト・ア・タッチ、本作で一番フォキーな、殆ど弾き語りで歌われるスワン・スワン・H、そしてクリークの中でもめずらしい、ビートルズライクなメロディーを持つポップな曲、スーパーマンで幕を閉じます。ここまで本当にあったという間です！表面上の音ではなく、もっと深いところで（弾き語りのスワン・スワンでも！）ロックを感じさせてくれる名盤	Side A 1. Begin The Begin 2. These Days 3. Fall on Me 4. Cuyahoga 5. Hyena (Album Version) 6. Underneath The Bunker	Side B 1. The Flowers of Guatemala 2. I Believe 3. What If We Give It Away? 4. Just a Touch 5. Swan Swan H 6. Superman
	R.E.M.	グリーン		1988年11月8日	ニューウェイブ	CD	R.E.M.が1988年に発表した6作目のアルバム。80年代USカレッジ・チャートの雄、R.E.M.のメジャー第1弾。メジャー移籍にともない600万ドルとも言われる多額の契約金を手にした彼らだが、その制作姿勢にはわずかな迷いも見られない。60年代フォーク・ロック、サイケデリックを想起させるソングライティング・センスに加え、〈I〉〈A〉などのポップ・チューンも登場した。本作には、いわゆる「メジャー感」は少しも感じられず、むしろ奇妙な緊張感とストイックなムードに満ちあふれている。パイオリフ、マンドリンといった多用な楽器も作品に深みを与えている。全米アルバム・チャート12位。収録曲、「オレンジ・クラッシュ」、「スタンド」は全米チャートNo.1に輝いた。	1. ポップ・ソング 89 - "Pop Song 89" - 3:05 2. ゲット・アップ - "Get Up" - 2:41 3. ユー・アー・ザ・エヴリシング - "You Are the Everything" - 3:44 4. スタンド - "Stand" - 3:12 5. ワールド・リーダー・プリテンデ - "World Leader Pretend" - 4:19	6. ロング・チャイルド - "The Wrong Child" - 3:38 7. オレンジ・クラッシュ - "Orange Crush" - 3:51 8. ターン・ユー・インサイド・アウト - "Turn You Inside-Out" - 4:17 9. ヘアシャート - "Hairshirt" - 3:55 10. アイ・リメンバー・カリフォルニア - "I Remember California" - 5:03 11. タイトルなし - 3:11
	R.E.M.	オートマチック・フォー・ザ・ピープル		1992年10月5日	ニューウェイブ	CD	1992年に発表した通算8作目のスタジオ・アルバムで全英アルバム・チャート1位、全米アルバム・チャート2位を記録。スコット・リットとR.E.M.の共同プロデュース。前スタジオ・アルバム『アウト・オブ・タイム』のポップ路線とは違って、本作は主にフォークソングが中心となった。元レッド・ツェッペリンのジョン・ポール・ジョーンズが4曲でオーケストラ・アレンジを担当している。	1ドライブ 2ライヴ・ノット・トゥ・ブリーズ 3サイドワインダー・スリープ・ストゥナイト 4エヴリバディ・ハーツ 5ニュー・オリンズ・イン・ストゥルメンタル・No.1 6スウィート・ネス・フォロー・ス	7モンティ・ガット・ア・ロウ・ディー 8イグ・ノラード 9スター・ミー・キトゥン 10マン・オン・ザ・ムーン 11ナイトスウィミング 12ファインド・ザ・リヴァー
	R.E.M.	モンスター		1994	ニューウェイブ	CD	1994年に発表した通算9作目のスタジオ・アルバム。全米全英アルバムチャートの第1位に輝きそれぞれUS×4プラチナ、UK×3プラチナの売り上げを誇ります。内容的には内省的だった前作とは変わりハードなサウンドを聞かせてくれます。やはり本作の目玉は直前に他界したNirvanaのKurt Cobainに捧げられた『Let Me In』です。爆音ギターによる弾き語りは圧巻の一言に尽きます。	1ホワット・ザ・フリーク・エンシー、ケネス? 2クラッシュ・ウィズ・アイライナー 3キング・オブ・コメディ 4アイ・ドント・スリープ、アイ・ドリーム 5スター69 6ストレンジ・カレンシース	7タンダ 8バグ・アンド・プレイム 9アイ・トゥック・ユア・ネイム 10レット・ミー・イン 11サーカス・エンヴィ 12ユー
	REO SPEEDWAGON	禁じられた夜		1980	アメリカン・ハード	レコード	80年作、十年以上活動が続けていたREOスピードワゴンがB級アメリカン・ハード・ロック・バンドから一気に国民的バンドへと躍進した超モンスター・アルバムです。メタルから最早程遠い爽やかさに彩られた1枚ですが、80年代のハード・ロックのモデル・ケースの一つとして無視するわけにはいかない重要作でもあります。産業ロックという言葉も本作のために作られた感もありますが、それまでボストン、ステイクス、カンザス等が作り上げてきたポップでメロディアスなアメリカン・ハードを更に明快に親しみやすくしたこのバンドの功績は本当に大きいと思います。黄金の80'sが本作と共に幕を開け、ジャーニー、フォーリーがその路線を拡大させたわけですが、元々土臭い70年代アメリカン・ハードを地道に鳴らし続けてきた彼等が、キラキラした80年代を前提にあくまでポップ、キャッチーである事に徹した結果、時代を象徴する大名盤になりました。御論される事も多い1枚でもあり、最早ハード・ロック、メタルとは言えないサウンドですが、やはり時代の流れを考えると、ポップなサウンドがモンスター・アルバム化するという意味では見逃せない1枚です。		
	REPLACEMENTS	レット・イット・ビー		1984	ニューウェイブ	レコード	リブレイスメンツの84年に発表された4作目のアルバム。80年代インディー・シーンの元祖たる存在。その切れ味のいいタイトなロックはなににも巻かれない堂々たる風格がある。初期の最高傑作であり、忘れられない1枚である。REMのピーター・バックが参加したニューウェーブ風の曲で幕を開け、後のパワーポップ/オルタナティブロックのプロトタイプである2曲目、彼らのルーツであるハードコアからピアノをフィーチャーした後半にかけてバンドの変遷の縮図といえる3曲目、風刺のきいたポップ・パンクナンバーの4曲目、さらにロック史上最も美しくヤサゲしたピアノバラードの5曲目、そして、自分の子供が16歳になった時に、その子には人生の中でその年代がどういものなのか、自分が語る代わりにこの歌を聞かせたい、そして、自分は自戒をこめて聞き返すであろうセレナーデ、Sixteen Bluesがおさめられている。コンパクトで一部の無駄のない、ロックンロールの真髄を余すところなく内包した芸術作品で有ると同時に、芸術作品など責ぐらえという叫びがそれを凌駕しているという、本当に稀有な音楽。	Side A 1. アイ・ウィル・デアー 2. フェイヴァリット・シング 3. ウィー・ア・カミン・アウト 4. トミー・ゲッツ・ヒズ・トシズ・シズルズ・アウト 5. アンドロジース 6. ブラック・ダイヤモンド	Side B 1. アンサティス・ファイド 2. シーン・ユア・ヴィデオ 3. ゲイリース・ガット・ア・ボナー 4. シックスティーン・ブルー 5. アンサリグ・マシーン
	RESIDENTS	エスキモー		1979	ニューウェイブ	レコード	レジデントの6枚目のアルバム。アメリカ西海岸の前衛音楽とビジュアル・アートを支えてきた重鎮、ザ・レジデント。70年代レジデントの集大成といえるこのアルバムは、パンク・ムーブメントの真只中に発表された。音楽的でない音を集めたエッセ民族音楽が、フルに展開する実験的作品。エスキモーをテーマにしたエッセ民族音楽がアルバム1枚フルに展開される。ちょっと異様な感じなので好き嫌いがはっきり分かれるサウンドだ。最初に彼等に触れるにはちょっとキツイ作品かもしれない。音楽といえるかどうか迷ってしまうようなシロモノだ。極寒の地を吹き荒れる吹雪の音、民族楽器のスローテンポドラム、歌というよりは呪文のようにバックでゴゴゴゴ言ってる奇妙な声、なにやら不思議な世界に迷い込んでしまったような感覚に襲われてしまう。ドン・プレストン、クリス・カトラ、スネークフィンガー参加。		

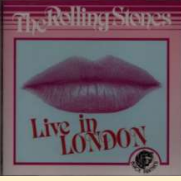
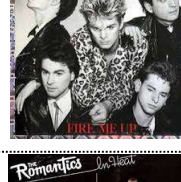
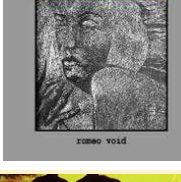
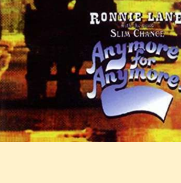
	REZILLOS	レジロス登場		1977	パンク	レコード			
	RICHARD CLAYGERMAN	ベスト・オブ・リチャード・クレイダーマン		1980年	イージーリスニング	レコード	ヨーロッパを代表するイージーリスニング界の貴公子。日本でも絶大な人気を博しヒットを連発したリチャードクレイダーマンのデビュー曲の渚のアデリーヌから愛しのクリスティーヌまでのベストアルバム。ヒットした「渚のアデリーヌ」、「秋のささやき」、「愛しのクリスティーヌ」などを収録。	Side A 1. 渚のアデリーヌ 2. 秋のささやき 3. アルゼンチンよ泣かないで 4. ラブソディ・イン・ブルー 5. ノスタルジー 6. ラ・メール	Side B 1. 愛しのクリスティーヌ 2. 星空のピアニスト 3. 愛の秘密 4. 恋はピンポン 5. ムーン・リバー 6. パラ色の人生
	RICHARD HELL AND THE VOIDOIDS	ブランク・ジェネレーション		1977	パンク	レコード	1976年にザ・ネオン・ボーイズ (The Neon Boys)、テレビジョン (Television)、ザ・ハートブレイカーズ (The Heartbreakers) の元メンバーのリチャード・ヘル (vocals, bass) を中心としてニューヨーク市で結成されたアメリカ合衆国のロックバンド、リチャード・ヘル・アンド・ザ・ヴォイドイズ (Richard Hell and the Voidoids) のデビューアルバム。パティ・スミスやラモーンズ、テレビジョンと並ぶ、NYパンク草創期の代表格。1、2枚目とも時代を超えた奇跡的名盤。リチャード・ヘルの「音楽的でない」(要するに下手な) 歌い方が嫌いな人も沢山いらっしゃるでしょうけど、この楽曲からはみ出るように放出される彼の全アイデンティティをかけた、エネルギーが凄い。またロバート・ワイン、イヴァン・ジュリアンの2台のギターによる狂騒的なサウンドは、やかましくも鳥肌ものです。リチャードクワインらの痙攣気味のギターも素晴らしい。リチャードクワインはご存知ルーリードと活動を共にし、ジョニーとルーが一直線上に繋がります。リチャードヘルが、自身の強力なバンドを率いて発表した名盤。ロバート・クワインのパンク・ジャズ風の独特のアヴァンギャルドなギタープレイは後のノー・ウェイヴ (No Wave) 勢に継承されている。	1ラブ・カムズ・イン・スパーツ 2ライアーズ・ビウェア 3ニュー・プレジャー 4ビトレイアル・ティクス・ツウ 5ダウン・アット・ザ・ロックンロール・クラブ 6フー・サイズ	7ブランク・ジェネレーション 8ウォーキング・オン・ザ・ウォーター 9ブラン 10アナザー・ワールド 11アイム・ユア・マン 12オール・ザ・ウェイ
	RICHARD HELL AND THE VOIDOIDS	ブランク・ジェネレーション		1977	パンク	レコード			
	RICHARD HELL AND THE VOIDOIDS	ブランク・ジェネレーション		1977	パンク	CD			
	RICH KIDS	王子の幻影		1978	パンク	レコード	78年作。RICH KIDSの大名盤、1stアルバムであり唯一のアルバム“GHOSTS OF PRINCES IN TOWERS”。初代SEX PISTOLSのベーシスト、グレン・マトロックが脱退後(実はクビ)に、後にウルトラヴォックスに加入するミッジユーロと結成したグループ。セックス・ピストルズの「アナーキー・イン・ザ・UK」や「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」などを作曲したのはグレンであり、またリッチ・キッズ脱退後にウルトラ・ヴォックスを立て直すミッジ・ユーロの二人の実力の高さは言うまでもない。この二人による卓越されたセンスが余すことなく発揮され、心に染み入る甘美なメロディーとストリートなサウンド、POPな要素も兼ね備え、70's PUNKファン必超の1枚となっている。	Side A 1. Strange One 2. Hung On You 3. Ghost Of Princes In Towers 4. Cheap Emotions 5. Marching Men	Side B 1. Put You In The Picture 2. Young Girls 3. Bullit Proof Lover 4. Rich Kids 5. Lover And Fools 6. Burning Sounds
	RICH KIDS	王子の幻影		1978	パンク	CD	アルバムの内容は、1. はヴォーカルの弱さが難点だが、ピストルズにバブルガム的な要素を加えたかのような曲。2. も典型的なロンドン・パンク風の曲だが、ギターのエコーがやや深い。ピストルズでやったらさぞ名曲に仕上がったことであろう佳曲。7. はバスコックス風のメロディアスカつスピーディーな佳曲。ちなみにCD化の際に追加された12. はスモール・フェイスのカヴァーだ。ピストルズ風の曲が多いためにどうしてもジョニー・ロットンとの比較が出てしまい、ヴォーカルの弱さが気になってしまうものの、パンク寄りのパワー・ポップとしては佳作だ。名曲“YOUNG GIRL”は未だに多くのバンドにカヴァーされている代表曲を筆頭に多数の名曲を収録したアルバム。全11曲。		
	RICK DERRINGER	オール・アメリカン・ボーイ		1973	ハードロック	レコード	73年作、ジョニー・ウィンターの片腕として知られていたリック・デリンジャーの初ソロ作にして、この人の代表作となったヒット・アルバムです。キャッチーな「ロックン・ロール・フーチャー・ク」は、70年代アメリカン・ハードのクラシックともなった超有名曲です。盟友エドガー・ウィンター、ジョー・ウォルシュ等のゲスト、パティ・スミスとの共作がありますが、やはりマルチ・ブレイヤーとしてのセンス、そしてポップなメロディ・メイカーぶりが目立つ名盤です。アイドル的な人気もあった人ですが、意外ととも思えるメロウな部分がこの人のセンスの良さを象徴している		
	RICKIE LEE JONES	浪漫		1979	ポップス	レコード	1979年作品。LAが黄昏に染まる頃、セクシーな甘い歌声が聴こえてくる。ちょっぴりジャジー、そしてセンチメンタル…。彼女のデビューは大事件だった。唯一無二の個性と歌声、ジャジーでお洒落なセンスにあふれた、世界中にセンセーションを巻き起こした名作。大ヒット「恋するチャック」収録。■全米アルバム・チャート 最高位3位	Side A 1. CHUCK E. 'S IN LOVE / 恋するチャック 2. ON SATURDAY AFTERNOONS IN 1963 / 1963年土曜日の午後 3. NIGHT TRAIN / ナイト・トレイン 4. YOUNG BLOOD / ヤング・ブラッド 5. EASY MONEY / イージー・マネー 6. THE LAST CHANCE TEXACO / ラスト・チャンス・テキサコ	Side B 1. DANNY'S ALL-STAR JOINT / ダニーの店で 2. COOLSVILLE / クールズヴィル 3. WEASEL AND THE WHITE BOYS COOL / ホワイト・ボーイズ・クール 4. COMPANY / カンパニー 5. AFTER HOURS (Twelve Bars Past Goodnight) / アフター・アワーズ
	RICK JAMES	ストリート・ソングス		1981	ファンク・ソウル	レコード	「スーパー・フリーク」、「ギヴ・イット・トゥ・ミー・ベイビー」の2大フロア・ヒットを収録した、リック・ジェイムス史上最大のセールスを記録したアルバム。ファンク・ソウルの金字塔にして、ミリオン・セラード作品。1981年発表		
	RICK SPRINGFIELD	アメリカン・ガール		1982年	ロック	レコード	1982年リリースのリック・スプリングフィールドの通算6枚目のアルバム。人気絶頂期でのアルバムで全米1位となる彼の最大のヒットアルバム。12曲の全てが約3分前後の軽いノリのロックが中心。前作は若さと勢いで押しまくった好盤だが、今作ではポップ色の方が強く軽い作りに、ともすれば淡泊な印象さえうけてしまう。B面1曲目が最高2位まで上り自身の最高傑作の評価も高いヒット曲、A面6は異色カバー曲など聴き所も多く、良質のメロディー揃いののだが、リックの他のアルバムに比べると印象が薄いのは前述した通り軽い作りになっているからだろう。ヘヴィーなロックナンバーだがA面1、4もヘヴィーな音になっていないが、全体的にはコンパクトに纏まった佳曲が勢揃いではある。	Side A 1. コーリング・オール・ガール 2. 今夜はエキサイト (I Get Excited) 3. 恋のあやまち (What Kind Of Fool Am I) 4. 憧れのクリスティーナ (Kristina) 5. トナイト 6. ブラック・イズ・ブラック	Side B 1. ドント・トゥ・ストレンジヤー 2. 内気な俺 (How Do You Talk To Girls) 3. WEASEL AND THE WHITE BOYS COOL / ホワイト・ボーイズ・クール 4. アメリカン・ガール 5. ジャスト・ワン・キッス 6. 1981年4月24日 (April 24, 1981)
	RINGO STARR	リンゴ		1973	ロック	レコード	スタンダード・ナンバーのカヴァー集やカントリー・アルバムであった前2作に対し、本作はオリジナル曲で構成されており、リンゴの本格的なソロ第1弾アルバムといえる。ビートルズ解散後としては初めて、元メンバー4人全員が参加したアルバム(ただし、4人全員が共演した楽曲はない)であり、当時大きな話題となった。ジョージ・ハリスンは楽曲提供の他、4曲でギターも担当。ジョン・レノン作の「アイム・ザ・グレートスト」ではリンゴ、ジョン、ジョージの3人が共演。同曲は、ジョン自身によるリハーサル・テイクも存在し、『ジョン・レノン・ジョンソロジー』に収録されている。ポール・マッカートニーは「シックス・オクロック」を提供した他、「ユア・シックスティーン」にも参加。ビートルズと親交の深かったクラウド・フォアマンやビリー・プレストンも参加している。他にも豪華なゲストが参加しており、「ハヴ・ユア・シーン・マイ・ベイビー (ホールド・オン)」ではT・レックスのマーク・ボランが、「サンシャイン・ライフ・フォー・ミー」ではザ・バンドのメンバー4人が参加。また、5曲でリンゴとジム・ケルトナーのツイン・ドラムがフィーチャーされた。	Side A 1. アイム・ザ・グレートスト (John Lennon) 2. ハヴ・ユア・シーン・マイ・ベイビー (Randy Newman) 3. 想い出のフォトグラフ (Richard Starkey, George Harrison) 4. サンシャイン・ライフ・フォー・ミー (G. Harrison) 5. ユア・シックスティーン (Bob Sherman, Dick Sherman)	Side B 1. オー・マイ・マイ (Vini Poncia, R. Starkey) 2. ステップ・ライトリー 3. シックス・オクロック (Paul McCartney, Linda McCartney) 4. デヴィル・ウーマン (R. Starkey, V. Poncia) 5. ユー・アンド・ミー (G. Harrison, Mal Evans)
	RIOT	怒りの廃墟		1977年9月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	アメリカのハードロックバンド「ライオット」の1977年にリリースしたデビューアルバム。B級ロックの隠れた名盤と知られる。それまでのアメリカン・ハードとは違い、ブリティッシュ・ハードに影響された哀愁節とスピード感に衝撃的だった。独特の哀愁節は、アメリカより欧州で彼等の人気が増し、結果的にアメリカのポップ・メタルがチャートを賑わす頃には、ライオットは時代遅れの受け入れられ方をされ、とても惜しいバンドであった。プロデューサー兼マネージャーのスティヴ・ロープが主宰していた「Fire Sign」なる個人レーベルからリリースされる。ほぼ自主制作盤のような感じで、音質も薄っぺらい。しかし、ツインリードギターによって奏でられる独特の哀愁を帯びた叙情的なメロディラインは、コアなファンを魅了した。このアルバムに収録されている「Warrior」は「幻の叫び」という邦題でシングル・カットされ、日本のみならず、世界的にバンドの代表曲とされている。	Side A 1. Desperation2:43 2. Warrior3:50 3. Rock City3:27 4. Overdrive4:10	Side B 1. Angel3:36 2. Tokyo Rose4:19 3. Heart Of Fire3:00 4. Gypsy Queen3:55 5. This Is What I Get4:12
	RIP RIG + PANIC	アイム・コールド		1982	ニューウェイブ	レコード			

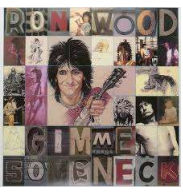
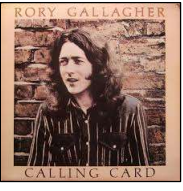
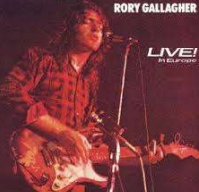
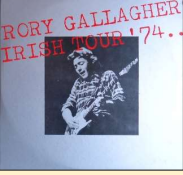
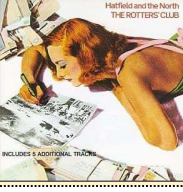
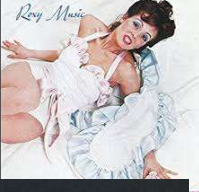
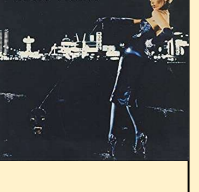
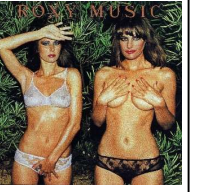
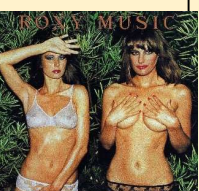
ROD STEWART	明日へのキック・オフ		1977	ロック	レコード	1977年に発表したソロ・アルバム。スタジオ・アルバムとしては8作目。当時のスチュワートは、カーマイン・アピスを中心としたレギュラー・バンドを従えており、そのメンバーを中心としてレコーディングされたアルバム。また、かつてアピスが在籍していたヴァニラ・ファッジのメンバーであるマーク・スタインも、バックিং・ボーカルでゲスト参加している。なお、本作に収録されているシュープリームスのカヴァー「キープ・ミー・ハンギン・オン」は、ヴァニラ・ファッジのヴァージョンに近いアレンジになっている。1. は彼らしいルーズなロックンロール・ナンバー。3. はボサノヴァではないが、そんな雰囲気の良い曲。8. は自伝的な内容のバラードの名作。感動的な必殺の一曲。 本作からは、「胸につる想い」(全英3位[9]・全米4位[3])、「ホット・レッグス」(全英5位[9]・全米28位[3])、「ただのジョークさ」(全米22位[3])がシングル・ヒットした。	Side A 1. ホット・レッグス - 5:11 2. ユアー・インゼイン - 4:45 3. 胸につる想い - 4:42 4. ボーン・ルース - 5:58	Side B 1. キープ・ミー・ハンギン・オン - 7:28 2. イフ・ラヴィング・ユー・イズ・ロング - 5:16 3. ユー・ガット・ア・ナーヴ - 4:57 4. ただのジョークさ - 6:02
ROD STEWART	スーパースターはブロンドがお好き		1978	ロック	レコード	1978年に発表したソロ・アルバム。スタジオ・アルバムとしては9作目。前作『明日へのキック・オフ』(1977年)に引き続き、スチュワートのレギュラー・バンドを中心に録音された。一部の楽曲で、当時流行していたディスコの要素を取り入れている。「アイム・セクシー」とフォー・トップスのカバー「シャドウズ・オブ・ラヴ」以外はディスコっぽさはなく、バラードあり、ブルース調ありと変化に富んでいるアメリカでは、スチュワートにとって2作目のBillboard 200での1位獲得アルバムとなった。 本作からは、全米No.1に4週間輝いた「アイム・セクシー」(全英1位・全米1位)、「あばずれ女のバラード」(全英11位・全米22位)、「スーパースターはブロンドがお好き」(全英63位)がシングル・ヒットした。	Side A 1. アイム・セクシー - 5:28 2. ダーティ・ウィークエンド - 2:34 3. あばずれ女のバラード - 4:36 4. 青春の思い出 - 4:20 5. 愛の代償 - 4:29	Side B 1. 求む、いい女 - 4:14 2. スーパースターはブロンドがお好き - 3:40 3. ラスト・サマー - 4:00 4. シャドウズ・オブ・ラヴ - 4:24 5. うちひがれて - 4:50
ROD STEWART	バンドラの匣		1980年	ロック	レコード	1980年リリース。ロックン・ロール色をより強調したアルバム。オリジナル・メンバーでのロッド・スチュワート・バンド最後の作品。ヒット・シングル「パッション」(「今宵焦がれて」収録)。	Side A 1. ベター・オフ・デッド 2. パッション 3. バンドラの匣 4. ガラスの恋人 5. 今宵焦がれて	Side B 1. 自由への翼 2. マイ・ガール 3. ダンスは一人じゃ踊れない 4. サムパデ・ア・シェイム 5. つらい別離
ROLLING STONES	ローリングストーンズ		1964年4月16日	ブリティッシュビート	レコード			
ROLLING STONES	ローリングストーンズ		1964年4月16日	ブリティッシュビート	レコード			
ROLLING STONES	ローリングストーンズ		964年4月16日	ブリティッシュビート	CD			
ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		1965年1月16日	ブリティッシュビート	レコード	1965年にリリースされたローリング・ストーンズのイギリスでは2作目となるオリジナルアルバム。録音はグループ初のアメリカツアーの合間を縫って行われた。まず1964年6月10日から11日にかけて、シカゴのチェス・スタジオにて最初の録音が行われ[1]、その後ロンドンに戻り、9月2日から4日、28日から30日にかけてリージェント・サウンド・スタジオにて[2]、さらに11月2日にロサンゼルスRCAスタジオで、同月8日に再びチェス・スタジオで行った録音でようやく完成となった。アメリカではイギリスに先んじて2作目のオリジナルアルバム『12×5』がリリースされており、本作のジャケットは『12×5』で使用された写真がそのまま流用された。収録内容は『12×5』にも入れられた「タイム・イズ・オン・マイ・サイド」、「なぎさのボードウォーク」、「スージー-Q」以外は新作となっている。本作も前作『ザ・ローリング・ストーンズ』同様、グループのオリジナル曲は3曲に留まり、大部分がカバーを占めている。	Side A エヴリバディ・ニーズ・サムバディ・トゥ・ラヴ - Everybody Needs Somebody To Love (Solomon Burke/ Jerry Wexler/Bert Russell) 5:03 ダウン・ホーム・ガール - Down Home Girl (Jerry Lieber/ Arthur Butler) 4:11 ユー・キャン・キャッチ・ミー - You Can't Catch Me (Chuck Berry) 3:38 タイム・イズ・オン・マイ・サイド - Time Is On My Side (Norman Meade) 2:52[7] ホワット・ア・シェイム - What A Shame (Mick Jagger/ Keith Richard) 3:03 グロウン・アップ・ロング - Grown Up Wrong (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:03	Side B ダウン・ザ・ロード・アビース - Down The Road Apiece (Don Raye) 2:55 なぎさのボードウォーク - Under The Boardwalk (Arthur Resnick/ Kenny Young) 2:46 アイ・キャン・ビー・サティスファイド - I Can't Be Satisfied (McKinley Morganfield) 3:26 ペイン・イン・マイ・ハート - Pain In My Heart (Naomi Neville) 2:11 オフ・ザ・フック - Off The Hook (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:33 スージー-Q - Susie Q (Eleanor Broadwater/ Dale Hawkins/ Stan Lewis) 1:50
ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		1965年1月16日	ブリティッシュビート	レコード			
ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.2		965年1月16日	ブリティッシュビート	CD			
ROLLING STONES	ローリング・ストーンズ 12×5		1964年10月17日	ブリティッシュビート	レコード	アメリカにおけるセカンド・アルバム。ヒット作となったデビュー・アルバムに引き続き、その内容の多くはR&Bのカヴァーであったが、ナンカー・フェルジ名義でのミック・ジャガーとキース・リチャーズ共作の三曲が含まれている。1964年6月に行われたシカゴ、チェス・スタジオセッションの後、イギリスでの配給元であるデッカ・レコードは5曲入りのEP、『ファイヴ・バイ・ファイヴ』をリリースした。しかしながらEPはアメリカでは一般的ではなかったため、ロンドン・レコードは7曲を加えてアルバムとしてリリースすることとなった。アルバムタイトルの『12×5』は、「12曲を5人で演奏した」という意味である。デッカ・レコードは本作の写真を使用し、1965年始めに『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』をリリースしている。『12×5』はファースト・アルバムよりも短期間でヒットし、チャート三位に到達、ゴールド・アルバムとなった。	Side A アラウンド・アンド・アラウンド - Around And Around (Chuck Berry) 3:03 コンファessin'・ザ・ブルース - Confessin' The Blues (Jay McShann/ Walter Brown) 2:47 エンプティ・ハート - Empty Heart (Nanker Phelge) 2:37 タイム・イズ・オン・マイ・サイド - Time Is On My Side (Norman Meade) 2:53 オルガン・イントロ・ヴァージョン グッド・タイムズ、バッド・タイムズ - Good Times, Bad Times (Mick Jagger/ Keith Richards) 2:30 グロウン・アップ・ロング - Grown Up Wrong (Mick Jagger/ Keith Richards) 2:05 オーバー・ノウ (Bobby Womack/ Shirley Jean Womack) 3:26	Side B 南ミシガン通り2120 - 2120 South Michigan Avenue (Nanker Phelge) 2:08 (オリジナルLP) / 3:38 (現行CD) ロング・ヴァージョンは2002年のリマスターで初収録されたが、以前はブートレグでしか聞かれなかった。 なぎさのボードウォーク - Under The Boardwalk (Arthur Resnick/ Kenny Young) 2:46 コングラチュレーション - Congratulations (Mick Jagger/ Keith Richards) 2:29 グロウン・アップ・ロング - Grown Up Wrong (Mick Jagger/ Keith Richards) 2:05 イフ・ユー・ニード・ミー - If You Need Me (Robert Bateman/ Wilson Pickett) 2:04 スージー-Q - Susie Q (Eleanor Broadwater/ Stan Lewis/ Dale Hawkins) 1:50
ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.3 (ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!)		1965年2月22日	ブリティッシュビート	レコード	アメリカに於ける3作目のオリジナルアルバム。本作は、イギリスでのセカンド・アルバム『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』からの7曲と、シングル・リリースされた「ハート・オブ・ストーン」、イギリスでのNo.1シングル「リトル・レッド・ルースター」、イギリスでのデビュー・アルバム『ザ・ローリング・ストーンズ』にのみ収録されていた「愛しのモナ」、そして本作で初登場となる「オー・ベイビー」、「サプライズ・サプライズ」を加えた全12曲が収録されている。本作ではジャガー・リチャード名義のグループのオリジナル曲が4曲収録された。本作でも前2作同様モノラル、ステレオの2バージョンでのリリースとなったが、リイシューでは「ハート・オブ・ストーン」、「ホワット・ア・シェイム」、「ダウン・ザ・ロード・アビース」の3曲がステレオ、それ以外がモノラルで収録されている。本作は全米ビルボードのチャート5位に到達し[1]、ゴールド・ディスクを獲得した。	Side A 1. エヴリバディ・ニーズ・サムバディ・トゥ・ラヴ 2:58 2. ダウン・ホーム・ガール 4:12 3. ユー・キャン・キャッチ・ミー 3:39 4. ハート・オブ・ストーン 2:49 5. ホワット・ア・シェイム 3:05 6. 愛しのモナ 3:35	Side B 1. ダウン・ザ・ロード・アビース 2:55 2. オフ・ザ・フック 2:34 3. ペイン・イン・マイ・ハート 2:12 5. オー・ベイビー 2:08 6. リトル・レッド・ルースター 3:05 7. サプライズ、サプライズ 2:31
ROLLING STONES	ザ・ローリング・ストーンズ No.3 (ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!) リマスター版 1997年		1965年2月22日	ブリティッシュビート	CD			
ROLLING STONES	アウト・オブ・アウ・ヘッズ (UK盤)		1965/9/24	ブリティッシュビート	レコード	1965年に発売。イギリスでは3枚目のアルバムとしてデッカ・レコードから。コンサートツアー中の合間を縫って行われている。レコーディングはほとんどがロサンゼルスRCAスタジオにて行われた(一部はシカゴのチェス・スタジオで)。本作はグループのオリジナルアルバムで、英、米共通のタイトルがつけられた初めてのアルバムだが、収録内容は大きく違い、英、米両盤に共通して収録された曲は8曲のみである。本作で初めて採用されたオリジナル曲がカバー曲を上回った。イギリスでは二ヵ月遅れの1965年9月に発売された。アルバムジャケットの写真はアメリカ盤とは異なった物が使用され、同じ写真はアメリカでは『ディッセンベアーズ・チルドレン』に使用された。イギリス盤では当時のレコード業界の慣例に倣いシングル曲は一つも収録されず、アメリカ盤にはない1965年7月、そして9月に行われたレコーディングでの新曲が追加された[3]。本作は全英チャートでビートルズの『ヘルプ!』に次ぐ2位に達した[4]。イギリス盤に収録されたオリジナル曲は4曲に留まっている。本作はリズム・アンド・ブルースのカヴァーが特色であった最後のアルバムとなった。	Side A 1. シー・セッド“イエー” - She Said Yeah (Sonny Christy/ Roddy Jackson) 1:34 2. マーシー・マーシー - Mercy, Mercy (Don Covay/ Ronnie Miller) 2:45 3. ヒッチ・ハイク - Hitch Hike (Marvin Gaye/ William Stevenson/ Clarence Paul) 2:25 4. ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラヴ・イズ - That's How Strong My Love Is (Roosevelt Jamison) 2:25 5. グッド・タイムズ - Good Times (Sam Cooke) 1:58 6. ガッタ・ゲット・アウェイ - Gotta Get Away (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:06	Side B 1. トーキン・バウト・ユー - Talkin' 'Bout You (Chuck Berry) 2:31 2. クライ・トゥ・ミー - Cry To Me (Bert Russell) 3:09 3. オー・ベイビー - Oh Baby (We Got A Good Thing Goin') (Barbara Lynn Ozen) 2:08 4. ハート・オブ・ストーン - Heart Of Stone (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:50 5. ウェスト・コーストの宣伝屋 - The Under Assistant West Coast Promotion Man (Nanker Phelge) 3:07 6. アიმ・フリー - I'm Free (Mick Jagger/ Keith Richard) 2:24
ROLLING STONES	アウト・オブ・アウ・ヘッズ (UKヴァージョン)		1965年9月24日	ブリティッシュビート	レコード			

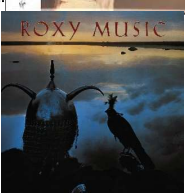
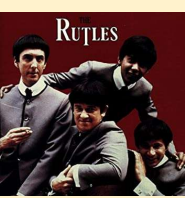
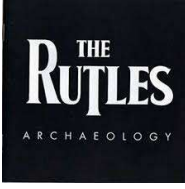
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (UKヴァージョン)		1965年9月24日	ブリティッシュビート	CD			
	ROLLING STONES	アウト・オブ・アワ・ヘッズ (アメリカヴァージョン)		1965年7月26日	ブリティッシュビート	CD	1965年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。アメリカでは4枚目のアルバムとしてロンドン・レコードからリリースされた。本作はグループのオリジナルアルバムで、英、米共通のタイトルがつけられた初めてのアルバムだが、収録内容は大きく違い、英、米両盤に共通して収録された曲は6曲のみである。アメリカでは前作『ザ・ローリング・ストーンズ・ナウ!』からわずか5カ月後という短いインターバルでリリースされた。「サティスファクション」の大ヒットの影響もあり、本作はビルボードでグループ初の1位に輝き(3週連続)、プラチナレコードも獲得した[2]。アメリカ盤のジャケットには『ザ・ローリング・ストーンズ No.2』や『12×5』で使用された写真と同じフォト・セッションでデヴィッド・ベイリーによって撮影された物であった。本作には「ラスト・タイム」「サティスファクション」といったヒット・シングル曲やイギリスで発売されたEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』からの「アイム・オールライト」が含まれている(アルバムにも収められているがテイク違い)。本作で初めて採用されたオリジナル曲がカバー曲を上回った。	Side A マーシー・マーシー - Mercy, Mercy 2:45 ヒッチ・ハイク - Hitch Hike 2:25 ラスト・タイム - The Last Time (Mick Jagger/Keith Richard) 3:41 ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラヴ・イズ - That's How Strong My Love Is 2:25 グッド・タイムス - Good Times 1:58 アイム・オールライト - I'm All Right (Nanker Phelge) 2:23	Side B サティスファクション - (I Can't Get No) Satisfaction (Mick Jagger/Keith Richard) 3:43 クライ・トゥー・ミー - Cry To Me 3:09 ウエスト・コーストの宣伝屋 - The Under Assistant West Coast Promotion Man 3:07 プレイ・ウィズ・ファイア - Play With Fire (Nanker Phelge) 2:14 クモとハエ - The Spider And The Fly (Mick Jagger/Keith Richard) 3:38 ワン・モア・トライ - One More Try (Mick Jagger/Keith Richard) 1:58
	ROLLING STONES	ディッセンバース・チルドレン (アメリカヴァージョン)		1965年11月22日	ブリティッシュビート	CD	1965年リリースされたローリング・ストーンズによるアメリカにおける5作目のオリジナルアルバム。収録曲の大半は、イギリス盤『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』からのものであり、これに最新シングルの「一人ぼっちの世界」および「アズ・ティアーズ・ゴー・バイ」、アメリカでは未発表だった「ユー・ベター・ムーヴ・オン」(1964年1月発表の1stEP『ザ・ローリング・ストーンズ』収録)、ライブEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』からの2曲(「ルート66」と「アイム・ムーヴイン・オン」)、さらに本作が初出となる2曲(「リック・ホワット・ユーヴ・ダン」と「ブルー・ターンズ・トゥ・グレイ」)を追加した全12曲が収録された。ジャケットのデザインも英国盤『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』のものを流用している。本作はBillboard 200で4位に到達し[1]、ゴールド・アルバムを獲得した。		
	ROLLING STONES	アフターマス (UKヴァージョン)		1966年6月20日	ブリティッシュビート	レコード	1966年に発表。イギリスでは4作目。全英1位、全米2位を記録。本作はジャガー/リチャーズによるオリジナル曲のみで構成された最初の作品で、ストーンズの重要なターニングポイントとなった作品。前作『アウト・オブ・アワ・ヘッズ』までの自分達のルーツであるロックンロールやR&Bに做った作風から、一段階前に進んだ実験性に富んだ作品となった。前作から担当楽器の種類が増えたブライアン・ジョーンズだが、本作ではビートルズの「ノルウェーの森」でジョージ・ハリスンがサitarを使ったことに影響されて導入、さらにダルシマーやマリニバ、「ディク・イット・オア・リーヴ・イット」では日本の琴まで使用するなど、それまでのロック音楽とは無縁だった楽器を多く導入した。そのため、キース・リチャーズにかかるギターの比重がさらに重くなり、本作からミック・テイラーが加入する『レット・イット・ブリード』(1969年)までのストーンズのギターは、ほとんどがリチャーズの手にゆだねられることとなる。オールダムは本作におけるジョーンズの働きを手放して賞賛しているが、それがバンド内での影響力を失ったジョーンズの立場を改善させることはなく、ジョーンズはその後ますます精神的に追い詰められるようになる。録音は1965年12月7日から10日にかけて、一度中断し1966年3月6日から9日にかけて、ハリウッドにあるRCAスタジオにて行われた。イギリスでは8週もの間首位を独占し[1]、「ストーンズの最高傑作」と賞賛を浴びた。	Side A 1. マザーズ・リトル・ヘルパー 2. ステュピッド・ガール 3. レディ・ジェーン 3:08 4. アンダー・マイ・サム 3:41 5. 邪魔をするなよ - Doncha Bother Me 2:41 6. ゴイン・ホーム 11:13	Side B 1. フライト505 3:27 2. ハイ・アンド・ドライ 3:08 3. アウト・オブ・タイム 5:37 4. イッツ・ノット・イージー 2:56 5. アイ・アム・ウェイトینگ 3:11 6. テイク・イット・オア・リーヴ・イット 7. シンク - Think 3:09 8. ホワット・トゥ・ドゥ - What to Do 2:32
	ROLLING STONES	アフターマス (UKヴァージョン)		1966年6月20日	ブリティッシュビート	CD			
	ROLLING STONES	ビッグ・ヒッツ (ハイ・タイム・アンド・グリーン・グラス)		(1966年3月28日)	ブリティッシュビート	レコード	1966年発売のストーンズ初のコンピレーション・アルバム。アメリカではチャート最高位3位に達し、二年にわたってチャートに残り続けた。イギリス盤にはデビューシングルの「カム・オン」が収録されたが、それよりもヒットしたシングル「彼女になりたい」は収録されなかった。イギリスではチャート4位に到達した。	Side A 1. マザー・イン・シャドウ 2:34 2. 黒くぬれ - Paint It, Black 3:45 3. イッツ・オール・オーバー・ナウ 3:27 4. ザ・ラスト・タイム 3:40 5. ハート・オブ・ストーン 2:46 6. ノット・フェイド・アウェイ 1:48 7. カム・オン 1:49	Side B 1. サティスファクション 3:43 2. ひとりぼっちの世界 - Get Off Of My Cloud 2:55 3. アズ・ティアーズ・ゴー・バイ 2:45 4. 19回目の神経衰弱 - 19th Nervous Breakdown 3:57 5. レディ・ジェーン e 3:08 6. タイム・イズ・オン・マイ・サイド 2:53 7. リトル・レッド・ルースター 3:05
	ROLLING STONES	ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット!		1966年11月28日	ブリティッシュビート	レコード	1966年にリリースされたストーンズの最初のライブ・アルバム。バンドはその出来に満足せず、アルバムとの関係を否定した。彼ら自身は1970年にリリースされた『ゲット・ヤー・ヤ・ヤズ・アウト』を最初の公式ライブ・アルバムであると考えている。本作のタイトルは1965年にイギリスでのみリリースされたEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』と同一であった。本作は1966年10月前半のニューカッスル・アポン・タインとプリストルでの演奏が納められた(ジャケットにはロイヤル・アルバート・ホールでのライブとクレジットされている)。アルバムは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」がそれぞれスタジオ録音へ歓声をオーヴァーダビングしたものが収録され、他の曲もほとんどがヴォーカルを録り直ししているため、厳密にはライブ・アルバムとは言いがたい。当初発売されたものは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」はフェード・アウトしていたものの、1986年にアポコ・レコードによりリマスターされた際に両曲はライブ演奏のようにエンディングが途中でカットされた。また、「アンダー・マイ・サム」の前のナレーションも別テイクのものが長く収録されている。マスターによっては最終曲「サティスファクション」のあとに「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」(ストーンズの演奏ではない)が収録されているものがある。また、前述の「恋をしすぎた」や「フォーチュン・テラー」がフェード・アウトしないように加工されているにもかかわらず、「サティスファクション」では演奏がフェード・アウトする(リマスター以前から)。本作はアメリカでのみ発売され、チャートでは6位に到達しゴールド・アルバムとなった。	Side A 1. アンダー・マイ・サム 2:54 2. 一人ぼっちの世界 - Get Off Of My Cloud 2:54 3. レディ・ジェーン 3:08 4. ノット・フェイド・アウェイ 2:04 5. 恋をしすぎた 2:55 6. フォーチュン・テラー 1:57	Side B 1. ラスト・タイム 3:08 2. 19回目の神経衰弱 - 19th Nervous Breakdown 3:31 3. レディ・ジェーン 3:08 4. アイム・オーライト 2:27 5. マザー・イン・ザ・シャドウ 2:19 6. サティスファクション 3:05
	ROLLING STONES	ビトウイン・ザ・バトンス (UKヴァージョン)		1967年2月6日	ブリティッシュビート	レコード	1966年にリリースされたストーンズの最初のライブ・アルバム。バンドはその出来に満足せず、アルバムとの関係を否定した。彼ら自身は1970年にリリースされた『ゲット・ヤー・ヤ・ヤズ・アウト』を最初の公式ライブ・アルバムであると考えている。本作のタイトルは1965年にイギリスでのみリリースされたEP『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』と同一であった。本作は1966年10月前半のニューカッスル・アポン・タインとプリストルでの演奏が納められた(ジャケットにはロイヤル・アルバート・ホールでのライブとクレジットされている)。アルバムは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」がそれぞれスタジオ録音へ歓声をオーヴァーダビングしたものが収録され、他の曲もほとんどがヴォーカルを録り直ししているため、厳密にはライブ・アルバムとは言いがたい。当初発売されたものは「恋をしすぎた」「フォーチュン・テラー」はフェード・アウトしていたものの、1986年にアポコ・レコードによりリマスターされた際に両曲はライブ演奏のようにエンディングが途中でカットされた。また、「アンダー・マイ・サム」の前のナレーションも別テイクのものが長く収録されている。マスターによっては最終曲「サティスファクション」のあとに「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」(ストーンズの演奏ではない)が収録されているものがある。また、前述の「恋をしすぎた」や「フォーチュン・テラー」がフェード・アウトしないように加工されているにもかかわらず、「サティスファクション」では演奏がフェード・アウトする(リマスター以前から)。本作はアメリカでのみ発売され、チャートでは6位に到達しゴールド・アルバムとなった。	Side A 1. イエスタデイズ・ベイバー 2:04 2. マイ・オブセッション 3:17 3. ルビー・チューズデイ 3:17 4. コネクション 2:08 5. 甘いほほえみ 2:44 6. クール・カム・アンド・コレクテッド 4:17	Side B 1. オール・ソールド・アウト 2:17 2. ブリーズ・ゴー・ホーム 3:17 3. 眠りの少女 - Who's Been Sleeping Here? 3:55 4. コンプリケイティッド 3:15 5. ミス・アマンダ・ジョーンズ 2:47 6. 昨日の出来事 - Something Happened to Me Yesterday 4:55
	ROLLING STONES	ビトウイン・ザ・バトンス (UKヴァージョン)		1967年2月6日	ブリティッシュビート	CD	1967年にリリース。ストーンズのイギリスでは5作目、アメリカでは7作目となる。全英3位、全米2位を記録。プロデューサーはアンドリュース・ルーク・オールダム最後のプロデュース作品。エンジニアにグリーン・ジョーンズが担当。本作のレコーディングは、1966年8月にハリウッドのRCAスタジオで、さらに11月にロンドン、オリンピック・スタジオで行われた。本作はグループとして初めてトータルアルバムとして制作されたアルバムで、前作『アフターマス』で見せた実験的作風をより前に押し進めた作品となった。イギリスでは3位と前作を超えられなかった。批評家筋の反応も悪く、ニュー・ミュージカル・エクスプレス誌のロー・カーは本作を「失敗作」と断じ、その原因を「オールダムの慢心したエゴをストーンズに投影させたこと」とした。ビル・ワマンはこれに同調している。アメリカでは反対に好意的に受け止められ、最高2位まで上昇しゴールドディスクも獲得している。ミック・ジャガーは1967年当時こそ「"アフターマス"より好きだ」と語っていたものの、以降は評価を変え、本作に否定的な見方をするようになった。1995年のインタビューでも「色々いじくりすぎて台無しにしまったんだよね。フランク・ザッパは好きだって言っただけ」と語っている[11]。ジャガーの自己評価とは裏腹に、多くの音楽評論家やファンは本作を重要視した。	Side A 1. イエスタデイズ・ベイバー 2:04 2. マイ・オブセッション 3:17 3. ルビー・チューズデイ 3:17 4. コネクション 2:08 5. 甘いほほえみ - She Smiled Sweetly 2:44 6. クール・カム・アンド・コレクテッド 4:17	Side B 1. オール・ソールド・アウト 2:17 2. マイ・オブセッション 3:17 3. 眠りの少女 - Who's Been Sleeping Here? 3:55 4. コンプリケイティッド 3:15 5. ミス・アマンダ・ジョーンズ 2:47 6. 昨日の出来事 - Something Happened to Me Yesterday 4:55
	ROLLING STONES	サタニック・マジスティーズ		1967年12月8日	ブリティッシュビート	CD	1967年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナル・アルバム。全英3位、全米2位。グループ初のセルフ・プロデュース作品である。レコーディング・エンジニアはグリーン・ジョーンズ。前作『ビトウイン・ザ・バトンス』から続いてきた実験的な作風の極地とも言えるアルバム。ストーンズの作品中、最もサイケデリックな仕上がりとなった。ミック・ジャガーは、本作の作風にドラッグ使用が相当な影響を及ぼしたことを認めている。本作はストーンズのオリジナル・アルバムで初めて収録曲が全世界で統一されたものとなった。ジャケットのデザインから、同年に発表されたビートルズの『サーージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』の模倣とも評された。ビル・ワimanの自作曲(「イン・アナザー・ランド」)が初めて採用されている。それまでのグループの全作品をプロデュースしてきたアンドリュース・ルーク・オールダムは、本作の制作中に録音、リリースされたシングル『この世界に愛を』を最後に、1967年9月を以って、彼らとの関係に終止符を打った。ほとんどの批評家は本作を「悲劇的な失敗作」と断じ[25]、ビートルズの『サーージェント・ペパーズ』の猿真似とこき下ろした。	Side A 1.魔王讃歌 - Sing This All Together 3:46 2.魔王のお城 - Citadel 2:50 3.イン・アナザー・ランド 3:15 4.2000年 - 2000 Man 3:07 5.魔王讃歌(二部) - Sing This All Together 8:33	Side B 1.シーズ・ア・レインボー 4:35 2.ランターン 4:24 3.ゴッパ 5:08 4.2000光年のかたに - 2000 Light Years From Home 4:45 5.オン・ウィズ・ザ・ショウ 3:40
	ROLLING STONES	ベガーズ・バンケット		1968年12月5日	ブリティッシュビート	レコード	1968年に発表したオリジナルアルバム。プロデュースはジミー・ミラー。レコーディング・エンジニアはグリーン・ジョーンズおよびエディ・クレイマー。全英3位、全米5位を記録。ミック・ジャガーはバンドの方向性を決定づけるプロデューサーが必要だと考え、1968年初めにスペンサー・デヴィス・グループやトラフィックを手がけたジミー・ミラーの招聘を決定。結果は成功し、以降『レット・イット・ブリード』、『スティッキー・フィンガーズ』、『メイン・ストリートのならず者』という傑作アルバムを次々と生み出し、その関係は1973年まで続いた。「悪魔を憐れむ歌」や「ストリート・ファイティング・マン」のようなバンドの新しい方向性を示す曲がある一方で、エレキギターよりもアコースティックギターを中心に据えたサウンドが目立ち、ドラムスを使用しない曲が3曲もあるなど(「ノー・エクスペクテーションズ」、「ディア・ドクター」、「ファクトリー・ガール」)、ロック・ナンバールよりも彼らのルーツであるブルースやカントリー・ミュージック、フォークソング・ナンバーの方に重きが置かれている。本作でのギターは大半がキース・リチャーズによるもので「ジャンピン・ジャック・フラッシュ」で本格的に取り入れられたオープン・チューニング奏法が、本作でも導入されている。一方、ブライアン・ジョーンズの心身の不調は前年以上に深刻なものとなっており、彼の本作への貢献度は前作『サタニック・マジスティーズ』よりも少なかった。	Side A 1. 悪魔を憐れむ歌 - Sympathy for the Devil - 6:18 2. ノー・エクスペクテーションズ - 3:56 3. ディア・ドクター - 3:21 4. バラシュート・ウーマン - 2:20	Side B 1. シングソー・バズル - 6:05 2. ストリート・ファイティング・マン - 3:15 3. ストレイ・キャット・ブルース - 4:37 4. ファクトリー・ガール - 2:08 5. 地の塩 - Salt of the Earth - 4:47
	ROLLING STONES	ベガーズ・バンケット		1968年12月5日	ブリティッシュビート	CD	ジャケットの下部は当初のトイレの落書きショットを使用したジャケットによるもの。		
	ROLLING STONES	スルー・ザ・バスター・クリー (ビッグ・ヒッツ Vol.2)		1969年	ブリティッシュビート	レコード	1969年にリリースされたローリング・ストーンズの2作目の公式コンピレーション・アルバム。ブライアン・ジョーンズの脱退とその死後まもなくリリースされた。1966年から1969年までの60年代のストーンズを代表するナンバー“JUMPIN' JACK FLASH”、“HONKY TONK WOMEN”、“STREET FIGHTING MAN”、“RUBY TUESDAY”等をコンパイルした編集盤。日本国内盤はUK盤と同選曲。	Side A 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ - 3:40 2. マザーズ・リトル・ヘルパー - 2:45 3. 2000光年のかたに(2000 Light Years From Home) - 4:45 4. 夜をぶとばせ(Let's Spend The Night Together) - 3:36 5. ユー・ベター・ムーヴ・オン 2:39 6. この世界に愛を(We Love You) - 4:22	Side B 1. ストリート・ファイティング・マン - 3:15 2. シーズ・ア・レインボ - 4:11 3. ルビー・チューズデイ - 3:16 4. ダンデライオン - 3:32 5. シッティン・オン・ア・フェンス - 3:02 6. ホンキー・トック・ウィメン - 3:00

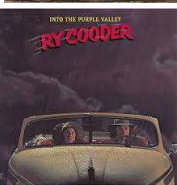
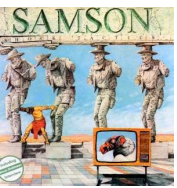
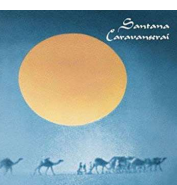
	ROLLING STONES	レット・イット・ブリード		1969年12月5日	ブリティッ シュビート	レコード	1969年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデューサーはジミー・ミラー、レコーディングエンジニアはグリーン・ジョンズ。全英1位、全米3位を記録。前作『ペガーズ・バンケット』と共に彼らの最良のアルバムと称賛され、ロック・アルバム の古典の一つと見なされる。本作タイトル『レット・イット・ブリード』は、しばしばビートルズの『レット・イット・ビー』のパロディだとされるが、それは正確ではない(『レット・イット・ビー』のリリースは1970年5月)。本作の制作中にブライアン・ジョンズが脱退。その直後、後任ギタリストのミック・テイラーが加入。本作はジョンズが参加した最後のアルバムであると共に、ジョンズとテイラーが参加した曲が同時に収められた唯一のオリジナル・アルバムでもある。本作の収録曲でジョンズがギターを弾いた曲は1つもなく、またテイラーが参加したのは「カントリー・ホンク」と「リヴ・ウィズ・ミー」の2曲のみで、本作で聴けるギターは大半がキース・リチャーズによるものである。また、初めてリチャーズが単独でリード・ボーカルを担当した曲(「ユー・ガット・ザ・シルヴァー」)も収録されている。本作に収められた楽曲は、歌詞の内容が戦争、レイプ、殺人、麻薬中毒といった荒涼としたものとなっているが、これについてミック・ジャガーは1995年のインタビューで「当時はすごく暴力的で荒々しい時代だったからね…ベトナム戦争だよ。テレビでもその映像がたくさん映し出されてたしね」と説明している。イギリスではアフター・マス以来3年ぶりに1位を獲得。アメリカでは3位とダブル・プラチナを獲得した[12]。セールス面のみならず各プレスからの評価も上々で、ニュー・ミュージカル・エクスプレス誌は「なんてすごいアルバムだろう」「各曲にバラエティがあり、何度でも聴き返したくなる」と賞賛している	Side A 1. ギミー・シェルター - 4:31 2. むなしき愛 - Love In Vain - 4:19 3. カントリー・ホンク - 3:07 4. リヴ・ウィズ・ミー - 3:33 5. レット・イット・ブリード - 5:28	Side B 1. ミッドナイト・ランブラー - 6:53 2. ユー・ガット・ザ・シルヴァー 3. モンキー・マン - 4:11 4. 無情の世界 - You Can't Always Get What You Want - 7:29
	ROLLING STONES	レット・イット・ブリード		1969年12月5日	ブリティッ シュビート	レコード			
	ROLLING STONES	ゲット・ヤアー・ヤ・ヤズ・アウト!		1970年9月4日	ブリティッ シュビート	レコード	1970年にリリースされたローリング・ストーンズのライブ・アルバム。アメリカでリリースされた『ガット・ライヴ・イフ・ユー・ウォント・イット』を除けば、公式に発表された初のライブ・アルバムである。本作にはニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンでの11月27日、28日の公演が収録された。本作はブートレグ対策としてリリースされたといわれる。1969年に公演の模様を収録したブートレグアルバムがリリースされ、評判を呼ぶという事態を重く見たバンドとレコード会社がリリースを決断したといわれる。また、本作は当初、サポートアクトのB・B・キングやアイク&ティナ・ターナーの演奏を含めた複数枚組のアルバムとしてリリースしたいというバンド側の意向があったが、当初は諸般の事情から実現せず、それ以来ずっと1枚もののアルバムとしてリリースされ続けてきたが、2009年のデラックス・エディション化により、B・B・キングやアイク&ティナ・ターナーの演奏も収録されることになった。	Side A 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ - 4:02 2. かわいいキャロル - 3:47 3. ストレイ・キャット・ブルース - 3:41 4. むなしき愛 - Love In Vain - 4:57 5. ミッドナイト・ランブラー - 9:05	Side B 1. 悪魔を横れむ歌 - 6:52 2. リヴ・ウィズ・ミー - 3:03 3. リトル・クイニー - 4:33 4. ボンキーマ・トック・ウィメン - 3:35 5. ストリート・ファイティング・マン - 4:03
	ROLLING STONES	スティッキー・フィン ガーズ		1971年4月23日	ブリティッ シュビート	レコード	1971年に発表されたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。全英、全米共に1位を記録。プロデューサーはジミー・ミラー。本作は彼らが設立したローリング・ストーンズ・レコードからリリースされた初のスタジオ・アルバムである。『ペガーズ・バンケット』から見られるようになったサザン・ロック・サウンドをより深化させた内容となっている。本作は新メンバーのミック・テイラーが初めてフルで参加している作品であると共に、ブライアン・ジョンズが全く関わっていない最初のストーンズ作品でもあった。本作は『ペガーズ・バンケット』、『レット・イット・ブリード』、『メイン・ストリートのならず者』と並び、ストーンズの最高傑作として高評価を受けている。本作はイギリス、アメリカ共に4週連続1位に輝き、それまでのグループの売上枚数を更新し、世界的な大ヒット作となった。	Side A 1. ブラウン・シュガー 2. スウェイ - 3:51 3. ワイルド・ホース - 5:42 4. キャン・ユー・ア・ミー・ノッキング - 7:15 5. ユー・ガッタ・ムーブ - 2:32	Side B 1. ビッチ - 3:36 2. アイ・ガット・ザ・ブルース - 3:53 3. シスター・モーフイン - 5:31 4. デッド・フラワーズ - 4:03 5. ムーンライト・マイル - 5:56
	ROLLING STONES	スティッキー・フィン ガーズ		971年4月23日	ブリティッ シュビート	CD			
	ROLLING STONES	マイルストーンズ		1972	ブリティッ シュビート	レコード	1972年にリリースされたローリング・ストーンズのベスト・アルバム。CD化はされていない。	Side A 1. Satisfaction 2. She's a Rainbow 3. Under My Thumb 4. 恋をしようよ I Just Want to Make a Love to You 5. Yesterday's Papers 6. 彼氏になりたい I Wanna Be Your Man	Side B 1. Time Is On My Side 2. 一人ぼっちの世界 Get Off of My Cloud 3. Not Fade Away 4. Out of Time 5. She Said Yeah 6. Stray Cat Blues
	ROLLING STONES	メイン・ストリートの ならず者		1972年5月12日	ブリティッ シュビート	レコード	1972年に発表された、ローリング・ストーンズのオリジナル・アルバム。プロデューサーはジミー・ミラー。全英、全米共に1位を記録。ストーンズにとって初の2枚組のスタジオ・アルバムとなったが、前作『スティッキー・フィンガーズ』に引き続き、英・米ともに1位を獲得する大ヒット作品となった。本作は一般的に「ラフでルーズ」と評されることが多く、発表当時は批判も多かったが、年月を重ねるごとに評価を上げていき、ストーンズの絶頂期を象徴する作品として認知されるようになった。ミック・ジャガーは本作の内容について「音楽的には様々な要素が入っている。ポップスの要素以外はね。カントリーにブルース、ハードロックからカバーまで、本当に音楽の展覧会って感じだよ」と説明している。セールスは好調だったが、本作の過度にラフなサウンド通りが当時の批評家達には受けず、散漫な作りであると否定的な評価を下された[10]。だがこの「ラフでルーズ」な音楽性は本作以降のストーンズのイメージとなり、同時に本作の評価も見直されるようになった	Side 1 1. ロックス・オフ 4:31 2. リップ・ジス・ジョイント 2:22 3. シェイク・ユア・ヒップス 2:59 4. カノン・ブギー 3:33 5. ダイスをころがせ 3:45 Side 2 6. スウィート・ヴァージニア 4:27 7. トーン・アンド・フレイド 4:17 8. 黒いエンジェル 2:54 9. ラヴィング・カップ 4:25	Side 3 10. ハッピー - Happy 3:04 11. タード・オン・ザ・ラン 2:36 12. ヴェンチレイター・ブルース 3:24 13. 彼に会いたい - I Just Want to See His Face 2:52 14. レット・ザット・ルース 5:16 Side 4 15. オール・ダウン・ザ・ライン 3:49 16. ストップ・プレーキング・ダウン 4:34 17. ライトを照らせ - Shine a Light 4:14 18. ソウル・サヴァイヴァー 3:49
	ROLLING STONES	メイン・ストリートの ならず者		1972年5月12日	ブリティッ シュビート	CD	アルバムからは「ダイスをころがせ」や、キース・リチャーズの代表曲の一つになった「ハッピー」がシングル・カットされ、前者は全英5位、全米7位のヒットとなった。本作制作時の様子を残した写真やホームビデオに、メンバーのインタビューやイメージ映像などを織り込んだドキュメンタリー映画『ストーンズ・イン・エグザイル〜メイン・ストリートのならず者』の真実が、2010年に公開されている。オリジナルLPにはメンバーを写した12枚つづりの絵葉書セットが付属していた。絵葉書はちょっとしたストーリーになっておりオチもついている。		
	ROLLING STONES	山羊の頭のスーパ		1973年8月31日	ブリティッ シュビート	レコード	ローリング・ストーンズが1973年に発表したオリジナルアルバム。全英、全米共に第1位を記録。本作は、ポップ・マーリーのブレイクによるレゲエ・ミュージックの台頭に影響されるかたちでジャマイカで制作され、異国情緒のある、グループの新たな側面を見せた作品である。だが、本作ではレゲエからの影響を感じさせる曲は見当たらず、むしろファンクやニュー・ソウルからの影響が色濃く出ている。サウンド面では、ギターを中心とした未加工で生々しく、ラフでルーズと評された前作『メイン・ストリートのならず者』とは対称的に、本作では鍵盤楽器を中心に、またエフェクトを多用した緻密で混沌とした音造りとなっている。1971年の『スティッキー・フィンガーズ』から3作連続で全英、全米両チャートで1位を記録するヒット作となった。本作からは「悲しみのアンジー」、そして「ドゥー・ドゥー・ドゥー……(ハートブレイカー)」がシングルカットされ、特に前者は全米チャートで1位となる大ヒットを記録した。また1968年以降、ストーンズの全作品のプロデューサーを務めてきたジミー・ミラーが参加した最後の作品でもある。ジャケットは、極薄地の布を顔にかぶったメンバーを写したものであり、撮影とデザインはデヴィッド・ベイリーが担当した。またタイトルどおりに大きな釜に入ったスープに浸された山羊の頭の写真も封入されているが、これは動物愛護協会からのクレームを受けた。アメリカでは4週連続の1位に輝き、2000年にはプラチナ・レコードを獲得、これまでに300万枚以上を売り上げている。イギリスでも2週連続1位を獲得。売れ行きは好調だったが、作品としての評価は前作『メイン・ストリート…』までのものと比べ、やや否定的な評価を下されることが多い	Side A 1. ダンシング・ウィズ・ミスターD 4:53 2. 100年前 - 100 Years Ago 3:59 3. 夢からさめて - Coming Down Again 5:54 4. ドゥードゥー・ドゥー……(ハートブレイカー) - 5. 悲しみのアンジー - Angie 4:33	Side B 1. シルヴァー・トレイン 4:27 2. お前の愛を隠して - Hide Your Love 4:12 3. ウィンター 5:31 4. 全てが音楽 - Can You Hear The Music? 5:31 5. スター・スター 4:25
	ROLLING STONES	山羊の頭のスーパ		973年8月31日	ブリティッ シュビート	CD			
	ROLLING STONES	ノー・ストーン・アン ターンド		1973年10月5日	ブリティッ シュビート	レコード	イギリスやヨーロッパ各国、日本でシングル発売された「Sad Day」を始め、シングルのB面曲や当時のイギリスで未発売だった曲を中心に編集された アルバムです。ジャケットはシングル「Jumpin' Jack Flash」で使われていた写真を使っている。	Side A 1. Poison Ivy* 2. The Singer Not The Song 3. Surprise Surprise* 4. Child Of The Moon 5. Stoned* 6. Sad Day*	Side B 1. Money* 2. Dongsratulations* 3. I'm Moving On* 4. 2120 South Michigan Avenue 5. Long Long While* 6. Who's Driving Your Plane*
	ROLLING STONES	イツ・オンリー・ロッ クン・ロール		1974年10月10日	ブリティッ シュビート	レコード	1974年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデュースはグリマー・ツインズ、レコーディング・エンジニアはアンディ・ジョンズおよびキース・ハワード。全英2位、全米1位を記録。1968年の『ペガーズ・バンケット』より続いてきたスワンプ・ロック路線から脱却し、本作ではソリッドかつストレートなロックサウンドに転換が図られた[1]。『スティッキー・フィンガーズ』(1971年)以降、ストーンズのサウンド面では欠かせなかったホーン・セクションも本作では一掃されている。本作はグリマー・ツインズ(ミック・ジャガーとキース・リチャーズのプロデューサーとしての匿名クレジット)がプロデュースを行った初の作品である。『ペガーズ…』以降ストーンズの全作品のプロデュースを引き受けてきたジミー・ミラーは本作のセッションの途中で降板。そして、1969年からストーンズのリードギタリストとして共に活動してきたミック・テイラーが、本作リリース直後の1974年12月にグループを脱退したため、テイラーが参加した最後のアルバムにもなった。テイラーの脱退理由には様々な憶測が流されたが、本人は「キースのドラッグが原因でメンバーがバラバラな状態だった」と語っている。あらゆる意味で本作はグループにとっての転換点になった。	Side A 1. イフ・ユー・キャン・ロック・ミー 3:47 2. エイント・トゥー・プラウド・トゥ・ベッグ 3:31 3. イッツ・オンリー・ロックン・ロール 5:07 4. ティル・ザ・ネクスト・グッドバイ 4:37 5. タイム・ウェイツ・フォー・ノー・ワン 6:38	Side B 1. 快楽の奴隷 - Luxury 5:01 2. ダンス・リトル・スター 4:11 3. マイ・フレンド 6:17 4. ショート・アンド・カーリース 2:44 5. フィンガー・バッキング・ファイル 6:33
	ROLLING STONES	メタモフォシス		1975年6月6日	ブリティッ シュビート	レコード	1975年にリリースされたローリング・ストーンズのコンピレーション・アルバム。発売元はアプロレコード。プロデューサーはアンドリュース・ルーク・オールダムおよびジミー・ミラー。全米8位、全英45位を記録。バンドのデッカ・レコード在籍時代(1970年まで)の未発表音源を収録している。バンドのプライベートルーベルであるローリング・ストーンズ・レコードからリリースされたベストアルバム『メイド・イン・ザ・シェイド』と同日に発売されたが、これはアプロの代表者でストーンズのデッカ時代の楽曲の著作権を握っていたアラン・クレインの戦略によるものである。本作に収録されているものは全てブライアン・ジョンズ、そしてミック・テイラーがバンドに在籍していた時代の楽曲だが、そのためかジャケットに描かれたイラストにはジョンズとテイラーが一緒に収まっている。	Side A 1. アウト・オブ・タイム 3:22 2. ドント・ライ・トゥ・ミー 2:00 3. 来る日も来る日も Each and Everyday of the Year 2:48 4. ハート・オブ・ストーン 3:47 5. かたくなの心 I'd Much Rather Be with the Boys 2:11 6. めざめぬ街 Sleepy City 2:51 7. トライ・ア・リトル・ハーダー 2:17	Side B 1. アイドント・ノウ・ホワイ 3:01 2. イフ・ユー・レット・ミー 3:17 3. ジャイヴァング・シスター・ファニー 2:45 4. ダウンタウン・スージー 3:52 5. ファミリー 4:05 6. メモ・フロム・ターナー 2:45 7. アイム・ゴーイン・ダウン 2:52
	ROLLING STONES	メタモフォシス		1975年6月6日	ブリティッ シュビート	CD	ジョンズ期とテイラー期の楽曲を同時収録した編集盤は多数存在するが、2人が同一のジャケットに写っているストーンズの公式作品は、他には1977年に同じくアプロから発表された『30 Greatest Hits』(日本では『偉大な軌跡』の邦題で発表)しかなく、極めて珍しい。本作からの先行シングルとして、「アイドント・ノウ・ホワイ/トライ・ア・リトル・ハーダー」(全米42位)が、そしてリカットシングルとして「アウト・オブ・タイム/ジャイヴァング・シスター・ファニー」(全英45位、全米81位)がリリースされている。なお、アメリカでは「スティック・イン・ユア・マインド」と「ウィーアー・ウェイスティン・タイム」の2曲が削除され、全14曲となった。	Side A 1. アウト・オブ・タイム 3:22 2. ドント・ライ・トゥ・ミー 2:00 3. スティック・イン・ユア・マインド 2:25 4. 来る日も来る日も - Each and Everyday of the Year 2:48 5. ハート・オブ・ストーン 3:47 6. かたくなの心 - I'd Much Rather Be with the Boys (Oldham/Richards) 2:11 7. めざめぬ街 - (Walkin' Thru The) Sleepy City 2:51 8. ウィーアー・ウェイスティン・タイム 2:42	9. トライ・ア・リトル・ハーダー 2:17 10. アイドント・ノウ・ホワイ 3:01 11. イフ・ユー・レット・ミー 3:17 12. ジャイヴァング・シスター・ファニー 2:45 13. ダウンタウン・スージー (Bill Wyman) 3:52 14. ファミリー 4:05 15. メモ・フロム・ターナー 2:45 16. アイム・ゴーイン・ダウン 2:52

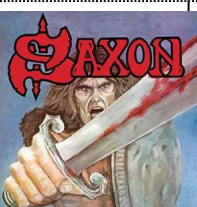
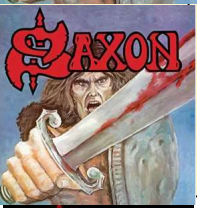
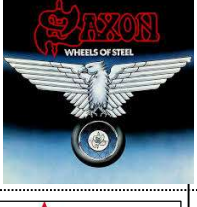
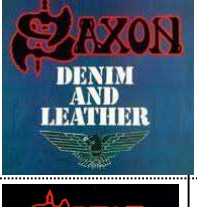
ROLLING STONES	ブラック・アンド・ブルー		1976年4月20日	ブリティッシュビート	レコード	1976年にリリースされたローリング・ストーンズのオリジナルアルバム。プロデュースはグリマー・ツインズ。レコーディング・エンジニアはキース・ハーウッドおよびグリーン・ジョンズ。全英2位、全米1位を記録。ミック・テイラー脱退後、ロン・ウッドが初めて参加したアルバムである。前作『イツ・オンリー・ロックン・ロール』では、それまで傾倒していたスワンプ・ロックから離れ、リリッドかつストレートなビートロックへと転換したが[3]、本作では再び自分達のルーツであるブラックミュージックへの回帰が見られる。だが、以前のようなアメリカ南部サウンドの泥臭さはなく、洗練されたニューソウルやAORからの影響が強い[4]。ファンク・スタイルの「ホット・スタッフ」、「ヘイ・ネグリータ」、レゲエ・ナンバーのカヴァー「チェリー・オー・ベイビー」、ジャズの影響の大きい「メロディー」、そしてアルバム全体に渡ってビリー・プレストンの大きな貢献が認められる。アルバムからは「愚か者の涙」がシングルカットされ、全英6位[1]、全米10位につけるヒットとなっ	Side A 1. ホット・スタッフ 5:20 2. ハンド・オブ・フェイト 4:28 3. チェリー・オー・ベイビー 3:53 4. メロリー・モータール 7:07	Side B 1. ヘイ・ネグリータ 4:58 2. メロディー - Melody 5:47 3. 愚か者の涙 - Fool to Cry 5:04 4. アルバムからのシングル第1弾。 5. クレイジー・ママ - Crazy Mama 4:34
ROLLING STONES	ブラック・アンド・ブルー		1976年4月20日	ブリティッシュビート	CD			
ROLLING STONES	女たち		1978年6月9日	ブリティッシュビート	レコード	1978年にリリースされた、ローリング・ストーンズのアルバム。全英2位[1]、全米1位[2]を記録。ミック・テイラーの後任として加入したロン・ウッドがフルで参加した最初のアルバム。1970年代のパンク・ムーブメントの中、ストーンズを初めとする旧世代のミュージシャン達は新ジャンルのミュージシャンたちに標的にされてきた。パンク・ロッカー達はストーンズを旧世代の代表として攻撃し、ミック・ジャガーはその挑戦に刺激づけられ、彼らへの解答としての作品をリリースする決意を抱いていた。結果、本作はパンク・ロックとディスコ・ミュージックブームの70年代後半にストーンズを再評価させ、重要なロックンロール・バンドとしてその地位を確立させることとなった。1977年2月のキース・リチャーズのトロントでの逮捕劇を受け、バンドがその活動を制限されている間、ジャガーはニューヨークに滞在を続けた。ジャガーはニューヨークでの生活が本作に大きな影響を与えたことを認めている[3]。リチャーズは、チーフエンジニアおよびミキシングを担当したクリス・キムジーが本作に大きく貢献したとしている[4]。その後、キムジーは次回作『エモーションナル・レスキュー』（1980年）から『アンダー・カヴァー』（1983年）までの全アルバム、さらに『スティール・ホイールズ』（1989年）のプロデューサーに抜擢される。本作から先行シングルとしたリリースされた「ミス・ユー」はアメリカで1位となる大ヒットとなった（ストーンズのシングルがアメリカで1位を獲得したのは現時点では本作が最後）。リカットシングルの「ビースト・オブ・バーデン」も全米8位となるヒットとなった[5]。	Side A 1.ミス・ユー 4:48 2.ホエン・ジ・ウィップ・カムズ・ダウン 4:20 3.ジャスト・マイ・イマジネーション 4:38 4.サム・ガールズ 4:36 5.ライズ 3:11	Side B 1. ファー・アウェイ・アイズ 4:24 2. リスベクタブル 3:06 3. ビフォー・ゼイ・メイク・ミー・ラン 3:25 4. ビースト・オブ・バーデン 4:25 5. シャッタードJ)(Shattered)3:48
ROLLING STONES	女たち		1978年6月9日	ブリティッシュビート	CD			
ROLLING STONES	エモーションナル・レスキュー		1980年6月23日	ブリティッシュビート	レコード	1980年にリリース。同年10月のキース・リチャーズの前年に起こしたトロントでのドラッグ事件の裁判で終身刑に処されるかも知れないという緊張感の下で製作されていたが、これは免れた。アルバムは、前作『女たち』の成功を受け、前作で試みたディスコ・サウンドをさらに進化させ、レゲエやダブへもアプローチしたことから実験的作品と見なされる。リチャーズは連日のセッションで42曲ものトラックを録音したと語っており相当数の楽曲が録音されたものと見られるが、ミック・ジャガーは、本作の素材は「ほとんどが『女たち』の余りものだった」と明かしている[6]。制作が順調に進められたのかといえそうではなく、本セッション中にジャガーとリチャーズの音楽的嗜好に違いが露呈し始めており、ウッドは「2人は俺を真ん中に置き去りにしながらどんどん遠ざかって行った」と語っている[3]。本作からのアウトティクのうちの数曲は、次作『刺青の男』に収録された。	Side A 1. ダンス - Dance (Pt. 1) 4:23 2. サマー・ロマンス 3:16 3. センド・イット・トゥ・ミー 3:43 4. レット・ミー・ゴー 3:50 5. 悲しきインディアン・ガール - Indian Girl 4:23	Side B 1. ホーイズ・ゴー 3:29 2. 孤独の中に - Down in the Hole 3:58 3. エモーションナル・レスキュー 5:39 4. 氷のよう - She's So Cold 4:14 5. オール・アバウト・ユー 4:18
ROLLING STONES	刺青の男		1981年8月30日	ブリティッシュビート	レコード	1981年にリリース。当時ミック・ジャガーとキース・リチャーズの仲が上手くいかず、曲作りが全く進まなかった。これを受け、クリス・キムゼイはストーンズがこれまで残してきた膨大なアウトティクを調べ上げ、未完成のベシットトラックにオーバーダブを施していくという手法を選択した。本作に収録された曲のほとんどは、過去の作品からのアウトティクを元に制作したものである。素材は最新の『エモーションナル・レスキュー』（1980年）から、最も古いもの『山羊の頭のスूप』（1973年）までに及んだ（『イツ・オンリー・ロックン・ロール』からのアウトティク1曲も採用されていない）。オーバーダブに参加したゲスト・ミュージシャンには、ザ・フーのピート・タウンゼントや、ジャズ・サクソフ奏者のソニー・ロリンズがいた。年代も録音場所もバラバラである楽曲群を統一感のあるサウンドに仕上げたのは、「ミス・ユー」（1978年）の12インチシングル・バージョンでリミックスを担当したボブ・クリアマウンテン。この仕事が大きく評価されたクリアマウンテンは、以降もストーンズの作品に度々起用される事になる。	Side A 1. スタート・ミー・アップ 3:32 2. ハング・ファイヤー 2:21 3. 奴隷 - Slave 6:3 4. リトルT&A 3:23 5. 黒いリムジン 3:31 6. ネイバーズ 3:31	Side B 1. ウォリド・アバウト・ユー 5:17 2. トップス 3:45 3. ヘヴン 4:22 4. 泣いても無駄 - No Use in Crying 3:25 5. 友を待つ - Waiting on a Friend 4:34
ROLLING STONES	スティル・ライフ		1982年6月1日	ブリティッシュビート	レコード	1981年の北米ツアーの模様が納められ、翌年のヨーロッパ・ツアーに間に合うようにリリースされた。ジャケットデザインは日本人画家、カズ・ヤマザキが担当した。先行シングルとしてリリースされたスモークー・ロビンソンとミラクルズのカヴァー「ゴーイング・トゥ・ア・ゴー・ゴー」は英米でトップ30ヒットとなった。一方、第二弾シングルの「タイム・イズ・オン・マイ・サイド」はチャート上位に上ることはなかった。全英4位、全米5位を記録。目玉はやはり60年代の名曲「タイム・イズ・オン・マイ・サイド」改めてメロディアスで心に染みる曲。主軸はブルースでもポップでキャッチーな側面を持つてるのが彼らの強み。ライブで歌に入るタイミングとエンディングに持っていく締めめのタイミングをミックとキースがアイコンタクトで合図をやり取りするまさに阿吽の呼吸	Side A 1. イントロ・A列車で行こう - Intro: Take The A Train 2. アンダー・マイ・サム 3. 夜をぶっとばせ - Let's Spend The Night Together 4. シャッタード 5. トウエンティ・フライト・ロック 6. ゴーイング・トゥ・ア・ゴー・ゴー	Side B 1. レット・ミー・ゴー 2. タイム・イズ・オン・マイ・サイド 3. ジャスト・マイ・イマジネーション 4. スタート・ミー・アップ 5. サティスファクション - 星条旗 - Outro: Star Spangled Banner
ROLLING STONES	アンダー・カヴァー		1983年11月7日	ブリティッシュビート	レコード	1983年発表。ローリング・ストーンズ・レーベルからのスタジオ第9弾。本作はミック・ジャガーが打ち出した「だらだらとセッションをしながら曲を作らない」「完全な新曲のみをアルバムに入れる」という方針の下、これまでの彼らにはなかった新機軸を打ち出す実験的な作風となった。先行シングルの「アンダー・カヴァー・オブ・ザ・ナイト」ではヒップホップ、「トゥー・マッチ・ブラッド」ではラップを取り入れ、それらにレゲエやダブ、アフリカン・ビートを絡ませ、複雑なリズムアプローチのアイディアが取り入れられた。また収録曲の多くで電子ドラムが導入されている。本作では'80年代当時流行の人工的なサウンドに重きを置きながらも、所々にストーンズらしい生々しさを残した作品となった。アルバム・ジャケットには青いカーテンの前で全裸のストリッパーが踊る写真が採用され、胸部と局部をステッカーで隠したものとなっている。アメリカ版のみへそと局部のステッカーを剥がせる仕様になっているが、それ以外の国では全てステッカーは印刷になっている。	Side A 1. アンダー・カヴァー・オブ・ザ・ナイト 4:32 2. シー・ワズ・ホット 4:41 3. タイ・ユー・アップ (恋の痛み) 4:16 4. ワナ・ホールド・ユー 3:52 5. フィール・オン・ベイビー 5:07	Side B 1. トゥー・マッチ・ブラッド 6:14 2. プリティ・ビート・アップ 4:04 3. トゥー・タフ 3:52 4. オール・ザ・ウェイ・ダウン 3:14 5. マスト・ビー・ハ 5:04
ROLLING STONES	ダーティ・ワーク		1986年3月24日	ブリティッシュビート	レコード	1986年発表のスタジオアルバム『Dirty Work』を端的に言うなら「ローリング・ストーンズ流ハードロックが炸裂した渾身の1枚」が最適であろう。ハードロックで始まる1曲目「One Hit (To the Body)」のカッコよさに血湧き肉踊ったことは30年以上も前にせよ記憶に新しくその理由はTHE ROLLING STONESの数多ある楽曲の中でこれほど力強い曲調はそう見当たらず 更にギターソロを弾くのがジミー・ペイジなのだからインパクトは物凄かった。2曲目の豪快なロックンロール「Fight」でローリング・ストーンズにすっかりやられたままシングルカット曲「Harlem Shuffle」ではミック・ジャガーと黒人歌手ボビー・ウーマックによるヴォーカルの掛け合いに興奮冷めやらぬうちに1曲目に双璧するハードロックな4曲目「Hold Back」で止めを刺され その後はキース・リチャーズの渋いヴォーカル「Too Rude」でクールダウンされてゆく。レコードA面のデキがずば抜けており、D面はA面の烈しさとは打って変わって痛快なロックンロール・ナンバーが並ぶ。本作は批評家筋、ファン双方共に評価は低く、失敗作と見なされ、ストーンズの全作品中最低とする声もある。ジャガーは「大したことないね」の一言で、リチャーズは自身が中心となって作ったアルバムということもあってか、本作を「仕上がりには100%満足している」と言っている。	Side A 1. ワン・ヒット (4:44) 2. ファイト (3:09) 3. ハーレム・シャッフル (3:24) 4. ホールド・バック (3:53) 5. トゥー・ルード (3:11)	Side B 1. ウイニング・アグリー (4:32) 2. バック・トゥ・ゼロ (4:00) 3. ダーティ・ワーク (3:53) 4. ハド・イット・ウィズ・ユー (3:19) 5. スリープ・トゥナイト (5:11)
ROLLING STONES	スティール・ホイールズ		1989年9月23日	ブリティッシュビート	レコード	前作『ダーティ・ワーク』以来3年ぶりのスタジオ・アルバム。1980年代に入ってから陰悪な仲にあったミックとキースの関係が修復され、8年ぶりにワールドツアーと共に、ストーンズの復活の印象付けた。イアン・スチュワートが不参加とビル・ワイマンが参加した最後のアルバム。ストーンズにしては非常にヘヴィでメタリクな音作りが、別に奇をてらっているわけではないが、異色。元々のストーンズが持っていたヘヴィさっていうのは、音質的なヘヴィさではなく、メの効いた演奏と、殺気をはらんだオーマイたいなものが「ヘヴィ」だったわけだが、本作は明らかにサウナがヘヴィ。80年代後半から90年代前半のグラジ・オルタナ時代を多少は意識していたのだろうか？しかし、その曲・音楽そのものは、「イツ・オンリー・ロックンロール」あたりの頃から普通のものだ。キターと歌い回しにやや歪みを効かせているところと、チャーリー・ワッツのドラミングにシジャーな軽妙さを減らして、鋭くリットなリズムを叩かせているところが、あの時代らしいか？本作は、かつてないほどキャッチーな2もあれば、ヘヴィなキターサウンドと歪み声を生かした5、スリリクなリズム・ブレイクを持つ7、ストーンズにしたら洗練しすぎ8、70年代の彼らを思わせるエキゾチックで浮遊感ある10、地味ながら切ない歌メロが光る12、等々捨て曲なしの出来栄え。この次作「ブリッジ・トゥ・バビロン」のほうが思い入れがあるが、曲数12曲で、どっしりとして隙のない出来栄えと、この時代ならではのメタリクサウンドが、実に良くマッチしてまとまっている。イギリス2位、アメリカ3位、全世界でも大ヒットした。	Side A 1. サッド・サッド・サッド 3:35 2. ミックスド・エモーションズ 4:39 3. テリフィアソン 4:53 4. ホールド・オン・トゥ・ユア・ハート 3:32 5. ハーツ・フォー・セウル 4:40 6. プラインデッド・バイ・ラヴ 4:37	Side B 1. ロック・アンド・ア・ハード・ブレイス 5:25 2. キャント・ビー・シモン 4:10 3. オールモスト・ヒア・ユア・サイ 4:37 4. コンチネンタルドリット 5:14 5. ブレイク・ザ・スベル 3:07 6. スリッピング・アウェイ 4:30
ROLLING STONES	ヴァードゥー・ラウンジ		1994年7月11日	ブリティッシュビート	CD	脱退したビル・ワイマンに代わるベーシストとしてダリル・ジョーンズ、プロデューサーにドン・ワズを起用して制作されたローリング・ストーンズ・レーベルからのスタジオ第12弾。かつてのストーンズ・サウンドを踏襲した冒頭3曲以降は、様々な音楽的要素を取り入れた実験的作風が並ぶ、バラエティ感覚に溢れた作品。	1. ラヴ・イズ・ストロング 2. ユー・ガット・ミー・ロックンギ 3. スパークス・ウィル・フライ 4. ザ・ワースト 5. ニュー・フェイス 6. ムーン・イズ・アップ 7. アウト・オブ・ティアーズ	8. ダイ・ゴー・ワイルド 9. ブランド・ニュー・カー 10. スウィート・ハーツ・トゥゲザー 11. サック・オン・ザ・ジャギュラー 12. プラインデッド・バイ・インボーズ 13. ベイビー・ブレイク・イット・ダウン 14. スルー・アンド・スルー 15. ミーン・ディスポジション
ROLLING STONES	ブリッジズ・トゥ・バビロン		1997年9月29日	ブリティッシュビート	CD	1997年にリリース。ローリング・ストーンズのアルバム。「B2B」と略されることもある。本作の初回盤は、鳥模様の印刷された透明なプラスチックケースに封入された。今作は、ドン・ワズを含む何組ものプロデューサーと制作したアルバムで、これまでストーンズの制作方法が破られた点では非常に画期的である。このため、楽曲の印象はもちろん、完成度についても大きなバラつきが見られる。これはミックによるアイディアで、「マイルス・デイヴィスはアルバムごとでプロデューサーを変えたけど、バンドではできないから、こういう形にしてみたい」と語っている。こうした影響から、収録楽曲全体のクオリティは高かったにも関わらず、アルバムそのものの評価は高くなく、本国やアメリカでのセールスはあまり伸びなかったが、全世界ではワールドツアーにより大ヒットを記録した。	1. フリッピング・ザ・スイッチ 3:28 2. エニパディ・シモン・マイ・ベイビー？ 4:31 3. ロウ・ダウン 4:26 4. オールレディ・オーヴァー・ミー 5:24 5. ガンフェイス 5:02 6. ユードント・ハフ・トゥ・ミーン・イット 3:43	7. アウト・オブ・コントロールI 4:43 8. セント・オブ・ミー 5:15 9. マイト・アズ・ウェル・ゲット・ジュースト 5:23 10. オールウェイズ・サファリング 4:44 11. トゥー・タイト 3:33 12. シーフ・イン・ザ・ナイト 5:16 13. ハウ・キャン・アイ・ストップ 6:54
ROLLING STONES	あなたが選んだローリング・ストーンズ・ゴールデン・アルバム		1967年12月20日	ブリティッシュビート	レコード	日本独自の企画盤で、ミュージ・ライフの人気投票から上位に入った曲で構成された画期的なアルバム。人気投票の結果表で上位12曲がこのレコードに収録されている。これを見ると「Going Home」や「She Said Yeah」などのマニアックな曲が入っており、「イエスタデイズ・ペーパー」が14位で「タイム・イズ・オン・マイ・サイド」よりも上位というのが意外。当時の最新曲「We Love You」と「Dandelion」はAB面両方入っている。	Side A 1.黒くぬれ 2. 一人ぼっちの世界 3.ルビー・チューズデイ 4.AS TEARS GO BY / 涙あふれて 5.19TH NERVOUS BREAKDOWN / 19回目の神経衰弱 6.LET'S SPEND THE NIGHT TOGETHER/ 夜をぶっとばせ!	Side B 1.サティスファクション 2.DANDELION 3.マザー・イン・ザ・シャドウ 4.レディー・ジェーン 5.テル・ミー 6.WE LOVE YOU / この世界に愛を

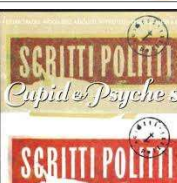
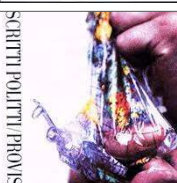
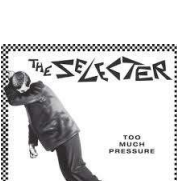
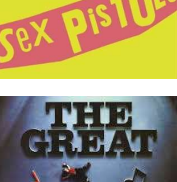
	ROLLING STONES	ローリングストーンズ MAX 20		1971年		レコード	日本独自の企画盤ベスト盤。	Side A 1. Tell Me 2. Get Of My Cloud 3. Paint It Black 4. Susie Q 5. Heart Of Stone 6. Honky Tonk Women 7. Street Fighting Man 8. I Wanna Be Your Man 9. Mother's Little Helper 10. Let's Spend The Night Together	Side B 1. Jumpin' Jack Flash 2. Time Is On My Side 3. Not Fade Away 4. Have You Seen Your Mother, Baby, Standing In The Shadow 5. Ruby Tuesday 6. (I Can't Get No) Satisfaction 7. As Tears Go By 8. Come On 9. Lady Jane 10. 2120 South Michigan Avenue
	ROLLING STONES	シングル・コレクション (ザ・ロンドン・イヤーズ)		1989	ブリティツ シュビート	CD	ローリング・ストーンズの主要な初期作品のアンソロジーとしてはもっとも幅広い内容をもつものだ。1971年のシングル曲からスタートし、A面・B面を問わない選曲がなされている。めぼしいヒット曲はすべてここにあるし(「Satisfaction」、「Jumping Jack Flash」、「Honky Tonk Women」、「Brown Sugar」)、B面曲もいくつかある(「Stoned」、「I Want to Be Loved」、「I Don't Know Why AKA I Don't Know Why I Love You」)。ただし、未発表曲はない。それでも本作は、名曲ぞろいの息をもつかせぬ展開によって、記念碑的なコレクションとなっている。ロック・ロール史上、これほど強烈で内容の濃いレパートリーをもつバンドはない。単刀直入に言えば、これまで発表された中でもっとも重要なロック・コレクションなのだ。英デッカ時代のシングル56曲に「ブラウン・シュガー」「ワイルド・ホース」の2曲を特別収録。3枚組。	ディスク: 1 1 Come On 2I Want To Be Loved 3I Wanna Be Your Man 4Stoned 5Not Fade Away 6Little By Little 7It's All Over Now 8Good Times, Bad Times 9Tell Me 10I Just Wanna Make Love To You 11Time Is On My Side 12Congratulations 13Little Red Rooster 14Off The Hook 15Heart Of Stone 16What A Shame 17The Last Time 18Play With Fire 19(I Can't Get No) Satisfaction 20The Under Assistant West Coast Promotion Man 21The Spider And The Fly 22Get Off Of My Cloud 23I'm Free 24The Sinners Not The Sins...	10Who's Driving Your Plane? 11Let's Spend The Night Together 12Ruby Tuesday 13We Love You 14Dandelion 15She's A Rainbow 162000 Light Years From Home 17In Another Land 18The Lantern 19Jumpin' Jack Flash 20Child Of The Moon (Remix) ディスク: 3 1Street Fighting Man 2No Expectations 3Surprise, Surprise 4Honky Tonk Women 5You Can't Always Get What You Want 6Memo From Turner 7Brown Sugar 8Wild Horses 9I Don't Know Why AKA Don't Know Why I Love You 10Try A Little Harder 11Out Of Time 12Jiving Sister Fanny 13Summertime From The Devil
	ROLLING STONES	シングル・ボックス VOL.1(1963-1965)			ブリティツ シュビート	CD	ロック・バンド、ザ・ローリング・ストーンズの初回3,000セット限定12枚組ボックス・セット。当時のシングル・スリーヴを複製し、12枚のシングルCDとしてボックスに収納。	Disc: 1 1カム・オン 2アイ・ウオント・トゥ・ビー・ラヴド Disc: 2 1彼氏になりたい 2ストロンド Disc: 3 1バイ・バイ・ジョニー 2マネー 3ユー・ベター・ムーヴ・オン 4ボイズン・アイヴィー Disc: 4	
	ROLLING STONES	イン・モノ			ブリティツ シュビート	CD	ザ・ローリング・ストーンズが1960年代に発表したオリジナル・アルバム14作品を待望のMONO音源で複製。 レア・トラックを収録した24曲入りボーナス・ディスク『ストレイ・キャッツ』を加えた15枚組豪華ボックス。しかも日本盤のみ7インチ紙ジャケット&SHM-CD仕様！日本初回盤LP帯をミニチュア再現した巻き帯など、特典多数付で堂々発売！！ ストーンズ初の60年代全オリジナル作品MONO音源収録のボックス・セット。モノ・アルバムとして初CD化、及びステレオ盤とは構成やバランスの異なるミックスによる楽曲も多数。 長らく入手困難だった英国盤ファーストとセカンド・アルバムが復活。アプコ・レコーズが承認したジャケット・アートワークを使用。日本盤のみ、通常のものより質感とも魅力的な7インチ紙ジャケット仕様で発売。全アルバム、オリジナル・モノ・テープからボブ・ラドウィックとテリ・ランディによる2016年最新リマスタリング音源。日本盤のみSHM-CD仕様で発売。 初CD化となる「アズ・ティアーズ・ゴー・バイ(イタリア語ヴァージョン)」を始め、アルバム未収録、レア・トラックも含む24曲入りボーナス・ディスク付。		
	ROLLING STONES	ライブ・イン・ロンドン			ブリティツ シュビート	CD	1964年6月26日アレクサンダー・パレスのライブ(1曲～5曲目)、1966年9月10日レディ・ステディ・ゴーのライブ(6曲～8曲目)、1964年～1968年ロンドンでのライブ(6曲～13曲目)の録音を収録。		
	ROLLING STONES	ライブ・イン・USA			ブリティツ シュビート	CD	1964年～1966年のアメリカでのライブを収録。		
	ROMAN HOLLIDAY	ローマの休日		1983	ロカビリー	レコード	1980年代初頭に活躍した英国エセックス州ハーロウ出身の7人組。“モダン・ジャイヴ”“パンク・スウィング”などといわれた。デキシ―とロカビリーの味わいのある個性的なポップ・サウンドを満載した1983年発表の衝撃のデビュー作。大ヒット曲「ドント・トライ・トゥ・ストップ・イット(俺【おいら】はハリキリ・ボーイ)」「スタン・バイ」他、全11曲収録。		
	ROMAN HOLLIDAY	涙のラスト・クルーズ		1984	ロカビリー	レコード	ワン・フット・バック は、りんご白書(映画)のサントラにも使われた曲。俺は燃える、ランナウェイ、ツ―マッチ熱い恋 はノリの良い曲。恋のはじまり、涙のラスト・クルーズはバラード曲、涙のラスト・クルーズは、日本で結構流れてた曲で知っている方も多いのでは？セカンドアルバムは、元気だけじゃないというバンドの気持ちが前面にでており、大人の雰囲気も感じさせ、成熟した秀作。7人でデビューしましたが2人脱退し、セカンドアルバム出したが続かなか解散となる。当時セカンドアルバムの評価が悪かったと叩かれていた。		
	ROMANTICS	イン・ヒート		1983	ニューウェ イフ	レコード			
	ROMEO VOID	イツ・ア・コンディショ ン		1981	ニューウェ イフ	レコード	ロミオ・ヴォイドのマイナーレーベルからのデビューアルバム。このグループは、女性ヴォーカルDEBORA IYALLを擁するサンフランシスコで結成されたニューウェーヴ/ポストパンクバンド。後にロコンビアからメジャーデビューするだけあってインディーリソースながらクオリティが高い。1980年、デビュー・シングル「White Sweater」をリリースし、1981年にはこのファースト・アルバム「It's a Condition」をリリース。 また、カーズのリーダーであるリック・オakesセックがこのアルバムを聴き注目し、自分のスタジオにグループを招待し、オakesセックのプロデュースしたEP『Never Say Never』をリリースすることになり、ラジオでブレイクしロコンビアとメジャー契約を果たす。 Benjamin Bossiの飛び散るようなフリージャズサックスがすべてに彩りを添え、ドラムブレイクが抜けるドープグループヴ”I MEAN IT”、ロール入りブレイクが抜ける”NOTHING FOR ME””TALK DIRTY (TO ME)”など、最高にカッコ良くオススメです セカンドアルバム『Benefactors』、サードアルバムは傑作の『Instincts』	Side A 1. Myself To Myself3:41 2. Nothing For Me 3:36 3. Talk Dirty (To Me)4:46 4. Love Is An Illness3:41 5. White Sweater4:43	Side B 1. Charred Remains 3:02 2. Confrontation 2:40 3. Drop Your Eyes 3:33 4. Fear To Fear 2:37 5. I Mean It 5:37
	RONNIE LANE	エニモア・フォー・エ ニモア		1974	ロック	CD	74年発表。フェイスズ脱退後に発表したソロ・デビュー作で、自身のバンド、スリム・チャンスとの名義。大半の楽曲がロニーのオリジナルとなっており、楽曲面でも定評のあるギャラガー＆ライルの楽曲がないのは残念だが、彼らの演奏はこの味わい深い作品に大きく貢献している。ちなみにブルースとビリーはギャラガー＆ライルのバックも動めており、本作はそのギャラガー＆ライルの人脈の助力を経てロニーが完成させた作品と捉えたと分かりやすい。フェイスズ末期のロニーの作風とギャラガー＆ライルの作風は共通点も多い。ギャラガー＆ライルは本作の後、デュオとしての5作目『ブレイカウェイ』で文字どおりブレイクするが、その成功は本作への参加があったことも大きな要因であっただろう。 内容としては想像通りのザ・バンドの英国仕様とも言えるべきもので、英国スワンプの見本として飾っておきたいほどの逸品。アコギ＋リズム隊をベースにしてコロコロと転がるピアノにアコーディオン、パンジョー、サックスなどがアーシーな味わいを加えている。それにも増して開放的で嬉しさが伝わってくるかのようなロニーの歌声が素晴らしい。	1 Careless Love 2Dont You Cry For Me 3(Bye & Bye) Gonna See The King 4Slik Stockings 5The Poacher 6Roll On Babe 7Tell Everyone 8Amelia Earhardt 9Anymore For Anymore 10Bird In A Guided Cage 11Chicken Wired	12How Come (Acoustic Version) 13The Poacher (Different Vocal Mix) 14Roll On Babe (Remix) 15Anymore For Anymore (Alt Version) 16(Bye & Bye) Gonna See The King (Remix) 17Amelia Earhardt (Alt Version) 18Anymore For Anymore (Rare & Exclusive Ibiza 1972)
	RONNIE LANE	ユー・ネヴァー・キャン・テ ル		1997	ロック	CD	BBC放送にはよく取り上げられて多数のセッション音源を残しており、それが今回の2枚組アルバムに纏められた。ライブということで、マルチプレイヤーのメンバーも楽器はひとつに限られるだろう、その分小編成で再現し引き締まったライブを楽しめる。もちろんロニーの息遣い、ヴォーカルも特筆。特にMCでの声は、優しいヴォーカルと打って代わって凛々しい。フェイスズのロングプレイヤーでのライブでのMCはおどけていたから分らなかったが、ボックスでの他曲のMCは、ラジオDJかと思っくらい。メンバーのコーラスも端正で良い。録音時期は73年～76年に渡っており、当然メンバーも出入りがあるのに、ブックレットの名前入のメンバー写真は、一時期のみ。ライナーは、在籍バンド時代からのロニーの道のりを書いているが、収録のライブのことは一部のみで詳しい解説が無いのが惜しまれる。歌、パフォーマンス、そして名だたるミュージシャンを引き寄せ纏める力、モービル録音ユニットの先駆けである。	ディスク: 1 1ウー・ラ・ラ 2フラグス・アンド・バナーズ 3ハウ・カム? 4アニヴァーサリー 5ドント・トライ・アンド・チェンジ・マイ・マインド 6フン・フォー・ザ・ロード 7ステッピン・アンド・リーリン 8スウィート・ヴァージニア 9ケアレス・ラヴ 10ラヴリー 11オール・オア・ナッシング	ディスク: 2 1ラスト・オーダーズ 2アニヴァーサリー 3ロール・オン・ベイブ 4ロスト・ハウ・カム? 5ユア・ソール・ロード 6ホワット・ウェント・ダウ 7チキン・ワイアード 8ウー・ラ・ラ 9ユー・ネヴァー・キャン・テル 10アニヴァーサリー 11ドント・トライ・アンド・チェンジ・マイ・マインド 12ウオーク・オン・バイ 13ユー・ネヴァー・キャン・テル 14ステッピン・アンド・リーリン 15ウー・ラ・ラ

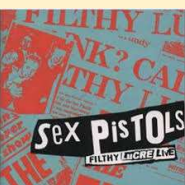
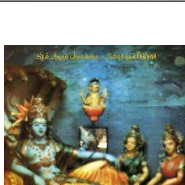
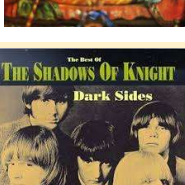
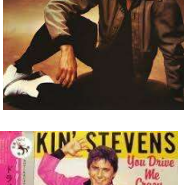
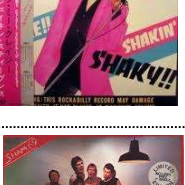
	RON WOOD	ギミ・サム・ネック		1979	ロック	レコード	本作は79年作品。第一期ジェフ・ベック・グループを皮切りに、フェイセズ、ローリング・ストーンズと常に隣のアたる道を歩いてきたギタリスト、ロン・ウッド。本作はCBS移籍第一弾となった、ソロとして3作目、75年にストーンズのメンバーとなってから、初のアルバム。キース・ミック、チャーリーの3人が参加している。またフリートウッド・マックのドラマー、ミック・フリートウッド、デヴィ・メイソンも参加。本作からはボブ・ディラン作の「セブン・デイズ」がシングル・カット。ジャケットの絵は自筆である。プロデュースはクイーン育ての親ともいえるロイ・トーマス・ペイカー。	1.ウォリー・ノウ・モア 2.ブレイン・マイ・ハート 3.デリア 4.ベリッド・アラヴ 5.カム・トゥ・リアライズ	6.インフェクション 7.セブン・デイズ 8.ウィ・オール・ゲット・オールド 9.F.U.C.ハー 10.ロスト・アンド・ロンリー 11.ドント・ウォーリー
	RORY GALLAGHER	ロリー・ギャラガー		1976年	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	1976年に発表した6枚目アルバム。プロデューサーは元ディーパープルのRoger Glover。ジャズやブルースやトラッドをぶち込んでポップに仕上げた美しいハードロックアルバム。A面1曲目はルー・マーティンのオルガンがいぶし銀の働きをみせる、人気曲のA面2 (Country mile)、A面3 (Moon Child) は彼の代表曲の一つであり本作収録曲中最もハード。や以外にも、Jazzyなタイトル曲や美しいA面5とB面2、らしい哀愁曲B面3など、聴かせるアルバム。この時代ならではのほとんどエフェクター加工されていないような録音が良い、生々しいドラムにアンプ直結のようなギター之音。こういう音好きだなあ。音楽性は違うが初期のAC/DCの作品なんかにも共通した過剰に加工されていない録音の良さを味わえる作品。	Side A 1. ドゥ・ユー・リード・ミー 2. カントリー・マイル 3. ムーンチャイルド 4. コーリング・カード 5. I'll Admit You're Gone 行ってもいいさ	Side B 1. シークレット・エージェント 2. ジャック・ナイフのビート 3. エッジド・イン・ブルー 4. バーリー・アンド・グレーブ・ラヴ
	RORY GALLAGHER	ライヴ・イン・ヨーロッパ		1972	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	ブルース/ロック・ギタリスト、ロリー・ギャラガーの1972年発表のソロ3作目。同年2〜3月にかけて行なわれたヨーロッパ・ツアーで録音された、人気絶頂期の熱狂的なステージ模様を収めた傑作ライヴ盤。70年代以降に登場するハード・ロック・ギタリストたちに多大な影響を及ぼした傑作ライヴ・アルバム。トラッドとブルースのカヴァーを中心にした選曲されている。「メッシン・ウィズ・ザ・キッド」「ラウンドロマット」他、全9曲。		
	RORY GALLAGHER	ライヴ・イン・アイルランド		1974	ハードロック&ヘビーマタル	CD	74年リリース作。元々はドキュメンタリー映画として追っかけられていたロリー・ギャラガーのアイルランド・ツアーのサントラ盤として、アナログ2枚組でリリースされた様ですが、映画よりも本作の方が有名になったアルバムです。74年、アイルランド紛争真っ只中、ベルファスト、ダブリンで収録された音源となっています。当時危険な地域でのライヴという事もあったのですが、ロリーのプレイも凄まじいものとなっています。トリオ編成のタイトなサウンドの中、スライド・ギター、ヴァイオリン奏法等、この人の多彩なブルース解釈が楽しめます。	1. クレイドル・ロック 2. アイ・ワンダー・フー 3. いれずみの女 4. アルコール中毒 5. 鳥が飛ぶように	6. 100万マイルも離れて 7. ウォーク・オン・ホット・コールズ 8. フーズ・ザット・カミング 9. ステンピン・グラウンド 10. ジャスト・ア・リトル・ビット
	ROSETTA STONE	青春の出発			ロック	レコード	ベイ・シティ・ローラーズを脱退したイアン・ミッチェルが中心となり結成されたロゼッタ・ストーンのカンタベリー・アルバム(78年リリース)。ロジャー・グリーンウェイがプロデュースを手掛け、ポップ・センス溢れるサウンドに仕上げている。ヒット・シングル「二人のパラダイス」「サンシャイン・ラヴ」収録。		
	ROTTERS CLUB	ハットフィールド&ザ・ノース		1975	プログレス	CD	1975年リリース。知性と感性が散りばめられたカンタベリーミュージックの最高峰であり歴史的な名盤！ゴングのビップ・バイル、マッチング・モールのフィル・ミラー、キャラヴァンのリチャード・シンクレアによる、カンタベリー・シーンを代表する実力派バンドの傑作と名高い2作目にしてラスト・アルバム。20分に及ぶ大作「マンブス」をはじめ、その卓越したテクニックとユニゾンを多用したクロスオーバーなプログレッシヴ・ロックを構築した名作。	1.シェアー・イット 2.ラウンジング・ゼア・トライング 3.ビッグ・ジョン・ウェイン・ソックス・サイコロ ジー・オン・ザ・ジョー 4.カオス・アット・ザ・グリージー・スプーン	5.ザ・イエス・ノー・インタールード 6.フィッター・ストーク・ハズ・ア・パス 7.ディラント・マター・エニウェイ 8.アンダーダブ 9.ユア・マジスティ・イズ・ライク・ア・クリーム・ドーナツ (ラウト)
	ROXY MUSIC	ロキシー・ミュージック		1972	オルタナティブ	レコード	ブライアン・フェリー、グラハム・シンプソン、ブライアン・イーノらを中心としたメンバーで結成されたロキシー・ミュージックの、1972年にリリースされたファーストアルバムは、既に最初から音楽性もファッション性も極まった感のある作風です。アヴァンギャルドな演奏と奇抜な格好で、個性派揃いの集団として注目され、アート・ロックからプログレッシヴ・ロックを経由し、グラム・ロックのブームを巻き起こす担い手の一つとなりました。UKロックミュージックシーンの歴史を揺るがした衝撃作です。キング・クリムゾンのヴォーカリスト・オーディションにエルトン・ジョンと共に受けて落選したという経歴のあるブライアン・フェリー、彼のダンディ且つ不安定でヌメるようなヴォーカル、まだ当時としては珍しいシンセサイザーを駆使するイーノの方向性は、やがて現代音楽へと昇華していきます。しかし美意識やインテリジェントを重視したメンバー達でありながら、実際の演奏はかなりハードコアな面も伺え、自分達の技量を力ずくで押し込んでいるかのような圧倒的なパワーがこの頃は魅力です。テープで気ままになり響くギターやフリーキーなサクソスのハチャメチャぶりに耳を一瞬疑いますが、それが妙に一体感を生み、まるで大衆酒場の乱雑する中でガングタンと掻き鳴らすかのような、不思議な説得力があります。このアルバムでのアレンジを後々参考にして楽曲作りをしている邦楽アーティストも結構多く見られ、知る人ぞ知るカヴァーアイテムでもあります。破天荒さと美学が計算されて配置されています。	全曲ブライアン・フェリー作。 Side A 1. リーメイク・リーモデル 5:10 2. レディロン 4:21 3. イフ・ゼア・イズ・サムシング 6:33 4. 2 H.B. 4:34	Side B 1. ポブ - "The BOB (Medley)" 5:48 2. チャンス・ミーティング 3:00 3. ウッド・ユー・ビリーヴ? 3:47 4. シー・プリーズイズ 7:00 5. ビターズ・エンド 2:02
	ROXY MUSIC	ロキシー・ミュージック		1972年3月	オルタナティブ	CD			
	ROXY MUSIC	フォー・ユア・プレジャー		1973年2月	オルタナティブ	CD	1973年にリリースされたロキシー・ミュージックのセカンド・アルバム。Brian Eno在籍時最後の作品となり全英アルバムチャートの第4位にチャート・インされました。旧LP盤のA面にあたる前半5曲をChris ThomasがB面にあたる後半3曲をJohn Anthonyがそれぞれプロデュースを担当し雰囲気まるで違います。旧A面が攻撃的かつ退廃的な、旧B面がプログレッシヴな味わいを醸し出していると思います。冒頭からたたみかける様な攻撃的なサウンドの「Do the Strand」Brian EnoのシンセサイザーとAndrew Mackayのサキソフオンが炸裂する『Editions Of You』スローなバラードで始まりギター・サウンドがカッコ良い『Grey Lagoons』と秀逸な曲が満載です。それにしてもRoxy Musicのアルバムジャケットはどれも印象的ですね。本作は当時のBryan Ferryの恋人Amanda Learを起用していますがアルバムジャケットのイメージと楽曲のイメージが見事にシンクロしている様に思えます。それから今回SACD盤を購入しましたが音の密度が濃く厚みが増し、各パート楽器の輪郭が明確になりよりクリアな音質となっています。	全曲ブライアン・フェリー作。 1. ドゥ・ザ・ストランド - "Do the Strand" 4:04 2. ビューティー・クween - "Beauty Queen" 4:41 3. ストリクトリー・コンフィデンシャル - "Strictly Confidential" 3:48 4. エディションズ・オブ・ユー - "Editions of You" 3:51	5. イン・エヴリ・ドリーム・ホーム・ア・ハート・エイク - "In Every Dream Home A Heartache" 5:29 6. ザ・ボグス・マン - "The Bogus Man" 9:20 7. グレイ・ラグーン - "Grey Lagoons" 4:13 8. フォー・ユア・プレジャー - "For Your Pleasure" 6:51
	ROXY MUSIC	ストランデッド		1973年9月	オルタナティブ	レコード	1973年9月にリリースされたロキシー・ミュージックの4枚目のアルバム。彼らのレコードはどれも録音が良いのだが、これもその1枚で文句の無い素晴らしい出来だ。録音の最高傑作としては82年の「アバロン」が一番有名だが、それはおそらく80年代で最もクオリティーの高い音をレコードに刻んだロックアルバムの1枚ではなからうか。この「ストランディッド」からはブライアン・イーノが抜け、代わりにエディ・ジョブスンが加入している。結果的には、アバンギャルド性は薄れたが、バンドとしてのまとまりは増し、独自の様式美を確立した最初のアルバムになったと思う。また、前2作と比較するとかなりポップな面と緻密なサウンドが作られており、これはクリスマスが全面的にプロデュースで参加しているのが大きいのではなからうか。その結果、大衆性が増し初の全英1位に輝いている。そしてこのアルバムは、「カントリー・ライフ」(74年)を経て「サイレイン」(75年)に至るロキシーのヨーロッパ的香りを持った音楽の完成形のスタートをきったアルバムとしても大変重要な作品だと思う。	特記なき楽曲はブライアン・フェリー作。 Side A 1. ストリート・ライフ 3:29 2. 君の如く (ジャスト・ライク・ユー) 3:36 3. アマゾナ - (フェリー、フィル・マンザネラ) 4:16 4. 祈り "Psalm" 8:04	Side B 1. セレナーデ 2:59 2. ヨーロッパ哀歌 "A Song for Europe" (フェリー、アンディ・マッケイ) 5:46 3. マザー・オブ・パール 6:52 4. 日没 - "Sunset" 6:04
	ROXY MUSIC	ストランデッド		1973年9月	オルタナティブ	CD	1973年9月にリリースされたロキシー・ミュージックの4枚目のアルバム。彼らのレコードはどれも録音が良いのだが、これもその1枚で文句の無い素晴らしい出来だ。録音の最高傑作としては82年の「アバロン」が一番有名だが、それはおそらく80年代で最もクオリティーの高い音をレコードに刻んだロックアルバムの1枚ではなからうか。この「ストランディッド」からはブライアン・イーノが抜け、代わりにエディ・ジョブスンが加入している。結果的には、アバンギャルド性は薄れたが、バンドとしてのまとまりは増し、独自の様式美を確立した最初のアルバムになったと思う。また、前2作と比較するとかなりポップな面と緻密なサウンドが作られており、これはクリスマスが全面的にプロデュースで参加しているのが大きいのではなからうか。その結果、大衆性が増し初の全英1位に輝いている。そしてこのアルバムは、「カントリー・ライフ」(74年)を経て「サイレイン」(75年)に至るロキシーのヨーロッパ的香りを持った音楽の完成形のスタートをきったアルバムとしても大変重要な作品だと思う。	特記なき楽曲はブライアン・フェリー作。 1. ストリート・ライフ - "Street Life" 3:29 2. 君の如く (ジャスト・ライク・ユー) - "Just Like You" 3:36 3. アマゾナ - "Amazona" (フェリー、フィル・マンザネラ) 4:16 4. 祈り - "Psalm" 8:04	5. セレナーデ - "Serenade" 2:59 6. ヨーロッパ哀歌 - "A Song for Europe" (フェリー、アンディ・マッケイ) 5:46 7. マザー・オブ・パール - "Mother of Pearl" 6:52 8. 日没 - "Sunset" 6:04
	ROXY MUSIC	カントリー・ライフ		1974	オルタナティブ	レコード	1973年に発表したこの音楽、当時としては何処にも無いオリジナルな音を持ったカッコイイロック74年作、ロキシー・ミュージックの4作目となった本作、おそらくロック史の中で最もスコピーオンスの作品群と共にジャケットが有名な1枚です。シースルーの下着姿の二人の女性のヘアが見えているという事で、各国で規制された事で話題になりました。ネット上では現在も右の女性は元男性で性転換者だという記述も見つかりますが、ただのデマにすぎないというのが通説になっていると思われます。彼女はクラウト・ロックの伝説的バンド、CANのギタリストであるミヒャエル・カロリーのいとこコンスタンツ・カロリー。左の女性はそのミヒャエル・カロリーの当時の恋人であったエヴァリン(エペリーネ)・グルンヴァルト。草むらに寝転がってマスターベーションをしているという揶揄もされましたが、これはロキシーお得意のゲートフォールド・カバー(見開きジャケット)による錯覚にすぎません。上記の様な論争もあり、結果的にはアルバムは好セールスを記録、アメリカでもスマッシュ・ヒットを記録します。サウンド的には前作から参加したエディ・ジョブスンのヴァイオリンがミステリアスな個性を発揮している一方、グラムの展開はもちろん、欧州的な驕りよりポップなロック的アプローチを強めていると思います。コマーシャルなメロディを持ったシングル曲、「All I Want Is You」を始め、当時のボウイよりも早かったと思われるアメリカ指向を見せる「Prairie Rose」等は、確かに以降のNEW WAVEへの模範であったのだと思います。実際本作ではエンジニアだったジョン・バンターがプロデューサーに器用されているのですが、これをきっかけにJAPAN作品を手掛ける事になり時代を築いています。ボウイ同様、加速度的に音楽的進化をしていく様が魅力的なのであり、あの歴史的大名盤である「AVALON」への途中経過である事を考えると、本作も実に興味深く聴こえると思います。	Side A 1. ザ・スリル・オブ・イット・オール / "The Thrill of It All" - 6:24 2. スリー・アンド・ナイン / "Three and Nine" (フェリー、アンディ・マッケイ) - 4:04 3. オール・アイ・ウونت・イズ・ユー / "All I Want Is You" - 2:53 4. アウト・オブ・ザ・ブルー / "Out of the Blue" (フェリー、フィル・マンザネラ) - 4:46 5. イフ・イット・テイクス・オール・ナイト / "If It Takes All Night" - 3:12	Side B 1. ビター・スウィート / "Bitter-Sweet" (フェリー、マッケイ) - 4:50 2. トリプティック (聖なる3枚の絵) / "Triptych" - 3:09 3. カサノヴァ / "Casanova" - 3:27 4. ア・リアルリー・グッド・タイム / "A Really Good Time" - 3:45 5. プレイリー・ローズ / "Prairie Rose" (フェリー、マンザネラ) - 5:12
	ROXY MUSIC	カントリー・ライフ		1974	オルタナティブ	CD			
	ROXY MUSIC	フレッシュ・アンド・ブラッド		1980	オルタナティブ	レコード	ブライアン・フェリー、アンディ・マッケイ、フィル・マンザネラの3人だけとなった1980年リリースの7枚目のオリジナル。全英1位獲得。このアルバムよりまさしくフェリーのソロアルバムと言っても過言ではない程、もう彼のカラーが120%発揮されている。一言で片付けられるなら、「大人のUKロマンティック・ロック」 哀愁漂うスローナンバー(⑤⑧⑩)から、R&B曲(①)はウィルソン・ピケットのカヴァー)、ポップでキャッチーなナンバー(②③⑥)と今までにない程バラエティかつメジャーな作品に仕上がっている。カルチャークラブ、デュラン・デュラン、スパンダー・バレーなどニューロマンティック風の80年代British Invasion達もこの作品からの影響大である。	Side A 1. イン・ザ・ミッドナイト・アワー 2. オー・イエー 3. セイム・オールド・シーン 4. フレッシュ・アンド・ブラッド 5. マイ・オンリー・ラヴ	Side B 1. オーヴァー・ユー 2. 霧の8マイル(エイト・マイルズ・ハイ) 3. レイン・レイン・レイン 4. ノー・ストレンジ・デライト 5. ランニング・ワイルド

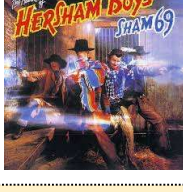
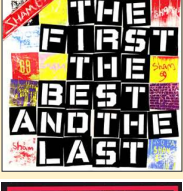
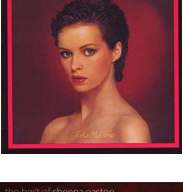
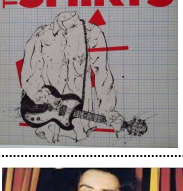
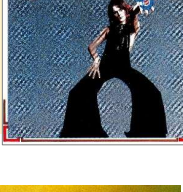
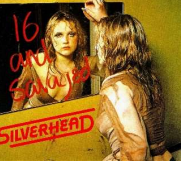
ROXY MUSIC	アバロン		1982	オルタナティブ	レコード	1982年の『Avalon』はグループ最後のスタジオ・アルバムとなってしまったが、ご存知のとおり、彼らは後年に再結成ツアーを行い、大成功を収めている。彼らのスムーズで大人向けのサウンドは、ロキシーがエッジだった原点からは程遠いが、優れたプロダクションの『More Than This(邦題: 夜に抱かれて)』や『Take A Chance On Me』、タイトル・トラックなどの曲は非常に人気が高かった。これらの楽曲が強烈なインパクトを与えたことで、イギリスでは首位を3週間キープ、オーストラリアとカナダでもチャートの一位に輝いた。全米チャートで『Avalon』は最高位53位という結果であったが、全米チャートに27週間ランクインという彼ら歴代のアルバムの中で最も長くチャートに残り続けた一枚となった。『Avalon』はリリースから4年半後の1986年12月にアメリカでロキシー・ミュージック初のゴールド・アルバムとなった。しかしその後もアルバムはセールスを伸ばし、リリースから10年半経ったあと、アメリカで100万枚の出荷を記録し、グループ唯一となるアメリカでのプラチナ・ディスクの認定を受けることになった。	特記なき楽曲は、全曲ブライアン・フェリー作。 Side A 1. 夜に抱かれて- "More Than This" 4:30 2. ゼ・スペース・ビトウーイーン 4:30 3. アヴァロン 4:16 4. インディア (インストゥルメンタル) 1:44 5. 我が胸のときめきを - "While My Heart Is Still Beating" 3:26	Side B 1. ザ・メイン・シング 3:54 2. テイク・ア・チャンス・ウィズ・ミー 4:42「トゥ・ターン」3. ユー・オン 4:16 4. トゥール・トゥ・ライフ 4:25 5. タラ (インストゥルメンタル) 1:43
ROY WOOD	マスタード		1975	ロック	CD	元ムーヴELOのメンバーでポップの魔術師と呼ばれたロイ・ウッドが1975年にリリースしたセカンド・ソロ作。演奏からプロデュースまですべての制作を自ら手掛けた宅録アルバムの金字塔となっている。 75年発表のソロとしては2作目のアルバム。ちょうどウィザードの活動としても油がのってきていた時期にあたり、絶好調といえる内容となっています。タイトル曲のマスタードは壊れかけたようなレコード・プレイヤーから聞こえてくる古臭いジャズっぽい曲となっており、このアルバムの趣向が現れた曲です。そして2曲目はおそらくロイの作品史上で最もロマンティックな名品。私自身も一番好きな楽曲かもしれません。ロイの作品はシングルはど派手にソロ名義のアルバムは内省的というのが、多いのですが、そういう意味においてもこの曲は最高の出来。もちろんアルバムとしても高水準です。全体的な雰囲気は1stソロに近いものの、よりドラマティックでアレンジ的にも熟れた作品に仕上がっています。RAIN CAME 〜 にはアニー・ハズラムが参加、美しいコーラスを聞かせています。表ジャケットのバグ・パイプを吹くロイがいかにカバカしくて「らしい」反面、裏ジャケットではロイの写真を指差して笑っている若者というデザインになっており、単なる自虐的とはいき切れない寂しさも伝わってくる気がします。	1. Mustard 2. Any Old Time Will Do 3. The Rain Came Down On Everything 4. You Sure Got It Now 5. Why Does Such A Pretty Girl Sing Those Sad Songs 6. The Song 7. Look Thru The Eyes Of A Fool 8. Interlude 9. Get On Down Home	BONUS TRACKS 10. Oh What A Shame 11. Bengal Jig 12. Strider 13. Indiana Rainbow (Mono) 14. The Thing Is This (This Is The Thing) 15. Rattlesnake Roll 16. Can't Help My Feelings
ROCKPILE	ロンドンの街角		1980	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. Teacher Teacher 2. If Sugar Was As Sweet As You 3. Heart 4. Now And Always 5. A Knife And A Fork 6. Play That Fast Thing (One More Time)	Side B 1. Wrong Again (Let's Face It) 2. Pet You And Hold You 3. Oh What A Thrill 4. When I Write A Book 5. Fool Too Long 6. You Ain't Nothin' But Fine
RUBINOOS	恋はいっしょに		1977	パワーポップ	レコード	カリフォルニアン・パワー・ポップの歴史はまさにこのアルバムから始まった。77年にビザークレー・レコードからリリースされたファースト・アルバム。トミー・ジェームス&ザ・シンドルズのカヴァーで、全米45位のスマッシュ・ヒットとなった「君と僕の世界」。また、2枚目のシングル「Leave My Heart Alone(ひとりぼっちの僕)」も出たが、これまたB面の「Nothing A Little Love Won't Cure(夢みる初恋)」の方が全米でマイナー・ヒットを記録。日本のみのシングルA面となった「恋はいっしょに」など収録。 グループは、1985年をもっていったん活動が休止したが、1999年頃から再活動。彼らが登場したのはまだザ・ナックが大ブレイクする前でしたので、ちょっと早過ぎたかもで、言うほど売れませんでした。後年「パワー・ポップ」というジャンル？が定着するようになってからはその本家のような立位置で根強い人気を保ち続けている。日本での来日公演も4回を数え(日本でのライブCDも2枚)、新作も出している。ちなみに4人のうち3人はデビュー当初から、そして1人も「最中」の1980年の参加ですからほぼオリジナルの顔ぶれで活動。	Side A 1. 恋はいっしょに 2. ひとりぼっちの僕 3. あの娘はブライガール 4. ビーク・ア・ブー 5. さよならロックンロール	Side B 1. 君と僕の世界 2. 愛の想い出 3. 夢見る初恋 4. 素敵なフィーリング 5. メイク・イット・イージー 6. 恋はハブニング
RUMOUR	フローズン・イヤー			ニューウェイブ	レコード			
RUNAWAYS	チェリー・ボム悩殺爆弾 / 禁断のロックンロール・クイーン		976年3月16日	パンク	レコード	ランナウェイズのデビューアルバム。アメリカ本国より日本の方が売れたバンド。若々しくエナジーで、かつキャッチーなメロディ満載で早すぎたデビューが惜まれるバンド。その後、ボーカルのシェリー・カリーがソロに転向し、残りのメンバーで活動するが意見の不一致で解散。80年代になってから彼女らはソロとして活躍し、ランナウェイズの活動で養ったモノが開花して自らバンドを結成して全米ナンバーワン・ヒットを放ったジョン・ジェットや、ソロでヒットを飛ばしたリタ・フォード(オジー・オズボーンとのコラボもあり)。パンクルスを結成して大ヒットを連発したマイケル・スティール(デビュー前のメンバー)など、ミュージックシーンを華々しく彩る活躍をした。人気曲である「チェリー・ボンブ」は、リードシンガーのチェリー・カーリーのオーディションのためにその場でジョン・ジェットとフォーリーが即席に書かれたものであり、曲名がカーリーの名の発音との言葉遊びである。「チェリー・ボンブ」は、VH1が選んだ「最も偉大なハードロック曲100」において52位にランク。	Side A 1. チェリー・ボンブ 2. あなたに夢中 3. 錯乱する頭脳 4. 恋の稲妻 5. ロック・アンド・ロール	Side B 1. ラヴァーズ 2. アメリカン・ナイツ 3. ブラックメイル 4. シークレッツ 5. 行きづまりの正義
RUNAWAYS	チェリー・ボムブ		1977	パンク	レコード	 	Side A 1. チェリー・ボンブ 2. あなたに夢中 3. 錯乱する頭脳 4. 恋の稲妻 5. ロック・アンド・ロール	Side B 1. ラヴァーズ 2. アメリカン・ナイツ 3. ブラックメイル 4. シークレッツ 5. 行きづまりの正義
RUNAWAYS	クイーン・オブ・ノイズ		1977	パンク	レコード	1977年発表。ザ・ランナウェイズのセカンド・アルバム。ハード・ロック、パンク、バラードと、バンドの魅力を凝縮した1枚。	Side A 1. クイーン・オブ・ノイズ(3:26) 2. はっきりさせて！(3:24) 3. ミッドナイト・ミュージック(2:50) 4. ボーン・トゥ・ビー・バッド(4:30) 5. 悪魔のネオン・エンジェル(3:25)	Side B 1. 危険な遊び(3:20) 2. カリフォルニア・バラダイス(2:52) 3. ハリウッド(2:57) 4. ときめく心は誰のせい？(2:51) 5. ジョニー・ギター(7:17)
RUSH	閃光のラッシュ		1974年	ハードロック	レコード	RUSHの記念すべきデビューアルバム。いまやプログレ・ハードの最高峰とも言われる彼らですが、このデビュー作は、ゲディのハイトーン・ボイスとアレックスのギター・リフを全面に打ち出したストレートなロック・アルバム。ニール・パート加入前ということもあって驚異的なリズム隊はないし、知的な歌詞やコンセプトもないので、プログレ・ファンには縁のない作品だと思いますが、なかなかカッコいいハードロックに仕上がっています。「単なるツェペリン・フォロワー」などといわれることも多い初期のRUSHですが、確かにLed Zeppelinの影響を大きく感じさせるものの、フルージーさをほとんど感じさせないところがかえってオリジナリティを出しています。ゲディのベースが凄くうねりまくり！「ホワット・ユー・アード・ウイング」「ワーキングマン」は、今聴いてもカッコいい曲。	Side A 1. ファインディング・マイ・ウェイ 5:03 2. ニード・サム・ラヴ2:16 3. テイク・ア・フレンド4:27 4. ヒア・アゲイン 7:30	Side B 1. ホワット・ユー・アード・ウイング 4:19 2. イン・ザ・ムード 3:36 3. ビフォー・アンド・アフター 5:33 4. ワーキング・マン 7:07
RUSH	パーマナント・ウェイヴス 永遠の波		1980	ハードロック	レコード	80年作。ラッシュの通産7作目。70年代のハード・ロック、プログレと両極のファンに支えられ、常に通好みのバンドとして傑作を生み出してきた彼等が、目の前の80年代に向けてポップ・シンブル、大衆性を求められる中、生まれたアルバムとも言えます。 宇宙、自然、科学をテーマにした哲学的なテーマ、組曲による大作主義はラッシュらしさを残したままですが、「The Spirit Of The Radio」という彼等の中期を代表する記念的シングルのヒットにも恵まれました。以降の彼等の作風に繋がる、とっつき易さの導入はかなり大きかったと思います。秀逸なジャケットも素晴らしい、中期の彼等の傑作の一つとなっています。	Side A 1. ザ・スピリット・オブ・レイディオ 4:57 2. 自由意志 - "Freewill" 5:24 3. ヤコブの梯子 (旧約聖書創世記より) - "Jacob's Ladder" 7:26	Side B 1. アントレ・ヌ (私たちの間に) 4:36 2. 異なる糸 - "Different Strings" 3:48 3. 自然科学 - "Natural Science" 1. 潮だまり - "I Tide Pools" - 2:19 2 超空間 - "II: Hyperspace" - 2:48 3 永遠の波 - "III: Permanent Waves" - 4:10
RUSH	ラッシュ・ライヴ〜神話大全		1981年	ハードロック	レコード	ラッシュ最大のヒット・アルバム「ムービング・ピクチャーズ」を発表した81年、最大規模の69ヶ所の全米ツアーを敢行。本作品は、このツアー中の白熱のステージを収録したライブ・アルバム「神話大全」の映像版として発表された、まさにラッシュの真骨頂が見られる一枚です。	Side 1 1. ザ・スピリット・オブ・レイディオ 2. 赤いパーチェツ 3. YYZ Side 2 1. パッセージ・トゥ・バンコック 2. クロサート・トゥ・ザ・ハート 3. ビニース・ビトウーイーン・アンド・ビハインド 4. ヤコブの梯子(旧約聖書創世記より)	Side 3 1. ブルーンズ・ペイン 2. ザ・トゥリーズ 3. ザ・ナドゥ Side 4 1. 自由意志 2. トム・ソーヤ 3. ラ・ヴィ・ラ・ストレンジ・アート
RUTLES	ラトルズ			ロック	CD	ジョージ・ハリスンとの交流が深かったモンティ・パイソンのエリック・アイドルが、ビートルズのパロディ・バンドとして1978年に結成したザ・ラトルズ。テレビ番組「All You Need Is Cash」のサントラなのだが、ビートルズのパロディだけでは納まらないクオリティの高い音楽は聴くものを感動させる。 ビートルズ風の楽曲を数曲もしくはアルバム単位で発表するというのは結構あるのだけど、このラトルズに関してはパロディ要素が強いものの楽曲もかなり徹底しており、そういった一連のグループの最もたるものだと思う。知名度も一番高いし、何と言っても楽曲が揃いも揃って魅力的だと思う。特に、恋におちたら風の7. とゲット・バック風の19. は最高の出来だと思う。7. のギター・ソロのフレーズのモタリ具合の切なさには本当に最高。ニール・イネスのソングライティングに脱帽。	1グース・ステップ・ママ 2ナンバー・ワン 3ペイビー・レット・ミー・ビー 4ホルド・マイ・ハンド 5ブルー・スウェード・シュベルト 6アイ・マスト・ビー・イン・ラヴ 7ウィズ・ア・ガール・ライク・ユー 8ビトウーイーン・アス 9リヴィング・イン・ホープ 10アウチ!	11イツ・ルッキング・グッド 12ダブルバック・アレイ 13グッド・タイムス・ロール 14ネヴァー・ザ・レス 15ラヴ・ライフ 16ビギン・イン・ザ・ミドル 17アナザー・デイ 18チーズ・アンド・オニオンズ 19ゲット・アップ・アンド・ゴー 20レッツ・ビー・ナチュラル
RUTLES	アーキオロジー		1996	ロック	CD	本作はビートルズの『アンソロジー』シリーズにあやかって18年ぶりに発表された第2作で、アイドルは不参加だが、音楽的リーダーのニール・イネスが相変わらずの才能を発揮、絶妙にビートル・ライクな楽曲を揃えている。前回はアルバムだけではなく映画も製作されるなど話題やプロジェクトのスケールでは今回の作品よりも大掛かりなものだったが、純粋に音楽性だけをふまえた場合、前作よりもスケールの大きな作品だ。前作は完全にビートルズのパロディ作品と言えるので、ビートルズの楽曲の質に比肩するメロディを作るより、一癖追加して笑いを取るような手法が取られているのが面白い部分であった。 しかしこのアルバムではビートルズ以外の同時代の音楽性もすべてひっくり返して「あの時代の架空の大作バンド」を演じているように思える。例えばビートルズ以外にキンクスの音も聞こえてくる。ニール・イネスのソング・ライティングも前作のビートルズの表層的な部分をこねた作品ではなくあの時代の音をニールなりに煮詰めて作ったような本格的な楽曲になっている。「Shangli-La」はこのアルバムのために作った曲ではなく元々ニールの代表曲である。オアシスをはじとする豪華ゲスト参加も単なる話題作りではなく、ビートルズの「All You Need Is Love」でのゲスト参加を思わせるもので、このアルバムの意味の一つを表すエピソードだ。そう言った点も含め、本作は深く聴き込むほどに「ビートルズのパロディ」だけではない、音楽性だけでなく前作を上回る魅力ある作品となった。	1メイジャー・ハッピーズ・アップ・アンド・カミング・ワンス・アポン・ア・グッド・タイム・バンド 2ランデヴ 3クエスチョネア 4ラトルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ! 5ロニー・フオバ 6アンフィニッシュ・ワーズ 7ハイ・ミスター! 8イージー・リスニング 9ナウ・シース・レフト・ユー 10ザ・ニッカー・エラスティック・キング	11アイ・ラヴ・ユー 12中産階級音楽 13ジョー・ハブリック 14シャングリラ 15ドント・ノウ・ホワイ 16バック・イン '64 17ラバイ (ボナース・トラック) 18ペイビー・シル・ヴ・プレ (ボナース・トラック) 19イツ・ルッキング・グッド (ボナース・トラック) 20マイ・リトル・ウクレレ

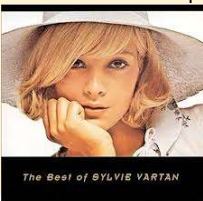
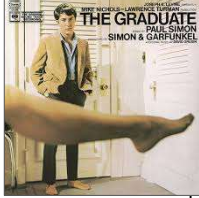
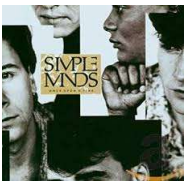
S	RUTS			1979	パンク	レコード	ラッツの「Babylon's Burning」でUKチャートのトップ10入りを果たし、アルバムも14位となる人気のファーストアルバム。		
	RY COODER	紫の峡谷		1972年	アメリカン ロック	レコード	1972年の年間ベスト・アルバムと絶賛されたスライド・ギターの名手、ライ・クーダーの代表作といえる歴史に残る秀逸セカンドアルバム。ライはファーストでのストリングスを多用するヴァン・ダイクの音作りが気に入らなかったようですが、南部出身のジム・ディッキンソン（ピアノでも参加してます）がプロデュースに加わることで、ライの希望した土臭い雰囲気仕上がついています。このアルバムの収録曲はすべてアメリカの古い歌のカバー。カントリー的な響きもあり、フォークと言ってもいいし、ブルースの感覚にも溢れていた。とにかくギターの響きが新鮮。	Side A 1. キャン・ユー・キープ・オン・ムーヴィング 2. ビリー・ザ・キッド 3. マニー・ハニー 4. トリニダードのF.D.R 5. ティアドロップス・ウィル・フォール 6. デノミ・ブルース	Side B 1. オン・ア・マンデー 2. ヘイ・ボーター 3. Great Dream From Heaven/天国からの夢 4. タックス・オン・ザ・ファーマー 5. Vigilante Man / 自警団員
	SAGA	パラレルワールド		1982年	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	SAGAが一番POPフィールドで評価された作品であり、SAGAの代表作と言われている4枚目のアルバム。当初はプログレッシヴな風味とメロディアスな曲調が持ち味だったSAGAですが、このアルバムではダンサブルな展開やNEW WAVE風味も調理しています。その巧みなブレンド感覚を更に発展させた、ルバート・ハインをプロデューサーに迎えイギリスで録音されたアルバム。それまでのローカルな人気が一気にワールド・ワイドに拡大された記念碑的作品。初期3部作と言われる1枚目から3枚目までの路線から幾分修正が加えられていて、そのことがアメリカでもトップ20入りして一躍トップ・グループの仲間入りしています。シングルヒットも生まれ“On The Loose”、“Wind Him Up”は現在でもライブの定番の曲。それまでのプログレっぽさは薄れ、ポップなメロディアスな曲がアメリカでの人気につながって行った。(カナダ出身のプリズムというグループのセカンド・アルバムとジャケが似ていると指摘もありますが・オリジナルはオジサンジャケだった)	Side A 1. On The Loose 4:12 2. Wind Him Up 5:48 3. Amnesia 3:29 4. Framed 5:42 5. Time's Up 4:08	Side B 1. The Interview 3:51 2. No Regrets (Chapter V) 4:44 3. Conversations 4:44 4. No Stranger (Chapter VIII) 7:05
	SAGA	不思議の旅路		1983年	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	83年作、サーガの通算5作目となったアルバム。前作に引き続き、プロデューサーはルバート・ハインが担当。ルバートハインは、ハワード・ジョーンズやトンブソン・ツインズ等のエレ・ポップ系のサウンドを得意とした人で同郷のラッシュもこの人のプロデュースで成功している。キャッチーなメロディながら、くっつけて情緒過多にならないクールな佇まいは相変わらずなのですが、多少派手目になったアレンジ。当時は最先端であったであろう80年代のアブローチにより、NEW WAVE寄りになったのが目立ちます。メタリックなギターは控え目ながらもしっかりと残されているため、一連の80'sポップとは明らかに違う質感は保っている。キラキラしたアレンジをベースに、湿り気のある哀愁感が疾走していく本作の魅力は、陽性のエレ・ポップでは得られない美学があり、快楽追求型のポップ・ミュージックがシーンを席捲していたアメリカでは今一つ突き抜け感が足りなかった。	Side A 1. The Flyer 2. Catwalk 3. The Sound of Strangers 4. The Writing 5. Intermission	Side B 1. Social Orphan 2. The Vendetta (Still Helpless) 3. Scratching the Surface 4. The Pitchman
	SAINTS	エターナル・ユアーズ		1977	パンク	CD	オーストラリア出身のパンク・バンド、ザ・セインツ(The Saints)のセカンドアルバム『ETERNALLY YOURS』はホーンを入れたりフォークロック調の曲もあったりして、音楽性を広げた名盤。 ザ・セインツのクリス・ペイリーは1973年に2人の友人、ギタリストのエド・キューパーとドラマーのアイバー・ヘイトザ・セインツを結成した。その後、バンドにはカイル・ブラッドショーが加わり、ベースにはアラスデア・アルギー・ワードが続いた。クリス・ペイリーのヴォーカルはパンクのトレードマークである卑屈さと若き日のヴァン・モリソンのような熱気を併せ持っていた。デビュー・アルバムは、キューパーのラモーンズ風のリフに支えられたパンクサウンドに、メロディアスな歌に乗る彼らの曲は今でも通用する。セインツは1976年9月、自国でシングル『I'm Stranded』を発表。当時パンク色になっていたロンドンの音楽メディアが同シングルを紹介すると一気に注目を集めた。これを受けたセインツは77年5月、満を持してロンドンに上陸。しかし、セインツのヴィジュアルはあまりにも残念でロンドンでは受けなかったという。当時最新のスタイリッシュなファッションに身を包んでいたロンドン・パンクスにとって、フロントマンのクリス・ペイリーが小太りでまたファッションがマイナスとなつたらしい。	1. Know Your Product 2. Lost and Found 3. Memories Are Made of This 4. Private Affair 5. Minor Aversion 6. No, Your Product 7. This Perfect Day	8. Run Down 9. Orstralia 10. New Centre of the Universe 11. Untitled 12. (I'm) Misunderstood 13. International Robots 以下、CDボーナストラック 14. Do the Robot
	SAMMY HAGAR	ヴォイス・オブ・アメリカ		1984年	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	ソロ・9th、Geffen移籍後の3作目。この時期はまだヴァン・ヘイレンに加入前で、テッド・テンブルマンのプロデュースなんてのを見ると、何かしらの運命をあらためて感じる。音の方面は貫禄十分のハードロックでアメリカンロックの王道的な曲が並びます。特にA面1曲目とB面2曲目がこのアルバムを語る上での全てでロック界屈指の名曲と言っても良いです。1984年にふさわしいロックアンセムが、“I can't Drive 55”と“VOA”です。	Side A 1. 非情のハイウェイ55号 2. スウェプト・アウェイ 3. ロック・イズ・イン・マイ・ブラッド 4. トゥー・サイズ・オブ・ラブ	Side B 1. ディック・イン・ザ・ダート 2. VOA(ヴォイス・オブ・アメリカ) 3. ドント・メイク・ミー・ウェイト 4. バーニン・ダウン・ザ・シティ
	SAMSON	魔人襲来		1980	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	サムソンの80年リリースのセカンド。後にアイアン・メイデンに引き抜かれるブルース・ディッキンソン(ブルース・ブルース)のサムソン加入実質1作目のアルバム。覆面ドラマーのサンダー・スティックがアルバム・カヴァーを飾った。前作では途中加入だったブルース・ディッキンソンを大きくフィーチャー。B1の「Thunderburst」はスティーヴ・ハリスの曲、メイデンのセカンド「Killers」のオープニングナンバーとしても使われていて曲名は「The Ides of March」に変更されている(この曲は当時からメイデンのライブのイントロとして使用されていた)。スティーヴ・ハリスが楽曲を提供するなど、アイアン・メイデンとの関わりが大きく見え隠れる一枚。	1.Hard Times 2.Take It Like A Man 3.Vice Versa 4.Manwatcher 5.Too Close To Rock	6.Thunderburst 7.Hammerhead 8.Hunted 9.Take Me To Your Leader 10.Walking Out On You
	SAMSON	魔界戦士(ショック・タクトイクス)		1981	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	ブルース・ディッキンソン、そしてボン・ジョヴィ、マーズ・ジーンズ、サンダー・メイズツツがサムソンで最後に残したアルバム。 81年というN.W.O.B.H.M.シーンがいよいよ盛り上がる激動期、サムソンのサード・アルバムプロデューサーの手腕も大きかったと思いますが、音の処理がよりタイト、クリアになった事で前作とは別バンドの様なサウンドにまず驚かされます。ロバート・マット・ランジのエンジニアを経て、以降AC/DC、KROKUS、CHEAP TRICK、Y&T、DIO等々多くのHR/HMアルバムに関わってきたトニー・ブガットのプロデュースにより当時としてはかなり洗練されたハード・ロック・サウンドとなっています。オープニングの「RIDING WITH THE ANGELS 地獄の天使」は、当時レインボーが取り上げた事で注目されていたラス・バラードのカヴァー。これが実に同時代のメイデンにも通じるスピード感とキャッチーさに溢れたナンバーに仕上がっていて、とにかくブルースのヴォーカルが熱いものになっています。オーソドックスなハード・ロック・ナンバーでもヴォーカルがグイグイ引っ張るスタイルがすでに確立されていて、おそらく本作を聴いてスティーヴ・ハリスはブルースを欲しがったんじゃないでしょうか。ブルースの高揚感溢れる唱法が確立されている「EARTH MOTHER」、ブルー・ジーンズミドル・ナンバーの「BLOOD LUST 血の欲望」、メイデンのアウトロクの様な「GRIME CRIME」、そしてハイライトとなる哀愁バラード「COMMUNION 霊界交流」等、とにかくブルースが大活躍する内容に血が騒ぐファンも少なくないと思われます。ポール・サムソンという人は、元々BLUESをベースにしたギタリストと思われ、N.W.O.B.H.M.界でもかなり古典的なハード・ロッカーだっただけにブルースの超絶ヴォーカルを活かしきれなかったという点もあるのですが、本作ではなかなか驚異的な名曲が見られるのが結構的だと思います。	Live Side 1. ウィ・ガッタ・ア・ファイト 2. リップ・オフ 3. アルスター 4. ジョージ・デヴィス・イズ・イノセント 5. ゼイド・ト・アンタースタンド 6. ポースタル・ブレイクアウト	Studio Side ファミリー・ライフ 1. ヘイ・リトル・リッチ・ボーイ 2. アイム・ア・マン、アイム・ア・ボーイ 3. ホワット・アバウト・ザ・ロンリー? 4. テル・アス・ザ・トゥルース 5. イッツ・ネヴァー・トゥ・レイト 6. フーズ・ジェネレーション!
	SANTANA	サンタナ		1969年9月	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	1966年、ギタリストのカロス・サンタナを中心に結成された6人組による衝撃のデビュー・アルバム。デビュー作から早くもカロスのギターは完成されていて、リズム隊のコンビネーションは言うまでもなく、パーフェクトの一言。ローカルな存在だったが本作発表と同時期にウッドストック・フェスティバルに出演したこともあって一気にブレイクし、全米チャートの4位を記録する大ヒットとなった。シングル・カットされた「イヴィル・ウェイズ」も全米9位を記録。現在も活動を続ける偉大なるロック・バンドの第1歩が記された重要作にして必聴盤。	Side A 1. ウェイティング 2. イヴィル・ウェイズ 3. シェイズ・オブ・タイム 4. セイヴァー 5. ジンゴ	Side B 1. セ・ア・カボ / すべては終わる 2. トリート 3. ユー・ジャスト・ドント・ケア 4. ソウル・サクリファイス
	SANTANA	天の守護神		1970	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	カルロス・サンタナ率いるサンタナの1970年発表の2ndアルバム。サンタナ初の全米アルバム・チャート1位に輝いた、躍動するラテンのリズムとサンタナの泣きのギターが見事な調和をみせた金字塔的作品。本作はサンタナの全キャリアを通して最高傑作と評される大ベスト・セラー・アルバムで、これまで全世界で1,000万枚以上のセールスをあげている。シングル・カットされたフリー・ウッド・マックのカヴァー「ブラック・マジック・ウーマン」は、全米シングル・チャートで4位のヒットを飛ばすとともに日本でのサンタナ人気に火をつけた楽曲として知られ、“サンタナ=ラテン・ロック”を最も象徴する1曲となった。その他にも、ニューヨーク・ラテンの重鎮ティ・ブエンテ作の「僕のリズムを聞いとくれ」(原題:Oye Como Va)や、美しいギター・インストゥルメンタル・バラード「君に捧げるサンバ」(原題:Samba Pa Ti)といった初期代表作が収録されている。	Side A 1. Singing Winds, Crying Beasts / 風は歌い、野獣は叫ぶ 2. Black Magic Woman / Gypsy Queen / ブラック・マジック・ウーマン/ジプシー・クイーン 3. Oye Como Va / 僕のリズムを聞いとくれ 4. Incident at Neshabur / ネシャプールの出来事	Side B 1. Se A Cabo / すべては終わる 2. Mother's Daughter / マザーズ・ドーター 3. Samba Pa Ti / 君に捧げるサンバ 4. Hope You're Feeling Better / ホープ・ユア・フィアリング・ベター 5. El Nicoya / エル・ニコヤ
	SANTANA	サンタナⅢ		1971年9月	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	デビューアルバム「サンタナ」が200万枚のベストセラー、2作目「天の守護神」はそれをはるかに超えて、350万枚を記録し、世界中のファンがこのサードアルバムを待ち望んだか、それから1年ぶりに発表されたアルバムがこのサードアルバム。 プロデューサーにティンパレス奏者の第一人者、コーク・エスコヴェートに迎えた効果もあってか、切れ味のスッキリした音造りが小気味良いアルバムです。 リズムセクションが、ひときわ光る。この時期のサンタナは激動のときだった。当時まだ17歳だったニール・ショーンが加入し、バンドはツイン・リード・ギターの編成となる。更に、スライ&ザ・ファミリー・ストーンのグレッグ・エリコ等、多彩なゲスト・プレイヤーを招き、厚みのあるバンド・サウンドを指向。サンタナにとって2作目の全米1位獲得作品となり、第1弾シングル「新しい世界」は全米12位に達した。	Side A 1. パトゥーカ 2. 孤独のリズム 3. タバ(禁断の恋) 4. 祭典	Side B 1. 新しい世界 2. グアヒーラ 3. ジャングル・ストラット 4. 愛がすべてを 5. 情熱のランバ
	SANTANA	キャラバンサライ		1972	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	72年作の4作目。それまでラテン・ロックと称され、よりエモーショナルなブルース・バンドとして認められていたサンタナが、一気にジャズ・ロック、プログレ的展開を果たした傑作で。カルロス・サンタナのスピリチュアルな世界への開眼により、深淵なまでの美の追求がなされ、濃厚なインスト・ナンバーを中心としたコンセプト・アルバムとなっています。歌詞を見る限り、サンタナが精通している東洋哲学が骨格になっていると思いますが、むしろジャケットの美しさや音の美旋律から醸し出されるヴィジュアル要素を自由に解釈する楽しさを持っている作品だと思われます。この宗教的、精神的世界への傾倒によるバンド・メンバー間の不和、更には金銭問題等の現実世界でのトラブルの中で、バンドの状態は決して良いものではなかったものの、アルバムはキャリア中最高位と言ってもいい美しさを誇っている。結果的にはニール・ショーンとグレッグ・ローリーが本作を最期に脱退、ご存知の様に彼等はより自由なロックを作るためジャーニーを結成。そのジャーニーの初期のプログレ・ハード・サウンドは、少なからず本作の影響を受けていたと思います。「風は歌う」での心地良いギターのメロディ、「宇宙への歓喜」でのハード・ロック的ダイナミズム、「FUTURE PRIMITIVE」でのアンビエント・サウンド等、一般的に言うジャズ・ロックとは一味も二味も違った魅力も持っているアルバムではないでしょうか。	Side A 1. 復活した永遠なるキャラバン 2. 躍動 3. 宇宙への仰視 4. 栄光の夜明け 5. 風は歌う 6. 宇宙への歓喜	Side B 1. フューチャー・プリミティブ(融合) 2. ストーン・フラワー 3. リズムの架け橋 4. 果てしなき道
	SANTANA	不死蝶		1974年10月	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	ジャズ・フュージョン色が色濃く出た通算6作目。そのプリミティブなサウンドはファンからの支持も厚い。特殊紙のアルグラスを使用した光るジャケットも話題となった本作は全米チャート20位を記録。デビュー以来、活動をともにしてきたドラマーのマイケル・ジュリウにとって最後のアルバムとなった。サンタナのアルバムの中では割と影が薄い感じで、実際にサンタナの経歴上、一番売れなかった盤です。しかし、アルバムをトータルとして聴いてみると一曲一曲の作り込みは確かで、全体として完成度はかなり高く、初めての特・タルアルバムとしての完成度が高いアルバム。1曲目で幕が上がるワクワク感から2曲目へいつの間にか導入されてそして11曲目の「漁夫の契り」で盛り上がり、超盛り上がるのにメインのメロディーは牧歌的なのがミソ、そして最後の「不死蝶」で静かに締めくくられるその「開放感」はトータルで凄さが分かるかなと思います。	Side A 1. 春の訪れ - “Spring Manifestations” 1:04 2. 花の歌 - “Canto de los Flores” 3:46 3. 新たな旅立ち - “Life Is Anew” 4:15 4. 果てしなき世界 - “Give and Take” 5:44 5. 太陽のもとへ - “One with the Sun” 4:22 6. 熱望 - “Aspirations” 5:09	Side B 1. 君の教え - “Practice What You Preach” 4:31 2. はかない夢 - “Mirage” 4:42 3. ヒア・アンド・ナウ - “Here and Now” 3:01 4. シナモンの花 - “Flor de Canela” 2:20 5. 漁民の契 - “Promise of a Fisherman” 8:06 6. 不死蝶 - “Borboletta” 2:50

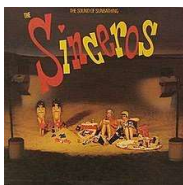
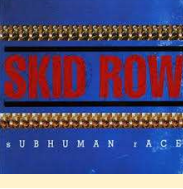
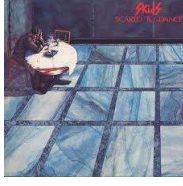
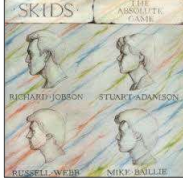
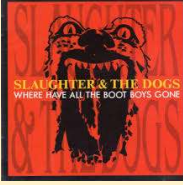
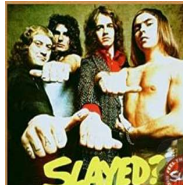
SAXON	戦慄のバック・ファイア		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	79年作。サクソンの記念すべきデビュー・アルバム。NWOBHMの夜明けを感じさせる名盤として、アイアン・メイデンの1stと共に語り継がれるべきアルバムです。バイカーズ御用達バンドのイメージはここではまだなく、むしろドラマチックな様式美さを感じさせるメロディ作りが印象的です。さらに70年代ハード・ロック勢とは明らかに違うスピード感、洗練されたキャッチーなリフがすでに個性となっています。大仰なジャケットが気になりますが、このバンドの場合、多くのメタル・バンドがテーマに掲げるホラー性や毒々しさは感じられず、ストリート感覚を大事にしていたのも重要だったと思います。邦題のセンスにちょっと驚かされますが、メタルの夜明けを感じさせる力強い1枚です。	Side A 1. レインボウ・テーマ 2. フロウズン・レインボウ 3. ビッグ・ティーザー 4. ジャッジメント・ディ Side B 1. スタリオンズ・オブ・ザ・ハイウェイ 2. バックス・トゥ・ザ・ウォール 3. スティル・フィット・トゥ・ブギー 4. ミリティア・ガード	
SAXON	戦慄のバック・ファイア		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	CD			
SAXON	暴走ドライヴイン (ホイールズ・オブ・スティール)		1980年5月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	80年作。サクソンのセカンド・アルバム。アイアン・メイデンが装甲車だとしたら、彼等は確かにバイカーを先導する重量級モーターサイクルのイメージがありました。「Motorcycle Man」、「Machine Gun」、「Stand Up Be Counted」といったライブの定番曲もなったシングルなリフと、キャッチーな歌メロは、以降のサクソンの王道節ともなっていますが、その他にもZZ TOPやAC/DCを速くした様なハード・プギ感覚が心地良いものとなっています。彼等のもう一つの魅力と言えるメロディアスな側面は、「747 (Strangers In The Night)」でドラマティックな哀愁感を爆発させています。また彼等のキャリアでも珍しい程の可愛げのあるハード・ポップ・ナンバーとも言える「Suzie Hold On」では、早くから80年代メタルに影響を残していると思われる。今聴いても拳を振り上げてしまいたくなる1枚で、80年代好きにとっては心拍数の上がる1枚だと思います。英5位	Side A 1. MOTORCYCLE MAN / モーターサイクル・マン 2. STAND UP AND BE COUNTED / スタンド・アップ・アンド・ビー・カウンテッド 3. 747 (STRANGER IN THE NIGHT) / 747 (ストレンジャー・イン・ザ・ナイト) 4. WHEELS OF STEEL / ホイールズ・オブ・スティール	Side B 1. FREEWAY MAD / フリーウェイ・マッドマン 2. SEE THE LIGHT SHINING / シー・ザ・ライト・シャイニング 3. STREET FIGHTING GANG / ストリート・ファイティング・ギャング 4. SUZIE HOLD ON / スージー・ホールド・オン 5. MACHINE GUN / マシン・ガン
SAXON	ストロング・アーム・オブ・ザ・ロウ		1980年11月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	サクソンの絶頂を代表する1枚のサードアルバム。当時の勢いがそのままリフに反映されたかの様な疾走感、切れ味の鋭さが詰まった本作は、まさに80年という激動期の中であつたからこそ生まれた奇跡的なメタル・アルバムと言える。ファーストでは正統派とも言える英国様式美ハード・ロックからの影響も見えていたのですが、アルバムを重ねる毎にスピード、リフの切れ味が増し、王道サクソン節と言えるものがここで確立された。彼等の最高傑作として挙げられる事の多い4曲目、「デニム・アンド・レザー」は確かアンセム型ソングとしてのキャッチーさが優れていますが、サクソンがスピーディーなリフにドラマティックな歌メロを乗せる形を作ったのは、本作での「20000 FEET」や「DALLAS 1 PM」だ。	Side A 1. ヘヴィ・メタル・サンダー - 4:21 2. 地獄への逆襲り (トゥ・ヘル・アンド・バック・アゲイン) - 4:48 3. 鋼鉄の掟 (ストロング・アーム・オブ・ザ・ロウ) - 4:43 4. チャンスに掛けて (テイキング・ユア・チャンス) - 4:21	Side B 1. 20,000フィート - 3:25 2. ハングリー・イヤーズ - 5:08 3. 6番目の女 (シックス・フォーム・ガールズ) - 4:19 4. ダラス午後1時 (ダラス1PM) - 6:27
SAXON	デニム・アンド・レザー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	81年作。サクソンの4曲目にして彼等の最高傑作ともされるアルバム。NWOBHMの疾走感と哀愁感溢れるメロディを堪能するなら絶好の1枚です。彼等の象徴とも言えるアルバム・タイトルと、バイカーに熱愛された歌詞が汗臭さと同時に、今聴くときかなりポップにも聴こえるリフがこれでもかと続いていきます。オープニング・ナンバーである「Princess Of The Night」ですでにクライマックスを迎え、中盤では「And The Bands Played On」では一気に男泣きをさせてくれます。ラストでは彼等の一大アンセムとなったアルバム・タイトル曲でカタルシスへと誘ってくれます。同期とも言えるメイデンやデフ・レパードとは全く違った、男の魅力をブンブンさせている1枚です。	Side A 1. プリンセス・オブ・ザ・ナイト 2. ネヴァー・サレンダー 3. アウト・オブ・コントロール 4. ラフ・アンド・レディ 5. プレイ・イット・ラウド	Side B 1. アンド・ザ・バンズ・ブレイド・オン 2. ミッドナイト・ライダー 3. ネヴァー・サンダー 4. デニム・アンド・レザー
SAXON	暴走ライブ (鷹は舞い降りた) イーグル・ハズ・ランデッド		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年リリース作、サクソンにとって初のライブ・アルバムとなった1枚で、NWOBHMシーンを代表するヒット作の一つです。彼等の最高傑作とも言える81年作の「デニム・アンド・レザー」リリース後に伴うツアーからの収録で、バンドはまさに絶頂期、生粋のライブ・バンドとしての勢いがそのままパッケージされています。バイカーを中心とした汗臭い男性ファンが多いバンドとして知られてきましたが、個人的には疾走する哀愁メロディ作りが上手い人達だったと思います。それだけにライブ映えるアンセムのナンバーが多く、ベストと言える選曲も見事です。シングルかつ愛想の無いジャケットですが、中身は濃厚な80年代メタルの空気感を漂わせるものとなっています。	Side A 1. モーターサイクル・マン 2. 747 (ストレンジャーズ・イン・ザ・ナイト) 3. プリンセス・オブ・ザ・ナイト 4. ストロング・アーム・オブ・ザ・ロウ 5. ヘヴィ・メタル・サンダー	Side B 1. 20,000フィート 2. ホイールズ・オブ・スティール 3. ネヴァー・サンダー 4. ファイアー・イン・ザ・スカイ 5. マシン・ガン
SCORPIONS	ロンサム・クロウ		1972年	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	幻のファースト・アルバム。マイケル・シェンカー在籍時唯一のオリジナル・ディスク。1965年にドイツのハノーヴァーで結成し1972年にリリースした記念すべきデビュー・アルバム。ルドルフ・シェンカーの実弟、マイケル・シェンカーも在籍していた。しかしこのアルバム以降のスコビーオンズ・サウンドとは全くかけ離れたスタイルを構築しており、このアルバムから次作への流れは全く読めないがロック・アルバムとしては実験的な要素が多いアルバムである。	Side A 1. アクション 2. オール・ディペンド 3. ロンサム・クロウ	Side B 1. コーピング・マッド 2. リーヴ・ミー 3. ピース。オブ・マインド 4. インヘリタンス
SCORPIONS	電撃の蠍団		1972	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	オリジナルは74年作、セカンド・アルバム。前作から2年ぶりとなったのは、マイケル・シェンカーの脱退によりバンドが解散状態になっていたため。ドイツ公演中のUFOが、ほとんど無理やりマイケルをイギリスへ連れていったため、残されたルドルフ・シェンカーとクラウド・マイネは、ウルリッヒ・ロート率いるドーン・ロードへ参加する形で合体。スコビーオンズの名が引き継がれる事で、全く新しいバンドとして生まれ変わり、以降の彼等の70年代を象徴する哀愁演歌型メタルが確立される。ルドルフとクラウドの共作によるナンバーはメタリックなエッジをすでに見せていて、前作の不思議な音楽性は全く無くなっています。マイケルの名前も3曲(「Fly People Fly」、「Far Away」、「Fly To The Rainbow」)にクレジットされていて、美しくも妖しいメロディ・メイカーのセンスを残しています。特にラストのアルバム・タイトル曲は10分弱に及ぶ壮大なバラードで、マイケルのイントロダクションに、ウルリッヒ・ロートがメロディを付けたと思われる異色曲となっている。独特の湿った欧州型ハード・ロックと、メロディアスなスロー・ナンバーの構成が見事で、特に日本人にとってはこの哀愁節が琴線に触れたのでした。この当時のスコビーオンズにあった何とも言えないまったり感こそが、ロックの最も危険で妖しい中毒性にもなっていた気がします。	Side A 1. スピーディーズ・カミング (3:36) R.Schenker / K.Meine 2. ゼイ・ニード・ア・ミリアン (4:50) R.Schenker / K.Meine 3. ドリフティング・サン (7:42) U.Roth 4. フライ・ピープル・フライ (5:03) M.Schenker / K.Meine	Side B 1. ディス・イズ・マイ・ソング (4:18) R.Schenker / K.Meine 2. フアー・アウェイ (5:38) M.Schenker / R.Schenker / K.Meine 3. フライ・トゥ・ザ・レインボー (9:40) M.Schenker / U.Roth
SCORPIONS	復讐の蠍団		1975	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	オリジナルは75年作、スコビーオンズのサード・アルバムにして、彼等の70年代の個性がはっきりと確立された重要作です。以降もずっと使用されるバンド・ロゴ、名コンビとなったプロデューサー、ディーター・ダークスとのタッグ、そして常に物議を醸すジャケット・デザインもここから始まっています。扇情的なジャケット・ワークに負けない刺激的なメロディは、静と動のコントラストの美しさを強調しながら、欧洲的な湿り気の中、官能的に爆発していく様は、特に日本でも愛されていました。ウルリッヒ・ロートの激情型ギターと、クラウド・マイネのカナキリ声が、壮絶なハード・ロックを展開しているのですが、やはり彼等特有の哀愁感、泣きのメロディが目立つ1枚です。	Side A 1. ダーク・レディ (3:30) U.Roth 2. イントランス (4:47) R.Schenker / K.Meine 3. 人生は川の如し - Life's Like A River (3:54) U.Roth / R.Schenker / C.Fortmann 4. トップ・オブ・ザ・ビル (3:26) R.Schenker / K.Meine 5. 生と死 - Living And Dying (3:24) R.Schenker / K.Meine	Side B 1. ロボット・マン (2:47) R.Schenker / K.Meine 2. 夕暮れ時の風 - Evening Wind (5:06) U.Roth 3. 人生は川の如し - Life's Like A River (4:25) U.Roth 4. 炎を求めて - Longing For Fire (2:44) R.Schenker / U.Roth 5. ナイト・ライツ (Instrumental) (3:14) U.Roth
SCORPIONS	狂熱の蠍団		1976	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	4枚目のスタジオアルバム。1976年リリース。オリジナル・アートワークに使用された少女のヌード写真が問題視され、米国では発売当初から現行盤のアートワークへ差し替えとなっている。そのサウンドは発表以来30年余の時を経てもなおハード・ロック・ファンの心を鷲掴みし続け、名盤の誉れ高い作品として知られている。ウルリッヒ・ロートのジミ・ヘンドリックス志向が最高潮を迎えた時期とも言われており、その泣きのギター・プレイが日本人の琴線に触れる名作。オリジナルは76年作、スコビーオンズの通算4作目となったアルバムで、彼等の初期を代表する1枚です。ただジャケット同様、音の方もかなり衝撃的でした。それまでの湿ったハード・ロック・スタイルに更に哀愁メロディが加わり、むせび泣くウルリッヒ・ロートのギターと、ルドルフ・シェンカーのザクザクと斬りこんでくるリフは、ここ日本で特に愛される事となりました。ラスト曲となる「イエロー・レイヴン」のせつない響きは、彼等が演歌にも通じる泣きの世界をハード・ロックに持ち込んだ集大成でもあると思います。70年代スコビーオンズの美しさと哀愁の源を知る。	Side A 1. 幻の肖像 - Pictured Life (3:21) K.Meine / U.Roth / R.Schenker 2. キャッチ・ユア・トレイン (3:32) K.Meine / R.Schenker 3. イン・ユア・パーク (3:39) K.Meine / R.Schenker 4. バックス・ステージ・クイン (3:10) K.Meine / R.Schenker 5. ヴァージン・キラー (3:41) U.Roth	Side B 1. ヘル・キャット (2:54) U.Roth 2. クライミング・デイズ (4:36) K.Meine / R.Schenker 3. 暗黒の極限 - Polar Nights (5:04) U.Roth 4. イエロー・レイヴン (4:58) U.Roth
SCORPIONS	暴虐の蠍団		1977	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	5枚目のスタジオアルバム。1977年にリリース。オリジナルのジャケットは、Michael von Gimbutが撮影した墓地で鏡を向け合っている写真だったが、テロを連想させるとして欧米ではメンバーの写真へ差し替えられている。日本ではオリジナル・ジャケットで発売。ウルリッヒ・ロートが参加した最後のオリジナル・アルバム。ロートのプレイには鬼気迫るものがあり「空を燃やせ」「カロンの渡し守」「暴虐のハード・ロッカー」など聴きどころが満載。その充実振りによって前作『狂熱の蠍団』と並び称されるまでの傑作となった。	Side A 1. スティーム・ロック・フィーヴァー-Schenker / Meine 3:37 2. 空を燃やせ Schenker / M. Dannemann6:26 3. 自由への叫び Roth 4:00 4. 炎のロック・スター-Schenker / Meine 4:09	Side B 1. カロンの渡し守 Roth 5:16 2. ユア・ライト Roth 4:31 3. 暴虐のハード・ロッカー Schenker / Meine / Rarebell 3:15 4. 愛のために生きて Schenker / Meine 7:40
SC+B429:1431ORPIONS	ラグドライブ		1979	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	6枚目のスタジオアルバム。1979年にリリース。脱退したウリ・ジョン・ロートの後任として、本作からマティアス・ヤプスが加入[1]。当時、UFOを脱退していたルドルフの実弟マイケル・シェンカーも「Another Peace Of Meat」など3曲にゲスト参加しており、本作のツアーにもゲストとして出演した。アルバムジャケットは、デザイナー集団「ヒプノシス」が担当している。なお、彼らの作品で初めて全英・全米のチャートにランクインしたのはこの作品が初である。	Side A 1. 日曜の愛劇 - Loving You Sunday Morning (5:36) 2. アナザー・ピース・オブ・ミート - Another Piece Of Meat (3:30) 3. 果てしなきロード - Always Somewhere (4:56) 4. コースト・トゥ・コースト - Coast To Coast (4:42)	Side B 1. キャント・ゲット・イナフ - Can't Get Enough? (2:36) 2. 瞑想のレゲエ - Is There Anybody There? (3:58) 3. ラグドライブ - Lovedrive (4:49) 4. 免罪の日 - Holiday (6:32)
SCORPIONS	電獣〜アニマル・マグネティズム		1980	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	オリジナルは80年作、スコビーオンズの通産7作目。ジャケットは、男性を見上げる女性が物議が起く問題となる。前作ではマイケル・シェンカーが一歩参加した事が話題となりましたが、マティアス・ヤプスの個性が発揮される事となったのは本作からで、ルドルフとの絶妙なコンビネーションが生まれた第1弾と言えるアルバム。彼等の新たな個性となるシャープかつキャッチーなリフの折り重ねの開発に力を入れた事のおかげで、歌メロが地味目になってしまった魅力がある。ただ注目すべきナンバーも多く、ミドル・メロディアス・ハードと言えるオープニングの「Make It Real」、続くメタリックなリフが炸裂する「Don't Make No Promises」、ハード・ポップ調の「Falling In Love」では、次作の「蠍魔宮〜ブラックアウト」への布石とも思える曲作りがすでに目立ちます。また「Lady Stalight」のロマンチックなムード、ストリングスの大幅導入は、昨今のアダルトなスコビーオンズを予感させるものがある。	Side A 1. メイク・イット・リアル - Make It Real 2. 密約の証 - Don't Make No Promises 3. ホールド・ミー・タイト - Hold Me Tight 4. 20世紀ジャングル - Twentieth Century Man 5. レディ・スターライト - Lady Starlight	Side B 1. フォーリング・イン・ラヴ - Falling In Love 2. 蠍の紋章 - Only A Man 3. ZOO (背徳の街角) - The Zoo 4. アニマル・マグネティズム - Animal Magnetism
SCORPIONS	蠍魔宮〜ブラックアウト		1982	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	オリジナルは82年作、スコビーオンズの通産8作目にして、彼等が全米制覇をとうとう果たした大躍進作です。80年代メタルの快進撃の波もあり、時代もバンドに味方した事もあったのでしょうが、なにより曲の良さが光っています。以降のメロディアス・ハードの原型とも言うべき路線と、スピーディーかつソリッドなリフは、それまでの湿った欧州の哀愁メタルとは違った魅力を生み出したのでした。改めて聴き直すと、バラエティに富んだ構成が見事で、パワー・バラード、光速メタル、パワー・ポップ風、そしてサバシ風のヘヴィ・ナンバー等々、文句のつけどころの無い完璧な1枚です。「ノー・ワン・ライク・ユー」のセクシーなミドル・ポップ調、「ダイナマイト」のメタル史上に残るカッコいいリフには、確かに時代を超えた普遍性がある様に思えます。	Side A 1. ブラックアウト - 3:49 2. キャント・リヴ・ウィズアウト・ユー - 3:47 3. 官能の夜 - "No One Like You" - 3:57 4. ユー・ギヴ・ミー・オール・アイ・ニード - 3:39 5. NOW! - 2:35	Side B 1. ダイナマイト - 4:12 2. アリゾナ - 3:56 3. チャイナ・ホワイト - 6:59 4. 静寂の煙 - "When the Smoke Is Going Down" - 3:51

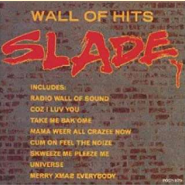
SCORPIONS	蠍団爆発!! スコーピオンズ・ライヴ		1978	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	「ザ・スクープ」のインタビューで、彼らは「スクープ」が「スクープ」の音楽界の地位を確立したと述べている。84年作の「禁断の刺青 LOVE AT FIRST STING」に伴う1年間に渡ったワールド・ツアーからの収録で、本作ではアメリカ、フランス、ドイツでの公演の音源が採用。ウルリッヒ・ロート脱退以降、すなわちマティアス・ヤプス加入後のポップ化したスコーピオンズのナンバーばかりとなり、「BLACKOUT 蠍魔宮」で大ブレイクした彼等の最も熱かった頃のショーとなり、圧倒的なメジャー感で彩られたものとなっている。騒りと色気たっぷりの哀愁ハード・ロックから、一気に洗練されたメタリック・ハード・ポップと言えるキャッチーな80年代メタルへと変貌していった背景には、マイケル・シェンカー、ウルリッヒ、そしてマティアスと続いたギタリストの存在も大きかったと思いますが、実はこのバンドの要はルドルフのカミソリ・リフであった事がライブからも良く伝わってきます。オープニングSEから丁寧に収録された編集も優れていて、ラストでは「LOVEDRIVE」収録のスピード・ナンバー、「CAN'T GET ENOUGH」で挟む形でマティアスのソロ、「SIX STRING STING」を披露してくれている。	SIDE 1 1. カウントダウン - [Instrumental] - 0:31 2. カミング・ホーム - 3:15 3. ブラックアウト - 3:40 4. バッド・ボーイズ・ランニング・ワイルド - 3:47 5. 日曜の愛劇 - "Loving You Sunday Morning" - 4:36 6. メイク・イット・リアル - 3:27 SIDE 2 1. ビッグ・シティ・ナイツ - 4:49 2. コースト・トゥ・コースト - 4:40 3. 犯罪の日 - "Holiday" - 3:12 4. スティル・ラヴィング・ユー - 5:44	SIDE 3 1. ハリケーン - "Rock You Like a Hurricane" - 4:04 2. キャント・リヴ・ウィザウト・ユー - 5:28 3. アナザー・ピース・オブ・ミート - 3:36 4. ダイナマイト - 7:05 SIDE 4 1. ZOO (背徳の街角) - "The Zoo" - 5:46 2. 官能の夜 - "No One Like You" - 4:07 3. キャント・ゲット・イナフ (パート1) - 1:59 4. シックス・ストリング・ステイニング (マティアス・ヤプス・ギター・ソロ) - 5:18 5. キャント・ゲット・イナフ (パート2) - 1:52
SCORPIONS	蠍伝説〜スコーピオンズ・ベスト			ハードロック&ヘビーメタル	CD	ドイツが生んだ究極の蠍軍団、スコーピオンズの70年代から90年代へむけての彼等のベスト・アルバム。	1. ハリケーン 04:13 2. アイ・キャント・エクスプレイン 03:22 3. スティル・ラヴィング・ユー 06:27 4. ビッグ・シティ・ナイト 04:09 5. ラヴ・ドライブ 04:52	6. 犯罪の日 06:47 7. ブラックアウト 03:50 8. リズム・オブ・ラブ 03:49 9. 官能の夜 03:57 10. ユー・ギヴ・ミー・オール・アイ・ニード 03:40 11. ヘイ・ユー 04:29 12. ZOO (背徳の街角) 05:30
SCRITTI POLITTI	ソングス・トゥ・リメンバー		1982	ニューウェイブ	レコード			
SCRITTI POLITTI	キュービッド&サイケ 85		1985	ニューウェイブ	レコード			
SCRITTI POLITTI	プロヴィジョン		1988	ニューウェイブ	レコード			
SEARCHERS	ミート・ザ・サーチャーズ		1963	ブリティッシュビート	レコード	63年、UKナンバーワン・ヒット曲「SWEETS FOR MY SWEET」、翌年64年の「LOVE POTION NO. 9」を含むデビュー・アルバム。一連のブリティッシュ・ビート・バンドのなかでも、ポップで親しみやすいナンバーが多く、アメリカン・ポップス・ファンにも好んで聴かれたサーチャーズは、ヒット曲のほとんどが他人の書いた作品という特徴があった。このデビュー・アルバムに収録されたヒット・チューン「Sweets For My Sweet」「Love Potion No. 9」も、前者がドリフターズ、後者がクローヴァーズというR&Bグループがオリジナルだが、リヴァプール・サウンドならではの歯切れの良いビート・ポップ・ナンバーに料理。その爽快さが一番の魅力だろう。	Side A 1. SWEETS FOR MY SWEET 02. ALRIGHT 03. LOVE POTION NO 04. FARMER JOHN 05. STAND BY ME 06. MONEY Side B 07. DA DOO RON RON 08. AINT GONNA KISS YA 09. SINCE YOU BROKE MY HEART 10. TWEAKY TWEAKY	
SEARCHERS	シュガー・アンド・スパイス		1963	ブリティッシュビート	レコード	64年UK2位の彼らの地位を決定付けた「SUGAR AND SPICE」を含むセカンド・アルバム。全英2位の大ヒットとなった表題曲を含む彼らのセカンド作。R&R、R&Bの勢いあるカヴァーや軽快なビートに乗る洒落なハーモニーなど、ビートルズらと並んでブリティッシュ・インヴェイジョンの一翼を担った彼らの若い魅力が刻まれている。フォーク曲などを取り上げているのも彼らの持ち味だ。	Side A 1. シュガー・アンド・スパイス 2. ドン・チャ・ノウ 3. サム・アザー・ガイ 4. ワン・オブ・ジーズ・デイズ 5. リッスン・トゥ・ミー 6. アンハッピー・ガールズ	Side B 1. エイント・ザット・ジャスト・ライク・ミー 2. オー・マイ・ラヴァー 3. セインツ・アンド・サーチャーズ 4. チェリー・ストロース 5. オール・マイ・ソロウズ 6. ハングリー・フォー・ラヴ
SEARCHERS	イツ・ザ・サーチャーズ		1964	ブリティッシュビート	レコード	サーチャーズのサード・アルバム(64年)で、2大ヒット「Needles And Pins」「Don't Throw Your Love Away」をフィーチャーした彼らの代表作である。カヴァーが売りだったグループらしく、ここでもベティ・エヴァレットの「It's In Her Kiss」やアーサー・アレキサンダーの「Where Have You Been」、ドリフターズの「I Count The Tears」といった好カヴァーが最大の聴きもの。	01. IT'S IN HER KISS 02. GLAD ALL OVER 03. SEA OF HEARTBREAK 04. LIVIN' LOVIN' WRECK 05. WHERE HAVE YOU BEEN 06. SHIMMY SHIMMY 07. NEEDLES AND PINS	08. THIS EMPTY PLACE 09. GONNA SEND YOU BACK TO GEORGIA 10. I COUNT THE TEARS 11. HI-HEEL SNEAKERS 12. CAN'T HELP FORGIVING YOU 13. SHO' KNOW A LOT ABOUT LOVE 14. DON'T THROW YOUR LOVE AWAY
SEARCHERS	サウンズ・ライク・サーチャーズ		1964	ブリティッシュビート	レコード	サーチャーズの通算4枚目にして最後のチャートイン・アルバムとなった作品(65年)。ジャック・デシャノン作「Till You Say You'll Be Mine」、パート・バカラック&ハル・ディヴィッド作「Magic Potion」といった得意のカヴァー作品はあいかわらず快調な仕上がりが、今作ではメンバーであるクリス・カーティスのオリジナルも3曲収録されており、バンドの魅力をより深く知ることができる。	01. EVERYBODY COME AND CLAP YOUR HAND 02. IF I COULD FIND SOMEONE 03. MAGIC POTION 04. I DON'T WANT TO GO ON WITHOUT YOU 05. BUMBLE BEE	06. SOMETHING YOU GOT BABY 07. LET THE GOOD TIMES ROLL 08. A TEAR FELL 09. TILL YOU SAY YOU'LL BE MINE 10. YOU WANNA MAKE HER HAPPY 11. EVERYTHING YOU DO 12. GOODNIGHT BABY
SELECTER			1980年	ニューウェイブ	レコード	スカとパンクを融合させたサウンドで、英国で一大ムーヴメントを巻き起こした2トーン。そのムーヴメントを創り上げ、音楽シーンのみならずファッションやカルチャーの面でも大きな影響を与えたのが2 TONE RECORDSなのだが、その中でも、ザ・スペシャルズやマッドネスとともにムーヴメントの代表的存在として高い人気を誇るバンドが、このザ・セレクトーだ。白人と黒人の混合バンド(この人種混合のメンバー構成が、2 TONESの語源とも言われている)であるのと同時に男女混合というまさに人種や性別を超えたメンバー構成、そして真っ向からスカと向き合う、ストレートで痛快なスカ・ビートと痛烈なリリックで、ムーヴメントをより鮮明なものとした存在だと言えるだろう。 ザ・セレクトーは、70年代後半のスカ・リヴァイヴァルにおける重要なバンドであるだけでなく、当時のシーンにおいて人種や性別を超えた数少ないバンドの一つでもある。パンクとスカを融合した2 TONEムーヴメントの中でも、純粋なスカ・ビートをベースにした彼らは、紅一点のヴォーカリスト、ポーリーン・ブラックが書く性別別人種差別、そして社会的問題に切り込んだ歌詞とそのやんちゃで痛快なビートで、一躍シーンを代表する存在となった。全英アルバム・チャート5位を記録し、「Three Minute Hero」や「Missing Words」といったヒット曲を生み出している。	Side A 1. Three Minute Hero 2. Time Hard 3. They Make Me Mad 4. Missing Words 5. Danger 6. Street Feeling 7. My Collie (Not A Dog)	Side B 1. On My Radio 2. Too Much Pressure 3. Murder 4. Out On The Streets 5. Carry Go Bring Come 6. Black & Blue 7. James Bond
The Sensational Alex Harvey Band	センセシヨナル		1974年	ロック	レコード	1974年にリリースされたセンセシヨナル・アレックス・ハーヴェイ・バンドのセカンド・アルバム。ハード・ロック路線を基本としたが、ミュージカルなどにも出演していた中心人物ハーヴェイの多岐にわたる音楽的変遷を反映するかのように、ブルースやブギ、ミュージカルなどの要素を取り入れ、ステージでは演劇的な要素を取り入れて、独自のスタイルを確立させた彼らの出世作というべきアルバムで、全英チャートで最高37位を記録。	Side A 1. スワンプスネイク 2. キャン・パン 3. フェイス・ヒーラー	Side B 1. ギティ・アップ・ア・ディン・ドン 2. ネクスト 3. パン・ボー・マーブル・アイ 4. ラスト・オブ・ティーンエイジ・アイドル パート 1、2、3
SEX PISTOLS	勝手にしやがれ		1977	パンク	レコード	イギリスのパンクバンド、セックス・ピストルズ唯一のスタジオ・アルバム。1977年10月28日にヴァージン・レコードよりリリースされ、全英アルバムチャート1位を記録。アメリカではトップ100にも入らなかったが、発売から10年後の1987年にはゴールド・ディスクに輝くロングセラーとなった。 本作のレコーディングは1977年春から夏にロンドンのウェセックス・スタジオにて断続的に行われた。プロデューサーのクリス・トーマス。ベーシストのグレン・マトロックは、「アナーキー・イン・ザ・U.K.」「ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン」「ブリティッシュ・ウェイカント」(2番の2行分をロットンが作詞した以外は作詞も担当)など、半数以上の曲を1人で作曲したが、本作のレコーディング直前に脱退している。マトロックに代わって加入したシド・ヴィンヤスの演奏技術が拙かったため、ベースはギタリストのスティーヴ・ジョーンズが担当した。また、すでにシングルとして発売されていた「アナーキー・イン・ザ・U.K.」のベースはマトロックによるもの。UKオリジナル盤(Virgin V2086)は全11曲入りで、特典としてシングル「サブミッション」が付加されていた。1977年11月以降にリリースされたUK盤には「サブミッション」がアルバム内に組み込まれ、曲順が若干変更されている。	Side A 1. さらばベルリンの陽 - Holidays in the Sun (3分20秒) 2. ライアー - Liar (2分41秒) 3. 分かってたまるか - No Feeling (2分49秒) 4. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン - God Save the Queen (3分19秒) 5. 怒りの日 - Problems (4分10秒)	Side B 1. セプテンティーン - Seventeen (2分02秒) 2. アナーキー・イン・ザ・U.K. - Anarchy in the U.K. (3分32秒) 3. ボディーズ - Bodies (3分03秒) 4. ブリティッシュ・ウェイカント - Pretty Vacant (3分17秒) 5. ニューヨーク - New York (3分05秒) 6. 拝啓EMI殿 - E.M.I. (2分57秒)
SEX PISTOLS	勝手にしやがれ		1978	パンク	レコード		Side A 1. さらばベルリンの陽 - Holidays in the Sun (3分20秒) 2. ボディーズ - Bodies (3分03秒) 3. 分かってたまるか - No Feeling (2分49秒) 4. ライアー - Liar (2分41秒) 5. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン - God Save the Queen (3分19秒) 6. 怒りの日 - Problems (4分10秒)	Side B 1. セプテンティーン - Seventeen (2分02秒) 2. アナーキー・イン・ザ・U.K. - Anarchy in the U.K. (3分32秒) 3. サブミッション - Submission (4分10秒) 4. ブリティッシュ・ウェイカント - Pretty Vacant (3分17秒) 5. ニューヨーク - New York (3分05秒) 6. 拝啓EMI殿 - E.M.I. (2分57秒)
SEX PISTOLS	栄光の伝説		1979	パンク	レコード	映画「The Great Rock 'N' Roll Swindle」のサウンドトラックとして制作された企画アルバム。企画・準備段階でバンド自体が既に存在していなかった作品。幾つもの時代を超えたロックバンドは数知れず、セックス・ピストルズもバンドとしては短命に終わったが、ジョニー・ロットンという個性的なヴォーカリストの存在は大きい。ロックバンドが巨大なビジネスに翻弄されていく中で、ピストルズの存在はイギリスの音楽シーンに強烈なカウンターパンチをくらわした恐れを知らないバンド。今回のアルバムはピストルズの歴史をチョイスしたアルバムで有り、当時のロックシーン、パンクロックの一時代を築いたバンドの姿であり音楽ファンにメッセージを届けたいという気持ちのこもったアルバム？	1. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン(スウィンドル交響曲) 2. ジョニー・B・ゴッド"ロード・ランナー" 3. ピストルズ・ディスコ・ゴッドレー 4. アナーキー・イン・ザ・U.K. 5. サブスティテュード 6. ノー・リッパ 7. ステッピング・ストーン 8. アナーキー・イン・ザ・U.K.(シド・イン・パリ) 9. ベルゼンの毒ガス室 PART1 10. ベルゼンの毒ガス室 PART2	11. シリー・シング 12. マイ・ウェイ 13. アイ・ワナ・ビー・ミー 14. サムシング・エルス 15. ロック・アラウンド・ザ・クロック 16. ロンリー・ボーイ 17. ゴッド・セイヴ・ザ・セックス・ピストルズ 18. カモン・エブリバディ 19. 拝啓EMI殿(オーケストラ・ヴァージョン) 20. グレイ・ロックン・ロール・スウィンドル 21. フリッキング・イン・ザ・リグギン 22. ユー・ニード・ハンス 23. 誰がパンピを殺したか

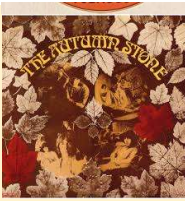
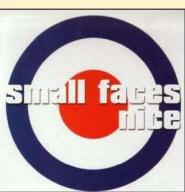
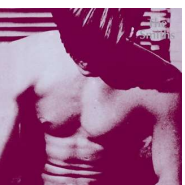
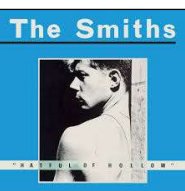
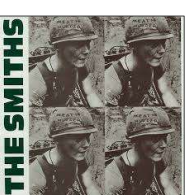
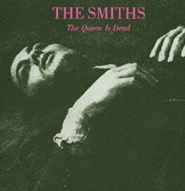
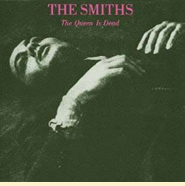
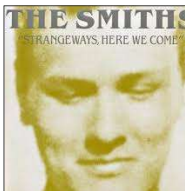
SEX PISTOLS	ゴッド・セイブ・ザ・ピストルズ / マイ・ウェイ		1978年	パンク	レコード	1978年リリース。ジョニー・ロットン、シド・ヴィシャス脱退後、元銀行強盗等を加入させ録音したシングル曲。B面はヴィシャスの「MY WAY」を収録。	Side A ゴッド・セイブ・ザ・ピストルズ (セックス・ピストルズ&ドナルド・ビッグス)	Side B マイ・ウェイ(シド・ヴィシャス)
SEX PISTOLS	ザ・ベスト・オブ・セックス・ピストルズ		1992	パンク	CD	「アナーキー・イン・ザ・UK」「拝啓EMI殿」「プリティ・ヴェイカント」他、全20曲収録のベスト・アルバム。	1. アナーキー・イン・ザ・UK 2. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン 3. プリティ・ヴェイカント 4. さらばベルリンの隅 5. アイ・ウォナ・ビー・ミー 6. デイド・ユー・ノー・ロング 7. ノー・ファン 8. サテライト 9. ノー・リップ 10. (アイム・ノット・ユア)ステッピング・ストーン	11. ボディーズ 12. 分かってたまるか 13. ライアー 14. 怒りの日 15. セブンティーン 16. サブミッション 17. ニューヨーク 18. 拝啓EMI殿 19. マイ・ウェイ 20. シリー・シング
SEX PISTOLS	勝手に来やがれ！！		1999	パンク	CD	再結成後、ロンドンにて行われたライブの様相を収録した、'96年発表のアルバム。「ボディーズ」「セブンティーン」他、全17曲。	1. ボディーズ 2. セブンティーン 3. ニューヨーク 4. 分かってたまるか 5. デイド・ユー・ノー・ロング 6. ゴッド・セイブ・ザ・クイーン 7. ライアー 8. サテライト	9. ステッピング・ストーン 10. さらばベルリンの隅 11. サブ・ミッション 12. プリティ・ベイカント 13. 拝啓EMI殿 14. アナーキー・イン・ザ・UK 15. 怒りの日 16. ノー・ファン 17. ボディーズ
SEX PISTOLS	ガン・コントロール		1979	パンク	レコード	1978年1月14日のピストルズの最終アメリカツアーで、サンフランシスコでの解散前のラストライブを収録した貴重なライブ音源。	Side A 1. God Save The Queen 2. I Wanna Be Me 3. Seventeen 4. New York 5. EMI 6. Belsen Was A Gas 7. Bodies 8. Holidays In The Sun	Side B 1. Liar 2. No Feelings 3. Problems 4. Pretty Vacant 5. Anarchy In The USA 6. No Fun
SEX GANG CHILDREN	ソング・アンド・リジェンド		1982	パンク	レコード	イギリスのゴシック・ロック・バンド、セックス・ギャング・チルドレンのデビュー・スタジオ・アルバム。1983年にレコードレーベルIlluminatedからリリースされました。セックス・ギャング・チルドレンは、1982年初頭にイギリスのロンドンのブリクストンで結成された初期のゴシック・ロックとポスト・パンクのバンドです。オリジナル・グループは公式のスタジオ・アルバムを1枚しかリリースしていないが、彼らのシングルやその他の様々なトラックは数多くのコレクションにパッケージ化されており、初期のバツケイブ・シーンで最も有名なバンドの1つであり続けている。ヴァージン・ブリュンズ、サザン・デス・カルト(後にカルトと改名し、ヘヴィ・メタ化)と並んでポジティブ・パンク。はやりすたれで消えてしまうには、もったいないバンド。なかでもこのセックス・ギャング・チルドレンは、もともとパンクをやっていた連中が退廃美や終末観、反近代、退化を独自に解釈しサウンドに取り入れたところが、面白い。「セバスチャン」は、早急でせつない感じが良い。グラム・ロックの巨匠ステイブ・ハーリーの同名曲と、是非聞き比べていただきたい。	Side A 1. CRACK UP 2. GERMAN NUN 3. (CHANT) STATE OF MIND 4. SEBASTIANE 5. DRACONIAN DREAM 6. SHOUT AND SCREAM	Side B 1. KILLER K 2. CANNIBAL QUEEN 3. ABYSS 4. KILL MACHINE 5. SONG AND LEGEND 6. DREAM REPRISE
SHADOWS OF KNIGHT	ザ・ベスト・オブ ザ・シャドウズ・オブ・ナイト ダーク・サイド		1994	ロック	CD	シカゴ生まれの若きアメリカン・ロック・バンド。60年代のガレージ・パンクの雄。中でも頭一つ抜き出た感のあるSHADOWS OF KNIGHTの1965～1971迄のベスト盤、収録曲、全20曲の大半は①GLORIAをはじめR&Bのカバーで特に⑥I GOT MY MOJO WORKING ⑦YOU CAN'T JUDGE A BOOK (BY THE COVER)等スタンダードな曲も彼らがプレイすると、とても勢いのあるロックへと早変わりする。例えば⑦はクラブトン在籍時のYARDBIRDSもプレイしていますが、YARDBIRDSと比べファズが効いていてとてもアグレッシブで勢いがあり、ガレージ・パンクの醍醐味を味わうことが出来ると思います。名ガレージコンビPEBBLESでは当時ポテトチップスを貰うと貰えた5インチの珍しいカードボード・フレキシの音源も聴ける。	1Gloria 2Dark Side 3Oh Yeah 4Light Bulb Blues 5It Always Happens That Way 6I Got My Mojo Working 7You Can't Judge A Book (By The Cover) 8Bad Little Women 9Gospel Zone 10I'll Make You Sorry	11I'm Gonna Make You Mine 12Peepin' And Hidin' 13Willie Jean 14The Behemoth 15Someone Like Me 16Three For Love 17Shake 18My Fire Department Needs A Fireman 19Alone 20I Am The Hunter
SHAKATAK	ナイト・バーズ		1982年8月	フュージョン	レコード	日本での1stアルバム(本国では2ndアルバム)。プリティッシュファンクの雄、シャカタクの出世作。子気味よいリズムと耳に残るメロディ、聞き終わった跡に残るさわやかな涼風が良い。夜の鳥がもたらした清涼感はいつまでも不変だ。世界的ヒットの「ナイト・バーズ」「ストリート・ウォーキン」収録。一世を風靡したオシャレなフュージョン・バンドのセカンドアルバムですが、本アルバムはアメリカでは全く売れなかったとのこと。	Side A 1. ナイト・バーズ 2. ストリートウォーキン 3. リオ・ナイツ 4. フライ・ザ・ウインド	Side B 1. イージー・セッド・ザン・ダーン 2. ビッチ・トゥ・ザ・ボーイズ 3. ライト・オン・マイ・ライフ 4. テイキン・オフ
SHAKATAK	インヴィテーション		1982年12月	フュージョン	レコード	『Night Birds』で大ブレイクした英国のフュージョン・グループがヒット作の直後に間髪を入れずリリースした3rdアルバム。『Night Birds』で魅せたクリスタル感はそのままだに、それでいて怒いを帯びたメロディラインが琴線に触れる。映画やドラマのエンディングテーマに使われそうな雰囲気のある曲。 前作と同様、バラエティに富んだ内容となっていて、真夏のリゾート地を思わせるゆったりとしたスウィング感とメロウなギター・サウンドが印象的な「Lose Myself」、女性ヴォーカル(トレーシー・アッカーマン)をフィーチャーしたバラード「Lonely Afternoon」、メロウでスマートなジャズ・ファンク「Stranger」と佳曲が多い。『Invitations』とよく似た雰囲気 of 「Steppin' Out」もいい。次作の『Out Of This World』では方向転換を図るシャカタク。こちらも内容的には非常に充実していたが、商業的には失速してしまう。それは『Out Of This World』のクオリティの問題ではなく、シャカタクのお洒落なBGMとしかとらえていない一過性のファンが離れたことが原因だったと思われる。『Night Birds』や本作だけでなく他のアルバムも聴いて彼らの本当の魅力を知ってもらいたい。	Side A 1. インヴィテーション 2. ルーズ・マイセルフ 3. ロンリー・アフタヌーン 4. ステッピン・アウト	Side B 1. ストレンジャー 2. ユー・ジュアル・シュエーション 3. ソル・フエゴ 4. イン・シャドウズ
SHAKIN' PYRAMIDS	ロックン・ロール・クレイジー		1981	ロカビリー	レコード	短命に終わったスコットランドのスキップル・ロカビリートリオ、シェイキン・ピラミッツのネオロカ創成期に衝撃デビューを飾った81年名盤1STアルバム！スキップルの要素も感じられるアコースティックなロカビリーサウンドが最高にかっこいい。名曲「Take A Trip」他、全14曲収録。	1. Take A Trip 2. Tennessee Rock 'N' Roll 3. Let's Go 4. Teenage Boogie 5. Tired 'N' Sleepy (Live) 6. Wild Little Willie	7. Cry Cry Kitten 8. Sixteen Chicks 9. Pretty Bad Blues 10. I Got A Baby (Live) 11. Sunset Of My Tears 12. Hellbent On Rockin'
SHAKIN' STEVENS			1980	ロカビリー	レコード	イギリスのロックンロールシンガーで80年代シングルを売りまくったSHAKIN' STEVENSの1981年作。ストレートなロックンロール～ロカビリーアルバム名盤。ALBERT LEE他参加	Side A 1.You Drive Me Crazy 2:40 2.This Ole House 2:58 3.Revenooer Man 2:45 4.Marie, Marie 2:44 5.Let Me Show You How 2:53 6.Shooting Gallery 3:11	Side B 1.Hot Dog 2:48 2.Shotgun Boogie 2:57 3.Baby You're A Child 2:45 4.Is A Blue Bird Blue 3:11 5.Hey Mae 2:30 6.Make It Right Tonight 2:59
SHAKIN' STEVENS	ドライヴ・ミー・クレイジー		1981	ロカビリー	レコード			
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	レコード	ピストルズやクラッシュと並ぶロンドン・パンクの立役者、シャム69。英国労働者階級が生んだアナーキスト、ジミー・パーシー率いるロンドン・パンク・バンド、シャム69の1978年発表のファースト・アルバム。A面がライブ、B面がスタジオ録音の異色作だったが、バンドの勢いと当時の生々しさが伝わるライブは圧巻。ライブでの観客と一体化したシンガロング、贅肉をそぎおとしたロックンロールが耳を震う。彼らのアルバムは間違いなくこのファーストアルバムが最高傑作！デビュー・シングル「I Don't Wanna」他、ボーナス・トラック7曲を含む全21曲を収録。	Live Side 1. ウィ・ガッタ・ア・ファイト 2. リップ・オフ 3. アルスター 4. ジョージ・デイヴィス・イズ・イノセント 5. ゼイドント・アンダースタンド 6. ボースタル・ブレイクアウト	Studio Side ファミリー・ライフ 1. ヘイ・リトル・リッチ・ボーイ 2. アイム・ア・マン、アイム・ア・ボーイ 3. ホワット・アバウト・ザ・ロンリー? 4. テル・アス・ザ・トゥルース 5. イッツ・ネヴァー・トゥ・レイト 6. フーズ・ジェネレーション
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	レコード			
SHAM69	テル・アス・ザ・トゥルース		1978	パンク	CD		以下、CDボーナス・トラック 14. ホワット・ハウ・ウィ・ガット? 15. ボースタル・ブレイクアウト	

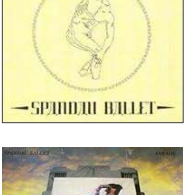
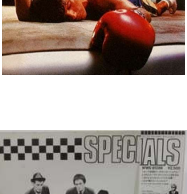
SHAM69	悪の挑発			パンク	レコード	曲と曲の間のしゃべりは小芝居じゃなく、このTHAT'S LIFEは文字通り、ある1人のコックニー（ロンドン東部の典型的労働者階級）の朝起きたところからの1日の生活を題材にして曲が進んでいくようなアルバムのつくりになってます。	1リーヴ・ミー・アローン 2フー・ギヴス・ア・ダム 3エヴリバディーズ・ライト、エヴリバディーズ・ロング 4ザッツ・ライフ 5ウィン・オア・ルーズ 6ハリー・アップ・ハリー	7イーヴル・ウェイ 8レゲエ・ビック・アップ(パート1) 9サンディ・モーニング・ナイトメア 10レゲエ・ビック・アップ(パート2) 11エンジェルス・ウィズ・ダーティ・フェイスズ 12イズ・ディス・ミー・オア・イズ・ディス・ユー?
SHAM69	ハーシャムボーイズ			パンク	レコード		1マネー 2フライ・ダーク・エンジェル 3ジョーイズ・オン・ザ・ストリート 4コールド・ブルー・イン・ザ・ナイト 5ユーアー・ア・ベター・マン・ザン・アイ	6ハーシャム・ボーイズ 7ロスト・オン・ハイウェイ46 8ヴォイシズ 9クエスチョンズ・アンド・アンサーズ 10ホワット・ハヴ・ウィ・ガット?(ライヴ)
SHAM69	ザ・ゲーム			パンク	レコード			
SHAM69	ハーシャムボーイズ+ザ・ゲーム			パンク	レコード			
SHAM70	ベスト・オブ・シャム69			パンク	CD		01BORSTAL BREAKOUT 02HEY LITTLE RICH BOY 03ANGELS WITH DIRTY FACES 04THE COCKNEY KIDS ARE INNOCENT 05IF THE KIDS ARE UNITED 06SUNDAY MORNING NIGHTMARE 07VOICES 08MONEY	09HURRY UP HURRY 10QUESTIONS AND ANSWERS 11GIVE A DOG A BONE 12HERSHAM BOYS 13TELL THE CHILDREN 14UNITE AND WIN 15WHO GIVES A DAMN 16THAT'S LIFE
SHEENA EASTON	モダンガール		1981	ポップス	レコード	1980年作品。シーナ・イーストンのデビューアルバム。大胆なショートカットに、洗練されたファッションとサウンド。とにかく当時は、「新しい時代の新しい女性シンガー」という印象が強かった。イギリス最優秀新人女性ヴォーカリストに輝くシーナのファースト・アルバム。プロデューサーは、クリストファー・ニール。全英17位・全米24位。 デビューシングル「モダン・ガール」は、当初イギリスのチャートでは最高位56位と振るいませんでしたが、イギリスのBBCで、スター志望の女の子が歌手を目指すまでを追った番組のドキュメントでヒロインとして登場した番組が放送されると、再度チャートを上昇、最高位8位を記録しています。アメリカでは、「モーニング・トレイン (9 to 5)」がデビュー曲となり、全米1位を獲得。「モダン・ガール」は、セカンド・シングルとしてリリースされ、最高位18位のヒットとなっています。	Side A 1: 花束は贈らないで / DON'T SEND FLOWERS 2: クライ 3: テイク・マイ・タイム 4: 眩しすぎる貴方 / WHEN HE SHINES 5: ワン・マン・ウーマン 6: 愛のプリズナー / PRISONER 7: ムーディ・マイ・ラヴ	Side B 1: 9 TO 5 (モーニング・トレイン) 2: ソー・マッチ・イン・ラヴ 3: ラジオの囁き / VOICE ON THE RADIO 4: 嵐の前の静寂 / CALM BEFORE THE STORM 5: モダン・ガール 6: 一人だけの秘密 / NO ONE EVER KNOWS 7: 夏の終りに / SUMMER'S OVER
SHEENA EASTON	涙のブロークン・ハート		1981	ポップス	レコード	1981年作品。シーナ・イーストンのセカンドアルバム「涙のブロークンハート」や「リトル・テンダネス」など前作のポップさを継承するナンバーもあるが、全体的にはぐっと大人っぽさを増したバラードナンバーの印象が強いアルバム。シングルカットされて全米ヒットしたタイトルナンバー「遠いさよなら (YOU COULD HAVE BEEN WITH ME)」や、アメリカ版に収録された「眩しすぎる貴方 (WHEN HE SHINES)」を初め、ユーミンもお気に入りだったという「不思議な貴方 (SAVOIR FAIR)」などのAORナンバーが目立ちます。後のシーナの選曲センスのよさはすでにこのアルバムで発揮されていて、レイフ・ヴァン・ホイ作の「I'M NOT WORTH THE HURT」やクリス・クリスチャン作の「TELEPHONE LINES」なども収録されていて、このアルバムの聴きどころとなっています。	Side A 1. A LITTLE TENDERNESS 2. YOU COULD HAVE BEEN WITH ME 3. JUST ANOTHER BROKEN HEART 4. I'M NOT WORTH THE HURT 5. SAVOIR FAIRE	Side B 1. A LETTER FROM JOEY 2. TELEPHONE LINE 3. JOHNNY 4. TROUBLE IN THE SHADOWS 5. WHEN HE SHINES
SHOES			1979	ニューウェイブ	レコード			
SHIRTS	シャツ		1978	ニューウェイブ	レコード			
Sid Vicious	シド・シングス		1979年	パンク	レコード	セックス・ピストルズのシド・ヴィンシャスの唯一のソロ・アルバム。1979年リリース作品。没後の79年にリリースされた色んなライヴ音源を集めた作品。「Belsen Was a Gas」、を除く曲はすべてカバー曲。ジョニー・サンダーズやストゥージズのカバーを中心に収録。シドはBASSを弾かずヴォーカルに専念。嵐のauのCMにも起用された「マイ・ウェイ」も収録。ライブ盤のため、当時のシドのイカレぐらいが伝わってくる名盤。 ジョニー・サンダーズ&ザ・ハートブレイカーズの「Born to Lose」、 「Chatterbox」、ザ・ストゥージズの「I Wanna Be Your Dog」、 「Search And Destroy」、フランクシナトラの名曲「My Way」、エディ・コクランの代表曲「Something Else」等。おすすめ代表曲は「My Way」。	Side A 1. ボーン・トゥ・ルーズ 2. アイ・ワナ・ビー・ユア・ドッグ 3. テイク・ア・チャンス・オン・ミー 4. ステッピング・ストーン 5. マイ・ウェイ	Side B 1. ベルゼンの毒ガス室 2. サムシング・エルス 3. チャーターボックス 4. サーチ・アンド・デストロイ 5. チャイニーズ・ロック 6. シド・シングス・アイ・キルド・ザ・キャット
SIGUE SIGUE SPUTNIK	ラヴ・ミサイル		1986年	ニューウェーブ	レコード	ジグジグ・スパトニックの本邦デビュー12"EPIにして代表曲。ジョルジオ・モロダー・プロデュース。元ジェネレーションXのトニー・ジェームスを中心に1982年結成。レコード会社との契約金が破格の15億円が話題を呼び、近未来的なファッションでシーンに躍り出た彼らは、このデビュー・シングル"LOVE MISSILE F1-11"で大ヒットします。	Side A Love Missile F1-11	Side B Hack Attack
SILVERHEAD	恐るべきシルヴァーヘッド		1972	グラムロック	レコード	72年作。シルヴァーヘッドのデビューアルバム。本国イギリスではほとんど評価されずに終わってしまったバンドですが、ここ日本ではかなりの人気バンドとして知られていた存在。ヴォーカリストのマイケル・デ・バレスの派手なヴィジュアルのせいもあり、グラム・バンドとして紹介もされていたようですが、サウンドは正統派ハード・ロックと言えるものです。ニューヨーク・ドールズとも比較されたルーズなノリ、いわゆるスリージーなバンドという見方もできそうですが、バッド・カンパニーにも通じるキャッチーなハード・ロックと表現した方が正確かもしれません。		
SILVERHEAD	恐るべきシルヴァーヘッド		1972	グラムロック	CD	ただデ・バレスのヴォーカルはワイルドな質感が売りで、当時のストーンズの南部奥から影響を受けたバラード・タイプのナンバーでも男臭い魅力を放っています。考えてみれば一時期のデヴィッド・ボウイもこうしたロック的アプローチをしていた事もあり、このバンドもグラムとして扱われていたのは無理もないのだと思われます。ストーンズ、バッド・カンパニー、ボウイといったキーワードと、見栄えのいいヴィジュアル、そして日本人にもわかりやすいロックの心地良さと妖しさを体現したメロディ、そうした要素がここ日本で大きな支持を得たという事なのかもしれません。		
SILVERHEAD	凶暴の美学		1973	グラムロック	レコード	73年作。シルヴァーヘッドのセカンドにしてラストとなったアルバムです。本国イギリスではB級バンドの域を抜けられなかった感はありませんが、日本ではかなりの人気を博し、日本独自企画でライヴ盤もリリースされた程でした。 グラム・ロックとして認知された派手なヴィジュアルでしたが、その実音の方は正統派プリティッシュ・ハードと言えるガッツ溢れるサウンドが魅力的です。ストーンズとツェッペリンの中間を行く様な土臭いハード・ロックは、彼等の後に大ヒットを飛ばすバッド・カンパニーにも通じるものがありますが、より狼狽さの強いシルヴァーヘッドは同時代のニューヨーク・ドールズにも近いイメージなのかもしれません。後に元YESのトニー・ケイを中心に結成されるディテクティブ、80年代にはロバート・バーマーの後任としてパワー・ステーションに参加した事でも有名なマイケル・デ・バレスのソウルフルなヴォーカル、ロバート・プラントのソロ活動初期を支えたロビー・プラントのねちっこいギター、ブロンディのベーシストとして一時代を築いたナイジェル・ハリスンのソング・ライティング・センス等、ユニークな個性のぶつかり合いがそのままバンド・サウンドに反映されています。元キング・クリムゾンにしてフォリナー参加前のイアン・マクドナルド、元フリーのラビットのゲスト参加もありながら、英国ロックの美味しい部分ばかりを詰め込んだ様な傑作となった本作、そのせんじょうきジャケットも手伝い妖しい色気が魅力となっています。		

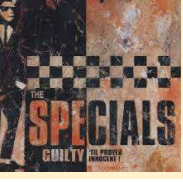
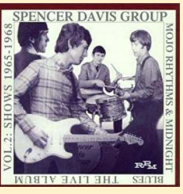
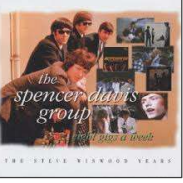
	SILVIE VARTAN	シルヴィ・バルタン・ベスト		1998	ポップス	CD	元祖イエ・イエ・ガール、シルヴィ・バルタンの大ヒット曲「アイドルを探せ」「あなたのとりこ」を含むベスト盤。	1アイドルを探せ 2悲しきスクリーン 3いつでもあなたを 4わたしを愛して 5ジョニーはどこに 6しあわせの2分35秒 7あなたのとりこ 8男の子のように 9ズン・ズン・ズン 10想い出のマリツツア	11悲しみの兵士 12愛のかたち 13アブラカタブラ 14恋人を探せ 15哀しみのシンフォニー 16悲しきジブシー 17悲しき雨音 18いとしき若者(デルタの夜明け) 19ディスコ・クイーン(愛しのジョニー) 20愛はジタンの香り
	Simon & Garfunkel	サウンド・オブ・サイレンス		1966	ポップス	レコード	1966年1月に発表したセカンド・アルバム。この頃のサイモン&ガーファングルは事実上活動を停止しており、ポール・サイモンはイギリスでソロ活動をしていた。しかし、トム・ウィルソンのアイデアでバンド編成のオーバー・ダビングがなされた「サウンド・オブ・サイレンス」のシングル・ヴァージョンが大ヒットすると、ポールはアメリカに帰国し、アート・ガーファングルも合流して活動を再開。突然のアルバム制作だったためオリジナルの新曲は「プレスト」「リチャード・コリー」「早く家へ帰りたい」の3曲のみで、ポールが8月に発表したソロ・アルバム『ポール・サイモン・ソングブック』収録曲のセルフ・カヴァーや、2曲のカヴァー曲も録音された。そのうち、ジャクソン・C・フランクのカヴァー「ブルース・ラン・ザ・ゲーム」は収録が見送られ、「早く家へ帰りたい」はシングルとして発表されることになり、「雨に負けぬ花」は次のアルバム『バセリ・セージ・ローズマリー・アンド・タイム』(1966年)に持ち越された。最終的には「サウンド・オブ・サイレンス」のシングル・ヴァージョンや4月に録音された2曲も含む11曲入りのアルバムとして、1966年に発表された。アメリカでは最高21位、全英チャートで13位に達した。	Side 1 1. サウンド・オブ・サイレンス - 3:08 2. 木の葉は緑 - "Leaves That Are Green" - 2:23 3. プレスト - 3:16 4. キャシーの歌 - "Kathy's Song" - 3:21 5. どこにもいないよ - "Somewhere They Can't Find Me" - 2:37 6. アンジー - 2:17	Side 2 1. リチャード・コリー - 2:57 2. とても変わった人 - "A Most Peculiar Man" - 2:34 3. 4月になれば彼女は - "April Come She Will" - 1:51 4. はりきってゆこう - "We've Got a Groovy Thing Goin'" - 2:00 5. アイ・アム・ア・ロック - 2:50
	Simon & Garfunkel	サウンド・オブ・サイレンス		1966年1月17日	ポップス	CD			
	Simon & Garfunkel	バセリ・セージ・ローズマリー・アンド・タイム		1966年10月24日	ポップス	レコード	1966年10月に発表したサード・アルバム。アルバム・タイトルはイギリス民謡「スカボロー・フェア」の歌詞の一節から取られており、本作の1曲目に収録された「スカボロー・フェア/詠唱」は、「スカボロー・フェア」にポール・サイモンがソロ・アルバム『ポール・サイモン・ソングブック』(1965年)で発表した自作曲「ザ・サイド・オブ・ア・ヒル」の一部を織り込んだもの。「バターン」「雨に負けぬ歌」「簡単に散漫な演説」の3曲は、『ポール・サイモン・ソングブック』収録曲のセルフ・カヴァー。「7時のニュース/きよしこの夜」では、ニュースを読み上げるDJの声がオーバーダビングされており、公民権法の法案、レニー・ブルースの訃報、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアのデモ行進の予定、リチャード・スベックの公判、ベトナム戦争の反対運動について言及されている。本作は全米4位に達し、サイモン&ガーファングルのアルバムとしては初めて全米チャートのトップ10入りを果たした。全英では13位。	Side A 1. スカボロー・フェア/詠唱 - 3:10 2. バターン - 2:45 3. クラウディー - 2:21 4. 早く家へ帰りたい - "Homeward Bound" - 2:29 5. プレジャー・マシーン - 2:44 6. 59番街橋の歌(フィーリン・グルーヴィー) - 1:54	Side 2 1. 夢の中の世界 - "The Dangling Conversation" - 2:37 2. 雨に負けぬ花 - "Flowers Never Bend with the Rainfall" - 2:10 3. 簡単に散漫な演説 - "A Simple Desultory Philippic" - 2:19 4. エミリー・エミリー - 2:04 5. 地下鉄の壁の詩 - "A Poem on the Underground Wall" - 1:53 6. 7時のニュース/きよしこの夜 - "7 O'Clock News/Silent Night" - 2:01
	Simon & Garfunkel	バセリ・セージ・ローズマリー・アンド・タイム		1966年10月24日	ポップス	CD			
	Simon & Garfunkel	卒業(映画「卒業」のオリジナル・サウンド・トラック)		1968年2月	ポップス	レコード	ダスティン・ホフマン主演の映画『卒業』のオリジナル・サウンドトラック盤。この映画のために書かれた「MRS. ROBINSON」をはじめ、「THE SOUND OF SILENCE」、「SCARBOROUGH FAIR」等S&Gのヒット曲を収録している。DAVE GRUSINが作曲したインストゥルメンタル曲の数々も印象的。当初、『卒業』の監督であるマイク・ニコルズがポール・サイモンにサウンドトラックの制作を依頼したが、サイモンは新曲の「バンキーのジレンマ」「オーバース」を提供しようとしたが、ニコルズはその2曲を却下して、サイモン&ガーファングルが既に発表していた「サウンド・オブ・サイレンス」「スカボロー・フェア/詠唱」「4月になれば彼女は」「プレジャー・マシーン」が映像に合っていると判断した。そして、ニコルズはサイモンにさらなる新曲を依頼するが、サイモンは多忙のため、約束していた3曲の新曲に合わせることはできず、ソープ中に作った新曲「ミセス・ロビンソン」を提供することとなった。この「ミセス・ロビンソン」は、当初の歌詞では「ミセル・ルーズベルト」だったが、ガーファングルの提案により、『卒業』の登場人物であるミセス・ロビンソンの名前を入れることになった。このアルバムはサイモン&ガーファングルにとって初となる1位を獲得し7週連続で1位を獲得。その後『ブックエンド』が1位となり、結果的にはサイモン&ガーファングルのアルバムが16週連続で全米1位を独占する形となった。	Side A 1. The Sound of Silence 2. The Singleman Party Foxtrot 3. Mrs. Robinson (Instrumental) 4. Sunporch Cha-Cha-Cha 5. スカボロー・フェア Scarborough Fair / Canticle (Interlude) 6. On the Strip 7. 4月になれば彼女は April Come She Will 8. The Folks	Side B 1. スカボロー・フェア Scarborough Fair / Canticle 2. A Great Effect 3. プレジャー・マシーン The Big Bright Green Pleasure Machine 4. 驚き Whew 5. Mrs. Robinson (Reprise) 6. The Sound of Silence
	Simon & Garfunkel	ブックエンド		1968年4月3日	ポップス	CD	サイモン&ガーファングルが1968年に発表した5枚目のアルバム。アルバム前半(LPのA面)の7曲は、アメリカの現実をテーマとした組曲となっており、「ブックエンドのテーマ」のインストゥルメンタル・ヴァージョンと歌入りのヴァージョンに挟まれる形となっている。このような構成にした理由の一つに、「3分というリスナーが1曲に集中できる時間を引き延ばせるようにしたい」というポール・サイモンの思惑があったようである。後半(B面)のうち「冬の散歩道」「動物園にて」「フェイキン・イット」は既発のシングル曲。「ミセス・ロビンソン」は、映画『卒業』(監督:マイク・ニコルズ)のサウンドトラック・アルバムに初収録され、本作にも1968年2月に録音された新ヴァージョンが収録された。同曲は、本アルバムと同時にシングルとしてリリースされ、サイモン&ガーファングルにとって2作目の全米1位獲得シングルとなった。なお、サイモン&ガーファングルが『卒業』のサウンドトラックを依頼された際、最初に提供しようとしたのは「オーバース」と「バンキーのジレンマ」だったが、マイク・ニコルズの判断により、これら2曲は使用されなかった。本作は、自身も参加したサウンドトラック・アルバム『卒業-オリジナル・サウンドトラック』を追い落とす形で全米1位を獲得、合計7週に渡って1位となった。イギリスでも、サイモン&ガーファングルにとって初となる1位獲得を果たした	1ブックエンドのテーマ(インストゥルメンタル) 2わが子の命を救いたまえ 3アメリカ 4オーバース 5老人の会話 6旧友 7ブックエンドのテーマ 8フェイキン・イット 9バンキーのジレンマ	10ミセス・ロビンソン(映画『卒業』より) 11冬の散歩道 12動物園にて 13君の可愛い嘘<ボーナス・トラック> 14旧友(デモ)(未発表別テイク)<ボーナス・トラック>
	Simon & Garfunkel	明日に架ける橋		1970年1月26日	ポップス	CD	サイモン&ガーファングルが1970年に発表したアルバム。通算5作目のスタジオ・アルバム。グラミー賞最優秀アルバム賞を受賞。本作を最後に、サイモン&ガーファングルは事実上解散する。アルバムは、1969年前半に全米7位のシングル・ヒットとなっていた「ボクサー」、ロス・インカスの演奏に歌をつけた「コンドルは飛んで行く」、ライブ録音によるエヴァリー・ブラザーズのカヴァー「バイ・バイ・ラブ」も含む11曲入りとなり、当時のアウトテイクのうち、「木の葉は落ちて」のデモ・ヴァージョンは、2001年に本作がリマスターされた際にボーナス・トラックとして収録された。1970年1月に本作がリリースされると、多くの国のヒット・チャートで1位を獲得。本国アメリカでは、10週に渡って1位となった。イギリスでは初登場時から13週連続で1位を獲得し、その後も何度か返り咲いて、通算33週に渡って1位を獲得するほどの大ヒットとなった。日本でも、翌1971年2月1日から7週連続で、オリコンLPチャートの1位となった。また、シングル「明日に架ける橋」も全米・全英1位を獲得した。	Side 1 明日に架ける橋 - "Bridge Over Troubled Water" - 4:52 コンドルは飛んで行く - "El Condor Pasa" (Daniel Alomía Robles) - 3:06 ポール・サイモンがオリジナルの英語詞を作詞 いとしのセシリア - "Cecilia" - 2:55 キープ・ザ・カスタマー・サティスファイド(ご機嫌いかが?) - "Keep the Customer Satisfied" - 2:33 フランク・ロイド・ライトに捧げる歌 - "So Long, Frank Lloyd Wright" - 3:41	Side 2 ボクサー - "The Boxer" - 5:08 ベイビー・ドライバー - "Baby Driver" - 3:14 ニューヨークの少年 - "The Only Living Boy in New York" - 3:58 手紙が欲しい - "Why Don't You Write Me" - 2:45 バイ・バイ・ラブ - "Bye Bye Love" (Felix Bryant, Boudleaux Bryant) - 2:55 ソング・フォー・ジ・アスキング - "Song for the Asking" - 1:49
	Simon & Garfunkel	GRAN PEIX 20 サイモン&ガーファングル		1905年5月29日	ポップス	レコード		★SIDE 1★ 01. The Sounds Of Silence 02. Old Friends 03. Cecilia 04. Mrs Robinson 05. Scarborough Fair / Canticle 06. Leaves that are Green 07. A Hazy Shade Of Winter 08. The Boxer 09. April come She Will 10. So Long, Frank Lloyd Wright	★SIDE 2★ 01. BRidge Over Troubled Water 02. The 59th Street Bridge Song 03. For Emily wherever I May Find Her 04. El Condor Pasa 05. I Am A Rock 06. Fakin' It 07. America 08. Kathy's Song 09. Homeward Bound 10. Bye Bye Love
	SIMPLE MINDS	スパークル・イン・ザ・レイン		1984	ニューウェーブ	レコード			
	SIMPLY RED	ピクチャー・ブック		1985		レコード			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園(ホンコンガーデン)		1978	パンク	レコード	78年作。パンク・ニューウェーブ勢の中でも、より一層異彩を放っていたスージー&ザ・バンシーズの記念すべきデビュー・アルバム。スージー&ザ・バンシーズの結成時のメンバーは、ヴォーカルのスージー・スーを中心にセックス・ピストルズの親衛隊だった若者たちで構成されていた。初期メンバーにはドラムスとしてセックス・ピストルズのジド・ウィッシュが加入していた。Aメロだけをひたすら繰り返し間奏もギター・ソロはなし、なのにちっとも退屈しないスピード感と躍動感に満ち溢れている。特に初期のみ参加していたギタリストのジョン・マッケイ(マクガフではなくて)のキレのいい勢いのあるカッティング奏法がアルバム全体を盛り上げている。ビートルズの『ヘルター・スケルター』をカバーしている。リズムに変拍子を使い、音楽理論を無視したコード進行をしながらも『カーカス』や『ニコチン中毒』(なにこの邦題?)なんかの印象はかなりポップでキャッチーですらある。	Side A 1. ピュアー Pure 2. ジグソウ・フィーリング Jigsaw Feeling 3. オーヴァーグラウンド Overground 4. カーカス Carcass 5. ヘルター・スケルター(あわてふためいて) Helter Skelter	Side B 1. ミラージュ Mirage 2. メタル・ポストカード Metal Postcard (Mittageisen) 3. ニコチン中毒 Nicotine Stain 4. サバーバン・リラップス Suburban Relapse 5. スウィッチ Switch
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園(ホンコンガーデン)			パンク	レコード			
	SIOUXSIE AND THE BANSHEES	香港庭園(ホンコンガーデン)			パンク	レコード			

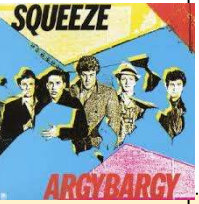
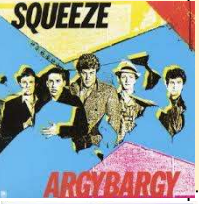
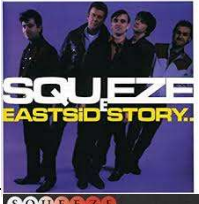
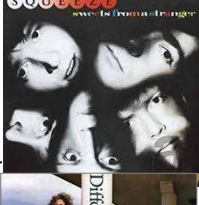
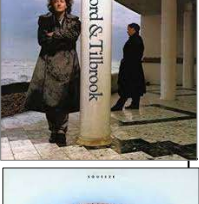
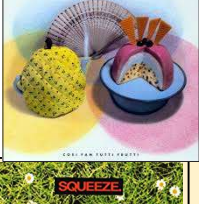
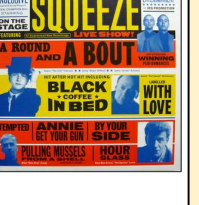
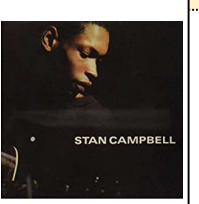
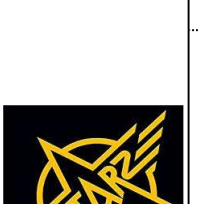
	SIUXSIE AND THE BANSHEES	ジョイン・ハンズ			パンク	レコード			
	SIUXSIE AND THE BANSHEES	ジョイン・ハンズ			パンク	レコード			
	SIUXSIE AND THE BANSHEES	カレイドスコープ			パンク	レコード			
	SINCEROS	サウンド・オブ・サンバ ス			ニューウェ イブ	レコード			
	SISTERS OF MERCY			1978	ニュー ウェーヴ	レコード	英国ゴス/ポジパン・シーンの代表格、シスターズ・オブ・マーシー。ポスト・パンクの嵐が吹き荒れる1980年代初めのリリースで生まれた彼らは1985年、ワーナーからのメジャー・デビュー・アルバムとなる『FIRST AND LAST ALWAYS (マーシーの合言葉)』でシーンに衝撃を与えたものの、アンドリュー・エルドリッチ以外のメンバーが脱退してしまう。1985年に一旦解散を宣言したシスターズ・オブ・マーシーだが、やがてアンドリュー・エルドリッチは元ガン・クラブのバトリシア・モリスンをメンバーに迎え、バンドを再結成し、1987年11月にセカンドアルバム『FLOODLAND』をリリース。耽美性を深めた歌声とドラマ性を高めた楽曲が並ぶ。のプロデューサーは、ミートローフ等で知られるジム・スタインマンも名を連ねている。全英アルバム・チャートのTOP10入りを果たした本作は、ゴールド・ディスクを獲得、また『This Corrosion』(全英7位)、『Dominion』(全英13位)、『Lucretia My Reflection』(全英20位)のヒット・シングルも生まれている。		
	SKAFISH	スカフィッシュ		1980	ニューウェ イブ	レコード	1976年2月にシカゴでパンクでオルタナティブ、インディーズゴッドファーザーと言われている。このアルバムは1980年2月に発売。		
	SKID ROW	スレイヴ・トゥ・ザ・グ ラインド		1991	ハードロッ ク&ヘヴィ メタル	CD	1991年度リリース。スキッド・ロウのセカンド・アルバムです。全米チャート初登場No.1というビッグ・セールスを記録し、これはメタル・アルバムとしては初の快挙という偉業を達成しています。BON JOVIのサポートを受け、LAメタルのセカンド・ジェネレーションとして素質抜群のルックスと音楽性を持った彼等は、ここで路線を徹底的にヘヴィなものへと変えてきます。90年代のメタル・シーンの幕開けと共に、時代を読み切ったセンスも確かに評価されるべきだと思いますが、何よりも曲のカッコ良さが衝撃的でした。スタジアム型アンセムや、パワー・バラードを捨て、よりパンキッシュに、よりソリッドに、よりコアになったサウンドは、以降のメタルのモデルケースともなりました。ガンズやメタリカが先導してきた同時代の王道スタイルを拡大し、アイドル的人気も手伝い新たなメタル・ファンを増大した貢献度はかなり大きいと思われます。	1. モンキー・ビジネス 2. スレイヴ・トゥ・ザ・グラインド 3. ザ・スレイト 4. クイック・サント・ジーザス 5. サイコ・ラヴ 6. ゲット・ザ・ファック・アウト	7. リヴァイン・オン・ア・チェイン・ギャング 8. クリープ・ショー 9. イン・ア・ダーク・ルーム 10. ライオット・アウト 11. マッド・キッカー 12. ウェイステッド・タイム 13. ベガーズ・ディ
	SKID ROW	サブヒューマン・レー ス		1995	ハードロッ ク&ヘヴィ メタル	CD	1995年度リリース。スキッド・ロウのサード・アルバムであり、セバスチャン・バツグを擁じたバンドの全盛期最後の作品となった1枚です。前作の『Slave To The Grind』がHR/HM系バンドとしては初登場で全米チャートNo.1というそれまで誰も成し得なかった快挙を果たしてから4年ぶりとなりました。シーンは大きく移り変わり、彼等の進化も全体のサウンドを大きく変化させていた事が、当時はかなりファンを戸惑わせたと思います。プロデュースはボブ・ロック。モトリー・クルーの『Dr. Feelgood』で80年代の総決算を手伝い、メタリカと共に90年代を彩っていたボブ・ロックの貢献が本作でも期待されました。スキズとの相性云々よりも、グランジ、オルタナ以降のメタル・シーンを模索するかの様なサウンド、すなわちダークでヘヴィ、これを前提にしたかの様なサウンド・プロダクションは確かに成功していると思います。加えてバズのヴォーカリストとしての成長が、バンドの音楽性に幅を持たせています。前作、前々作の彼等を求めるのは仕方ありませんが、ここでスキッド・ロウは全米チャート初登場で全米チャートNo.1というそれまで誰も成し得なかった快挙を果たしてから4年ぶりとなりました。シーンは大きく移り変わり、彼等の進化も全体のサウンドを大きく変化させていた事が、当時はかなりファンを戸惑わせたと思います。プロデュースはボブ・ロック。モトリー・クルーの『Dr. Feelgood』で80年代の総決算を手伝い、メタリカと共に90年代を彩っていたボブ・ロックの貢献が本作でも期待されました。スキズとの相性云々よりも、グランジ、オルタナ以降のメタル・シーンを模索するかの様なサウンド、すなわち	1. マイ・エナミー 2. ファイヤーサイン 3. ボーンヘッド 4. ビート・ユアセルフ・ブラインド 5. アイリッシュ 6. リメインズ・トゥ・ビー・シーン	7. サブヒューマン・レース 8. フローズン 9. イントゥ・アナザー 10. フェイス・アゲインスト・マイ・ソウル 11. メディシン・ジャー 12. プレイキング・ダウン 13. アイアンウィル 14. フローズン
	SKIDS	恐怖のダンス		1979	ニューウェ イブ	レコード	スチュアート・アダムソンが中心となって1977年に結成されたイギリスのパンクロックバンド、ザ・スキズのデビューアルバム。当時のイギリスでは高い人気があったが、日本ではあまり知名度は高くなかった彼らだが、2006年にU2やグリーン・デイが楽曲のカヴァーしたことににより世界的に再注目を集めた。『The Saints Are Coming』や『Sweet Suburbia』、『Into The Valley』といったヒットシングルを含むUKチャート10週連続ランキン		
	SKIDS	恐怖のダンス		1979	ニューウェ イブ	レコード			
	SKIDS			1980	ニューウェ イブ	レコード			
	SLAUGHTER & THE DOGS	ドゥ・イット・ドッグ・スタ イル		1978	パンク	レコード	マンチェスターの狂犬、チンピラ・パンク・バンドとして悪名高いスローター・&・ザ・ドッグスのデビューアルバム。代表曲“ホエア・ハウ・オール・ザ・フート・ボーイズ・ゴーン”を筆頭に、後にGBHがカヴァー知られる“ボストン・ベイビーズ”などクラシック・ナンバーがズラリ。ミック・ロンソンがゲスト参加したKASENETZ-KATZ SINGING ORCHESTRAL CIRCUSのカヴァー“クイック・ジョー・イスモール”、ニューヨーク・ドールズの“フー・アー・ザ・ミステリー・ガールズ”などのカヴァーも聴きどころ。	Side A 1. WHERE HAVE ALL THE BOOT BOYS GONE? 2. VICTIMS OF THE VAMPIRE 3. BOSTON BABIES 4. I'M WAITING FOR THE MAN 5. I'M MAD 6. QUICK JOEY SMALL 7. JOHNNY T	Side B 1. YOU'RE A BORE 2. KEEP ON TRYING 3. WE DON'T CARE 4. SINCE YOU WENT AWAY 5. WHO ARE THE MYSTERY GIRLS 6. DAME TO BLAME 7. COME ON BACK
	SLAUGHTER & THE DOGS	狂犬ライヴ		1978年&1982年	パンク	CD	スローター・アンド・ザ・ドッグスのライヴアルバム79年発売の『ラビッド・ドッグス』と82年発売の『ライヴ・アット・ザ・ファクトリー』をカップリングした2in1。ビッグ・ネームではなかったものの、スティッフ・リトル・フィンガーズと人気を二分する正統派ロックよりのパンク・バンドだった。ワイルド&ラウドが魅力。	[RABID DOGS] 1. おまえにうんざり 2. ミステリー・ガールズ 3. ジョニー・T 4. フート・ボーイズはどこへ行った 5. ウィドント・ケア 6. ウエイティング・フォー・ザ・マン 7. 吸血鬼のいけにえ 8. ボストン・ベイビーズ 9. アイム・マッド 10. ウィドント・ケア	[LIVE AT THE FACTORY] 11. ナウ・アイ・ノウ 12. ビッチ 13. 地獄のニューヨーク 14. ランナウェイ 15. ミステリー・ガールズ 16. ホワッツ・ロング・ボーイ? 17. ユー・ア・レディ・ナウ 18. ジョニー・T 19. ボストン・ベイビーズ 20. オール・オーバー・ナウ
	SLAYED	スレイド?		1972	グラムロッ ク	レコード	1970年代のイギリスでヒット・チャートを席巻したイギリスの愛すべき“国民的グラム・ロック・バンド”、スレイドの4thアルバム『SLAYED?』は全英No.1の大ヒットとなった。グラムロック全盛期の中1972年にリリースしたロックンロールをベースにハードでポップ&キャッチーなナンバーが多数収録されたスレイドの中でも傑出した1枚。1966年ウルヴァーハンプトンで結成されて以来、1992年に活動を休止するまでの約30年に亘り、イギリスの音楽シーンで活躍してきたスレイド。1970年にはグラム・ロック・ムーヴメントの勢いに乗り、その単純明快で豪快、そしてポップなメロディーのサウンドと奇抜なグラム・ファッションで次々とヒットを全英チャートに送り込み、当時のヨーロッパで最もビッグなバンドの一つとして大きなインパクトを与えた。70年代全英No.1アルバムを3作世に送り出しただけでなく、1971年から1976年までシングルを17曲連続全英TOP20に送り込むなど、その勢いはとどまることを知らず、“グラム世代のサウンドトラック”として圧倒的な人気を誇った。そんな彼らが1972年11月にリリースしたサード・スタジオ・アルバム『SLAYED?』。全英アルバム・チャートで初登場1位を獲得し、34週の間チャートにとどまることになるこの大ヒット・アルバムからは、後にクワイエット・ライオットがカヴァーし、リヴァイバル・ヒットとなった『Mama Weer All Crazees Now』を始め、『グッバイ・ジェーン』やジャニス・ジョプリンの有名曲“ムーブ・オーバー”のカヴァーも収録した聞きごたえ十分な力作。	Side A 1. ハウ・ドゥ・ユー・ライド 3:11 2. 世界は狂ってる Written-By - Holder* 3:36 3. ラスト・ナイト 3:06 4. ハブン・アゲイン 3:16 5. ムーヴ・オーバー 3:45	Side B 1. グッバイ・ジェーン 3:32 2. グッバイ・グッバイ 3:28 3. クレイジー・ママ 3:45 4. アイドント・マインド 3:06 5. レッド・ザ・グッド・タイムス・ロール 3:46
	SLAYED	スレイド?		1972	グラムロッ ク	CD	01. How D'You Ride 02. The Whole World's Goin' Crazee 03. Look at Last Nite 04. I Won't Let It Appen Agen 05. Move Over 06. Gudbuy T'Jane 07. Gudbuy Gudbuy 08. Mama Weer All Crazee Now 09. I Don't Mind 10. Let the Good Times Roll / Feel so Fine		

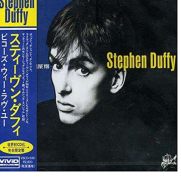
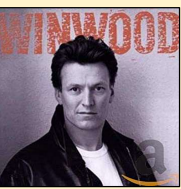
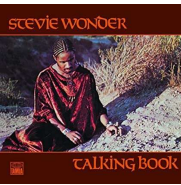
	SLAYED	スレイデスト		1973	グラムロック	レコード	英国の国民的グラムバンド、スレイドがデビュー後「ブレイ・イット・ラウド」、「スレイド?」とアルバムを立て続けにヒットさせ人気爆発のさなかにこれでもかとリリースされた72年のベスト盤。初期スレイドの魅力がたっぷりと詰め込まれ、72年当時の彼らの勢いを追体験できるような1枚。野太いハイトーンが特徴のノディの声が年齢的にもう限界であることを裏付ける最新曲「レイディオ・ウォール・オブ・サウンド」を絡めたベスト版。	01. Cum on Feel the Noize 02. Look Wot You Dun 03. Gudbuy T'Jane 04. One Way Hotel 05. Skweeze Me Pleeze Me 06. Pouk Hill	07. The Shape of Things to Come 08. Take Me Bak 'Ome 09. Coz I Luv You 10. Wild Winds are Blowing 11. Know Who You Are 12. Get Down and Get With It 13. Look at Last Nite 14. Mama Weer All Crazee Now
	SLAYED	ウォール・オブ・ヒッツ			グラムロック	CD	70年代にイギリスで別格の人気を誇っていたスレイドだが、日本ではさっぱりだった。グラム・ロックとヘヴィー・メタルの仲間をいくようなサウンドがどちらつかずだったせいだろうが、彼らが後のプリティッシュ・ロック・シーンに残した影響は大きい。	1ゲット・ダウン 2だから君が好き 3恋の赤信号 4恋のバック・ホーム 5クレイジー・ママ 6グッバイ・ジェーン 7カモン!! 8スクイーズ・ミー・プリーズ・ミー 9マイ・フrend・スタン 10エヴリデイ	11バンギン・マン 12ファー・アウェイ 13ハウ・ダズ・イット・フィール 14サンクス・フォー・ザ・メモリー 15レッツ・コール・イット・クイット 16マイ・オー・マイ 17ラン・ラン・アウェイ 18ラジオ・ウォール・オブ・サウンド 19ユニヴァース 20メリー・クリスマス・エヴリバディ
	SLITS	カット		1979	ニューウェーブ	レコード	1979年リリース。まさにニューウェーブの金字塔と呼ぶべきスリッツのデビュー・アルバム。その後のパンク・ニューウェーブ、オルタナティブ系のアーティストに計り知れない影響を与えたフリーキー・サウンド。マトンビのデニス・ボーヴェルをプロデューサーに迎え、パンクとダブを折衷した先鋭的なサウンドで世間に衝撃を与えた名盤。自由でアバンギャルド、ラジカルかつポップ。ダブ、レゲエとパンクの親和性の高さを雄弁に証明する、ニューウェイヴ期のアイランドを代表する名作。	Side A 1. インスタント・ヒット 2. ソー・タフ 3. スペンド・スペンド・スペンド 4. ショプリフティング 5. FM	Side B 1. ニュータウン 2. ビンボン・アフエア 3. ラヴ・アンド・ロマンス 4. ティビカル・ガールズ 5. アドヴェンチャーズ・クロース・トゥ・ホーム
	SLITS	カット		1979	ニューウェーブ	CD		1. インスタント・ヒット 2. ソー・タフ 3. スペンド・スペンド・スペンド 4. ショプリフティング 5. FM 6. ニュータウン 7. ビンボン・アフエア	8. ラヴ・アンド・ロマンス 9. ティビカル・ガールズ 10. アドヴェンチャーズ・クロース・トゥ・ホーム 以下、ボーナス・トラック 11. 悲しい噂 12. リーベ・アンド・ロマンス (スロー・ヴァージョン)
	SLY & THE FAMILY STONE	ライフ		1968	ロック	CD	1968年作品。1968年春、「ダンス・トゥー・ザ・ミュージック」のヒットがする中で、間をおかず、一気に録音された3rdアルバム。前作では大衆に受け入れられるようなポップなアプローチを見せたスライだったが、同時期に起こったマーティン・ルーサー・キング牧師の暗殺など大きな事件を経て、今作では再び舌鋒鋭い批評精神と、同時に「フラワー・チルドレン」世代らしい楽観志向も見せている。フレディのサイケデリックなギターが前面にフィーチャーされ、ラリー・グラハムのベースを中心にダンス性も強化されるなどして、初期スライ・サウンドが完成に近づきつつあることを感じさせてくれる。名作『スタンド!』へのステップになった作品として、後年高く評価されている。	1ダイナマイト! 2チキン 3プラスチック・ジム 4ファン 5イントゥ・マイ・オウニング	6ハーモニー 7ライフ 8ラヴ・シティ 9アイム・ア・アニマル 10マレデー 11ジュン・イズ・ア・グルービー
	SLY & THE FAMILY STONE	スタンド!		1969	ロック	CD	スライ&ザ・ファミリー・ストーンが1969年に発表した4作目のアルバム。第一弾シングル「エヴリデイ・ビープル」は4週連続で全米No.1を記録。公民権運動に揺れるアメリカ社会に向けて、人種問題をスライなりのアプローチで描いたこの歌には、彼の思想が表れている。そうしたメッセージ性は今作において強まっており「スタンド!」「ドント・コール・ミー・ニガー・ホワイティー」等にそれらが伺え、但しスライのそれは、黒人の権利を主張するものというより生き方としての主張だった。音楽的には前作の延長線上にあるが今作からは「エヴリデイ・ビープル」、〈シングル・アシンプル・ソング〉、〈スタンド!〉、〈アイ・ウオント・トゥ・テイク・ユー・ハイヤー〉4曲のシングルヒットが生まれ、世界的に知られる事となったこのアルバムは、音楽史上の傑作の一枚に数えられている。	1スタンド! 2ドント・コール・ミー・ニガー・ホワイティー 3アイ・ウオント・トゥ・テイク・ユー・ハイヤー 4サムバディズ・ウォッチング・ユー 5シグ・ア・シンブル・ソング 6エヴリデイ・ビープル 7セックス・マシーン 8ユー・キャン・メイク・イット・イフ・ユー・トライ	
	SLY & THE FAMILY STONE	暴動		1971	ロック	レコード	SLYの最高傑作にして歴史に残るFUNK金字塔。ビルボード初登場NO.1となったアルバム。ドラム・マシーンを多用したダークなファンクの新機軸。「ファミリー・アフエア」「スペース・カウボーイ」「アフリカは君に語りかける」他、全12曲を収録。Stand!なんて意気揚々と黒人としてのアイデンティティを鼓舞していた頃のSLYの姿は、もうココにはない。ただ打ちひしがれ、翼をものがれ「のたうつー人の男」が居るだけだ。内省的で自虐的なサウンド、それが痛く美しい。	Side A 1. ラヴン・ヘイト - 4:01 2. 子供のように - "Just Like a Baby" - 5:11 3. ポエット - 3:01 4. ファミリー・アフエア - 3:04 5. アフリカは君に語りかける - "Africa Talks to You "The Asphalt Jungle" - 8:45 6. 暴動 - "There's a Riot Goin' On" - 0:00	Side B 1. プレイブ&ストロング - 3:29 2. スマリン - 2:54 3. タイム - 3:01 4. スペース・カウボーイ - 3:59 5. ランニン・アウェイ - 2:56 6. サンキュー・フオートーキン・トゥ・ミー、アフリカ - 7:12
	SLY & THE FAMILY STONE	暴動		1971年11月20日	ロック	CD	単調な繰り返しのように、癒される至高の名曲 "Family Affair"、牧歌のようでありながら教訓めいた歌詞が光る "Runnin' Away" といつ聴いても心に落ち着きを与えてくれる薬のような作品。このアルバム全体を覆う気だるさ、倦怠感、ダークさがこれがこれまでの陽気なバワフルなファンクというイメージとかけ離れていたのだがこのアルバムを聴き進めていくうちそれこそが「ファンク」の本質なんではないかという気分にもなってくる。	1ラヴン・ヘイト 2子供のように 3ポエット 4ファミリー・アフエア 5アフリカは君に語りかける 6暴動	7プレイブ&ストロング 8スマリン 9ポエット 10スペース・カウボーイ 11ランニン・アウェイ 12サンキュー
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1966	ロック	CD	1965年に結成されたスモール・ウェイセスのデビュー作、リリースは1966年。スモール・ウェイセスは、ロンドン、イーストエンド出身のモッズバンドで、スティーヴ・マリOTTと、ロニー・レーンが中心にイアン・マクレガン、ケニー・ジョーンズの4人で結成されたグループで、当時流行していたモッズにターゲットを絞ってマーケティングされた。アグレッシヴでクールなサイケデリック味と、熱いソウルフル・ヴォイスが楽しめる「カモン・チルドレン」「ワン・ナイト・スタンド」他、初期のThe Whoに似たR&B色の強い音だ。凄まじい勢いのある演奏と、スティーヴ・マリOTTのソウルフルなヴォーカルに驚かされます。マリOTTのメイヴィスステイブルばりのキーの高いソウルフルなシャウト、ディストーションの効いたグレッツのギター、ロニーの重いベース、マックのフッカーTIに影響を受けたオルガン、ケニーのシャープなドラム。どの曲も文句なしにかっこいい。 まず、ロニー・レーンのヴォーカルで1曲目「Shake」の最後にスティーヴ・マリOTTの歌声が聞こえてきたかと思うと、 2曲目「Come On Children」からスティーヴ・マリOTTが一気に攻撃的なヴォーカルで蹴散らしていきます。また、9曲目「You Need Loving」はレッド・ツェッペリンの「Whole Lotta Love」の原曲にもなっている作品です。他に11曲目「E To D」等とブルーージーな味付けが良すぎるので、逆にハードロックの原型にも聞いてとれる趣もあります。モッズ全盛期の傑作アルバム。 67年発表の2nd。1st発表後、グループがイミディエイトに移籍することになったため、デッカがシングル曲、未発表曲を編集して製作したアルバム。1stやイミディエイトから発表される3rdから一部の曲が重複しているが、そんなことは全く気にならない完全な作品として仕上がっている。 1. はデル・シャノンのヒット曲のカヴァー。ちょっと意外な気もするが、見事なハマリ具合でなかなかの仕上がり。2. はバロック調のメロディを持ったフォーク・ロック。可愛らしくもカッコ良い佳曲。3. はややサイケ掛かった曲。アコギとオルガン、コーラスなどが絡んで幻想的に聞かせる。4. もサイケなフォーク・ロックという趣き。6. はポップでご機嫌な雰囲気を持ったチャッフル曲。このグループの良い部分の一端を見せる佳曲だと思う。7. は3rdに収録されている曲の初期バージョン。9. は全英1位の彼らの代表曲の一つ。 モータウンやR&Bなどを消化してそれをシャープなギター・サウンドでまとめたこの時期の典型的なモッズ・サウンドは未だに新鮮。マリOTTのヴォーカルは英国屈指の一つだが、シンブルが故に印象的なギターも注目に値する。あくまでも編集盤だが、楽曲の質からしても残り物でないことは確かだ。	1. シェイク 2. カモン・チルドレン 3. ユー・ベター・ビリーヴ・イット 4. イッツ・トゥー・レイト 5. ワン・ナイト・スタンド 6. ホワツチャ・ゴナ・ドゥ・アバウト・イット	7. ソーリー・シーズ・マイン 8. オウン・アップ・タイム 9. ユー・ニード・ラヴン 10. ドント・ストップ・ホワット・ユー・アー・ドゥーイング 11. E・トゥー・D 12. シャ・ラ・ラ・ラリー
	SMALL FACES	フロム・ザ・ビギニング		1967	ロック	CD	1967年発表のDeccaからImmediateに移籍後初となるアルバム。	1悲しき街角 2マイ・マインズ・アイ 3イェスタイトゥデイ・アンド・トゥモロウ 4ザット・マン 5マイ・ウェイ・オブ・ギヴィング 6ヘイ・ガール 7テル・ミー・ハヴ・ユー・エヴァー・シーン・ミー	8ティク・ディス・ハート・オブ・ミー 9オール・オブ・ナッシング 10ベイビー・ドント・ユー・ドゥ・イット 11ブラム・ネリー 12シャ・ラ・ラ・ラリー 13リアリー・ゴット・ホールド・オン・ミー 14ホワツチャ・ゴナ・ドゥ・アバウト・イット
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1967	モッズ・ビート・バンド	レコード		Side A 1. ハヴ・ユー・エヴァー・シーン・ミー 2. サムシング・アイ・ウオント・トゥ・テル・ユー 3. フィーリング・ロンリー 4. ハッピー・ボーイズ・ハッピー 5. シングス・アー・ゴーイング・トゥ・ゲット・ベター 6. マイ・ウェイ・オブ・ギヴィング 7. グリーン・サークルズ	Side B 1. ピカム・ライク・ユー 2. ゲット・ユアセルフ・トゥゲザー 3. オール・ア・ウェイ・イェスタイズ 4. トーク・トゥ・ユー 5. ショウ・ミー・ザ・ウェイ 6. アップ・ザ・ウダウン・ヒルズ・トゥ・ベド・フォー・ドシャ 7. エディーズ・ドリー・ミング
	SMALL FACES	スモール・フェイス		1967	モッズ・ビート・バンド	CD			
	SMALL FACES	オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク		1968	モッズ・ビート・バンド	レコード	1968年発表の通算4枚目のアルバム。初のコンセプト・アルバムで全英チャート6週間連続1位を記録したスモール・フェイスの代表作。「アフター・グロウ」他、当時のイギリスの熱気漂うクールなサイケデリック・ムードを封じ込めた12曲。 このアルバムでは前半部では彼らの地元であるロンドンの下町(コックニー)のエピソードを盛り込んだ楽曲が並び、後半部では「Happiness Stan」という「月夜の夜に、月を捕まえようと旅に出た男」の物語が展開する。このストーリーはロンドンの下町に語り継がれているそうで、彼らの出自の物語を基に曲作りを行っている。また、紙巻きタバコの缶にのデザインにヒントを得たとされる円形のジャケットも珍しく、話題性に富んだ一枚である。	Side A 1. オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク 02:29 2. アフター・グロウ 03:30 3. ロング・ア・ゴーズ・アンド・ワールズ・ア・バート 02:34 4. レース 04:31 5. ソング・オブ・ア・ベイカー 03:18 6. レイジー・サンディ 03:07	Side B 1. ハビネス・スタン 02:37 2. ローリン・オーヴァー 02:50 3. ザ・ハングリー・イントウル・ダー 02:15 4. ザ・ジャーニー 04:12 5. マッド・ジョン 04:15 6. ハッピー・ディズ・イ・タウン 02:5
	SMALL FACES	オグデンズ・ナット・ゴーン・フレイク		1968	モッズ・ビート・バンド	CD			

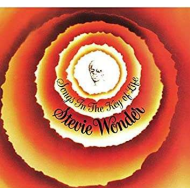
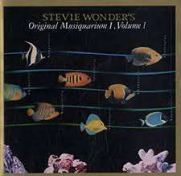
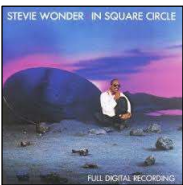
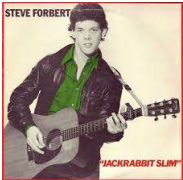
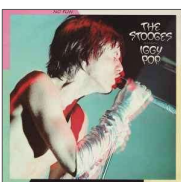
SMALL FACES	オータム・ストーン		1969	モッズ・ビート・バンド	CD	スモール・フェイススの1969年に発表したアルバム。解散公演直後にリリースされた、ヒット曲とライブなどで構成されたアンソロジー的作品。スティーヴ・マリOTT脱退という緊急事態に慌てた当時のレーベルが出したアンソロジー的な企画盤だが、レーベルを超えた彼らの代表曲が入っている事、未発表曲やライブなど、多面的なレア音源も含まれており資料的価値が高い	1ビ・カムズ・ザ・ナイス 2オータム・ストーン 3コリボツジャー 4オール・オア・ナッシング 5レッド・バブルーン 6レイジー・サンディ 7コール・イット・サムシング・ナイス 8アイ・キャント・メイク・イット 9アフターグローウ・オブ・ユア・ラヴ 10シャ・ラ・ラ・リー 11ユニヴァーサル	12ローリン・オーヴァー<ライブ> 13イフ・アイ・ワー・ア・カーペンター<ライブ> 14エヴリ・リトル・ビット・ハーツ<ライブ> 15マイ・マインズ・アイ 16ティン・ソルジャー 17ジャスト・バッシング 18イチクー・バーク 19ヘイ・ガール 20ワイド・アイド・ガール・オン・ザ・ウォール 21ワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット 22ワム・バム・サンキュー・mam
SMALL FACE	デッカ・アンソロジー		1996	モッズ・ビート・バンド	レコード	イギリスの"ACID JAZZ"レーベルが出版した伝記本と同時期にリリースされたトリビュート盤に合わせてリリースされた、スモール・フェイススのデッカ時代のコンプリート・ベスト盤。全シングル(AB面)とアルバム収録曲を順に並べ、スティーヴ・マリOTTが63年に吹き込んだソロ・シングル「Give Her My Regards」「Imaginary Love」、初代キーボードのジミー・ウィンストンがバンド脱退後に残したシングル「Sorry She's Mine」「It's Not What You Do」も追加収録。1stの冒頭を飾ったロニー・レインの生涯最もワイルドなVoが聴けるサム・クック・カヴァー「Shake」が疾走感抜群で最高。他にもカヴァーはセクス抜群で、ビートルズも演ったミラクルズ「You've Really Got A Hold On Me」、マーヴィン・ゲイ「Baby Don't You Do It」、ドン・コウエイ「Take This Hurt Off Me」と演ってます。デビュー・ヒット「What'cha Gonna Do About It」、出世作となったキャッチーなメロの大ヒット「Sha-La-La-La-Lee」、最高傑作とも思えるNo.1ヒット「All Or Nothing」なんかで切れ味最高で文句無し。1stに入ってたザ・フーにも負けないパンキッシュな「Come On Children」、モータウン調ながら激ソリッドな「You Better Believe It」、ツェッペリンの「胸いっぱいの愛を」はコレやったんかと分かる「You Need Loving」と、すでにハンブル・バイみたいな血管プチ切れVoもナイス。他ではロッド・スチュワートも2ndで演ってた「My Way Of Giving」や、デル・シャノンの「Runaway」なんかもエエ感じ。インストではイアン・マクレガンのグルーヴィーなオルガンが暴れまくる「Grow Your Own」や「Almost Grown」など必聴。全54曲収録の完全盤！	1枚目 Side 1 1. What'cha Gonna Do About It 01:58 2. What's A Matter Baby 02:54 3. I've Got Mine 02:52 4. It's Too Late 02:36 5. Sha-La-La-La-Lee 02:54 6. Grow Your Own 02:18 7. Hey Girl 02:17 8. Almost Grown 03:01 Side 2 1. Shake 02:54 2. Come On Children 04:19 3. You Better Believe It 02:18 4. One Night Stand 01:49 5. Sorry She's Mine 02:48 6. Own Up Time 01:46 7. You Need Loving 03:58 8. Don't Stop What You're Doing 01:53 9. E Too D 03:02	2枚目 Side 3 1. All Or Nothing 03:07 2. Understanding 02:50 3. My Minds Eye 02:04 4. I Can't Dance With You 03:16 5. Just Passing 01:14 6. Patterns 02:06 7. Runaway 02:47 8. Yesterday,Today And Tomorrow 01:56 9. That Man 02:16 Side 4 1. My Way Of Giving 02:01 2. (Tell Me) Have You Ever Seen Me 02:18 3. Take This Hurt Off Me 02:18 4. Baby Don't You Do It 02:03 5. Plum Nellie 02:32 6. You've Really Got A Hold On Me 03:19 7. Give Her My Regards 01:58 8. Imaginary Love 02:20 9. Sorry She's Mine 03:01 10. It's Not What You Do 03:03
SMALL FACE	ナイス		2001	モッズ・ビート・バンド	CD	ザ・フーとともにロンドン・モッズを代表するバンドだったスモール・フェイスス。その彼らが66'67年にかけての全盛期、ドイツのテレビ番組に出演した際の貴重なスタジオ・ライブ全10曲の編集盤。大ヒット曲「オール・オア・ナッシング」から、ジャムのカヴァーで有名な「ティン・ソルジャー」まで代表曲を網羅しているばかりか、その躍動感あふれる演奏も、故スティーヴ・マリOTTのソウルフルなヴォーカルも絶品だ。おまけとして全曲のビデオ映像が観られるエンハンスドCDも付いたファン必携の永久保存盤。	ディスク: 1 1ヘイ・ガール 2オール・オア・ナッシング 3ホワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット 4シャ・ラ・ラ・リー 5アイ・キャン・メイク・イット 6ヒ・カムズ・ザ・ナイス 7グリーン・サークルズ 8イチクー・バーク 9ティン・ソルジャー 10レイジー・サンディ	ディスク: 2 1ヘイ・ガール 2オール・オア・ナッシング 3ホワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット 4シャ・ラ・ラ・リー 5アイ・キャン・メイク・イット 6ヒ・カムズ・ザ・ナイス 7グリーン・サークルズ 8イチクー・バーク 9ティン・ソルジャー 10レイジー・サンディ ※(CDエクストラ)
SMALL FACE	BBCセッションズ			モッズ・ビート・バンド	CD	スモールフェイススがデビューして解散するまでの1965年～1968年にBBCに出演した際の演奏を集めた一枚。今までオリジナル・ティク以外は、数曲のライブやミックス違いなどしか発表されていなかったが今回初めて発表された音源。代表曲15曲の他、スティーブ・マリOTTとケニー・ジョーンズの貴重なインタビューも収録されている。未発表曲「ジャンプ・バック」を収録。	1ワッチャ・ゴナ・ドウ・アバウト・イット 2ジャンプ・バック 3ベイビードント・ユー・ドウ・イット 4シェイク 5シャ・ラ・ラ・リー 6ユー・ニード・ラヴィング 7ヘイ・ガール 8E Too D 9ワム・ナイト・スタンド 10ユード・ベター・ビリーヴ・イット	11アンダースタンディング 12オール・オア・ナッシング 13イフ・アイ・ワー・ア・カーペンター 14レイジー・サンディ 15エヴリ・リトル・ビット・ハーツ 16インタヴュー・ウィズ・スティーヴ・マリOTT 17インタヴュー・ウィズ・スティーヴ・マリOTT 18インタヴュー・ウィズ・スティーヴ・マリOTT 19インタヴュー・ウィズ・スティーヴ・マリOTT 20インタヴュー・ウィズ・ケニー・ジョーンズ
SMALL FACE (MARRIOTT&THE ALL STARS)	ザ・フェイスス・ハンブルバイ・パケット・オブ3		1996		CD		1Itchycoo Park 2Whatcha Gonna Do About It 3Heartbeat 4Sha La La La Lee 5Natural Born Boogie 6Toe Rag	7Walking The Dog 8You Don't Own Me 9Lazy Sunday Afternoon 10Every Mother's Son 11Tin Soldier 12Alabama 69
SMITHS	ザ・スミス		1984	ニューウェーヴ	レコード	1984年2月に発表したファースト。繊細でいて不遜にも響く歌声、諧謔や皮肉に満ちた内省的な詞世界、それを受け止める簡素な演奏のバランスはこの時点でもう絶妙だ。幕開けを飾る"Reel Around The Fountain"や"Still Ill"など、ジャングリーな文化系ギター・ポップの名盤。アルバムの雰囲気は全体に物寂しく、「スティル・イル」や「サファアー・リトル・チルドレン」といった曲タイトルがそれを物語っていた。「サファアー・リトル・チルドレン」は、1960年代にマンチェスターで起こり全英を震え上がらせたマイラ・ヒンドリーによる連続少年殺人事件(ムーア連続殺人)を題材にしたものである。その他明らかなことは、モリッシーが歌詞などの中でわざわざ多くの文学やポップカルチャーに言及していることである。インタビューでも彼のアイドル(アラン・ドロン、ジェームズ・ディーン、そして特にオスカー・ワイルド)について頻繁に認めているほか、歌詞の中でもささやかな引用を行っている。「プリティ・ガールズ・メイク・グレイヴス」というタイトルはジャック・ケルアックの小説『The Dharma Bums』の一節から採られている。こうした引用は、もともと読書好きな傾向のあったザ・スミスのファンを熱中させる要素となった。さらに『サファアー・リトル・チルドレン』は、題材になった連続殺人の犠牲者の祖母がたまたまパブのジュークボックスで聴いたことから抗議がバンドに寄せられた。しかし曲自体は子供たちの面した悲劇に対し同情的なものであり、モリッシーは後に曲の中で名前に言及した犠牲者レスリー・アン・ダウニーの母アン・ウェストと友情を築いている。		
SMITHS	ハットフル・オブ・ホロウ		1984年11月	ニューウェーヴ	レコード	1984年11月に発表したコンピレーション・アルバム。バンドにとって通算2作目のアルバムに当たる。2作目がこのような形態となったのは、1stの録音に納得が行かなかったからと言われる。1983年、バンドは4度にわたってBBCレディオ・ワンの音楽番組のためにスタジオ・ライブ録音を行い、本作にはそこから10曲の音源が収録された。「ハンド・イン・グローヴ」はバンドのデビュー・シングルで、アルバム『ザ・スミス』(1984年)ではジョン・ボーターによってリミックスされていたが[7]、本作にはオリジナル・ミックスが収録された。その他の5曲は、アルバム『ザ・スミス』以降に発表されたシングルA面/B面曲である。本作のジャケットに写っている人物Fabrice Colettelは、ジャン・コクトーの絵にインスパイアされたタトゥーを肩に入れているが、1987年以降の再発盤ではジャケット・デザインが変更され、表ジャケットでは肩のタトゥーが見えなくなっている。	Side A 1. ウィリアム 2. ホワット・ディファレンス・ダズ・イット・メイク? 3. ジーズ・シングス・ティク・タイム 4. ジス・チャミング・マン 5. ハウ・スーン・イズ・ナウ? 6. ハンサム・デヴィル 7. ハンド・イン・グローヴ 8. スティル・イル	Side B 1. ヘヴン・ノウズ 2. ジス・ナイト・ハズ・オーブンド・マイ・アイズク? 3. ユーヴ・ゴット・エヴリシング・ナウ 4. アクセプト・ユアセルフ 5. ガール・アフレッド 6. バック・トゥ・ジョーアルド・ハウス 7. リール・アラウンド・ザ・ファウンティン 8. プリーズ・プリーズ
SMITHS	ミート・イズ・マダー		1985	ニューウェーヴ	レコード	1985年2月に発表した2作目のスタジオ・アルバム。前作以上に赤裸々に耳障りかつ政治的な歌詞が多く、特にタイトルトラック「ミート・イズ・マダー」は肉食主義の主張が濃いものだった[注釈 7]。ほかにも王室に対する反発を歌った陽気な曲「ノーホエア・ファスト」、体罰の横行する学校生活を歌った「ザ・ヘッドマスター・リチュアル」と「バーバリズム・ビギンズ・アット・ホーム」なども強い印象を残した。音楽的には、バンドはより成長しさまざまなスタイルへの挑戦を行っていた。「ラショーム・ラフィアンズ」にはマーはロカビリー風のリフを加え、「バーバリズム・ビギンズ・アット・ホーム」ではルークはファンク・ベースでソロを弾いている。アルバム発売前に、かつてシングルB面に収録した「ハウ・スーン・イズ・ナウ?」を先行シングルとして再リリースしたが、この曲は「ミート・イズ・マダー」のイギリス盤には収録されなかったがアメリカ盤および1992年以後のイギリス盤では収録されている。	Side A 1. ザ・ヘッドマスター・リチュアル "The Headmaster Ritual" – 4:52 2. ラショーム・ラフィアンズ "Rusholme Ruffians" – 4:20 3. アイ・ウォント・ザ・ワン・キャント・ハヴ "I Want the One I Can't Have" – 3:13 4. ホワット・シー・セッド "What She Said" – 2:42 5. ザット・ジョーク・イズント・ファニー・エニモア "That Joke Isn't Funny Anymore" – 4:58	Side B 1. ハウ・スーン・イズ・ナウ? "How Soon Is Now?" – 6:46 2. ノーホエア・ファースト "Nowhere Fast" – 2:37 3. ウェル・アイ・ワンダー "Well I Wonder" – 4:00 4. バーバリズム・ビギンズ・アット・ホーム "Barbarism Begins at Home" – 6:57 5. ミート・イズ・マダー "Meat Is Murder" – 6:08
SMITHS	ザ・クイーン・イズ・デッド		1986	ニューウェーヴ	レコード	86年UKロック史上に輝く問題作そしてスミスの最高傑作にして最後のアルバム。(1)で聴けるジョニー・マーのギターはシャープなカッティングでドライブ感が最高です。「人生は長い、ひとりぼっちだったらね」とシャウトするモリッシーの歌声もその後のバンドの行方を暗示していたのかもしましね…。どのナンバーもつついり口ずさんでしまうくらい、美しいメロディーがたくさん入っています。それは時には自分の痛い思い出と重なってしまったりするのだけれど…。(10)はマーの美しいギターで流れるように幕を閉じます。80年代もっともイギリスのバンドらしいバンドだったザ・スミス。もっと評価されてもいいとおもいますが…。やはり名盤		
SMITHS	ザ・クイーン・イズ・デッド		1986	ニューウェーヴ	CD		1ザ・クイーン・イズ・デッド 2フランクリー、ミスター・ジャンクリー 3アイ・ノウ・イツツ・オーヴァー 4ネヴァー・ハッド・ノー・ワン・エヴァー 5セメタリー・ゲイツ 6ビッグマウス・ストライクス・アゲイン 7心に茨を持つ少年 8ヴィカー・イン・ア・テュチュ 9ゼア・イズ・ア・ライト 10サム・ガールズ	
SMITHS	ストレンジマン・チェンジマンウエイズ・ヒア・ウィ・カム		1987	ニューウェーヴ	レコード	1987年9月に発表した4作目。本作のリリース前に解散を公表し、結果的に最後のスタジオ・アルバムとなった。「ストレンジウエイズ」とはマンチェスターの王立刑務所の名前でもあった。同アルバムに収録された「ペイント・ア・ヴァルガー・ピクチャー」は、その後たくさんのコンピレーションが発売され、ザ・スミスの曲が何度も何度も再利用される将来をある意味予言した曲といえる。批評家からは様々な評価を受けたアルバムだったが、ザ・スミスのメンバーは4人ともこれをお気に入りのアルバムに挙げている。全英アルバムチャートで17週トップ100入りし、最高2位を記録	Side A 1. ザ・ランド・イズ・アワーズ – 3:01 2. アイ・スター・ティッド・サムシング – 3:47 3. デス・オブ・ア・ディスコ・ダンサー – 5:26 4. ガールフレンド・イン・ア・コマー – 2:02 5. ストップ・ミー – 3:36	Side B 1. サムバディ・ラヴド・ミー – 5:06 2. アン・ハッピー・バースデー – 2:45 3. ペイント・ア・ヴァルガー・ピクチャー – 5:35 4. デス・アット・フンズ・エルボウ – 2:01 5. アイ・ウォント・シェア・ユー – 2:51
SMITHS	ランク		1988年9月5日	ニューウェーヴ	レコード	1988年リリース。ザ・スミス解散後にリリースされた、1986年ナショナル・ポール・ルームでのライブ音源。実際のコンサートでは21曲が演奏されたが、本作にはそのうち14曲が収録され、選曲はモリッシーにより行われた。モリッシーとマーが全開でエナジーを放出するハイ・テンションなアルバム。スタジオ盤のクオリティもさることながら、ベスト盤的な要素も強い本作、とにかく全盛期の勢いがそのまま記録されている奇跡的な作品。収録14曲の内、6曲が名盤ザ・クイーン・イズ・デッドからの選曲。全英で最高2位を記録。ヴォーカルのモリッシーもノッているし、ギターのジョニー・マーの柔軟でありつつも楽曲面での屋台骨を支える的確なギターワークも冴え渡っています。バンドとしての一体感も見事。ライブとしての選曲もよく、当時のイギリスロックを体現し、かつ現在に至るイギリスのメッセーじ性+軽めの音のバンドサウンドのまさに走りでありつつあることがよく分かる出来になっていると思います。この疾走感、メッセーじもさることながら一気に勢いでたたみかけることができる音楽といえるロックをまさに地で行っている、そんな作品。	1. ザ・クイーン・イズ・デッド 2. ニック 3. ヴィカー・イン・ア・テュチュ 4. アスク 5. マリーは恋人／ラショーム・ラフィアンズ 6. 心に茨を持つ少年 7. ラバー・リング／ホワット・シー・セッド	8. イズ・イット・リデリー・ソー・ストレンジ 9. セメタリー・ゲイツ 10. ロンドン 11. アイ・ノウ・イツツ・オーヴァー 12. ザ・ドレイズ・ドレイン 13. スティル・イル 14. ビッグマウス・ストライクス・アゲイン
SMIFF'N THE TEARS	不実			ニューウェイブ	レコード			

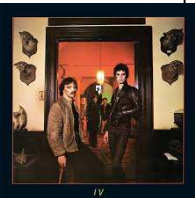
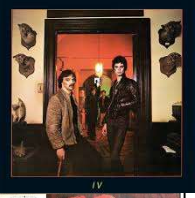
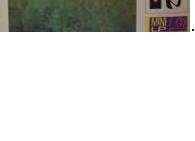
	SOFT BOYS	アンダーウォーター・ムーンライ		1980	ニューウェイブ	CD	サイケデリック・ポップ・バンド、ソフト・ボーイズの1980年リリースのサードアルバム。奇人ロビン・ヒッチコックによって結成されたNWバンド。本国イギリスよりもアメリカでカルトな人気があり、R.E.Mがその影響について言及したり、スマバンが本作収録の曲を下敷きにした曲を発表。きらびやかなサイケギターを中心としたタイトなバンドサウンドに、およそ常人とは思えない詩を吐き出すボーカルがからみつく様はかなり特異。後期ヴェルヴェッツ・初期ピンクフロイドがそのバックボーンにあるようだが、完全にオリジナリティを確立しており、比較対照とするような同時代のバンドは見当たらない。そういった意味において直系のフォロワーはGALAXIE 500とも言えそう。1作目、2作目も名盤だが、この3作目かつラストアルバムがバンドの最高傑作。とりえず脳みそが掻きまわされて不思議な高揚感におそわれることに注意。	1. アイ・ワナ・デストロイ・ユー 2. キングダム・オブ・ラブ 3. ポジティブ・バイプレーション 4. アイ・ガッツ・ザ・ホッツ 5. インセインリー・ジェラス 6. トウナイト 7. ユール・ハフ・トゥ・ゴー・サイドウェイズ 8. オールド・バーバート 9. ザ・クイーン・オブ・アイズ	10. アンダーウォーター・ムーンライト 11. ペジタブル・マン 12. ストレンジ 13. オンリー・ザ・ストーンズ・リメイン 14. ホエア・アー・ザ・ブローン 15. ドリームズ 16. ブラック・スネーク・ダイヤモンド・ロック 17. ゼアズ・ノーバディ・ライク・ユー 18. ソング No.4
	SOFT CELL			1981	エレクトロニクス	レコード	マーク・アーモンド(ボーカル)とデヴィ・ポール(シンセサイザー)のふたりによるイギリスの音楽ユニットでニュー・ウェイヴの代表的なグループ。彼らの共通のルーツであったノーザン・ソウルの要素を文学的な歌詞にのせてノイズなエレクトロニクスに取り込むという斬新なスタイル。1981年にグロリア・ジョーンズの1964年の曲(全くヒットしなかった)をカバーした「汚れなき愛 (Tainted Love)」が大ヒットし全英シングルチャートで1位となり、全米チャートでも最高で8位、43週間もチャートした。このファーストアルバムは1981年にリリース。シングルにもなった「What!」(全英チャート3位)を記録する。		
	SOFT CELL	分かれの美学(ソフトセルⅡ)		1983	エレクトロニクス	レコード	エレポップ・デュオ、ソフト・セルの1983年リリースの2nd。ヌメつとしたディスコティック・サウンドに、更に妖艶度を増した官能的なマーク・アーモンドのボーカルが映えます		
	SOFT MACHINE	ソフト・マシーン		1968年10月	ロック	CD	カンタベリー・ミュージックの中核としてロック・シーンに大きな影響を与えた重要バンドが1968年にわずか4日間で創りあげた記念すべきデビュー作。録音時のメンバーはケヴィン・エアーズ(b)、ロバート・ワイアット(dr、vo)、マイク・ラトリッジ(k)の3人。ワイルド・フラワーズを母体としたカンタベリー・ミュージックの原点の一つであるため、変に神格化してしまった感があるが、実物はこの時代にはそれほど珍しくないサイケ・ポップである。オルガンを中心に置いているため感覚としてはドアーズ辺りにも近くこの時代の典型的なトリップ・ミュージックとして楽しめると思う。聞きどころとしては非常にワイルドなマイクのオルガン・ソロだろう。彼のプレイはクールなものが多いのだが、この作品での彼は若さに任せた荒々しいプレイをしていてまた違った魅力を感じている。この作品がケヴィン・エアーズのデビュー作ともなるわけだが、彼のプレイは控えめでほとんど目立っていない。ただし作曲面では大半が彼が関わっており、ほとんど彼の作品と思って良いほどだ。ワイアットのドラムスはバタバタした相変わらずのものであり、ヴォーカルもそう。既に以降と大差がない。ほぼ全曲が繋がった作品というのもサイケ/プログレ的で楽しめる仕様だろう。ジャズ的な雰囲気は既に強いが、まだまだポップ系の作品。ロバート・ワイアット、マイク・ラトリッジ、ケヴィン・エアーズそれぞれの個性が、三者三様に織り成す異色のサイケデリック・ポップ・アルバムに仕上がっている。	1. ホープ・フォー・ハビネス 04:19 2. ジョイ・オブ・アトイ 02:48 3. ホープ・フォー・ハビネス(リブリーズ) 01:38 4. ホワイ・アム・アイ・ソー・ショート 01:36 5. ソー・ブート・イフ・アット・オール 07:22 6. ア・サートウン・カインド 04:12	7. セイヴ・ユアセルフ 02:23 8. プリシラ 01:01 9. ララバイ・レター 04:40 10. ウィ・デッド・イット・アゲイン 03:44 11. プリュ・ベル・キユス・プーベル 59 12. ホワイ・アー・ウィー・スリーピング 05:30 13. ボックス・25/4・リッド 47
	SOFT MACHINE	ヴォリューム1&2		1968年10月	ロック	CD	初期2作品のカップリング。これ以降は難解なジャズ・ロックになるがこの2作はサイケ時代をもろに反映したまさしくアヴァン・ポップな逸品。このアルバムはサイケでありジャズロックでもありアヴァンギャルドでもある不思議な内容だ。ロバート・ワイアットのなんとも言えな耳に残るヴォーカルは絶対に外せないものだ。そして彼の変速ドラムもまたいい。キーボードのマイク・ラトリッジとベースのヒュー・ホッパーもとてもセンスがいい！バランスの良いトリオだ。一般的にはセカンドの方が評価が高いが、実はファーストにこそ毒がある！ケビン・エアーズのベースラインはかなり格好いい。ドラム、ベース、オルガンの絡みが絶妙な上に、ワイアットのヴォーカルなのだから言うことはなし。	1. ホープ・フォー・ハビネス 2. ヨイ・オブ・アトイ 3. ホープ・フォー・ハビネス 4. ホワイ・アム・アイ・ソー・ショート 5. ソー・ブーツ・イフ・アット・ホール 6. サーテン・カインド 7. セイヴ・ユアセルフ 8. プリシラ 9. ララバイ・レター 10. ディド・イット・アゲイン 11. 塵箱より美しく 12. ホワイ・アー・ウィ・スリーピング 13. BOX 25/4LID 14. バタフィジカル・イントロダクション・パート 15. 蒸気式アルファベット・パート1 16. ティーン・エイジ・ライオット[6:58] 17. シルヴァー・ロケット[3:47] 18. ザ・スプラウル[7:42] 19. クロス・ザ・ブリーズ[7:00] 20. エリックス・トリップ[3:48] 21. トータル・トラッシュ[7:33]	16. イブ・アネモネ・アンド・ベア 17. 英国式アルファベット・パート2 18. ハローデア 19. ダイ・ワズ・ヒア 20. サンキュー・ビエロ・リュネール 21. ハブ・ユー・エバー・ビーン・グリーン 22. バタフィジカル・イントロダクション・パート2 23. アウト・オブ・チューンズ 24. ヒー・ライズ・バーフェクトリー・スティル 25. まだ見ぬ君へ 26. ファイヤー・エンジン 27. ビッグ 28. オレンジ・スキン・フード 29. ドア・オープン・アンド・クローゼス 30. リネンズ・アンド・ザ・ベッドルーム 31. ベイ・ジョーニ[4:28] 32. プロヴィデンス[2:41] 33. キャンドル[4:58] 34. レイヴン・キング[4:39] 35. キットサビリティ[3:08] 36. ザ・ワンダー[4:07]
	SONIC YUHE	デイドリーム・ネイション		1988	ニューウェーブ	CD	ソニック・ユース。1988年にリリースした5枚目のスタジオアルバム。1981年にニューヨークでサーストン・ムーア(g、vo)、キム・ゴードン(b、g)、リー・ラナルド(g)を中心に結成されたオルタナティヴ・ノイズロックバンド。インディーズ時代の最後を飾る作品であり、80年代のアメリカのロック史にその名を刻んだ大傑作アルバム。1980年代初頭からアメリカン・インディ・ロック・シーンの旗手として活躍し、のちにニルヴァーナが登場する基礎を作ったオルタナティヴ・ロック/グランジ・ロックの先駆的バンド、ソニック・ユースが1988年にリリースした、インディ時代最後のアルバム。通算6作目。今なお色あせないノイズでカオスな1枚。変則チューニングの実験的ノイズ・サウンドと、トラッドなロックの危うくも絶妙なバランスで、物質主義の中の麻痺感覚と反抗を描ききり、ジェネレーションXの若者の心を鷲づかみ!米英のインディ・モータースでNo.1となった「モイメント・エイジ・ライオット」他...全12曲を収録。	1. ティーン・エイジ・ライオット[6:58] 2. シルヴァー・ロケット[3:47] 3. ザ・スプラウル[7:42] 4. クロス・ザ・ブリーズ[7:00] 5. エリックス・トリップ[3:48] 6. トータル・トラッシュ[7:33]	8. ミルドレッド・ピアス[2:13] 9. シンデレラス・ビッグ・スコア[5:55] 10. スクーター・アンド・ジックス[1:06] 11. ティタニウム・エクスボーズ[6:25] 12. ホワイト・クロス (ライブ) (ボーナス・トラック)[5:07] 13. エリックス・トリップ (ライブ) (ボーナス・トラック)[3:32] 14. シンデレラス・ビッグ・スコア (ライブ) (ボーナス・トラック)[6:34] 15. ザ・ベッドルーム (ライブ) (ボーナス・トラック)[3:39]
	SONIC YUHE	グー		1990	ニューウェーブ	CD	ソニック・ユースが1990年に発表したメジャー・デビュー・アルバム。アメリカン・オルタナ・ロックの先駆的作品となった一枚。次作『ダーティ』とともに、ニルヴァーナ、サウンドガーデン、パール・ジャム他のオルタナ/グランジ系フォロワー・バンドが全世界でブレイクする端緒を切り開いた名盤。	1. ダーティ・ブーツ[5:29] 2. チュニック[6:22] 3. メアリー・クライスト[3:11] 4. クール・シング[4:06] 5. モート[7:37] 6. マイ・フレンド・GOO[2:19] 7. ディスアピアー[5:08]	
	SPANDAU BALLET	ジャーニーズ・トゥ・グロリー		1981	ニューウェイブ	レコード			
	SPANDAU BALLET	バレード		1984	ニューウェイブ	レコード			
	SPARKS	キモノ・マイ・ハウス		1974	ニューウェーブ	レコード			
	SPARKS	恋の自己顕示(プロバガンダ)		1974	ニューウェーブ	レコード	スパークスの2ndアルバム。基本的には1stの路線を踏襲していますが、この独特な音楽性はアルバム1枚を通して聴くのも疲れるほど個性的です。この後、徐々にポップになっていきますがエキセントリックなところは残っていました。やっていた本人たちも、よく飽きずに続けられたと感心します。このアルバムの聴きどころは、彼らのコンセプトに美しいメロディがのった「家へ帰れない」とアルバム最後のラッセル兄弟のインタビューでしょう。このバンドの場合、1st、2ndはははずせないと思います。		
	SPARKS	スパーク・ショー		1975	ニューウェーブ	レコード			
	SPARKS	弱い者いじめ		1982	ニューウェーブ	レコード	ヴァージンでの2作。地元L.A.のパンクバンド「ベイツ・モーター」をバックに迎え、久々にロックバンド形式で新作を録音した。力強さとオモチャのような安っぽさの同居したベイツ・モーターの演奏が、スパークスのキツチュな魅力を80年代の空気の中で再生した。プロデューサーはモロダー所有のミュージックランド・スタジオのエンジニア、ラインハルト・マック。クイーン後期やELOの名作で知られる彼の、幾重にも音を重ねて作った狂躁的なパワーポップ・サウンドこそが、当時の世間がスパークスに求めていた音そのものだったと、あらためて気付かされる。当初はチャート・トリックのリック・ニールセンがプロデュースする計画があったという話も、うなずける音だ。アメリカ帰国以後パンク・シティポップ・ディスコと(傍目には)迷走し、困惑させられていたファンも納得の、久々の「スパークスらしい」快作。結果的にビッグヒットにはならなかったものの、アメリカ西海岸のローカル局で頻繁にオンエアされ、次作以降のブチブレイクの下地となった。	01. ティップス・フォー・ティーンズ 02. ファニー・フェイス 03. ホエア・マイ・ガール 04. アップステアズ 05. アイ・マリド・ア・マーシャ 06. ザ・ウィーズ 07. ドント・シュート・ミー 08. スージー・セイフティ 09. ザッツ・ノット・ナスタシヤ 10. ワッキー・ウィメン	
	SPECIALS	スペシャルズ		1979	ニューウェイブ	レコード	スペシャルズの1979年記念すべきデビュー・アルバム。ジェリー・ダマーズ(key)、テリー・ホール(vo)を中心とするイングランドの2トーン/スカ・リヴァイヴァル・バンド、ザ・スペシャルズ。スカとパンクを融合させたサウンドで、2トーンの一太ムーブメントを起こした白人と黒人の混合バンド、ザ・スペシャルズのデビュー・アルバム(1979年作品)。プロデュースは、エルヴィス・コストロが担当。リードとリズムにはつきりと振り分けた二本のギターの絡み。実はかなり上手いリズム隊が織り	Side A 1. キヤングスターズ 02:48(日本盤のみ入っている) 2. ルーディーたちへのメッセージ 02:52 3. ドゥ・ザ・ドッグ 02:09 4. 何をすることも 03:25 5. ナイト・クラブ 03:23 6. うまくやったら 03:26 7. コンクリート・ジャングル 03:20 8. トゥー・ホット 03:11	Side B 1. モンキー・マン 02:45 2. 新しい時代 02:26 3. 虚ろな心 02:44 4. 愚かな結婚 03:51 5. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング 06:06 6. かわいいい悪魔 02:33 7. さて、どうする? 02:37

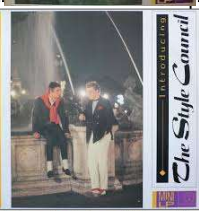
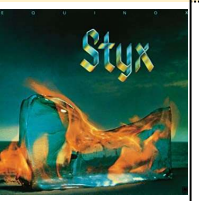
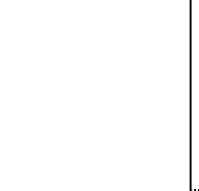
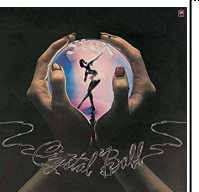
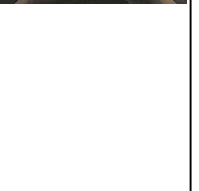
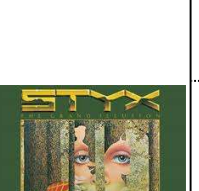
SPECIALS	スペシャルズ		1979	ニューウェイブ	レコード	なすたフなグルーヴ、どこか物憂げで投げやりなテリーと快活に振りまくるネヴィルの対照的なツインヴォーカル、痛烈な皮肉と怒りを軽妙な語り口でユーモアに昇華させた歌詞。ついでに言うと、スローな曲とアップテンポがバランス良く配置された曲順まで完璧だ。 スペシャルズが偉大なのは、音楽的にもファッション的にも明らかにスタイリッシュでありつつ、等身大の視線と親しみやすい雰囲気を持ち、さらには素晴らしいクオリティの音楽を作り上げるというバンドだった。	Side A 1. ルーディーたちへのメッセージ 02:52 2. ドゥ・ザ・ドッグ 02:09 3. 何をするにも 03:25 4. ナイト・クラブ 03:23 5. うまくやったら 03:26 6. コンクリート・ジャングル 03:20 7. トゥー・ホット 03:11	Side B 1. モンキー・マン 02:45 2. 新しい時代 02:26 3. 虚ろな心 02:44 4. 愚かな結婚 03:51 5. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング 06:06 6. かわいい悪魔 02:33 7. さて、どうする? 02:37
SPECIALS	モア・スペシャルズ		1980	ニューウェイブ	レコード	スペシャルズのセカンドアルバム。パンクっぽい1stよりポップ志向の音で、リズムボックスとホーンセクションを駆使した、エキゾチックなラウンジ・ミュージック風またはキンクス風の音。勿論#1,#2,#6等に前作の少し危ない雰囲気も残すものの、ホーンが前面に出てより洗練された感じ(#6なんかは隠れた名作です)。#9,#10のリズムボックスを使った軽いアレンジなど、スカミュージックがより咀嚼されている印象を受けます。	Side A 1. Enjoy Yourself 2. Rat Race 3. Man At C And A 4. Hey, Little Rich Girl 5. Do Nothing 6. Pearl's Cafe	Side B 1. Sock It To 'Em J.B. 2. Stereotypes-Stereotypes Part 2 3. Holiday Fortnight 4. I Can't Stand It 5. International Jet Set 6. Enjoy Yourself
SPECIALS	モア・スペシャルズ		1980	ニューウェイブ	CD	シングル曲、「Rat Race」(全英5位)、「Stereotype」(6位)、「Do Nothing」(4位)収録。「Enjoy Yourself」はカール・シグマン作曲、ガイ・ロンバード&ロイヤル・カナディアンズ録音の1949年のポピュラーソングのカヴァー。「Sock It to 'Em J.B.」はレックス・ガーヴィンの1966年のレアグルーヴ・クラシックのカヴァー。ジャマイカのトロンボーン奏者、リコ・ロドリゲス、マッドネスのリー・ジェイ・トンプソン(sax)、ザ・ボディスナッチャーズのローダ・ディカー(vo)、ザ・ゴーズ(background vocals)参加		
SPECIALS	スペシャル A.K.A. ライヴ		1980	ニューウェイブ	レコード		SIDE A 1. TOO MUCH TOO YOUNG 2. GUNS OF NAVARONE	SIDE B 1. LONGSHOT KICK THE BUCKET 2. LIQUIDATOR 3. SKINHEAD MOONSTOMP
SPECIALS AKA	イン・ザ・スタジオ		1984	ニューウェイブ	レコード	ボーカル2人、ギター2人が脱退し、新たに男女ボーカルとギター1人が加入し6人編成となったザ・スペシャル AKA名義のアルバム。50年代のJAZZアルバムを思わせるジャケットからもわかるように、スペシャルズよりもっとクールな質感でスカに拘らない多彩なサウンドが楽しめる傑作。ジェリー・ダマーズが中心となって、女性ヴォーカルもフィーチャーしてより広い範囲のブラック・ミュージックの影響が音に現れている。サウンド指向も、曲名から明白な政治的メッセージも、同時代のポール・ウェラー(スタイル・カウンシル)などと同じ方向を向いていたことがわかる。クールでありながらあくまでポップ。	1. ブライト・ライツ 2. ロンリー・クラウド 3. ガールフレンド 4. ハウスバンド 5. ナイト・オン・ザ・タイルズ 6. ネルソン・マンデラ 7. ウォーク・クライムス 8. レジスト・フンド 9. アルコール 10. ブレイク・ダウン・ザ・ドア	
SPECIALS	ギルティ・ティル・ブルーヴ・イン・セント		1998	ニューウェイブ	CD	1998年のザ・スペシャルズの復活第1弾アルバム。ストーク・プロデュースによる全18曲を収録。	1. ティアーズ・イン・マイ・ピア 2. コール・ミー・ネイムス 3. フィアフル 4. イッツ・ユー 5. ボーンディギン 6. オール・ゴーン・ロング 7. ノー・ビッグ・ディール 8. リーヴ・イット・アウト 9. キープ・オン・ランニング	10. ファンタサイズ 11. ブレイス・イン・ライフ 12. スタンド・アップ 13. マイ・ティアーズ・カム・フォーリン・ダウン・ライク・レイン 14. ザ・マン・ウィズ・ノー・ネーム 15. ランニング・アウェイ 16. ラット・レース(ゴースト・トラック) 17. コンクリート・ジャングル(ゴースト・トラック) 18. キャングスターズ(ゴースト・トラック)
SPECIALS THE BEST OF 2TON	スペシャルズ (ザ・ベスト・オブ・2 トーン)		1993	ニューウェイブ	CD	1970年代末~1980年代初めにかけて英国で吹き荒れた2トーン・ムーヴメントの歴史をまとめたアルバム。ザ・スペシャルズの「ルーディーたちへのメッセージ」、マッドネスのファースト・シングル「ザ・プリンス」、そしてザ・ビートによるスモーキー・ロビンソンのカヴァー「ティアーズ・オブ・ア・クラウン」など、スカやレゲエのテイストを取り入れたパンク・ロック・サウンドの楽曲を収録。	1. ゴースト・タウン Specials 2. オン・マイ・レディオ Selector 3. トゥー・マッチ・トゥー・ヤング Specials A.K.A. 4. ティアーズ・オブ・ア・クラウン Beat 5. ドゥ・ナッシング Specials 6. ビーブル・ドゥ・ロックステディ Bodysnatchers 7. ステレオタイプ Specials	8. ザ・プリンス Madness 9. ラット・レース Specials 10. ザ・ボイラー Specials A.K.A. 11. キャングスターズ Specials A.K.A. 12. アイ・キャン・スタンド・フォー・フォーリン・ダウン ELVIS COSTELLO 13. ネルソン・マンデラ Specials A.K.A. 14. ミッシング・ワーズ Selector 15. ルーディーたちへのメッセージ Specials 16. セレクターのテーマ Selector
SPENCER DAVIS GROUP	オータム '66		1966	ブリティッシュビート	レコード	スペンサー・デイヴィス・グループ3枚目のアルバム『Autumn '66』が1966年9月11日に20位を記録し、ベストセラーの仲間入りをした。「When I Come Home」は「Somebody Help Me」とともに『Autumn '66』に収録され、スペンサー・デイヴィス・グループのアメリカのR&Bとブルースへの愛が再び作品に現れた作品になった。ドン・コヴェイの「Take This Hurt Off Me」、バージー・スレッジのアンセム「When A Man Loves A Woman(邦題:男が女を愛するとき)」、エルモア・ジェームスの「Dust My Blue」のカヴァーも収録されている。『Autumn '66』はグループの以前の作品に比べ、オリジナル曲が多く含まれていた。カルデット全体で「High Time Baby」を書き、スペンサー・デイヴィスはスタンダードの「Midnight Special」を、スティーヴ・ウィンウッドは「On The Green Light」を書いた。新しいヒット曲となった「When I Come Home」はスティーヴ・ウィンウッドとスペンサー・デイヴィス・グループのNo.1となった2曲「Keep on Running」「Somebody Help Me」をともに制作したジャマイカのライター、ジャッキー・エドワーズがクレジットされている。アルバム『Autumn '66』は全英トップ10に8週間チャート入りし、10月に最高4位を記録した名曲が満載の一枚。	Side A 1. 愛の終わる日まで (トゥゲザー・ティル・ジ・エンド・オブ・タイム) 2. テイク・ディス・ハート・オフ・ミー 3. ノーボディ・ノウズ・ユー・ホエン・ユア・ダウン・アンド・アウト 4. ミッドナイト・スペシャル 5. 男が女を愛する時 (ホエン・ア・マン・ラヴズ・ア・ウーマン) 6. ホエン・アイ・カム・ホーム	Side B 1. ミーン・ウーマン・ブルース 2. ダスト・マイ・ブルース 3. オン・ザ・グリーン・ライト 4. ネイバー・ネイバー 5. ハイ・タイム・ベイビー 6. サムボディ・ヘルプ・ミー
SPENCER DAVIS GROUP	ライブVol.2 ショウズ			ブリティッシュビート	CD	スティーヴ・ウィンウッドが在籍していたグループが、65~68年にイギリス、ドイツ、フィンランドで行なったライブの未発表音源を集めた一枚。デビュー曲の「キープ・オン・ランニング」や大ヒット曲「ギミー・サム・ラヴィン」、ホーギー・カーマイケル作曲のスタンダード・ナンバー「我が心のジョージア」など全15曲を収録している。クロッぽくしようと背伸びしているきらいもあるが、どれもソウルフルで本当にかっこいい。	1. カンザス・シティ 2. エヴリ・リトル・ビット・ハーツ 3. スティーヴィーズ・ブルース(アーリー・ヴァージョン) 4. イッツ・ゴナ・ワーク・アウト・ファイン 5. サムバディ・ヘルプ・ミー 6. シンティン&シンキン 7. キープ・オン・ランニング	8. ホエン・アイ・カム・ホーム 9. ダスト・マイ・ブルース 10. ミーン・ウーマン・ブルース 11. 愛の終わる日まで 12. アイ・ア・マン 13. 我が心のジョージア 14. ギミー・サム・ラヴィン 15. ダスト・マイ・ブルース
SPENCER DAVIS GROUP	ベスト・オブ・スペンサー・デイヴィス・グループ		1966	ブリティッシュビート	レコード	スティーヴ・ウィンウッドが16歳(!)当時に参加したことで有名なブリティッシュR&Bバンド、スペンサー・デイヴィス・グループ。年齢の若さからは想像もつかないような、驚異的にクロッぽいフィーリングを持ったウィンウッドのヴォーカルで話題を集めた。ここに紹介したのは、そのウィンウッド在籍時にヒットした「キープ・オン・ランニング」や「サムバディ・ヘルプ・ミー」、オルガンのリフによるイントロがカッコイイ人気曲「アイム・ア・マン」などを収録したLP時代からのベスト盤。 1966年9月には、スペンサー・デイヴィス・グループは全英チャートのレギュラーだった。「Keep On Running」と「Somebody Help Me」は2枚連続でNo.1を獲得し、年の初めには同時にアルバム2枚(1stと2nd)がトップ10入り、その時には最新ヒット「When I Come Home」が再びトップ20入りしていた。	Side A 1. アイム・ア・マン (02:56) 2. ギミー・サム・ラヴィン (02:57) 3. エヴリ・リトル・ビット・ハーツ (03:32) 4. ジス・ハルマー (02:17) 5. バック・イントゥ・マイ・ライフ・アゲイン (02:28) 6. ワルツ・フォー・ルンバ (04:22) 7. トゲザー・ティル・ジ・エンド・オブ・タイム (02:53)	Side B 1. キープ・オン・ランニング (02:46) 2. トランペット (02:30) 3. ホエン・アイ・カム・ホーム (02:00) 4. ストレンジ・ラブ (02:16) 5. サムバディ・ヘルプ・ミー (02:05) 6. シー・プット・ザ・ハート・オン・ミー (02:44) 7. グッド・バイ・スティーヴィー (02:21)
SPENCER DAVIS GROUP	ベスト・オブ・スペンサー・デイヴィス・グループ		1966	ブリティッシュビート	CD			
SPENCER DAVIS GROUP	ヒストリー (エイト・ギグス・ア・ウィーク)		1996	ブリティッシュビート	CD	スティーヴ・ウィンウッド在籍時から脱退後までの楽曲を2枚組で収録したヒストリー・アルバム。未CD化で未発表ライブ音源もあり。音質的にはモノラルを若干左右に広げたマスタリング。	1. えくぼ(ティンブルス) 2. アイ・キャン・スタンド・イット 3. ジャンプ・バック 4. ヒア・ライト・ナウ 5. サーチン 6. ミッドナイト・トレイン 7. イッツ・ゴナ・ワーク・アウト・ファイン 8. マイ・ベイブ 9. カンザス・シティ 10. エヴリ・リトル・ビット・ハーツ 11. シンティン&シンキン 12. アイム・ブルー 13. シー・プット・ザ・ハート・オン・ミー 14. アイ・ドゥ・ラヴ・イン・マイ・オウ・ン・ティ・アーズ 15. アイム・ゲッティング・ベター 16. ゴッド・バイ・スティーヴィー	14. 男が女を愛する時(ホエン・ア・マン・ラヴズ・ア・ウーマン) 15. ネイバー・ネイバー 16. オン・ザ・グリーン・ライト 17. スティーヴィーズ・ブルース 18. テイク・ディス・ハート・オフ・ミー 19. スティーヴィーズ・グルーヴ 20. アイ・キャン・ゲット・イナフ・オブ・イット 21. ワルツ・フォー・ルンバ 22. 愛の終わる日まで(トゥゲザー・ティル・ジ・エンド・オブ・タイム) 23. 愛しておくれ(ギミー・サム・ラヴィン) 24. バック・イントゥ・マイ・ライフ・アゲイン 25. アイム・ア・マン 26. Fのブルース(ブルース・イン・エフ)
SPOOKY TOOTH	スプーキー・ツ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	69年作、ブリティッシュ・ハード黎明期の重要なバンドの一つ、スプーキー・トゥースのセカンド・アルバム。マイク・ハリソンと「夢織り人」の大ヒットで有名なゲイリー・ライトによるツイン・ヴォーカル、ツイン・キーボードという体制がプログレとも称されていた個性的なバンドです。バンド後期にはあのフォリナーのミック・ジョーンズが在籍していた事でも有名だと思います。本作のプロデュースはトラフィックやストーンズとの仕事で有名な大物、ジミー・ミラ。そのせいか南部奥とサイケがミックスされたユニークなサウンドが特徴的です。特筆すべきは、ジュダス・プリーストが78年、「スランド・クラス」でカヴァーした「ベター・バ・ユー・ベター・ザン・ミー」が収録されている点です。 当時ツェッペリンがデビューして間もない頃だと思いますが、すでにこの曲で新たなヘヴィ・サウンドを作り上げていたのは驚きです。ゴスペル調の曲やフォーク・ロックっぽい面も見せ、節操が無いと言えばそれまでですが、くぐもった英国の空気をそのまま体現した様なサウンドは、確かに以降のプログレ、ハード・ロックへと繋がっている気がします。	Side A 1. ウェイティング・フォー・ザ・ウィンド 2. フィーリン・バッド 3. アイヴ・ゴット・イナフ・ハートイクス 4. イーヴル・ウーマン	Side B 1. ロスト・イン・マイ・ドリーム 2. ザット・ワズ・オンリー・イエスタデイ 3. ベター・バイ・ユー・ベター・ザン・ミー 4. ハングマン・ハング・マイ・シェル・オン・ア・トゥリー
SPORTS	ドントス・ローストーンズ		1979	ニューウェイブ	レコード	オーストラリアのニューウェーブバンド。	A1 Suspicious Minds 3:26 A2 Live Work & Play 2:52 A3 Don't Throw Stones 3:37 A4 Thru The Window 2:48 A5 Who Listens To The Radio 2:58 A6 Tired Of Me 5:00	B1 Wedding Ring 2:00 B2 Reckless 4:10 B3 Step By Step 3:39 B4 Mailed It To Your Sister 2:47 B5 You Ain't Home Yet 2:12 B6 Big Sleep 2:38

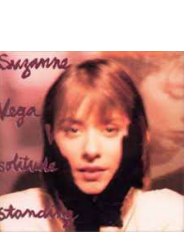
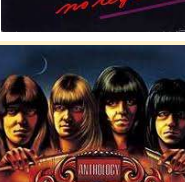
	SQUEEZE	スクイーズ		1978	ニューウェ イブ	レコード	記念すべきファーストアルバム。デビューEPのPACKET OF THREE（1977年）に続き、元THE VELVET UNDERGROUNDのJohn Caleをプロデュースに迎えている。 サウンドは時代背景やレコード会社の意向もあり、パンクの影響が色濃く出ている。そのため、メロディアスなポップソングというスクイーズらしさが前面に出ているとは言いがたいが、実験的な要素を取り入れながらも個々の楽曲のレベルの高さは際立っている。本国イギリスではBang BangとTake Me I'm Yoursがシングルカットされている。	Side A 1. セックス・マスター 2. バン・バン 3. ストロング・イン・リーズン 4. ワイルド・スアレッジ・ティクルズ・ブラジル 5. アウト・オブ・コントロール 6. テイク・ミー・アィム・ユアーズ	Side B 1. ザ・コール 2. モデル 3. リメンバリー・ホワット 4. ファースト・シング・ロング 5. ヘジテーション 6. ゲット・スマート
	SQUEEZE	クール・フォー・キャツ		1979	ニューウェ イブ	レコード	1978年作のスクイーズのセカンドアルバム。全作品の中ではテクノ、ニューウェーブの影響が最も色濃く出ている。1stに見られたアバンギャルドな感覚は影を潜めて、メロディを前面に押し出したよりポップな印象の強い作品に仕上がっている。本国イギリスではCool for Cats、Up the Junction、Slap and Tickle、Goodbye Girlの4曲がシングルリリースされている。Cool for CatsとUp the Junctionは全英2位のヒット。 因みに、イギリス盤の初回版は限定でネコのデザインと文字の一部（「SQUEEZE」と「COOL FOR CATS」のネコの体に重ならない部分）がエンボス加工となっていた。その後5色のバリエーションでプレスされている。また、ジャケ裏とレーベルも初版とは違うデザインである。現在所持しているのがこちらの盤。	Side A 1. スラップ&ティクル 2. レヴュー 3. タッチング・ミー、タッチング・ユー 4. その手はないぜ 5. イッツ・ソー・ダーティ 6. 恋の駆引き	Side B 1. ホップ・スキップ&ジャンプ 2. アップ・ザ・ジャンクション 3. ハード・トゥ・ファインド 4. 恋の気で 5. グッバイ・ガール 6. クール・フォー・キャッツ
	SQUEEZE	クール・フォー・キャツ		1979	ニューウェ イブ	レコード		Side A 1. Slap and Tickle 2. Revue 3. Touching Me Touching You 4. It's Not Cricket 5. It's So Dirty 6. The Knack	Side B 1. Hop, Skip & Jump 2. Up the Junction 3. Hard to Find 4. Slightly Drunk 5. Goodbye Girl 6. Cool for Cats
	SQUEEZE	アージー・バージ		1980	ニューウェ イブ	レコード	前作COOL FOR CATSからは、ややテクノ・ニューウェーブ感覚が後退し、彼らの根拠にあった伝統的なブリティッシュポップスバンドとしての個性が浮き彫りになったアルバム。曲によってはソウルフルな要素もあり、それは次作のEASTSIDE STORYで開花する。これ以降しばらくのスクイーズ作品の基礎になっているともいえる。 本国イギリスではPulling Mussels (From the Shell)とAnother Nail in My Heartがシングルカットされている。 【スクイーズ自身によるコメント】 「「VICKY VERKY」は僕たちの最初のティーンエイジ・ラブソングだし、「THERE AT THE TOP」では僕らはスタックスのミュージシャンになろうと企んでいる」（グレン：1995年頃のインタビュー） 「（作詞に関して）1作目と3作目を比べても随分変化はあると思う。デビューした頃は、南ロンドンの地元のバブでたむろしている人間が書いた狭いコミュニティの中での話ばかりだったけど、バンドがツアーを重ねていろいろ体験したことが詞にも反映いくし。この3作は僕にとってもバンドにとってステップアップの時期だったんだ」（クリス：THE DIG 97年5月号）	Side A 1. プリンク・マッスルズ 2. 恋の傷跡 3. セバレイト・ベッズ 4. ミスアドヴェンチャー 5. アィム・ゴー・ゴー 6. ファーフィサ・ビート	Side B 1. ひび割れた心 2. ヴィッキ・ヴァーキー 3. イフ・アイ・テイドウト・ラヴ・ユー 4. 届かぬ思い 5. ゼア・アット・ザ・トップ
	SQUEEZE	アージー・バージ		1980	ニューウェ イブ	CD			
	SQUEEZE	イースト・サイド・ストーリー		1981	ニューウェ イブ	レコード	プロデュースにエルビス・コストロを迎え、また、キーボードではデビュー以来歩みを共にしてきたジュルス・ホランドが脱退し、替わりにACEやROXY MUSICで活躍していたポール・キャラックを迎えた。 前作ARGYBARGYで提示した伝統的なブリティッシュポップスバンドとしての個性はそのままに、前作で開花したソウルセンスをより強めた一方、楽曲のバラエティー性を広げた五目味アルバムで初期の傑作。 Labelled With Loveが全英4位を獲得したほか、彼らの代表曲のひとつ、かつ永遠の名曲Temptedも収録されている。 本国イギリスではTempted、Is That Love、Labelled With Loveがシングルカットされている。	Side A 1. イン・クインテセンス 2. サムワン・エルスズ・ハート 3. テンプテッド 4. ピカデリー 5. ゼアズ・ノー・トゥモロウ 6. ヘヴン 7. ウーマンズ・ワールド	Side B 1. イズ・ザット・ラヴ 2. F-ホール 3. ラベルド・ウィズ・ラヴ 4. サムワン・エルスズ・ベル 5. マンボ・ジャンボ 6. ヴァニティ・フェア 7. メア・アラウンド
	SQUEEZE	甘い誘惑		1982	ニューウェ イブ	レコード	キーボードがポール・キャラックからドン・スノウに交代し、前作に比べカラフルで躍動感のあるサウンドになった。 ただ、この時期はマネジメントのゴタゴタやメンバー間の軋轢等、バンドを取り巻く環境が最悪な状態にあったようで、仕上がりは若干まとまりに欠けた感がある。 しかし、今でもライブでは必ず演奏され、オーディエンスも一体となって盛り上がる名曲Black Coffee in Bedが収録されるなど、個々の楽曲の完成度はきわめて高い。 本国イギリスからは、このBlack Coffee in BedとWhen the Hangover Strikesがシングルでリリースされている。	Side A 1. アウト・オブ・タッチ 2. アイ・キャント・ホールド・オン 3. ポイント・オブ・ビュー 4. 渾のストレンジャー 5. 涙のダンス・フロア 6. 二日酔いの朝	Side B 1. ブラック・コーヒー・イン・ベッド 2. アイヴ・リターンド 3. ナイフの舌を持つ女 4. ヒズ・ハウス・ハー・ホーム 5. ファースト・ダンス 6. エレファント・ライド
	SQUEEZE [DIFFORD&TILBROOK K]	ディルブルック		1984	ニューウェ イブ	レコード	1982年に一時解散してしまったスクイーズであるが、グレンとクリスのコンビ関係は続いており、1984年にDifford & Tilbrook名義でアルバムをリリースした。スタジオミュージシャンをバックにして作られた作品で、スクイーズ時代の作品と比較すると全体的に綿密なサウンドとなっている。しかし、スクイーズ時代のソングライティングの手法がそのまま継承されていることや、後年のライブでは本作品の曲をスクイーズのステージで披露したりするなど、事実上スクイーズの作品ともいえる。本国イギリスからは、Love's Crashing WavesとHope Fell Downの2曲がシングルリリースされている。	Side A 1. アクション・スピークス・ファスター 2. ラヴズ・クラッシング・ウェイヴ 3. 恋をビック・アップ 4. きみ想う夜 5. マン・フォー・オール・シーズン	Side B 1. ホープ・フェル・ダウン 2. ワゴン・トレイン 3. ユー・キャント・ハート・ザ・ガール 4. ティアーズ・フォー・アテンション 5. アップル・ツリー
	SQUEEZE	コシ・ファン・トゥッ ティ・フルッティ		1985	ニューウェ イブ	レコード	1982年の解散、1984年のDifford & Tilbrook名義でのアルバムリリースを経て再結成された後のアルバム第一弾。 キーボードにはARGYBARGYまで在籍したジュルス・ホランドが再加入している。 このアルバムを語るときによく言われるのが、メンバーも認めているようにプロデュースのローリー・レイサムによるオーバープロデュース。時代も手伝ってシンセを多用し、装飾をほどにしたサウンドはファンの間でも賛否両論である。 本国イギリスでは、King George Street、Last Time Forever、No Place Like Home、Heartbreaking Worldがシングルカットされている。	Side A 1. ビッグ・ベング 2. バイ・ユア・サイド 3. キング・ジョージ・ストリート 4. ハウ・トゥ・プレイ 5. ラスト・タイム・フォーエヴァー	Side B 1. ノー・プレイス・ライク・ホーム 2. ハート・プレイク・ワールド 3. ヒッツ・オブ・ジ・イヤ 4. プレイク・マイ・ハート 5. ドリンキング・アゲイン(?)
	SQUEEZE	フランク		1989年	ニューウェ イブ	CD	1989年リリース。スクイーズの通算8枚目のアルバム。世界的な成功を経て、あえて原点である、より英国的なポップ・サウンドへ帰帰したスクイーズの感動作。数あるスクイーズの名盤の中でも最も洗練されてPOPなアルバム。短いイントロダクションの後のIf It's Loveのイントロのギターだけでこのアルバムの素晴らしさは分かんというもの。屈折したメロディがキャッチーなCan Of Worms、オールティーズつばいIs It Too Late、Dr.Jazzをブキウキピアノを弾きながら歌うのはあのジュルス・ホランドです。シングル・カットされた「イフ・イッツ・ラヴ」や「ラヴ・サークルズ」はじめ、昔ながらのスクイーズらしさに満ちた、初期のファンにも大いに歓迎された	1. フランク 2. イフ・イッツ・ラヴ 3. ペイトン・プレイス 4. ローズ・アイ・セッド 5. スロータード、ガットド・アンド・ハートブ ロークン 6. ラスト・タイム	レコード盤はここがB面 7. シー・ダズント・ハフ・トゥ・シェイヴ 8. ラヴ・サークルズ 9. メロディ・モーター 10. カン・オブ・ワームス 11. ドクター・ジャズ 12. イズ・イット・トゥー・レイト
	SQUEEZE	ラウンド&バウト		1990年	ニューウェ イブ	CD	Frankを発表した後にレーベルを移籍して発表したスクイーズのライブ・アルバム。メンバーはFrankの5人にポール・ヤングのバンドにいたマット・アーヴィング（キーボード）を加えた6人。演奏もヴォーカルもどちらかと言えば淡々としていて迫力には欠けますが、その分まとまりも良くライブ盤としては聞きやすい部類に入ると思います。選曲も代表曲が集められており、ミニアックなファンには少々手こたえ不足ですが、ライブ・バージョンのベスト盤と考えれば良く出まています。Frankの後のライブ盤ということもあり、そこからの選曲と演奏が特に耳に残ります。 彼等の魅力とはずばり、甘酸っぱいポップさの中に潜む明るいポジティブなエネルギー。典型的なブリティッシュポップス=かげりのある、哀愁のあるポップスを体現できるところにもこのひとたちのすごいところはある。実際問題このライブでは観客との掛け合いが随所に出てくるが、それはそれだけこの愛すべきバンドがかなりの熱狂的なファンに囲まれていることを証明している。あとはサウンドがかなりクールであり歌詞の世界もしゃれとユーモアが絶妙にからみ合い独特の世界を構築している。洒落で軽妙でユーモアのわかる人物にぜひともおすすめしたい。	1. Footprints5:33 2. Pulling Mussels From A Shell4:04 3. Black Coffee In Bed (Edit)4:58 4. Slaughtered, Guttred And Heartbroken4:20 5. Annie Get Your Gun3:26	レコード盤はここがB面 6. Hour Glass4:05 7. She Doesn't Have To Shave3:47 8. By Your Side5:06 9. Tempted5:34 10. Labelled With Love4:17
	STAN CAMPBELL	スタン・キャンベル		1987		レコード	1987年の唯一のソロ・アルバム。スペシャルズが再結成した スペシャルズAKAのボーカリストでブルー・ブラクの先駆的な歌手のスタン・キャンベルのデビュー・ソロ。2トーンの流れを組みながらも自分の歌の可能性に挑戦している。エルビス・プレスリーやアニマルズのカバーもありますが最後のビリー・ホリディのクールなカバーは素晴らしく、正直全曲良い作品で曲の流れも良く今聴いても素晴らしい内容で傑作アルバムだ。また、スペシャルAKAの「イン・ザ・スタジアム」で彼の歌を聴いて欲しい。スタン・キャンベルは、1984年にクラシック・シングル「フリー・ネルソン・マンデラ」のリード・ボーカリストとして初めて有名になりました。バンドを脱退した後、彼はWEAとソロ契約を結び、1987年にオリジナルとカバーバージョンをミックスしたこのアルバムを、多くのミュージシャン(ザ・セレクター、ザ・ラッツのメンバー、ガイ・チェンバース、ヒュー・マセクラなどを含む)とレコーディングしたが、その後、彼は世間の目から姿を消してしまいましたが非常に才能があっただけに惜しまれる存在。	Side A 1. YEARS GO BY 2. CRAWFISH 3. SEVEN MORE DAYS 4. SAVE THE WORLD 5. DANCING TROUPE	Side B 1. LITTLE MORE FAITH 2. YOU'LL NEVER KNOW 3. DON'T LET ME BE MISUNDERSTOOD 4. CAN'T GET ENOUGH 5. STRANGE FRUIT
	STARZ	巨星		1976	ハードロッ ク&ヘビー メタル	レコード	76年作、スターズのデビューアルバムで、次世代のアメリカン・ハードの流れを作った1枚でもあります。KISSの所属していたマネージメント、ロック・ステディ・プロダクションから売り出され、エアロスミスのプロデュサーだったジャック・ダグラスの手掛けたバンドとして注目され、期待の大型新人と言われた。KISSのキャッチーさと、AEROSMITHのワイルドさを程良く持っているバンドと言え、70年代アメリカン・ハードの醍醐味を詰め込んだ様なサウンドとなっています。マイケル・リー・スミスの華やかさが漂うヴォーカルと、タイトなバンド・サウンドは、ある意味80年代メタルの雛形にもなっていた。まだCHEAP TRICKが登場する前にデビューした彼等は、シングルとなった「Detroit Girls」ではパワー・ポップ以上、ポップ・メタル以下の調度良いバランス感覚をすでに開花。ジャック・ダグラス的な硬質なエッジが目立つ超高級ハード・ロックもお手の物で、モントローズやヴァン・ヘイレンにも通じるドライヴィング感覚が心地良いナンバーも揃っています。唯一ブルージーなナンバーとなっている「Pull The Plug」も、いかにもアメリカンと思えるダイナミズムと陽性の高揚感により、メロディアスなミドル・ハードとして聴けてしまうのもユニークです。どこか垢抜けないメロディ展開も個人的には彼等特有の魅力。ド派手だけど今一つ突き抜けてない感が漂うのは致し方ないとしても、同期と言えるANGELや、やはり同じ事務所所属であったビリー・スクワイア率いたPIPER等、実に甘酸っぱいバンドばかり出現していた古き良き時代の象徴であったと思える。		
	STARZ	灼熱の砂漠		1977	ハードロッ ク&ヘビー メタル	レコード	77年作、70年代アメリカン・ハードの永遠の超B級バンドとして語られるスターズのセカンド・アルバム。KISSの弟分としてデビューし、注目を浴びましたが、80年代のメタル隆盛期を待たずして消えてしまいました。KISSのわかりやすさ、エアロスミスの野生味、チープ・トリックのポップ・センスを、そこそこ持ち合わせていたにも関わらず、今一つ突き抜けた感がないのは、どこか野暮ったいルックスのせいだったのでしょうか。ハード・ロック・ファンなら間違いない気になるダイナミズムとキャッチーさは、今聴いても魅力的。代表曲であるポップ・ナンバー、「Cherry Baby」を含む、彼等の最高傑作と言える1枚だと思います。良くも悪くも垢抜けない魅力がクセになるバンドですが、あのジャック・ダグラスが手掛けた事もあり、アメリカン・ハードとしてのダイナミズムは今聴いても胸が熱くなるものがあります。		

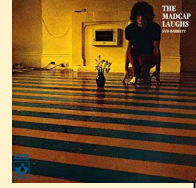
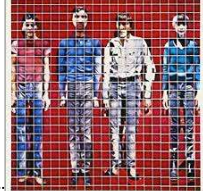
STARZ	黒い稲妻		1978	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	オリジナルは78年作、アメリカン・ハードの次世代のヒーローとして期待されていたスターズのサード・アルバムです。KISS、エアロスミスに継ぐ存在として、ルックス、キャッチーさを含め、センスは抜群のものを持っていたと思いますが、残念ながら本作により失速してしまいます。これまであのジャック・ダグラスのプロデュースにより、彼等の個性である親しみやすいポップ性と、ヴォーカリストのマイケル・リー・スミスのワイルドな魅力を生かしたバンド・サウンドが、いかにもアメリカン・ハードというダイナミズムでまとめられているのですが、ここではセルフ・プロデュースを敢行しています。 台頭してきたニュー・ウェイヴの影響を、チープ・トリックやカーズ、ナックといったバンドを意識した感じにも。中にはブルー・ジー・ナ・パワー・バラードや、彼等最大のヒット曲である「フェリー・ベイビー」を思わせるハード・ポップ・ナンバーもあるが、全体的にソフトになった印象は否めない。彼等の持っていた毒気や妖しさがスポイルされてしまった半面、80年代を見越したカラフルなセンスはなかなか優れていたと思うが、当時はまだまだ尖ったハード・ロックを求められていたのでしょうか。もう少し後に本作をリリースしていたら、彼等の運命も違ったものになっていたのかもしれない。再評価が望まれる1枚です。		
STATUS QUO	ヒーロー		1973	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	73年発表の6作目。アンディ・ボーン(p)、ジョン・ミーリング(p)、スティーヴ・ファー(sax)、スチュワート・ブランドマー(sax)らゲストを迎えて制作された作品。彼らの作曲はロッシ、ランカスターに5人目のメンバーと呼ばれるボブ・ヤングが中心。 1. はブルース・ロックそのままのブギーで分厚いギターのサウンドが心地よい。セカンド・リフとも言うべきギターの絡みが入ってややポップに変化するあたりが仕掛けとしては惜しいアレンジ。2. は彼ららしいメロディアスなパワー・ポップ。ビート・ポップや西海岸風の甘さも加えた佳曲である。3. も彼ららしいポップ路線のブギー曲。エンディングでスロー・ブルース風になって終了する。4. はイントロが目紛しく変化するものの、蓋を開けてみればオールド・スタイルのポップなロックンロール・ナンバーで、こちらも彼らのイメージ通りの仕上がりが。7. はサイケ・ポップ的な美メロが復活した曲。展開もかなり凝っているが基本はパワー・ポップ調である。 3rdでは本格的なブルース・ロックを聞かせ、4作目あたりから徐々にポップ路線に移行してきていたが、本作でほぼポップ化に完全移行した感がある。後の作品と比較するとまだまだ演奏もハード・ロックよりで重い部分もあるが、それもまた魅力だと思ふ。重厚なギター・サウンドを聞かせるパワー・ポップとしても十分に楽しめるアルバムである。		
STATUS QUO	ピクチャレスク・マッチスティック・コレクション			ハードロック &ヘヴィ メタル	CD	本作は彼らがブギ・スタイルになる前のアルバム。ファーストとセカンドからのベスト・チョイスと前身バンドトラフィック・ジャムやスペクトルズのシングルをプラスした充実の1枚。ここで聴かれるのはサイケ・ポップな虹色サウンド。	1ピクチャーズ・オブ・マッチスティック・ 2ジェントルマン・ジョーのサイドウォーク 3ブラック・ウェイルズ・オブ・メランコリ 4トゥ・ビー・フリー 5アイズ・イン・ザ・サン 6ホエン・マイ・マインド・イズ・ノット・ 7エリザベスの夢 8テクニカラー・ドリームス 9スピックス・アンド・スベックス 10サニー・セロハン・スカイズ 11メイク・ミー・ステイ 12アンティニー・ネリー	13フェイズ・ウィズアウト・ソウル 14ミスター・マインド・ディテクター 15アンティーク・アンジェリク 16リトル・ミス・ナッシング 17タイアード・オブ・マイ・ラヴ 181 19ハーディー・ガーティー・マン 20恋する青春 21アイ・ウオント・イット 22ノット・クワイ・ゼア 23ウエイト・ジャスト・ア・ミニット 24チューン・トゥ・ザ・ミュージック
STATUS QUO	マ・ケリーズ・グリーン・スプーンフル・コレクション			ハードロック &ヘヴィ メタル	CD	ブギの王者ステイタス・クオーが、パイ・レーベルに残した3枚目と4枚目アルバムからのベスト・トラックにシングルをのみの発表のヒット曲「ダウン・ザ・ダスト・パイプ」「ミーン・ガール」等を追加した、初期のブギ・イヤーズ。	1. ドーター 2. シャイ・フライ 3. プライス・オブ・ラヴ 4. エヴリシング 5. スピーニング・ホイール・ブルース 6. ダウン・ザ・ダストパイプ 7. ラッキー・レディ 8. スプリング、サマー・アンド・ウエンズデイ 9. ニード・ユア・ラヴ	10. イズ・イット・リアリ・ミー 11. イン・マイ・チェア 12. チューン・トゥ・ザ・ミュージック 13. ウムレイタング 14. サムシング・ゴイング・オン・イン・マイ・ヘッド 15. ミーン・ガール 16. ガーデンデュラ 17. ドゥ・ユー・リブ・イン・ファイア 18. ジョゼ 19. ナナナ
STEELY DAN	彩(エイジャ)		1978	AOR	レコード	1977年にABCレコードからリリースした6作目のアルバム。アルバム中で最高の売り上げを記録した。アメリカチャートで3位、イギリスのチャートで5位を記録し、同バンド初めてのプラチナアルバムとなった。ステイラー・ダンのヒット作「Reeling In The Years」時代の音楽スタイルから、より洗練したジャズ・サウンドへの推移を象徴している。しかし同時に、商業的成功を保ち続けただけではなく、多くの成果を上げた。長年のコラボレーターであるゲイリー・カツツがプロデュースを手掛けた『Aja』は、バンドにとって最も成功したアルバムであり、初のプラチナ・ディスクを獲得した。ジョー・サンプル、ウェイン・ショーター、ラリー・カールトン、ジム・ケルトナー、そしてトム・スコットのような一流ミュージシャンの存在は、決して色褪せることのないアルバムの上品なサウンドを更に優雅にしている。グラミー賞の最優秀録音賞、ノン・クラシカル部門を受賞した。このアルバムはソウルと、洗練されたジャズなどの混合による傑作であると評価されている。8分間に及ぶ表題曲「Aja」は、複雑なジャズの転調と、サクソフォーン奏者ウェイン・ショーターによるソロ、そしてドラマーのスティーヴ・ガッドによるテクニカルな演奏などが含まれている。また、数十人に及ぶ腕利きミュージシャンが参加している。「Peg」間奏で聞かれる個性的なギター・ソロはジェイ・グレイドン。彼の演奏が採用されるまで実に7人の有名ギタリストがスタジオに呼ばれているが、ベッカーとフェイゲンがまったく納得しなかった。この話はスタジオ・ギタリストが本アルバムを語る上で現在も有名なエピソードとなっている。アルバムのジャケットに写っている女性は、日本人モデルの山口小夜子である	Side 1 ブラック・カウ - Black Cow - 5:10 彩(エイジャ) - Aja - 7:57 ディーコン・ブルース - Deacon Blues - 7:37	Side 2 ベグ - Peg - 3:57 安らぎの家 - Home at Last - 5:34 アイ・ガット・ザ・ニュース - I Got the News - 5:06 ジョージー - Josie - 4:33
STEELY DAN	ガウチョ		1980	AOR	レコード	1980年発表の7枚目のアルバム。前作に引き続き豪華なミュージシャン陣を起用して制作された名盤。前作でも最高のグループを生み出していたBARNARD PARDIE名誉教授のこれまた最高のグループで始まる1曲目。これを受けて流れるようなかつ締まったムードの2曲目と素晴らしい。当初The Second Arrangementという曲が収録される予定となっており、最終ミック・ダウンまで完了していたらしいが、当時のアシスタントが誤ってマスター・テープを消去してしまった。再度録り直しを試みたものの満足のいく仕上がりとならず、やむを得ず以前からあった曲「サード・ワールド・マン」を急遽収録した。レコーディングの終盤にウォルター・ベッカーが交通事故で入院してしまい、急遽ステイヴ・カーンによりギター・パートをオーバー・ダビングすることになった。ミック・ダウンも大幅に遅れてしまう。この他、レコード会社の移籍問題に寄るアルバムの権利をめぐる議論等と様々な問題が起きた。トラブルに見舞われながらも、このアルバムはチャートの9位に入賞し、プラチナアルバムを獲得した。収録曲の「ヘイ・ナインティーン」は、シングル・チャートの10位に入賞した。	Side A 1. バビロン・シスターズ - Babylon Sisters 5:49 2. ヘイ・ナインティーン - Hey Nineteen 5:06 3. グラマー・プロフェッション - Glamour Profession 7:28	Side B 1. ガウチョ - Gaucho (Walter Becker, Donald Fagen, Keith Jarrett) 5:30 2. タイム・アウト・オブ・マインド - Time Out of Mind 4:11 3. マイ・ライヴァル - My Rival 4:30 4. サード・ワールド・マン - Third World Man 5:14
STEPHEN DUFFY	ビコーズ・ウィー・ラヴ・ユー		1986	ニュー ウェーヴ	レコード	Stephen Duffyのソロ作。彼はデビュー前のデュラン・デュラン(Duran Duran)にヴォーカリストとして参加していたが、すぐに脱退してソロに転向して1986年発売のセカンドアルバムの『ビコーズ・ウィー・ラヴ・ユー』。 陰影に富んだブルー・アイド・ソウルの傑作で、ファンの間でも人気が高い。中でもネオアコ・ブルー・アイドソウル傑作ナンバー“Unkiss That Kiss”がお薦めナンバーで、その他で話題作のサンディーとのデュエットシングル「サムシング・スペシャル」も収録。 その後はライラック・タイム(The Lilac Time)というフォーク・バンドを結成して活動したが、このバンドは、いわゆるネオアコ・ブームの一翼を担う存在だった。		
STEVE MILLER BAND	鷲の爪		1976年	ロック	レコード	’66年発表の9作目。のっけから飛び出すスぺーシーなジジセザイザー・サウンドにびっくりして、「間違えたか？」と思ったものの、その後に出て来るギター・サウンドで一安心…となるのは往年のファンであって現在ではステイヴ・ミラー・バンドの代表作であり、「スペース・カウボーイ」のイメージとも重なる大傑作アルバムである。曲調は前作の「ジョーカー」から思いつきり変化したという感じではないが、一皮剥けたという感じはある。曲調もカントリー、R&B、ロック…etcと今までの集大成的な内容であり、それをかなり分りやすくポップに料理した感じで、大ヒットしたことがうなずける作品である。今後のステイヴ・ミラー・バンドの方向性を決定したアルバムとしても重要だと思う。最初の一枚として有効だが、若干印象が軽いのでこのアルバムがステイヴ・ミラーの全てだと思うのはちょっと違うかもしれない。フリーのオール・ライト・ナウっぽいイントロを聞かせる大ヒットの8. は代表作の一つで、ステイヴ独特のこぶしの利いたヴォーカルを満喫できる。なんと言っても「マーキュリー・ブルース」「ティクザマネー・アンド・ドラム」! ロックン・ミニ! の3連発がいい。	Side A 1. スペース・イントロ 2. フライ・ライク・アン・イーグル 3. ワイルド・マウンテン・ハニー 4. 星空のセラゲアデ 5. ダンス・ダンス・ダンス 6. マーキュリー・ブルース	Side B 1. テイク・ザ・マネー・アンド・ラン 2. ロックン・ミー 3. ユー・ゼント・ミー 4. ブルー・オデッセイ 5. ストート・マラー 6. ザ・ワインドウ
STEVE WINWOOD	ロール・ウィズ・イット		1988	ロック	CD	ステイヴ・ウィンウッドの5枚目のソロ・アルバム。ウィンウッドの最も商業的に成功したアルバムとなり、全英アルバムチャートで4位、アメリカのビルボード1位に達し、300万枚以上を売り上げた。また、アルバムからシングルカットした4曲も大ヒットし、タイトルトラック「ロール・ウィズ・イット」はポップとロックのシングルチャートで1位を獲得。次のシングル「Don't You Know What the Night Can Do?」も全米1位と「Holding On」も2位「Hearts on Fire」は22位とヒットを連発した。その他の曲も捨て曲なしの80年代後半を代表する名盤となる。特に、この80年代半ばのシーンはマイケル・ジャクソン、マドンナなどダンス物の他、ガンス&ローゼスのメタル系バンドが元気だったところに、当時すでに珍しいアーシーなリズム&ブルースで大ヒットアルバムを作ってしまうとは凄すぎる。それはまるで、いきなり名曲のギミサムラヴィンで天才少年ぶりを発揮した60年代に返ったようで、本人のヴォーカルもストレートで実に生き生きとしてる。	1Roll With It 2Holding On 3The Morning Side 4Put On Your Dancing Shoes 5Don't You Know What The Night Can Do? 6Hearts On Fire 7One More Morning 8Shining Song	
STEVIE WONDER	ミュージック・オブ・マイ・マインド		1972	ポップス	レコード	1972年の「トーキング・ブック」から『キー・オブ・ライフ』までが、ステイヴィー・ワンダーの怒涛の才能が爆発した時期の傑作群として知られているが、これはその前夜に製作されたアルバム、とはいえクオリティ的には、それらの傑作に決して劣らない出来。自らの音楽的なアイデンティティを確立した1枚と言える。力強い幕開けの〈1〉、組曲的な非常に美しい傑作〈2〉、過渡期ゆえの出来が興味深い〈4〉、ニック・デカロもカヴァーした種やかで和やかな〈5〉、官能的な〈6〉、小沢健二に引用されたファンキーな〈9〉など、聴き所は満載。もうこの時点でStevie Wonderの才能は完成されているといっても過言ではないです。	Side A 1. ラヴ・ハヴィング・ユー・アラウンド 7:21 2. スーパークーマン 8:08 3. アイ・ラヴ・エヴリ・リトル・シング 3:46 4. スウィート・リトル・ガール 4:54	Side B 1. 輝く太陽 5:18 2. ガール・ブルー 3:36 3. シームズ・ソー・ロング 4:22 4. キー・オブ・ランニング 6:40 5. 悪魔 3:33
STEVIE WONDER	トーキング・ブック		1972年10月28日	ポップス	レコード	1972年に発表されたステイヴィー・ワンダーの15作目のオリジナル・アルバム。「迷信」「サンシャイン」の2曲が、シングルとして全米1位を獲得。 「迷信」は、ジェフ・ベックが在籍するバンド、ベック・ボガート & アピスへの提供楽曲として書き下ろされたが、ステイヴィー自身のバージョンが先に大ヒットした。後日、ステイヴィーはその一件のお詫びとして、ジェフのアルバム『プロウ・バイ・プロウ』に「哀しみの恋人達」を提供。また、ステイヴィー・レイ・ヴォーンもカバーしており、ライブ・アルバム『ライヴ・アラヴ』に収録。 ワンダー自身がプロデューサーを務め、マルコム・セシル(Malcolm Cecil)とロバート・マーゴレフ(Robert Margouleff)がアソシエイト・プロデューサーを務めた	Side A 1. サンシャイン (2:59) 2. メイビー・ユア・ベイビー (6:50) 3. ユー・アンド・アイ (4:38) 4. チューズデイ・ハートブレイク (3:02) 5. バッド・ガール (4:59)	Side B 1. 迷信 - Superstition (4:26) 2. ビッグ・ブラザー (3:33) 3. ユー・アンド・アイ (3:26) 4. アナザー・ビュア・ラヴ (4:43) 5. アイ・ビリーヴ (4:52)
STEVIE WONDER	インナーヴィジョンズ		1973年8月3日	ポップス	レコード	ステイヴィー・ワンダーの16枚目のオリジナル・アルバム。前作、次作、次々作と並び、ステイヴィー・ワンダーの最高傑作と称される。グラミー賞の最優秀アルバム部門・最優秀録音部門を獲得した。「ハイアー・グラウンド」「汚れた街」「くよくよするなよ」の3曲が本国アメリカでシングルカットされた。イギリスでは「いつわり」がシングルカットされた。「ハイアー・グラウンド」は全米4位のヒット。ほとんどの楽器をステイヴィーが演奏し、「汚れた街」「ハイアー・グラウンド」「神の子供たち」の3曲は、完全に彼1人での多重録音。彼自身がプロデューサーを務めた。粒ぞろいの名曲が並ぶ、まさしく洗練された極みの名作。余計な音が排除された、シンプルで感覚に訴えるような冒頭の〈1〉〈2〉の完璧な2曲に始まり、黒人問題を訴える〈3〉〈5〉、超名曲にして人気曲〈4〉、再び〈1〉〈2〉的に洗練された雰囲気気の〈6〉、深遠なバラード〈7〉、ラテン風味が心地好いポップでメロディアスな〈8〉、前向きな雰囲気気の種やかな〈9〉、という具合。	Side A 1. トゥ・ハイ 2. 愛の国 3. 汚れた街 4. ゴールデン・レディ	Side B 1. ハイアー・グラウンド 2. 神の子供たち 3. 恋 4. くよくよするなよ 5. いつわり
STEVIE WONDER	ファースト・フィナーレ		1974	ポップス	レコード	1974年に発表され、グラミー賞の最優秀アルバム賞にも輝いた、ステイヴィー・ワンダーの生をさまよう程の交通事故からの復帰作。彼自身のオリジナルとしては17枚目のアルバム。「トーキング・ブック」「インナー・ヴィジョンズ」に続く3部作。このアルバムで完成したとも言っても過言ではない。この辺りはステイヴィーの絶頂期である。また、ひとつのスタイルの最終章と位置付けたアルバム。シングルカットされた「悪夢」は全米1位を記録した。	Side A 1. やさしく笑って 2. 1000億光年の彼方 3. トゥー・シャイ 4. ゲ・ウーマン 5. クリーピン	Side B 1. 悪夢 2. 愛あるうちにさよならを 3. 聖なる男 4. 美の鳥 5. プリーズ・ドント・ゴー

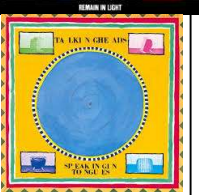
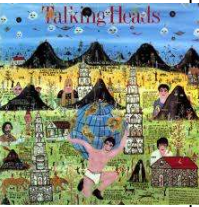
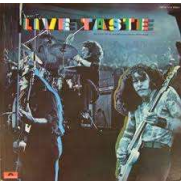
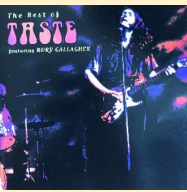
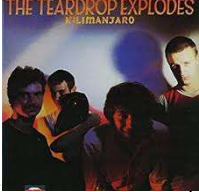
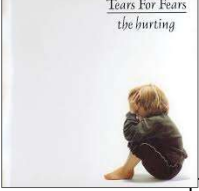
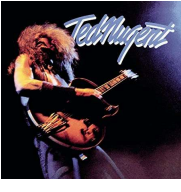
	STEVIE WONDER	キー・オブ・ライフ		1976	ポップス	レコード	1976年に発表されたスティーヴィー・ワンダーのアルバム。18枚目のオリジナル・アルバム。クラシックとしての風格さえ漂う、彼の最高傑作とされる2枚組大作。とにかく単純に魅力的な曲が、これでもかと詰まっているすばらしいアルバム。 DISC1は荘厳なく1)、スロウファンクで神を賛美するく2)、デューク・エリントンに捧げた楽しい人気曲く5)など、切れ味鋭いかっこよさで美しい展開を聴かせる。DISC2は、長女に捧げた穏やかでメロディアスな人気曲く1)、同胞を鼓舞するファンキーなく3)、アルバムのハイライトとなるく7)など、不思議な旋律や深遠な愛を描く名曲が収められている。全米チャート14週連続1位、グラミー賞`最優秀アルバム賞`最優秀男性ポップ・ヴォーカル`受賞のアルバム。多くのアーティストがカバーし続ける名作集。「ある愛の伝説」「可愛いアイシャ」他、全21曲を収録。	Side A 1. ある愛の伝説 (7:04) 2. 神とお話し (2:40) 3. ビレッジ・ゲットー・ランド (3:23) 4. 負傷 (3:44) 5. 愛するデューク (3:52) Side B 1. 回想 (4:11) 2. 孤独という名の恋人 (3:34) 3. 楽園の彼方へ (3:26) 4. 今はひとりぼっち (4:12) 5. 出逢いと別れの間に (6:23)	Side C 1. 可愛いアイシャ (6:32) 2. 涙のかたすみで (6:28) 3. ブラック・マン (8:27) Side D 1. 歌を唄えば (3:47) 2. イフ・イツ・マジック (3:10) 3. 永遠の誓い (7:06) 4. アナザー・スター (8:26) ボーナストラック シングル盤 Side A 1. 土星 2. エボニー・アイズ Side B 1. 嘘と偽りの日々 2. イージー・ゴーイング・イブニング
	STEVIE WONDER	ミュージックエイリアム		1982	ポップス	レコード	1982年に発表されたスティーヴィー・ワンダーの2枚組のベスト・アルバム。「迷信」「悪夢」「ハイアー・グラウンド」「マスター・プラスター」他、1970～80年代にかけてのヒット曲を集めたアルバム。	Side 1 1. 迷信 - Superstition 2. 悪夢 - You Haven't Done Nothin' 3. 汚れた街 - Living for the City 4. フロント・ライン Side 2 1. スーパーウーマン 2. 愛を贈れば - Send One Your Love 3. サンシャイン - You Are the Sunshine of My Life 4. リボン・イン・ザ・スカイ Side A 1. パートタイム・ラヴァー 2. アイ・ラヴ・ユー・トゥー・マッチ 3. 未来へのノスタルジア - Whereabouts 4. 愛の浜辺で 5. Stranger on the Shore of Love 5. ネヴァー・イン・ユア・サン	Side 3 1. ハイアー・グラウンド 2. 愛するデューク - Sir Duke 3. マスター・プラスター 4. レゲ・ウーマン 5. ザット・ガール Side 4 1. 回想 - I Wish 2. 可愛いアイシャ - Isn't She Lovely? 3. ドゥ・アイ・ドゥ - Do I Do
	STEVIE WONDER	イン・スクエア・サークル		1985年9月13日	ポップス	レコード	1985年に発表されたスティーヴィー・ワンダーのアルバム。20枚目のオリジナル・アルバム。1985年全米アルバムチャート最高5位。第一弾シングルは当時人気再燃していたモータウンリズム全開の「パートタイム・ラヴァー」が全米1位を獲得。地味ながらサクセス、トランペットが良いスパイスの「Go Home」(10位)。ほのぼのバラード「Overjoyed」(24位)のヒット以外にも『愛の浜辺』『オーヴァー・ジョイド』の名曲が光る。この時期は映画「ウーマン・イン・レッド」のサウンドトラックアルバム及びシングル「心の子」が全米1位や、ディオンヌ・ワーウィック等とコラボの「That's What Friends Are For」も1位のヒットもあり、乗りに乗っていた時期で70年代とはまた違うアプローチを見た。この「イン・スクエア・サークル」は単刀直入に言うといかにも80年代のウケ作品で、全体通してライト感覚のリズムが心地良い。	Side A 1. パートタイム・ラヴァー 2. アイ・ラヴ・ユー・トゥー・マッチ 3. 未来へのノスタルジア - Whereabouts 4. 愛の浜辺で 5. Stranger on the Shore of Love 5. ネヴァー・イン・ユア・サン	Side B 1. スピリチュアル・ウォーカーズ 2. ランド・オブ・ララ 3. 未来へのノスタルジア 4. オーヴァー・ジョイド 5. イッツ・ロング (アルバム・ヘイト)
	STEVE FORBERT	ジャックラビット・スリム		1979年	フォークロック	レコード	1979年リリースのスティーヴ・フォーバートのセカンドアルバム。プロデュースはザ・バンドのジョン・サイモン。第2のポップ・ディランと称されたスティーヴ・フォーバート最大のヒット・ナンバー『ロミオの歌』を収録。生ギター1本で勝負するいわゆるシンガー・ソング・ライター、当時はその何とも言えない純朴さという美に真面目な歌心に感動。派手さは無いが、リスナーの心に響く歌声と誠実さを感じる曲作り。最高位11位2週。19週ロングラン。	Side A 1. ロミオの歌 (Romeo's Tune) 2. スウィート・ラヴ・ザット・ユー・ギブ 3. アイム・イン・ラヴ・ウィズ・ユー 4. さらばトリル・ジョー (Say Goodbye To Little Jo) 5. ウェイト	Side B 1. ほんとうにほんとうらしく (Make It All So Real) 2. ベイビー 3. コンプリケーションズ 4. 悲しくも一曲のソープ・オペラ風 (Sadly Sorta Like A Soap Opera) 5. 1978年1月23日～30日 (January 23-30, 1978) シングル盤 :オイルソング (The Oil Song)
	STIFF LITTLE FINGERS	インフレイマブル・マテリアル		1979	パンク	レコード	1979年作のファーストアルバム。ザ・クラッシュの政治姿勢を見習い、自ら書いた(激しい)トラックで北アイルランド紛争への憤りをはっきりと語っている。 多くのパンクバンドのデビュー作とちがひ、このアルバムでは高い潜在能力とバラエティ豊かな音楽センスを溶け合わせようとしている。ロキシーの常連DJ、ドン・レッツに影響を受けたおかげもあり、このパンク・ロッカーたちはレゲエを取り入れ、反逆精神に強く共感し、クラッシュと同じくレゲエのカバー曲をこのデビュー作に入れている。ENTOMBEDが激烈カバーした「State of Emergency」、中間部の甘いメロディとバワフルな演奏の対比が面白い「Barbed Wire Love」、荒くぶっ飛ばす「Rough Trade」、洗ひレゲエの「Johnny Was」といった佳曲が並びますが、特にオススメは1、4、7、12です。1の「Suspect Device」は彼らの、否パンクロックの代表曲でしょう。バリバリのギター、荒っぽく激情をぶちまけるVOと、重戦車が突進するように攻撃的な名曲。数多くのバンドにカバーされていますが、オリジナルが一番！4の「Wasted Life」はワイルドだが、微妙にリリカルな面も持ち併せた名曲。聴いてると、なにか熱く励まされているように力が湧いてきますね！7の「White Noise」はノリの良いテンポながら、ギターのリフ、メロディに哀愁(?)や悲壮感を感じます。実は一番好きな曲ですね。12の「Alternative Ulster」は彼らの代表曲の1つで、爽やかな高揚感を感じさせるアップテンポな曲。今の時代でもその攻撃性は全く色褪せていません。	1サズベクト・ディヴァイス 2ステイト・オブ・エマーゲンシー 3ヒア・ウィ・アー・ノーウェア 4ウェステッド・ライフ 5ノー・モア・オブ・ザット 6バーブド・ワイアー・ラヴ	7ホワイト・ノイズ 8ブレイクアウト 9ロー・アンド・オーダー 10ラフ・トレード 11ジョニー・ワズ 12オルタナティブ・アルスター 13クローズド・グルーヴ
	STIFF LITTLE FINGERS	ノーバディーズ・ヒーローズ		1980	パンク	レコード	LONDONに拠点を移した80年3月発表の2nd アルバムで1stでの粗しさはよりも、こちらはメロディーが練られています。このアルバムにはS.L.Fの代表曲が多く収録されており、特に「Doesn't Make It All Right」はスペシャルズでおなじみの曲を彼らのアレンジで演奏している。ストレートで爽快なパンクがぎゅっしり詰め込まれています。有名な曲では、1. 「Gotta Gettaway」、3. 「Fly The Flag」、あと名曲5. 「NOBODY'S HEROES」、どれも良い曲が揃っており、インスト曲の6. 「Bloody Dub」など、ファーストの勢いそのままに名曲揃いでレコードのA面5曲は全部いい。	Gotta Gettaway3:37 Wait And See4:28 Fly The Flag3:46 At The Edge2:59 Nobody's Hero4:11	Bloody Dub3:48 Doesn't Make It All Right5:49 I Don't Like You2:44 No Change1:57 Tin Soldiers4:45
	STIFF LITTLE FINGERS	ノーバディーズ・ヒーローズ		1980	パンク	レコード			
	STIFF LITTLE FINGERS	ハンクス		1980	パンク	レコード	Nobody's Hero4:02 Gotta Gettaway3:21 Wait And See4:13 Barbed Wire Love3:22 Fly The Flag3:26 Alternative Ulster2:52	Johnny Was10:15 At The Edge2:37 Wasted Life3:12 Tin Soldiers5:00 Suspect Device2:18	
	STIFF LIVE	ニック・ロウ、エルビス・コステロ、イアン・デューリー			ニューウェイブ	レコード			
	STING	ブルー・タートルの夢		1985年	ロック	レコード	1985年リリースのポリスを解散後のソロとしての第一弾。名作『シンクロナシティ』後の1984年、ポリスは非公式に解散。心機一転を回ったステイングがジャズ界の手練れ達を従えて制作した初のソロ・アルバム。ジャズはもちろん、ソウルやレゲエなどのカラフル&マニアクな要素を、良質なポップミュージックへと昇華した傑作である。ジャンルやスタイルに固執することなく、より洗練されたサウンドを一流の音楽センスと卓越した演奏力で体現したこの作品で、ステイングは自らのソロキャリアを華々しくスタートさせた。ポリス時代の曲をジャズ調にアレンジしたA面4曲目の「シャドウズ・イン・ザ・レイン」(オリジナルは、アルバム『ゼニヤッタ・モンダッタ』に収録)も収録されている。	Side A 1. セット・ゼム・フリー 2. ラヴ・イズ・ザ・セブンス・ウェイヴ 3. ラシアンズ 4. チルドレンズ・クルセイド 5. シャドウズ・イン・ザ・レイン	Side B 1. 黒い傷あと 2. コンシダー・ミー・ゴーン 3. ブルー・タートルの夢 4. バーボン・ストリートの月 5. フォートレス・アラウンド・ユア・ハート
	STING	テン・サマナーズ・ティールズ		1993年3月9日	ロック	CD	ステイング5枚目のソロ・アルバム。バラエティに富んだ楽曲が並んでおり、実際、欠点はほとんど見当たらない。約20年前にリリースされたこのアルバムには、かつて在籍したザ・ポリスという偉大なグループの呪縛から逃れ、親しみやすいサウンドを我がものにしたステイングがいる。アルバムの中核を成しているのが故エヴァ・キャシディもカバーした美しいバラード「Fields Of Gold」であることに異論はないだろう。ステイングの作品の中でもとりわけ人気の高いこの曲は、イギリスのシングル・チャートでは最高位16位を記録する。英米それぞれで2位を獲得した。	1. ルーズ・マイ・フェイス・イン・ユー 2. ラヴ・イズ・ストロングアー・ザン・ジャスティス 3. フィールズ・オブ・ゴールド 4. ヘヴィ・クラウド・ノー・レイン 5. シーズ・トゥ・グッド・フォー・ミー 6. セヴン・デイズ	7. セント・オーガスティン・イン・ヘル 8. イッツ・プロバブリー・ミー 9. エヴリバディ・ラフト・バット・ユー 10. シェイプ・オブ・マイ・ハート 11. サムシング・ザ・ボーイ・セッド
	STOOGES (IGGY POP)	イギー・ポップ・アンド・ストゥージズ		1969	パンク	レコード	60年代末期にデトロイトで生まれた、もうひとつのロックン・ロール。後のパンクス達に多大な影響を与えたオルタナ界のカリスマ、イギー・ポップが結成した、伝説のハード・ロック・グループのデビュー作。 プロデュースはヴェルヴェット・アンダーグラウンドのジョン・ケイル。激しいステージングとは対照的に意外に抑制されたアルバム作りがなされており、イギーの静の部分も表現されており、彼らの音楽性の幅広さが出ている完成度の高い作品である。	Side A 1. 19694:05 2. I Wanna Be Your Dog3:10 3. We Will Fall10:15	Side B 1. No Fun5:15 2. Real Cool Time2:29 3. Ann3:00 4. Not Right12:49 5. Little Doll3:21
	STOOGES (IGGY POP)	ロー・パワー		1973	パンク	レコード	イギー自らのプロデュースでリリースされたイギー & ザ・ストゥージズ名義での通算3rdアルバム。超名曲「探してこわせ(Search And Destroy)」!淫力魔神のテーマ(Raw Power)」を含む全8曲収録の大傑作。ギターがRon AshetonからJames Williamsonにスイッチ。		
	STOOGES (IGGY POP)	ノー・ファン(イギー・ポップの軌跡)		1980	パンク	レコード	ストゥージズ[6](The Stooges)は、アメリカ合衆国出身のロック・バンド。1960年代末のガレー・ジロックを代表するグループの一つ。フロントマン イギー・ポップの過激なパフォーマンスが特徴で、後のパンク/ニュー・ウェイヴに大きな影響を与えた。そのロック界に語り継がれる60sハードパンクのストゥージズのエレクトラから発売した「ストゥージズ」と「ファン・ハウス」のアルバムから選曲したベスト盤。セックス・ピストルズがカバーした「NO FUN」やダムドがカバーした「1970」等、名曲が！	1. 19694:05 2. Real Cool Time2:29 3. No Fun5:15 4. Dirt7:00 5. Down On The Street3:42 6. Loose3:33 7. T.V. Eye4:17 8. I Wanna Be Your Dog3:10 9. 19705:15	

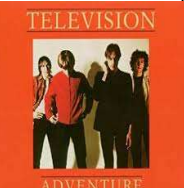
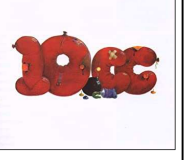
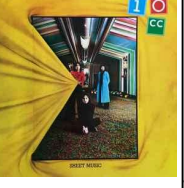
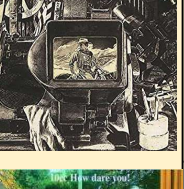
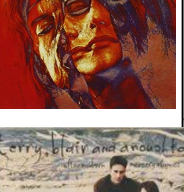
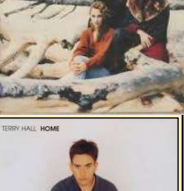
	STRANGLERS	野獣の館		1977	パンク	レコード	邦題は「野獣の館」。原題は「ラタス・ノルベジックス(ノルウェーのねずみ)」。ストラングラーズのメジャーデビューの第一作。ただし、ジャケットにもIVの文字が見られるように、マイナー時代を含めれば4枚目の作品ということらしい。サウンドもまた、ワンパターンの定型的なパンクロックではない。ドアーズの影響といわれ、デイブ・グリーンフィールドのキーボードやヒュー・コーンウェルのギターにその臭いがしないでもない。しかしそれはごく一部の要素でしかなく、全般的なサウンドはオリジナリティーの塊でありストラングラーズ独特のものとしかしいようがない。そんなストラングラーズのオープニングの「サムタイムス」を聴いたら、いきなりストラングラーズの世界に引きずり込まれてしまうだろう。それほど強力的で魅力的な音楽である。尚、「ピーチズ」は本国イギリスにおいてバブのジュークボックスには必ずといってよいほど入っているメジャーな曲。メンバーは地主階級の出身で生物学の博士号まで持っている危険なインテリ、リーダー格でボーカル、ギターのヒュー・コーンウェル。大学の文学部出身で三島由紀夫をこよなく愛するベース、ボーカルのジャン・ジャック・バーネル。彼は空手の有段者でもある。クラシック畑出身のキーボード奏者、デイブ・グリーンフィールド。酒造業を営んでいたドラムスのジェット・ブラックは37歳にしてバンクムーブメントに衝き動かされた。彼らの経歴もまた特異であり、定型的なパンクバンドとは一線を画している。	Side A 1. サムタイムズ 2. グッドバイ・トゥールーズ 3. ロンドン・レディ 4. 街角のプリンセス 5. ハンギング・アラウンド	Side B 1. ピーチズ 2. グリッパ 3. アグリー 4. ダウン・イン・ザ・スノー
	STRANGLERS	野獣の館		1977	パンク	CD			
	STRANGLERS	ノー・モア・ヒーローズ		1977	パンク	レコード	『No More Heroes』は彼等のアルバムとしては一番パンクの要素(性急な縦ノリのリズムと喘みつくようなボーカル)の強いアルバムといえる。とはいっても他のパンクバンドのような単純なものではなく、サウンド的にもかなり凝ったものとなっている。特にキーボードの存在がストラングラーズを他のパンク・バンドとの一線を画すものとしているので。また、『School Mam』のような長くて構成の凝った曲からはプログレからの影響すら感じてしまいます。この「ノー・モア・ヒーローズ」はストラングラーズの諸作品のなかでは、最も典型的なパンクサウンドに近い。このアルバムの代表曲「ノー・モア・ヒーローズ」はバンクムーブメント全体としての代表曲でもあり、文句なく格好良い曲であるが、歌詞にドン・キホーテの従者サンチョ・パンザが登場するあたりいかにもストラングラーズ的である。この時、すでに彼ら独自の世界観、人生観が垣間見られる気がする。やがて、ストラングラーズは深遠なる精神世界の探求への姿勢をより明確にしていく。	Side A 1. 疎外されて (アイ・フィール・ライク・ア・ウォグ) 2. ビッチング 3. 偽善者の歌 4. デイゲナムの不幸なデイヴ 5. 女ざかり 6. サムシング・ベター・チェンジ	Side B 1. ノー・モア・ヒーローズ 2. 腐った大都会の田舎者 3. バーニング・アップ・タイム 4. 淋しき英国の街 5. スクール・ママ
	STRANGLERS	ノー・モア・ヒーローズ		1977	パンク	レコード			
	STRANGLERS	ブラック・アンド・ホワイ		1978	パンク	レコード			
	STRANGLERS	ブラック・アンド・ホワイ		1978	パンク	CD			
	STRANGLERS	レイヴン		1979	パンク	レコード			
	STRANGLERS	ライヴ Xサーツ		1979	パンク	レコード			
	STRANGLERS	黒豹		1983	パンク	レコード			
	STRANGLERS	オーラル・スカルプチャー		1984	パンク	レコード			
	STRAY	トラックス		1975	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	英ハード・ロック・バンド、ストレイ。当時全員18歳の逸材で、ブラック・サバスやレッド・ツェッペリンに迫る存在として注目を浴びた。		
	STRAY CATS	涙のラナウェイ・ボーイ		1981	ロカビリー	レコード			
	STRAY CATS	ごーいんDOWN TOWN		1981	ロカビリー	レコード			
	STRAY CATS	セクシー&セブンティーン		1983	ロカビリー	レコード			
	STYLE COUNCIL	スピーク・ライク・ア・チャイルド		1983年	ニューウェイブ	レコード	70年代後半から80年代前半にかけて英国で圧倒的な人気を誇ったバンド、ザ・ジャズムを解散させたポール・ウェラー(vo, g)が、ミック・タルボット(piano, key)、スティーヴ・ホワイト(ds)らと共に結成したポップ・ユニットのデビュー・ミニ・アルバム。ファンク/ジャズからハウスまで、あらゆる音を実践したユニットの歴史的デビュー・ミニ・アルバム。名作Cafe Bleuに先んじて発表された既発シングルを集めた編集版だがThe Jam解散直後の覇気とアイデアに満ち溢れたポール・ウェラーの出发点として、若々しい高揚感と音楽への愛情が聴き者を限りない幸福感に包み込む。マーヴン・ゲイに触発された名曲(1)、デビュー曲かつ最高のノーザンダンサー(3)、強靱なベースラインに揺さぶられる(?)といった傑作シングルを収録。Cafe Bleu収録曲のヴェージョン違い〜(2)は弾き語りだけのシンプルなトラック、(5)はボールのヴォーカル版。そして(6)はミック・タルボットの演奏が際立つインスト、そして(7)はポール・ウェラーの演奏が際立つインスト。	Side A 1. ロング・ホット・サマー 2. ヘッドスタート・フォー・ハッピーネス 3. スピーク・ライク・ア・チャイルド	Side B 1. ロング・ホット・サマー(クラブ・ミックス) 2. ザ・バリス・マッチ 3. ミックス・アップ 4. マネー・ゴー・ラウンド(クラブ・ミックス)

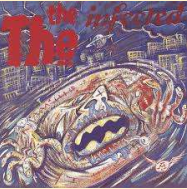
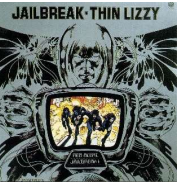
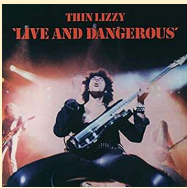
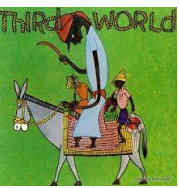
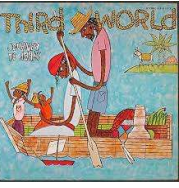
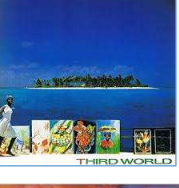
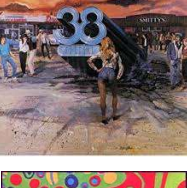
	STYLE COUNCIL	スピーク・ライク・ア・チャイルド		1983年	ニューウェイブ	レコード	こちらは、スピーク・ライク・ア・チャイルドのイギリス仕様のホーランド盤。		
	STYLE COUNCIL	カフェ・ブリュ		1984年3月1日	ニューウェイブ	レコード	1984年発表。英国の国民的バンド「ザ・ジャム」解散後、ポール・ウェラーが自分自身の趣味性と音楽的資質を思う存分爆発させたのが、キーボードイストのミック・タルボットと結成したスタイル・カウンシルのファースト・フル・アルバム。このユニットの R&B、ソウル、ジャズ、ファンクなど、黒人音楽のエッセンスを英国的センスで仕立てたファッショナブルなサウンドは、世界中の音楽シーンに大きな衝撃を与え、ウェラーは再び時代の中心に立った。そのスタイリッシュが日本音楽シーンに多大な影響を与え、数々のフォロワーを生んだことから記憶される名盤。	Side A 1. ミックス・ブレッシング 2. ザ・ホール・ポイント・オブ・ノー・リターン 3. ミー・シップ・ケイム・イン 4. ブルー・カフェ 5. ザ・パリス・マッチ 6. マイ・エヴァ・チェンジング・ムーズ 7. ホワイトハウスへ爆撃	Side B 1. ゴスベル 2. ストレンジス・オブ・ユア・ネイチャー 3. ユーアー・ザ・ベスト 4. ヒアズ・ワン・ザット・ガット・アウェイ 5. ヘッドスタート・フォー・ハッピーネス 6. カウンシル・ミーティン
	STYLE COUNCIL	アワ・フェイヴァリット・ショップ		1985年5月1日	ニューウェイブ	レコード	ポール・ウェラーとミック・タルボット、多彩なアイデアとインテリジェンスで仕立てられた彼らのお気に入りのショップの洒落たディスプレイを飾る。音楽の様々なスタイルは音への深い愛情によって新しい自由を手に入れ、あふれんばかりの創造意欲とみなぎるソングライティングの力が、ソウルとは“制約のない、感情に訴える、特別な音楽”であることを教えてくれる。	Side A 1.ホームブレイカー 2.オール・ゴーン・アウェイ 3.カム・トゥ・ミルトン・キーンズ 4.インターナショナルイズ 5.ストーンズ・スロー・アウェイ 6.スタンド・アップ・コミックス・インストラクションズ 7.ボーイ・フー・クライド・ウルフ	Side B 1.マン・オブ・グレート・プロミス 2.ダウン・イン・ザ・セース 3.ロジャース 4.ラック 5.エヴリシング・トゥ・ルーズ 6.アワ・フェイヴァリット・ショップ 7.タンブリング・ダウン
	STYLE COUNCIL	アワ・フェイヴァリット・ショップ		1985年5月1日	ニューウェイブ	レコード			
	STYLE COUNCIL	ザ・コスト・オブ・ラヴィング		1987年1月25日	ニューウェイブ	レコード	サードアルバム。いまだからこそもっと評価されていい70年代ソウル感あふれた傑作。ウェラーのアイドル、カーチスメイフィールドが一部参加した全編ソウルスタイルのアルバム。一部ではit didn't matter はロングホットサマーのテンポ上げただけやなどと酷評されてましたが、件の曲も決して出来は悪くなく、waitingやa woman's songなど佳曲もあり、ウェラーがやってくるわけではないですが、ラップナンバーまで収録されます。1はファンキーなリズムがいい。3・4・5などは黒人音楽を下敷きにした良質な白人音楽だ。同時代の同傾向で活躍したシンプリーレッドなど、80年代後半はソウルをもとにしたイギリスのバンドたちがシーンに登場していたけど、それらと比べても何ら遜色はない出来だと思う。8はこれこそスタイルカウンシルのなかでも傑作のソウルナンバー。70年代のマーヴィン・ゲイやアル・グリーンプロい。7はとてもしつないラブソングでしめつけられるようなウェラーの声がいい。ラブソングだけれど甘すぎることがないのはさすがウェラー。d・c・リーの声もアルバム全体で聴かれてとて面白い。	Side A 1. イット・デイドント・マター 2. ライト・トゥ・ゴー 3. ヘヴンス・アバヴ 4. フェーリィ・ティル	Side B 1. エンジェル 2. ウォーキング・ザ・ナイト 3. ウェイティング 4. ザ・コスト・オブ・ラヴィング 5. ア・ウーマンズ・ソング
	STYLE COUNCIL	ホーム・アンド・アブロード		1986	ニューウェイブ	レコード	全盛期のライブであり、もちろん活動時期中に発売された唯一のライブ・アルバムである。軽快に叩きまくるスティヴ・ホワイト、華麗に奏でられるミック・タルボットのオルガン、そして若くガッツ溢れるポール・ウェラーのボーカル・・・やっば最高。若干音質は劣るけれど、その演奏の熱さ、歯切れの良さ、そしてカッコ良さは格別で、収録されている曲はアルバム『アワ・フェイバリット・ショップ』までのものだが(「コール・ミー」が当時新曲)、ベストな選曲。ほぼ原曲のアレンジを忠実に再現しているが、テンポアップした「ビッグ・ボス・グルーヴ」や性急に突き進む「マイ・エヴァ・チェンジング・ムーズ」から始まり、華麗なるブラス隊を配しつつ、怒涛の「ウォールズ・カム・タンブリング・ダウン」、「インターナショナルイズ」で締めくくられる傑作ライブ！	Side A 1. マイ・エヴァ・チェンジング・ムーズ 4:32 2. ロジャース 4:32 3. ヘッドスタート・フォー・ハッピーネス 3:23 4. コール・ミー 4:20 5. ザ・ホール・ポイント・オブ・ノー・リターン 3:23	Side B 1. エヴリシング・トゥ・ルーズ 4:07 2. ホームブレイカー 5:06 3. シャウト・トゥ・ザ・トップ 3:25 4. タンブリング・ダウン 3:35 5. インターナショナルイズ 5:40
	STYLE COUNCIL	シンギュラー・アドベンチャーズ(シングル集)		1989年3月2日	ニューウェイブ	CD	スタイル・カウンシルのシングル集。	1ユー・アー・ザ・ベスト 2エヴァ・ハッド・イット・ブルー(12インチ・ヴァージョン) 3マネー・ゴー・ラウンド(パート1&2) 4マイ・エヴァ・チェンジング・ムーズ(12インチ・ヴァージョン) 5ロング・ホット・サマー(12インチ・ヴァージョン) 6ロジャース 7タンブリング・ダウン	8シャウト・トゥ・ザ・トップ 9ウォンテッド 10イット・デイドント・マター 11スピーク・ライク・ア・チャイルド 12ソリッド・ボンド・イン・ユア・ハート 13トップ・ビーブルズ・ヘルス・ファーム 14プロミス・ランド 15シー・スルー・イット・オール・アウェイ 16ウェイティング
	STYX	分岐点		1975	プログレス	レコード	メジャー・レーベルA&Mに移籍後の第1作目。1975年発表の通算5作目のフル・レングス。73年発表の「レディ」が、ラジオから火がついて全米6位の大ヒットを記録。ここから彼らの才能が一気に開花、続々と傑作が登場する黄金期に入っていきます。Wooden Nickel時代にあったモッサリ感がすっかり削ぎ落され、非常に洗練された作りになっています。それは、作曲面においても楽曲アレンジ面においてもプロダクション面においても。聴き手側の感性を、溢れ出る甘美な音空間で揺さぶり、極めて高い快感度をもたらします。デニスによるシンセの大規模導入も完璧に奏功。より幻想的な世界観の構築に成功していて、個人的には欧州のプログレバンド群にも決して引けを取らない内容だと思っています。要するに本作からプログレ度が飛躍的にアップしています。その分、前作までにはあった土臭い大陸風のパーティーR&Rが姿を消していて、野暮ったさ、田舎っぽさがすっかり薄れている。より複雑でドラマチックな楽曲構成、美的センスあふれるメロディラインが全面に押し出されるスタイルに大変換してきています。アルバム全体を通しての流れも素晴らしい、とにかく何一つとして欠点を見出せない作品です。前作までにはあったとっ散らかった面が矯正され、全ての音の断片が整理整頓され、これまで未完であった絵画がすっきりと完成するに至ったといった様相です。聴き処は多々あるのですが、個人的にはやはり透明感のあるデニスの歌声。特にバラード系のナンバーで披露される歌唱の美しさは絶品で、多重録音されたメンバーたちとのコーラス・ハーモニーと重なり合っていく辺りには、本当に鳥肌ものです。全盛期のQUEENに匹敵すると言っても、決して過言ではないでしょう。ただし、そうした美麗な展開へのアンチテーゼ的なギンギンのハードロック・ナンバーも実にバランスよく配されていて、そんな部分も本作の大きな魅力のひとつ。JY&クルリュウスキのツインギターも、抜群の冴えを見せているんです	Side A 1. ライト・アップ 2. ローレイ 3. マザー・ディア 4. ロンリー・チャイルド	Side B 1. ミッドナイト・ライド 2. アドヴェンチャー・野郎 3. プレリユード12 4. スイート・マダム・ブルー
	STYX	クリスタル・ボール		1976	プログレス	レコード	1. はいかにもイエス的なシンセによるアルペジオにヘヴィなギターのアクセントが入るイントロからクイーン張りのヴォーカル/ハーモニーが入るプリティッシュ・プログレ的な導入部からカラカラに乾いたギターによるパワー・ポップ風の楽曲に変化。スピーディーな演奏にテクニカルなギターやシンセ・ホーンなどの装飾を加えつつ、楽曲は優美なバラードのパートを加えて静と動とのコントラストをハッキリと付けている。こうした強引な展開がアメリカ的なものかもしれないがそれはそれでなかなか聞き応えがある。2. はいかにもアメリカン・ロック的な壮大なコーラスを加えたミドル・テンポの曲だが、ポール・マッカートニーがボストン風に演奏しているかのような出色の一曲である。メロディの捻りや一つ一つのフレーズに彼らのメロディ・メーカーとしての抜きん出た才能が感じられる。3. はちよびりボッサの雰囲気漂う佳曲で、どこか日本の歌謡曲のような親しみやすさがある。演奏はひたすらハードなためそれだけにメロディの甘さが引き立つ仕上がりである。4. はカンサスの「すべては風の中に」に通じるフォーク・ロック。..通じるというよりもその曲の明らかな元ネタだろう。トミー・ショウの実力の高さを遺憾なく発揮した名曲である。トミー・ショウの加入によるものなのか前作と比較するとキーボード群が一気に後退。カラカラに乾いたギター・カッティングをフィーチャーした曲では複雑な展開を見せていてもどこかパワー・ポップ的な明快さが感じられるものとなっている。トミー・ショウの活躍も大きいだろう。本作はギター中心のハード・ロック作であり、やや初期の作風に戻った印象も受けるが、このグループは一つの作品内で誰の楽曲が多いか(誰にやる気が高かったのか)によってその方向性が変化するのだろう。デニス・デ・ヤングの作風(前作と比較すれば彼のカラーは薄い)に魅力を感じる者にはやや本作は不評になる可能性はあると思うが、ギターを中心にしたアメリカ	Side A 1. フット・ミー・オン 2. マドモアゼル 3. ジェニファー	Side B 1. クリスタル・ボール 2. シューズ 3. ジス・オールド・マン 4. 月の光/バレーナ
	STYX	グランド・イリュージョン - 大いなる幻影		1977年	プログレス	レコード	全米6位/300万枚のセールスを記録、一大出世作となったスティックスの7作目。トミー・ショウが本作から参加した事によりポップ・センスも強化され、いよいよ彼等の黄金期がここから始まります。トミー作の「Fooling Yourself (怒れ!若者)」、「Come Sail Away 永遠の航海」のシングル・ヒットもあり、全米では大ヒット作となりました。TOTOやジャーニー、フォリナー、カンサスに先駆け、早くからプログレ・ハードの香りをプンプンさせていました。ドラマティックな構成、ジャケット・アートを含め、この頃の彼等は英国プログレからの影響もありながら、独自の個性を発揮していました。ポップで綺麗なハーモニーが、まだ産業ロックと呼ばれなかった時代の大傑作です。スマッシュ・ヒットとなった「永遠の航海」「怒れ!若者」ほか、ポップでメロディアスなスティックスらしき全開！	Side A 1. 大いなる幻影 Grand Illusion, The 2. 怒れ!若者 Fooling Yourself 3. スーパースター Superstars 4. 永遠の航海 Come Sail Away	Side B 1. ミス・アメリカ Miss America 2. 荒野の旅人 Man in the Wilderness 3. 幻想の城 Castle Walls 4. 幻影の終りに The Grand Finale
	STYX	ピーシーズ・オブ・エイト - 古代への追想		1978	プログレス	レコード	78年作、スティックスの通産8作目となったアルバム。彼等の最もプログレ・ハード色の強かった時期の傑作。次作ではシングル「ベイヴ」の大ヒットも手伝い、80年代の産業ロックに繋がるかなりポップなサウンドを完成させていましたが、本作ではハード・ロック・バンドとしての魅力も生かされたナンバーが目立ちます。ヒプノシスによる印象的なジャケットと共に、ジャーニーやカンサス、ボストンとは全く違った幻想的でドラマチックなコーラスが特徴のハード・ロック・スタイルが貫かれた作風は、確かに以降のスティックスと繋がるメロディアスな部分もありますが、個人的にはこの頃の新しい形のアメリカン・ハードを提示してくれた彼等がカッコ良かったと思います。ジャケット・ワークも含めたトータル・コンセプトがいかにも70年代的なミステリアスな事もあり、派手で大仰ではないメロディアス・ロックとして楽しめます。	Side A 1. グレート・ホワイト・ホープ 2. アイム・OK 3. この一瞬のために 4. メッセージ 5. 指輪物語	Side B 1. ブルー・カラー・マン 2. スペードの女王 3. 逃亡者 4. ピーシーズ・オブ・エイト 5. アク・アク
	SUBWAY SECT (VIC GODARD)	ホワッツ・ザ・マター・ボーイ? (デジタルリマスター盤)		1980年	パンク	CD	ロンドンパンクとポストパンクのはざまに現れたヒップスター、ヴィック・ゴダード。自身のバンド、サブウェイ・セクトを率いてのファースト・アルバム。クラッシュのホワイトライオットツアーにも同行した、英国はプリストル出身のバンド。結成当初はひねくれパンクをやっていたが、この1stで大変身。ジョナサン・リッチマンやキンクスにも通じるオフビートな感覚。キャリアを重ねてゆくど洒落っぷりがさらに極まるのですが、デビューのあたりは荒削りで生っぽい感じもあって、それがまたいい。ソウル・ジャズ・ロカビリー等、米国産音楽に憧憬をかけたオレンジ・ジュースの1stにも通じるネオアコの大名盤。いまい知知名度は低いが必聴・必携の一枚。このリイシューはデジタルリマスターの上、後に発表されたシングル(アルバム冒頭に収録・これが大傑作)とBBCセッションを加えたもの。ヴィックとサブウェイセクトは音楽的見解の相違から前者はソロに、後者はジョー・ボクサーズに発展。それぞれ充実した作品を発表していく。	1. ストップ・ザット・ガール 2. パース&デス 3. スタンド・バック 4. ウォッチング・ザ・デヴィル 5. エンクレイヴ 6. アウト・オブ・タッチ / ヴェヌ 7. ヴァーティカル・インテグレーション 8. スプリット・アップ・ザ・マネー 9. ストウール・ビジョン	10. ダブル・ネガティヴ 11. エグジット・ノー・リターン 12. エンブリ・シエル 13. メイク・ミー・サッド 以下、CDボーナストラック [BBCビール・セッション] 14. ウォッチング・ザ・デヴィル 15. ストウール・ビジョン 16. ダブル・ネガティヴ 17. ヘッド・ヘルド・ハイ

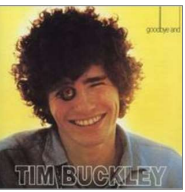
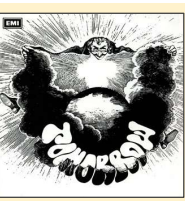
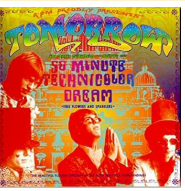
	SUE SAAD & THE NEXT	スーサッド&ネクスト		1980	ニューウェーブ	レコード	スー・サードとネクストは、カリフォルニア州ロサンゼルス出身のアメリカの新しいウェーブバンドでした。そのセルフ・タイトルのファースト・アルバムは1980年にアメリカビルボード200で131号を達成した。アルバムA面4曲目のPrisoner（囚人）は、シーナ・イーストンが1981年のアルバム『デイク・マイ・タイム』でカバーした。		
	SUPERTRAMP	ブレックファスト・イン・アメリカ		1979	ロック	レコード	1979年発表。通算6作目。スーパーバートランプ初のビルボードアルバムチャート1位となった。本国イギリスでも最高位3位でプラチナ・ディスクを獲得。タイトル曲ほか大ヒット曲を数多く収め、全米6週1位に輝くなど世界的な成功を収めた6thアルバム。キャッチーなメロディ、ソフトなヴォーカル、ポップなサウンド、美しいコーラスワークなど、スーパーバートランプの親しみやすい魅力が濃縮されている。また1980年のグラミー賞ではジャケット部門[5]とエンジニアリング部門[6]を獲得している。なお、同賞を獲得したジャケット（ニューヨークにある自由の女神像のパロディ）に登場している人物はアメリカの女優、ケイト・マータ扮する「リビーおばさん」という女性。		
	SUPREMES	一人ぼっちのシンフォニー		1966年	ポップス	レコード	66年発表。ウディブをフィーチャーした洒落たアレンジが最高な「I Hear A Symphony」や「B2「ラヴァーズ・コンチェルト」は、なんとと言ってもダイアナ・ロスの声質、歌唱がこの名曲を引き立てていて、スタンダードとして数々のカバーがある中でも、軽やかで甘く、そして純粋な恋の気持ちが見事に歌い上げられており、ダイアナ・ロスの作品としても一番好きな作品。ノーザン・ソウル・クラシック！ダイアナ・ロスを擁するモータウンを代表するガールズ・グループ「ジュ・プリームス」が1966年に発売した傑作アルバム。英国のモッズ達も愛した名作です。全米No.1ヒットを記録したモータウン・ビート全開の大名曲「I Hear A Symphony」や「My World Is Empty Without You」を始め、『Any Girl In Love』『Everything Is Good About You』『He's All I Got』等の胸キュン・ガール・ポップの名曲を収録。 「I Hear A Symphony」はISLEY BROTHERS、JACKSON 5、STEVIE WONDERもカバーしてお 「My World Is Empty Without You」はMCJ、X.T.F.が「Renee Gencies」にカバーしている。	Side A 1. ストレンジャー・イン・パラダイス 3:01 2. イエスタデイ 2:26 3. ひとりぼっちのシンフォニー（I Hear A Symphony） 2:40 4. アンチエンド・メロディー 3:47 5. わが心に歌えば（With A Song In My Heart） 2:01 6. ウィザウト・ア・ソング 2:58	Side B 1. 二人だけの世界（My World Is Empty Without You） 2:33 2. ラヴァーズ・コンチェルト 2:33 3. エニイ・ガール・イン・ラヴ 2:58 4. ワンダフル・ワンダフル 2:53 5. エヴリシング・イズ・グッド 2:57 6. ヒーズ・オール・アイ・ガット 2:45
	SURVIVOR	アイ・オブ・ザ・タイガー		1982年6月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	サヴァイヴァーが1982年に発表した3作目のアルバム。映画「ロッキー3」の主題歌に起用されて全米チャート6週連続1位、全英でも首位を獲得しグラミー賞の最優秀ロック・パフォーマンス部門も受賞した大ヒット曲「アイ・オブ・ザ・タイガー」を収録。アルバム自体も全米2位、全英12位を記録するベスト・セラーとなり、続いてシングル・カットされた「アメリカン・ハートビート」や80年代ティスト溢れる名バラード「ザ・ワン・ザット・リアリー・マスターズ」がヒットした。彼らを一躍トップ・バンドに押し上げた。		
	SUSAN ANTON	フォクシー		1981年	ポップス	レコード	17歳の時、ミス・アメリカの準ミスに選ばれた のをきっかけにショー・ビジネスの世界に入り、1979年、映画「キャンボール2」に出演やTVドラマ「ベイウオッチ」等でのお色気が人気で、NBCを通じて4回にわたって放送された『スーザン・アントンのすべて』で人気を決定づけ、当時全米でポスター売上げ2位を記録したことがある程人気があった。日本ではカリブアダイヤモンドのCFで人氣が沸騰（そのCMソングは『Killing' Time』（フォクシー）』であったため、1981年リリースのファーストアルバムはアメリカでは『Killing' Time』のタイトルだが、日本のみ、曲順を変更して『フォクシー（Foxy）』と改題して発売された。 全体的に曲は平均的なポップスで聴きやすく歌唱力もそこそこで悪くはない。	Side A 1. ファイ・オブ・ザ・タイガー 2. ドリーミン・マイ・ドリームス 3. ホールド・ミー 4. ラブ・ウオント・オールウェイズ・バス・ユー・バイ 5. 愛のモーメント	Side B 1. スweet・トーク 2. ノー・フレンズ・トゥ・ア・フール 3. ママ・ネバー・トルド・ミー 4. ラブ・ウィズ・ノー・ストリングス 5. ツー・サイズ
	SUZANNE VEGA	孤独（ひとり）		1987年	ポップス	レコード	シンガー・ソングライター、スザンヌ・ヴェガの1987年に発表したセカンド・アルバム、コマーシャルでも使われたアカペラの「トムズ・ダイナ」、親による幼児虐待を幼児の視点で歌って大ヒットした「ルカ」など、スザンヌ・ベガ入門に最適です。 スザンヌ・ベガの曲の中にはいわゆる普通のラブソングは少ないのですが、そんな中「ジブシー」は貴重な美しいバラードです。こういう曲が少ないだけに普通っぽいメロディーが逆に引き立つのかもしれません。それでも表現は巧みです。Curl me up inside you and let me hear you through the heat（私を包み込んで、そして温もりを通して語りかけて）スザンヌにしてはソフトなタッチで歌い上げます。逆に「瞳」や「孤独」はスザンヌのシャープな語り口が前面に出た、結構激しいフォークロックです。「孤独」などを聞くとスザンヌは詞の内容だけでなく、詞の響きにも相当こだわっていることがわかります。強勢の部分、タイトルのSolitude StandingはSで韻を踏んでますし、サビの終わりの表現Flower with a FlameもFで韻を踏ませています。スザンヌが録音時にマイクの近くで歌っているためか、特にこういう子音が耳に残るのです。そのようにして歯切れ良さと生々しさとデリケートさが同居した奇妙な味わいが楽しめます。全体として、シェリル・クロウとかシャナイア・トゥエインみたいなワイルドなボーカリストとは対極的な、都会的で繊細な味わいが堪能できる一枚です。	Side A 1. トムズ・ダイナー 2. ルカ 3. 鉄の街 4. 瞳 5. 夜の影	Side B 1. 孤独（ひとり） 2. カリブソ 3. ことば 4. ジブシー 5. 木の馬 6. トムズ・ダイナー（リプライズ）
	SUZI QUATRO	サディスティック・ロックの女王		1973	ロック	レコード	姉パティらとガールズバンド「ザ・プレジャー・シーカーズ」（The Pleasure Seekers）を結成していた。音楽プロデューサーのミッキー・モストによって高い評価を受け、1971年末に同氏を頼って渡英し、1973年のデビューアルバムを発表する。ガールズ・ロッカーの先駆けとなり、元祖ロック・クイーンとして後続への道を拓いたスージー・クアトロのデビュー・アルバム。シングルの「キャン・ザ・キャン」は、全英で自身初のチャート1位に輝いたのを始め、ヨーロッパ及びオーストラリアでナンバーワン・ヒットを記録する。また、アルバムも英国のアルバムチャートで32位、ドイツで4位、オランダで5位と、いくつかの領域でチャートのトップ50に達し、重要かつ商業的な成功を収めた。		
	SUZI QUATRO	陶酔のアイドル		1974	ロック	レコード	ガールズ・ロッカーの先駆けとなったスージー・クアトロのセカンド・アルバム(1974年作品)。スージー・クアトロのアルバムの中でも完成度が高い傑作アルバム。オーストラリアで1位に達した他、フィンランドとノルウェーで5位、日本でもオリコン9位になった。スージーのパワフルなヴォーカルとベースが鳴り響く快作。ヒット・シングル「ワイルド・ワン」「悪魔とドライブ」他を収録。		
	SUZI QUATRO	陶酔のアイドル		1974	ロック	CD			
	SUZI QUATRO	クアトロ白書		1977	ロック	レコード	ヒット・シングル「恋はどっきり」、エルヴィス・プレスリー「ハートブレイク・ホテル」のカバーを収録したスージー第4弾アルバム。アルバムの中では今一つの出来。		
	SVT			1980	ニューウェーブ	レコード	SVTの1980年にリリースされたデビューアルバム。当時4人組のパワーポップ。		
	SVT	ノー・リグレッツ		1981	ニューウェーブ	レコード	ヴォーカルのブライアン・マーネルが率いるスリーピースバンドSVTのセカンド・アルバム。西海岸出身のバンドで、このグループがイギリスであればこのアルバムは絶対売れたと確信できる内容で、とにかくカッコよくて最高のニュー・ウェイブサウンドが堪能できる魅力的な作品です。この2ndアルバムは表情に素晴らしい楽曲が多く、猛烈な勢いで演奏されていており、なぜもっと売れなかったのか不思議なぐらいのアルバムです。実はこのヴォーカルのブライアン・マーネルは、このアルバムをリリースした直後に亡くなっていたということです。ですのでグループは自然消滅してしまったのです。本当に惜しいバンドを亡くしましたし、このブライアン・マーネルの死はあまりにも早や過ぎて残念でなりません。	Side A 1. Bleeding Hearts4:51 2. Waiting For You2:53 3. Heart Of Stone3:00 4. No Regrets3:23 5. Money Street5:23	Side B 1. Love Blind2:52 2. North Beach3:07 3. What I Don't Like3:20 4. Secret2:44 5. Too Late5:07 6. You Don't Rock4:35
	SWEET	ライヴ・アンド・ベスト		1975	グラムロック	CD	1975年発表。1973年12月21日にロンドンのレインボー・シアターで行なわれた熱狂のライヴの模様と、ヒット曲の「フォックス・オン・ザ・ラン」「ロックン・ロールに恋狂い」「ブロックバスター」を始めとするスタジオ・ティクを纏めた編集盤。「ミス・ディミナ」「バーン・オン・ザ・フレイム」「アイ・ワナ・ビー・コミットド」はオリジナル・アルバム未収録	1. ヘルレイザー（LIVE） 2. バーニング/サム・ワン・エルス・ウィル（LIVE） 3. ロックン・ロール・ディスグレイス（LIVE） 4. 恋の大募集（LIVE） 5. ロング・オールライト（LIVE） 6. 愛してくれていいんだよ（LIVE） 7. 黄金の腕を持った男（LIVE） 8. アクション	9. フォックス・オン・ザ・ラン 10. セット・ミー・フリー 11. ミス・ディミナ 12. ロックン・ロールに恋狂い 13. バーン・オン・ザ・フレイム 14. ソリッド・ゴルド・プラス 15. 初恋の16才 16. アイ・ワナ・ビー・コミットド 17. ブロックバスター

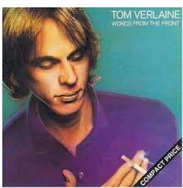
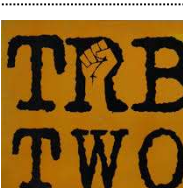
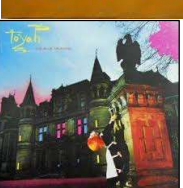
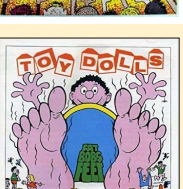
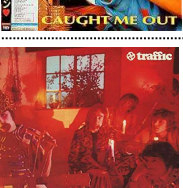
T							76年作。ポスト・グラム期と呼ばれた時代に突如として変異したスウィートが放った重要作です。彼等は元々アイドル・グループとして売り出され、バブルガム・ポップ・バンドの代表格として一時人気を誇っていました。スージー・クアトロやMUD等、英国のポップ・シーンの甘さと妖しさを演出してきたマイク・チャップマン&ニッキー・チンがスウィートを手掛けてきましたが、バンドは本作から彼等の手を離れ、元々持っていたハード・ロッカーとしての資質を爆発させています。その最たるナンバーが「FOX ON THE RUN」であり、「ACTION」だったわけです。QUEENが「ボヘミアン・ラプソディ」で猛威を振るう中、SWEETはこの2曲で存在感を見せつけ、見事再生、復活したのです。以降のHR/HMシーンに彼等が残した影響は計り知れないものがあり、カヴァーされた回数も数え切れないものとなっているのは良く知られていると思われます。この2曲に限って言えば、これまでDEF LEPPARD、SCORPIONS、BLACK 'N BLUE、STEVE STEVENS ATOMIC PLAYBOYS、RAVEN、GIRLSCHOOL等々が取り上げてきましたが、おそらくもっとカヴァー・ヴァージョンが存在すると思います。華麗なコーラス、グラマラスなギターとヴィジュアル、シンセを加えたキラキラ・サウンドは、前述のQUEENを思わせながら、パワー・ポップ、ハード・ポップ、そしてグラム・ロックに通じる毒々しいとも言えるキャッチーさに溢れています。ド派手さとハード・ロックのダイナミズムをこうしたポップなセンスでまとめる手腕は、確かに80年代メタルがお手本としてきたのは納得できるところです。ユニークなのは、「LADY STARLIGHT 星あかりの女」において、すでにボウイのクラシック・ナンバーとなっていた「LADY STARDUST」を強く思わせるのですが、ボウイの退廃的なセンスとは異なり、彼等の場合は以降のパワー・バラード的な取り組み方を見ている点でしょう。こうしたいかがわしさと器用さこそが、まさに時代とマッチング、バンドの最大の個性に繋がっていたのだと思います。	Side A 1. アクション 2. 昨日の雨 3. 白ねずみ 4. 恋の特効薬 5. フォックス・オン・ザ・ラン 6. 恋はだましあい	Side B 1. ゴキブリ野郎 2. 星あかりの女 3. キープ・イット・イン 4. 7月4日 5. アクション (シングル・ヴァージョン) 6. メデューサ
							1979年にリリースされた、この1stの衝撃性も忘れられない。オリジナルLPは4トラックで録音された全14曲、初回盤のみ4曲入り7インチ(本作の15〜18に収録、特に17、18が愛！)付き。日本盤CD化にあたって、先行した2枚の貴重なシングル計7曲をボーナス・トラックとして追加。楽器もろくに演奏できない連中が勢いで結成したのは有名な話で、音も悪いが、妙な迫力あり。本作の4年前くらいから曲作りをしていたらしく、下手なりに、凄いくちになっていました。パンクもこの頃には多種多様となり、ニュー・ウェイヴ範疇のポスト・パンクということになるのだから、ガレージで練習しているような手作り感あふれる、ガチャガチャのグチャグチャが良いんだ。何かやりたいという情熱は確実にビシバシ伝わってくる。曲作りは手癖なのか、時々あまり聴いたことがないようなメロディが出てくるし、ドスバタしたリズム隊を基調に、外れたヴォーカルとコーラス、長々続くギター・リフ、予測しにくい鍵盤などが絡んで、独特の変態的グルーヴを生み出している。そして、6のようにピアノや効果音を使って、フランスのバスカル・コムレートみたいなミニマム・ミュージック風インストを入れたり、何やら単調で謎めいて暗く盛り上がりつつナンバー(12)があったり、13なんか、まるでノイズ・ミュージックかインダストリアル、はたまたガレージ・プログレとも言うべきサウンド。シングル群もまともな曲は1曲もなく、一聴、シンプルなようで、変なことをいっぱいやっているから、なかなか飽きがない。19から25までのボーナス・トラックは、25を除き、ストレートなR&Rと呼べるものが多くて、かつこいしい、聴き易いかも。	1. H.S.Art 2. Another Song 3. Vertical Slum 4. Spitfire Parade 5. Harmony In Your Bathroom 6. Don't Throw Ashtrays At Me! 7. Midget Submarines 8. Bridge Head (part nine) 9. Full Moon In My Pocket 10. BLAM !! 11. Full Moon (reprise) 12. Gunboats	13. Adventuring Into Basketry 14. My Lil' Shoppes' Round The Corner 15. Loin Of The Surf 16. Doctor At Cake 17. Steven Does 18. Bronze And Baby Shoes 以下、CDボーナスストラック 19. Read About Seymou 20. Ripped & Torn 21. Black Velvet 22. Dresden Style 23. Nothing Much / Mystery Track 24. Ammunition Train 25. Full Moon
							1970年発表作品。シド・バレットの初のソロ・アルバム。ピンク・フロイド初期のリーダー、シド・バレットが独立後に制作したファースト・ソロ・アルバム。ピンク・フロイドのデヴィ・ギルモア、ロジャー・ウォータースがプロデュースに参加！1968年にピンク・フロイドを脱退したシド・バレットは、同年5月13日、ピーター・ジェナーのプロデュースの下で最初のデモ・レコーディングを行う[1]。「夜もふけて」はその時に最初のテイクが録音されたが、アルバムに収録されたのは5月28日録音のヴァージョン[1]。その後ハーヴェスト・レコードの社長であるマルコム・ジョーンズのプロデュースで、本格的なレコーディングが開始された。「むなしい努力」と「ラヴ・ユー」では、ソフト・マシーンのメンバー3人による演奏がオーバー・ダビングされる。マルコムの下で6曲が完成し、その後、ピンク・フロイドのデヴィッド・ギルモアとロジャー・ウォータースも合流して、プロデュースと演奏で参加。ジャケット・デザインは「ヒプノシス」のストーム・ソーガソンとオーブリー・バウエルが担当し、写真撮影はミック・ロックによる。	1カメに稼ぐ詩 2むなしい努力 3ラヴ・ユー 4見知らぬところ 5暗黒の世界 6ヒア・アイ・ゴー	7タコに稼ぐ詩 8金色の髪 9過ぎた恋 10寂しい女 11フィール 12イフ・イツ・イン・ユー 13夜もふけて
							シド・バレットが1970年に発表した2作目のソロ・アルバム。本作はシドにとって最後のオリジナル・アルバム。天才と何とかは紙一重。元ピンク・フロイドのフロント・マンの最終作(後に未発表曲集は出る)。リック・ライトとデヴィ・ギルモアがプロデュースを担当している。バックの演奏は前記の2人の他、前作にも参加していたハンプル・バイのジェリー・シャーリー(Dr)などが参加している。数々の奇行と不安定なテンポで演奏されるシドのギターに合わせた演奏はかなりの苦勞が想像されるものの、そんな苦勞の甲斐はあったと断言が出来る素晴らしい楽曲が揃っている。この後、シドはスタジオ作を製作しなかったが、イーノを含めたたくさんの人々が彼をプロデュースしたいと公言していたことは有名な話。これらの楽曲を聴くとそれも納得がいくと思う。この人の場合、存在そのものがサイケデリックそのものであり、楽曲もかなりブツ飛んだ雰囲気があるものの、表面的にはかなりポップで聴きやすい。基本はアコギの弾き語りとオルガンだが、おおよそのサイケ・ポップとは一線を画した倒錯感が感じられる眩しい一枚である。この作品の後、シドはしばらく引退したが、72年頃トゥインクラとスターズなるグループにて数回のギグを行なうなどしたが、その後は完全に引退し06年に亡くなった。1. は強引？とも感じられるサビへの移行が快感な極ポップな必殺の一曲。7. や10. など魅力的なメロディを持った楽曲も多い。12. はチューバも入ったほのぼのした曲。ゆらゆらとした不安定な演奏に倒錯したメロディが浮遊するサイケな傑作アルバムだと思う。全編、聴く者まで危ない世界に引きずり込んでしまう妖しき音世界。	Side A 1. ベイビー・レモネード - “Baby Lemonade” - 4:06 2. ラヴ・ソング - “Love Song” - 2:59 3. ドミノ - “Dominoes” - 4:03 4. あたりまえ - “It Is Obvious” - 2:54 5. ラット - “Rats” - 2:54 6. メイシー - “Maisie” - 2:46	Side B 1. ジゴロおばさん - “Gigolo Aunt” - 5:42 2. 腕をゆらゆら - “Waving My Arms in the Air” - 2:07 3. 嘘はいわなかった - “I Never Lied to You” - 1:47 4. 夢のお食事 - “Wined and Dined” - 2:53 5. ウルフバック - “Wolfpack” - 3:41 6. 興奮した象 - “Effervescing Elephant” - 1:50
							ニューヨークドールズのメンバーだったシルベイン・シルベインのソロアルバム。アメリカのオリジナル盤。		
							赤地にグループ名と77とだけ記されたジャケットのデビュー・アルバ。デヴィッド・バーン(vocals, guitar)、ジェリー・ハリス(keyboards, guitar)、ティナ・ウェイマス(bass)、クリス・フランツ(drums)からなるアメリカのニュー・ウェイヴ/ポストパンク/アート・ロックバンド、トーキング・ヘッズが1977年に発表したデビュー作です。次作からはブライアン・イーノをプロデューサーに迎えてリズム感、グルーヴ感を強調した一連の流れが出来る。この一枚はいかにもニューヨーク・パンクらしいものでインテリジェンスに富みながらモノマニャック。衝動的であるようで理性的。バーンの情緒不安定な歌声。もろいバランス、不安定な落着きが魅力だ。全体の構成を押し破らんばかりの存在感を放つ十曲目「サイコ・キラー」は名曲。癖になること間違いなし。	Side A 1. ラヴ・カムズ・トゥ・タウン (2:48) 2. ニュー・ファイリング (3:09) 3. テンタティヴ・デシジョンズ (3:04) 4. ハッピー・デイ (3:55) 5. フー・イズ・イット? (1:41) 6. ノー・コンパッション (4:47)	Side B 1. この本について The Book I Read (4:06) 2. 心配無用のガヴメント - Don't Worry About the Government (3:00) 3. ファースト・ウィーク/ラスト・ウィーク (3:19) 4. サイコ・キラー (4:19) 5. ブルド・アップ (4:29)
									
							トーキング・ヘッズが1978年に発表した第2作アルバム。評価の高かった前作から人気は更に高まり、この作品で世界的に知名度は高くなった。このアルバムからブライアン・イーノが参加しています。プロデューサーとしてだけでなく、ギター、ピアノ、シンセサイザー、さらにはヴォーカル(どこに?)まで。さすがにイーノの参加は大きく、アレンジ面でも、全体構成でも、ファーストより格段の進歩が見られます。精密に計算されながらもむき出しのサウンド、特に七曲目から始まる8面の流れは…完璧だ。完璧と言えばここのティナ・ウェイマス。彼女のベース音は完璧。都会的知性に、ぎらぎらとした活力、そしてシンセの使い方も合わせてユニークな表情をもったポップセンスとバランスが非常に良い。いつまでも飽き来ないアルバムにしてトーキング・ヘッズの最高傑作と思う！	Side A 1. 天使をありがとう - Thank You for Sending Me an Angel (2:11) 2. ウィズ・アワ・ラヴ - With Our Love (3:30) 3. グッド・シング - The Good Thing (3:03) 4. 警告 - Warning Sign (3:55) 5. 女の子は女の子に - The Girls Want to be With the Girls (2:37) 6. ファウンド・ア・ジョブ - Found a Job (5:00)	Side B 1. アーティスト・オンリー - Artists Only (3:34) (バーン、Wayne Zieve) 2. アイム・ノット・イン・ラヴ - I'm Not in Love (4:33) 3. ステイ・ハングリー - Stay Hungry (2:39) (バーン、クリス・フランツ) 4. テイク・ミー・トゥ・ザ・リヴァー - Take Me to the River (5:00) (アル・グリーン) 5. ビッグ・カンントリー - The Big Country (5:30)
									
							トーキング・ヘッズの第3作アルバム。今作より取り入れているアフリカン・ファンクが、後の作品に大きく影響を与えている。また「I Zimbra」では、ロバート・フリップをサポートに招いている。ニューウェイブの中にもカントリーなどの要素も含んでいる彼らですがスタイリッシュに初期の集大成としてまとめているのが本作です。1曲目のジンプラだけ毛色が違っていてこれは次作のための習作となっています。キングクリムゾンのギタリスト、ロバートフリップが客演しておりロバートにも影響を絶えたと思われる。それは、80年代のキングクリムゾンにつながってゆくものでした。そういう意味でも重要なアルバムといえるのではないのでしょうか？ちなみに当時のデビッドバーンはインタビューでサバィバルしたいと答えていた。	Side A 1. イ・ズィンブラ - I Zimbra (3:06) (バーン、ブライアン・イーノ、フーゴ・バル) 2. マインド - Mind (4:12) 3. ペーパー - Paper (2:36) 4. シティーズ - Cities (4:05) 5. ライフ - Life During Wartime (3:41) (バーン、クリス・フランツ、ジェリー・ハリソン、ティナ・ウェイマス) 6. メモリーズ - Memories Can't Wait -(3:30)	Side B 1. エアー - Air (3:33) 2. ヘヴン - Heaven (4:01) (バーン、ハリソン) 3. アニマルズ - Animals (3:29) 4. エレクトリック・ギター - Electric Guitar (2:59) 5. ドラッグス - Drugs (5:13)
							トーキング・ヘッズの4枚目のアルバム。全米19位。この作品を最後に、ブライアン・イーノがプロデューサーを降りている。本作ではファンクやアフリカンミュージック、南米の民族音楽などのプリミティブなリズムを、デジタルな感覚で再構築。まったく新しいビート感を作りあげることになった。高いインテリジェンスを感じさせるサウンドが、90年代以降のダンスミュージック、オルタナティブ・ロックへ与えた影響は大きい。「リズム」に対する自由な解釈が、聴く者に新鮮な刺激を与える代表作である。	Side A 1. ヒート・ゴーズ・オン(ボン・アンダー・パンチズ) (5:46) (デヴィッド・バーン、ブライアン・イーノ) 2. クロスアイド・アンド・ペインレス (4:45) 3. グレイト・カーヴ (6:26)	Side B 1. ワンス・イン・ア・ライフタイム (4:19) 2. ハウシズ・イン・モーション (4:30) 3. シーン・アンド・ノット・シーン (3:20) 4. リスニング・ウィンド(風は友) (4:42) (バーン、イーノ) 5. オーヴァーロード (6:00)
									

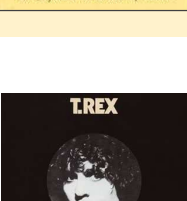
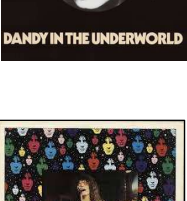
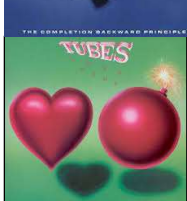
	TALKING HEADS	スピーキング・イン・タングス		1983年6月1日	ニューウェイブ	レコード	トーキング・ヘッズの第5作スタジオ・アルバム。前作からおよそ2年振りの作品。「リメイン・ライト」の成功によりアルバムのチャート自体は前作を上回る最高位15位を記録した。今回は完全なセルフ・プロデュース作で、ファンクをコンセプトアルバムに再構築したスタイリッシュな作品。奇妙な明るさが漂う味わい深い1枚。芸術家肌のイーノから離れたせいなのか、今までになくポップな仕上がりになっている。同じホワイトファンク路線ではここで行き着く所まで行き着いてしまったようだ。次作ではまたも方向転換を余儀なくされる。 LP初回版のジャケットはロバート・ラウシェンバーグが手がけたもので、透明ジャケットに透明なアナログ盤が封入されていた。そのアナログ盤は、カラージュ写真をそれぞれ異なる色で印刷した3枚のプラスチック製の円盤で挟まれていた。ラウシェンバーグはこのジャケットデザインによりグラミー賞を受賞した。	Side A 1. バーニング・ダウン・ザ・ハウス (4:00) 2. メイキング・フリッピー・フラッピー (4:36) 3. ガールフレンド・イズ・ベター (4:25) 4. スリッパリー・ピープル (3:30) 5. アイ・ゲット・ワイルド／ワイルド・グラヴィティ (4:06)	Side B 1. スワンプ (5:09) 2. ムーン・ロックス (5:04) 3. ブル・アップ・ザ・ルーツ (5:08) 4. ジス・マスト・ビー・ザ・プレイス (4:56)
	TALKING HEADS	リトル・クリチャーズ		1985年7月15日	ニューウェイブ	レコード	トーキング・ヘッズが1985年に発表した第6作アルバム。本作品は前作までの先鋭的な楽曲が少なくのどかでのんびりとした牧歌的な楽曲が多く全体的にゆったりとした印象を受けます。(本アルバムのライナーノーツにはメンバーのJerry Harrisonが書いた『traditional songwriting』の記載あり。)中でも楽曲『Road To Nowhere』の出来は秀逸で分厚いハーモニーが素晴らしいです。Talking Headsを知らない人でも洋楽を聞かない人でも一度は耳にしたことがあるフレーズではないでしょうか？それ程有名な曲です。勿論他にもオープニングの『And She Was』等素晴らしい楽曲がありアルバム全体のクオリティも高いと思います。	Side A 1. アンド・シー・ワズ - And She Was (3:36) 2. ネーム - Give Me Back My Name (3:20) 3. クリーチャーズ・オブ・ラブ - Creatures Of Love (4:12) 4. レディー・ドント・マインド - The Lady Don't Mind (4:03)(トーキング・ヘッズ) 5. パーフェクト・ワールド - Perfect World (4:26)(トーキング・ヘッズ)	Side B 1. ステイ・アップ・レイト - Stay Up Late (3:51) 2. ウォーク・イット・ダウン - Walk It Down (4:42) 3. テレビジョン・マン - Television Man (6:10) 4. ロード・トゥ・ノーホエア - Road To Nowhere (4:19) ※特記の無いかぎり全てデヴィッド・バーンの作詞・作曲。
	TASTE	ライヴ・テイスト		1971年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1971年発表の3rd。。若きロリー・ギラガーの凄まじいギター・プレイを筆頭に、第2のクリームとうたわれた見事なパフォーマンスが収められている。グループ解散後に発表されたライヴ・アルバムで70年、スイスのモントルーでの録音。音質はまずまずといった印象で、ミックスはヴォーカルを全面に出したもので、次にギター、リズム隊といったちよっと片寄ったものとなっているが、そのおかげもあってギターのプレイは細部までしっかりと聞えており、アンプの鳴りまで聞えてきそうな生々しいものとなっている。好みもあらうが、実際のライブでもこのような感じだったのであろう。ちなみに曲間はフェイド・アウト処理が行なわれている。 1. はエレクトリック・ギター一本による弾き語りによる導入部がまずは素晴らしい。途中から入ってくるリズム隊は思いっきりハズしている印象もなくはないが、それがかえて緊張感を生み出しており、ロリーのプレイが引き立っている。いわゆるブルース・ロックだが、型に嵌らない白熱のプレイはさすがに聞き応えがある。ヴォーカルもかなり熱い。2. はスライドで弾きまくるカントリー・ブルース路線の曲。演奏はやや荒いが、バックはベードラと客の手拍子のみというシンプルなので、ギターの豊かな響きに聞き惚れる一曲。3. はブギー路線のブルース・ロック。リズム隊のミックスのせいもあってこの曲はやや迫力不足に感じられる。曲間にドラム・ソロも挿入されているが、露骨に途中をカットしているような部分もあり。 前作完成後にメンバーが脱退した事情と先のミックスの影響もあってリズム隊のプレイがかなりクールに聞こえるように思う。彼らを完全なバック・メンバーと捕らえればさて問題は無いが、「テイスト」というグループの作品としてはちょっと・・・かもしれない。ただしロリーのプレイはスタジオ以上のもの多々感じられ本作をベストとする者がいるのも納得は出来る。	Side A 1. シュガー・ママ 2. キャンプリン・ブルース 3. フィール・ソー・グッド (パート1)	Side B 1. フィール・ソー・グッド (パート2) 2. キャット・フィッシュ 3. セイム・オールド・ストーリー
	TASTE	ワイト島のテイスト(ロリーギラガー)		1972年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	72年発表の4作目。グループ解散後に発表されたライブの第二弾で、70年のワイト島での演奏を収録している。全体的に音質はまずまずで先に発表されたライブ盤『ライヴ・テイスト』と比べるとリズム隊の演奏もかなり前に出ており、ミックス的には良くなっていると思う。それでもあからさまにギターとヴォーカルのミックスが高いので、演奏そのものの迫力がやや削がれている気はしないでもない。ギターは自由奔放に弾きまくっており、さすがに聞き応えはあるが、ドラムスは叩き捲りではあるもののどこか冷めており、ベースに至っては時に白けているようにすら聞こえる程クールである。すでに解散が決定していたということもあるのだろうか、末期クリームとはまた違った“寒さ”が、聞き物と言え聞き物だろう。ただし時に3人の演奏がハマる箇所もあり、トリオ編成という長所と短所が垣間見れる。聞き物は間違いなく9分超えの長尺演奏となった2. で、ほとんどソロとなった演奏に時折キメとしてリズム隊が加わる部分が鳥肌ものである。ラストの6. のギターとリズム隊が一体となったヘヴィな演奏も彼等の演奏の中でもベストのものの一つかと思う。	Side A 1. ホワッツ・ゴーイング・オン 2. シュガー・ママ 3. Morning Sun (朝の太陽) 4. スイナー・ボーイ	Side B 1. フィール・ソー・グッド 2. Catfish (なまず)
	TASTE	ザ・ベスト・オブ・テイスト フューチャリング・ロリーギラガー		1994	ハードロック&ヘヴィメタル	CD		1. Blister On The Moon3:24 2. Born On The Wrong Side Of Time3:58 3. Leavin' Blues4:14 4. Hail2:34 5. Same Old Story3:30 6. Catfish8:01 7. I'm Moving On2:28 8. What's Going On2:46	9. Railway And Gun3:36 10. Eat My Words3:44 11. On The Boards5:59 12. It's Happened Before, It'll Happen Again6:31 13. If The Day Was Any Longer2:07 14. I Feel So Good - Recorded Live7:36 15. Sugar Mama - Recorded Live8:09 16. Sinner Boy - Recorded Live5:40
	TEARDROP EXPLODES	キリマンジャロ		1980	ニューウェイブ	レコード			
	TEARDROP EXPLODES	キリマンジャロ		1980	ニューウェイブ	レコード			
	TEARS FOR FEARS	ザ・ハーティング		1983	エレクトロニクス	レコード			
	TEARS FOR FEARS	シャウト		1985	エレクトロニクス	レコード			
	TEAZE	オン・ザ・ルース			テイチク	レコード	78年作、カナディアン・ハードのB級バンドとして知られるティーズのセカンド・アルバム。当時はRUSHやTRIUMPHもカナダのHR/HMバンドとして紹介されていましたが、ここ日本ではアイドル的人気にあやかりうとしていた節があった。おそらく同時期にデビューし、日本で爆発的人気を獲得していたチープ・トリックの様な売り方をレコード会社が狙っていたのかもしれないが、このティーズはかなりゴリゴリのハード・ロック・バンドであったと思います。若くルックスの揃った4人組で、プリティッシュ・ハードからの影響が強い正統派リフにポップなコーラス、バンド・サウンドはかなり荒々しいメタリックなエッジが強いもので、女の子人気よりはハード・ロック少年に好まれるべき豪快な音が個性となっています。AC/DCの育ての親とて言うべき、ヴァンダ&ヤングによるEasybeatsのカヴァー、「Gonna Have A Good Time Tonite」や、シングルともなったアルバム・タイトル曲の痛快さは確かに次世代のハード・ロック・バンドとしての元気の良さに溢れています。なかなか器用なソング・ライティング・センスも見逃せず、アコースティック調のナンバーでの人懐っこさ、「Baby Why Can't U」でのパブルガム・ポップ風メロディ等、ハード・ロックの楽しさを十分に伝えてくれます。十分キャッチーではあるのですが、良い意味での野暮ったさが残るのも当時のバンドの魅力だったりすると思いますが、このティーズが大ブレイクしなかったのもそれが原因だったのでしょう。 日本ではなんと本作リリース後に来日、その時の模様を収めたライヴ・アルバムも発表、79年にはカナダのグラミー賞とされるジュノー賞の最優秀新人賞にノミネートされる等、順風満帆にも思える活動を続けていましたが、残念ながら80年代に入って間もなく解散してしまった様です。	Side A 1. Gonna Have a Good Time Tonite 3:41 2. Stay Here 3:45 3. Ready to Move 3:23 4. Sweet Misery 3:43 5. Never Again 2:58	Side B 1. On the Loose 3:18 2. Nobody's Fool 3:39 3. Baby Why Can't U3:34 4. Tonight It's Me 3:40 5. Lady Killer 3:28
	TED NUGENT	閃光のハード・ロック		1975	ハードロック	レコード	デトロイト出身のアメリカン・ハードロックのギタリストの重鎮、テッド・ニュージェント。"野獣ギタリスト"、"ゴング"の異名を持ち、70年代にアメリカで大ヒットを連発。スケールの大きなアメリカン・ロックを展開。90年代初頭にはナイト・レンジャーのジャック・ブレイズ、スティックスのトミー・ショウ等とスーパー・バンド、ダム・ヤンキースを結成。いまだ新作もリリース。今作は1975年発表、ソロ・デビュー・アルバム。バンドメンバーはヴォーカルとギターのDerek St. Holmes、ベースのRob Grange、ドラムのCliff Davies。オープニングの「Stranglehold」は8分を超える大作。最高のギターソロを聴かせてくれる。		
	TELEPHONE	革命児		1979	ニューウェーブ	レコード			

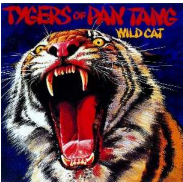
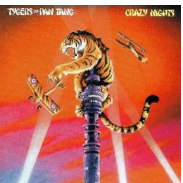
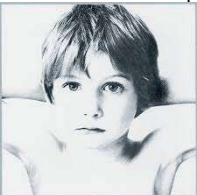
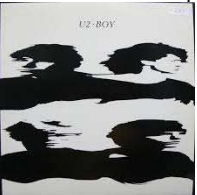
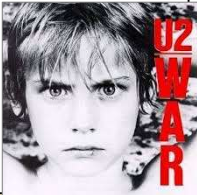
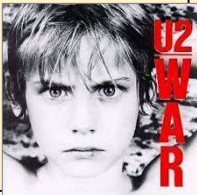
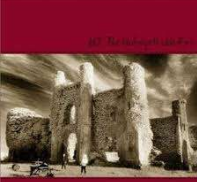
TELEVISION	マーキー・ムーン		1977年	パンク	レコード	1973年にニューヨークにて結成されたアメリカ合衆国のパンクバンド。当時のNYパンクの代表格であるラモンズ、パティ・スミスと並ぶ、最重要バンドの一つ。傑作アルバムの誉れが高いTelevisionの1stにしてロック史に輝く傑作。 ヴェルヴェット・アンダーグラウンドを祖とするニューヨークのアンダーグラウンド・シーンを正統に受け継いだ伝説的バンドの、記念すべきメジャーデビューアルバムでもある。2本のギターが高いテンションを保ちながら絡みあい、聴く者の神経を逆なでするトム・ヴァーレーンのヴォーカル。70年代のニューヨークの姿を生々しく描いた歌詞。そのいずれもが、後世のギターバンドに多大な影響を与え続けている。NYパンクはUKパンクと比して知的で芸術的。麻薬のような不思議な魅力に満ちた中毒性の高い音楽リズムとトムヴァーラインのヴォーカルが素晴らしいマッチしており、アルバムで全体感が素晴らしい。何度聞いても飽きるところか、どんだんハッとして、またアルバム。	1. シュー・ノー・イーヴル 2. ヴァーナス 3. フリクション 4. マーキームーン 5. エレヴェイション 6. ガイディング・ライト 7. ブルー・ナイト 8. 引き裂かれたカーテン		
TELEVISION	アドベンチャー		1978年	パンク	レコード				
TELEVISION	アドベンチャー		1978年	パンク	CD				
10CC	10CC		1973	ロック	レコード	エリック・スチュアート、グレアム・グールドマン、ロル・クレーム、ケヴィン・ゴドレイによる10ccのファーストアルバム。ビートルズ、ビーチボーイズのパロディソングを筆頭に、ロルのメインボーカルによるコミカルな曲が多い。作曲もケヴィンとロルが中心の曲が多く、グレアムとエリックのコンビによる曲は「ヘッドライン・ハスラー」「船は夜消えるかい？」の2曲に留まっている。「ママにフレッシュ・エア」はホットレッグスの「叩けよ、さらば開かれん」の後半部を再利用。また「スピード・キルズ」もホットレッグスの時に作ったバックトラックをベースにしている。	Side A 1. ジョニー・ドント・イト 2. サンド・イン・マイ・フェイス 3. ドナ 4. デイーン・アンド・アイ 5. ヘッドライン・ハスラー	Side B 1. スピード・キルズ 2. ラバー・ブレット 3. ホスピタル・ソング 4. 船は夜消えるかい？ 5. 私のママからの新鮮な空気	
10CC	シート・ミュージック		1974	ロック	レコード	ヒット曲「ウォール・ストリート・シャッフル」を収録した1974年リリースの10ccの2ndアルバム。軽快なポップ・ロックなサウンドにも10ccらしい凝った音作りが素晴らしい。10ccss・イントロ・イントロ前作のコミカルさが後退し、良質なポップミュージックが全面に現れたアルバムとなっている。前作が事実上ケヴィン・ゴドレイとロル・クレーム主体（特に作曲面）でのアルバムだったことに、不満だったエリック・スチュアートが脱退をほめのかしたことから、今作では4人が様々な組み合わせで作ることとなり、それが良い効果を生み出している。 アルバム制作中同時期にストロベリー・スタジオでは、ポール・マッカートニーとウイングスの面々が、ポールの弟、マイク・マクギアのアルバム「リーヴ・イット」を制作していて、朝11:00から夕方5:00までは10ccが、そのあと6:00から深夜まではポールたちがレコーディングを行うこととなったそう。ポールのレコーディング・アプローチの影響も、曲の良質さに繋がったとメン	Side A 1. ウォール・ストリート・シャッフル - 3:54 2. とってもイカしたイモ・バンド (The Worst Band in the World) - 2:49 3. ホテル - 4:54 4. オールド・ワイルド・メン (Old Wild Men) - 3:21 5. 時計じかけのクリープ (Clockwork Creep) - 2:46	Side B 1. 愚かな恋 シリー・ラヴ - 4:01 2. ハリウッドのどこかで (Somewhere in Hollywood) - 6:39 3. セメティ男爵 (Baron Samedi) - 3:46 4. 踊らうサクロイリアクを (The Sacro-Iliac) - 2:33 5. オー・エフェンディ (Oh Effendi) - 2:49	
10CC	オリジナル・サウンドトラック		1975	ロック	レコード	“架空の映画のサウンドトラック”というコンセプトのもと、ポップとテクノロジーの融合を奔放なアイデアと抒情的なメロディで表現。正統派ポップ職人のスチュワート&グールドマンのポップ・センス、スタジオ職人のゴドレイ&クレームのテクノロジーが合体し、三次元的音像が広がる架空のサウンドトラックを作り上げた名作。三つのパートからなる1曲目の「パリの一夜」、それに続く大ヒット曲「アィム・ノット・イン・ラヴ」は、目を閉じて聴いていると映画のシーンが頭の中に浮かんでくるような錯覚さえしてしまう。ちなみに8分間に及ぶミニ・オペラのコンセプト曲「パリの一夜」は、約半年後に発表されたクイーンの「ボヘミアン・ラブソフィ」に少なからぬ影響を与えたはずである。10CCの頂点とも言える作品で、70年代のポップ・ミュージックを進化させたという意味においても重要な役割を果たしたアルバムといえる。不世出の名曲「アィム・ノット・イン・ラヴ」やスマッシュ・ヒットとなった「人生は野菜スープ」と共に、10ccの名を一躍	Side A 1. パリの一夜 - Une Nuit a Paris a)パリの夜 Part 1 : One Night in Paris b)同じ夜の夜のパリ Part 2 : The Same Night in Paris c)夜がふけて Part 3 : Later The Same Night in Paris 2. アィム・ノット・イン・ラヴ 3. ゆすり - Blackmail	Side B 1. 2度目の最後の晩さん - The Second Sitting For The Last Supper 2. ブランド・ニュー・デイ 3. フライイング・ジャンク 4. 人生は野菜スープ - Life Is a Minestrone 5. 我が愛のフィルム - The Film of My Love	
10CC	オリジナル・サウンドトラック		1975	ロック	CD	“架空の映画のサウンドトラック”というコンセプトのもと、ポップとテクノロジーの融合を奔放なアイデアと抒情的なメロディで表現。正統派ポップ職人のスチュワート&グールドマンのポップ・センス、スタジオ職人のゴドレイ&クレームのテクノロジーが合体し、三次元的音像が広がる架空のサウンドトラックを作り上げた名作。三つのパートからなる1曲目の「パリの一夜」、それに続く大ヒット曲「アィム・ノット・イン・ラヴ」は、目を閉じて聴いていると映画のシーンが頭の中に浮かんでくるような錯覚さえしてしまう。ちなみに8分間に及ぶミニ・オペラのコンセプト曲「パリの一夜」は、約半年後に発表されたクイーンの「ボヘミアン・ラブソフィ」に少なからぬ影響を与えたはずである。10CCの頂点とも言える作品で、70年代のポップ・ミュージックを進化させたという意味においても重要な役割を果たしたアルバムといえる。不世出の名曲「アィム・ノット・イン・ラヴ」やスマッシュ・ヒットとなった「人生は野菜スープ」と共に、10ccの名を一躍	1. ニュイ・ア・パリ、第1話/パリのある夜/第2話/パリの同じ夜 2. 私は恋をしていない 3. 恋喝 4. 最後の晩餐のための第二の座り 5. 真新しい日 6. フライイングジャンク 7. 人生は野菜スープ 8. 私の愛のフィルム		
10CC	びっくり電話		1976	ロック	CD	76年発表の4作目。10ccは強引に分ければ、メロディメーカーのゴールドマン/スチュワート、技術屋のゴドレイ/クレームという形になるのだろうが、少なくともこの時期の彼らの構図はこのようになっていたと思う。このグループの魅力は曲が素晴らしいことはもちろんだが、実験的な要素も多分に含むつつ、それをうまく消化して曲の血や肉になっているところが、いわゆるプログレの連中と違うところだと思う。時に大作もあるものの、どの曲もポップスの範疇として楽しめる。それがこのグループの偉大なところだと思う。 映画の導入部を思わせる1. からとけるようなメロディの2. の流れは素晴らしいし3. 映画のシーンの切り替えのような場面展開の素晴しさはこのグループの真骨頂だろう。派手な展開を見せる必殺の1曲の4. は何度聞いても身震いする。何てすればいい曲なのだろう。前作を彷彿とさせるコーラス、テープの逆回転、と目紛しくサウンドが変化していく。5. あたりは少なからずブリタニッシュ・ロック史に残る元祖早弾きギタリスト、アルヴィン・リー率いるバンドのデビュー作。1960年代イギリスのブルース・ロック・シーンを作ったマイク・ヴァーノンのプロデュースで、クリームもカバーしたウィリー・ディクソン作の「スプーンフル」や、ソニー・ボーイ・ウィリアムソンの「ヘルプ・ミー」が白眉。1967年作品。	1. ハウ・デア・ユー 2. レイジー・ウェイ 3. 世界征服 4. アィム・マンデー 5. 氷山 6. 芸術こそ我が命		7. ロックン・ロール・ララバイ 8. ヘッド・ルーム 9. 電話を切らないで 10. ゲット・イット・ホワイ・ユー・キャン (ボーナス・トラック)
TEN YEARS AFTER	テン・イヤーズ・アフター・ファースト		1967	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	アルビン・リーを中心としたプロGRESSIV・ROCK&ブルース・バンド、テン・イヤーズ・アフターの、イギリス編集によるベスト・アルバム。「ロックン・ロール・トゥ・ザ・ワールド」「アィム・ゴーイング・ホーム」他、全14曲を収録。	1. アイ・ウォント・ユー・ノウ 02:11 2. 泣きたい心 05:24 3. 若者の冒険 02:34 4. スプーンフル 06:05 5. ルージング・ザ・ドッグス 03:03 6. フィール・イット・フォー・ミー 02:40 7. 死ぬまでの愛 02:06 8. ドント・ウォント・ユー・ウーマン 02:36 9. ヘルプ・ミー 09:51	以下、CDボーナス・トラック 10. ボータブル・ビーブル (モノ・シングル・ヴァージョン) 02:17 11. ザ・サウンズ (モノ・シングル・ヴァージョン) 04:29 12. ロック・ユア・ママ 03:00 13. スパイダー・イン・マイ・ウェブ 07:13 14. ホールド・ミー・タイト 02:18 15. ウッドチョッパーズ・ボール (Previously unreleased) 07:44	
TEN YEARS AFTER	ジ・エッセンシャル・テン・イヤーズ・アフター・コレクション			ハードロック&ヘヴィメタル	CD	アルビン・リーを中心としたプロGRESSIV・ROCK&ブルース・バンド、テン・イヤーズ・アフターの、イギリス編集によるベスト・アルバム。「ロックン・ロール・トゥ・ザ・ワールド」「アィム・ゴーイング・ホーム」他、全14曲を収録。	1. ロックン・ロール・ミュージック・トゥ・ザ・ワールド 2. チェンジ・ザ・ワールド 3. アィム・ゴーイング・ホーム(Live) 4. チュー・チュー・ママ 5. トゥモロー・アイル・ビー・アウト・オブ・タウン 6. 夜明けのない朝 7. ミー・アンド・マイ・ベイビー		
TEN YEARS AFTER	夜明けのない朝		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	69年発表の4作目。初のジブラル・ビッドとなつたB. を含む作品。ブルースをベースとした流麗めのハード・ロックを聞かせるアルバムだが、1. のようにテンポ・チェンジや場面展開を折り込んだプロGRESSIVな曲も含まれる。2. はドラゴンをフューチャーした前作とは打って変わったアーシーな曲。3. はDr. フィールグッドあたりに通じるブルース・ロック。4. もブルースをベースにしたハード・ロック。太いベース・サウンドが気持ちいい。長尺なギター・ソロは時代の産物だがかなり聞き応えあり。5. は何とカントリー風のバラードだ。ちなみにヒットした8. もクソ・ブルースなハード・ロック。熱い。 前作にあったジャズっぽさや洗練された雰囲気は完全になくなって、まるで別のグループにでもなったような印象を受けるものの、ジュシー・フルーツやDr. フィールグッド、そして多くのサザン系ロック・グループに似たこの雰囲気も十分に味わい深い。イギリスのグループではあるものの、アメリカン・ロックのファンには奇抜な伏兵として楽しめると思う。			
TERRY.BLAIR & ANOUCHKA	ウルトラ・モダンな子守歌		1989	ニューウェーブ	レコード	スペシャルズのテリー・ホール3度目のグループのファーストアルバム。後にヒップ・ホップ・トリオUI3のメンバーで活躍するブレア・フースと、ファインアートを学ぶ大学生だったアヌー・シュカール・グロースの3人で結成したユニットによる唯一のアルバム。 60'sポップスの語法を素直に再利用した爽やかなメロディとサウンドはカラー・フィールド以上にポップだ。ホールの歌に女性コーラスが絡むスタイルもいい。テリー・ホールのそれまでのキャリアの中で最も明るいタッチの楽曲が並ぶ。カラー・フィールドで試みたMOR〜AOR路線がより徹底され、英国らしい騒いと温かみのある素晴らしいポップスとして達成されている。正直なぜ商業的に成功しなかったのか不可解なほどの完成度。	1. Ultra Modern Nursery Rhyme 4:05 2. Missing 4:40 3. Fishbones And Scaredy Cats 4:26 4. Lucky In Luv' 3:39 5. Day Like Today 3:17	6. Sweet September Sacrifice 4:40 7. Beautiful People 4:19 8. Three Cool Catz 2:28 9. Happy Families 3:20 10. Just Go 4:19	
TERRY HALL	ホーム		1994年	ニューウェーブ	CD	1994年リリースのテリー・ホールのソロ・デビューアルバム。見事なポップ・ワールドが展開されていて、グッド・プロデュースは盟友イアン・ブrowディ。ポップ職人の仕事は確か。カラー・フィールドで得たメロディ志向をさらにパーソナルなものにしたような感触だ。彼のボーカルとしての資質を充分に発揮するには、メロディを大事にするという方法が最もしっくりくると思うところだろう。カラー・フィールド時代に比べても、切なさ溢れるメロディと奇をてらっていないシンプルながらアレンジは、ネオアコというにはいささか感傷的過ぎる感がある。ちょうどネオアコとAORと歌謡曲をブレンドしてような感じ。特に1曲目なんかは日本のシティ・ポップスの様なメロディ（自分だけか？）で曲が素晴らしい。ニック・ヘイワードやグレッグ・ギャンがギター弾いて思い切りネオアコ関連の人が集まったアルバムで名作です。	1. フォー・エヴァー・J 2. ユー 3. センズ 4. アイ・ドゥル・ア・レモン 5. ムーン・オン・ユア・ドレス	6. ノー・ノー・ノー 7. ホワッツ・ロギン・ウィズ・ミー 8. グリフ・ディス・ガイズ・アズ・ジョイ 9. ファースト・アタック・オブ・ラヴ 10. アイ・ドント・ゴット・ユー	
TERRY HALL	ラフ		1997年	ニューウェーブ	CD	1997年リリース。テリー・ホールのソロ2作目。2曲ほどブルーのデーモン・アルバムが作曲に携わっている。当時目指していたのは60年代〜70年代のポップスを現代的な解釈で聴かせるってこと。トッド・ラングレンの「I Saw The Light」のカヴァーしているようにこんな曲が理想としているようだ。そのため哀愁を漂う流麗なメロディが光り、この2ndでは肩の力が抜けた感じに歌もサウンドもまるで暖かい感じに仕上がっている。また、いつも笑った画像が少ないテリー・ホールがここでは屈託のない笑顔が見られ、これはクルーとくだらないジョークを言い合って、笑わずにはいられなかったという1枚をジャケットにしたいらしい。そんなテリー・ホールは音楽業界なんかもう辞めたいとネガティブなインタビューが目立った中で、この作品にはそういうがらみから解放されたリラックスした雰囲気も感じられるし、何となくもタイトルが「笑う」だから！素晴らしいアルバムです。	1. ラフ・トゥ・シー・ユー 2. ソニー・アンド・ビズ・シスター 3. パラッド・オブ・ランド・ロード 4. テイク・イット・フォー・エヴァー 5. ミステリー・ウォーター 6. ルーム・フル・オブ・ナッシング	7. ハッピー・ゴー・ラッキー 8. フォーザ・ガール 9. サマー・フォロース・スプリング 10. パラッド・オブ・ランド・ロード (アコースティック・ヴァージョン) 11. 労働階級の英雄 (ワーキング・クラス・ヒーロー) ジョン・レノンの曲	
TERRY REID			1968	ハードロック	レコード	ジミー・ヘンリクスからのニュー・ヤード・ドッグスへの加欠の誘われだがそれを断り独自の音楽を追求した。代わりにロバート・プラントを推薦したと言われ、その後プラントを加入させレッド・ツェペリンと名前を変えて世界的な成功を収める。 そのテリー・リードの68年発表のデビュー作で、ボーカルは勿論、ソングライターやギタリストとしての才能も遺憾なく発揮されています。同時代のスティヴィー・マリOTTを彷彿させる音域の境界に挑むような高音を駆使した唱法は聞く者の耳を捕らえて離しません。ハードな曲もフォーキーな曲(ド・ヴァン)のカバーも素晴らしいも柔軟に歌いこなす実力は、もしキューパ加入したら…という夢想をやっぱり抱いてしましますが、しかし、才能がありながらマネージメント(かの有名なミッキー・モスト)との不和により、好機を逸して次第に成功の道から外れてしまったのは、残念としか言えません。 本作は、60年代後半の新しいロックの実験期に発表された数ある名盤の一つとして語りつ	01. Bang, Bang (My Baby Shot Me Down) (S.Bono) 02. Tinker Taylor (T.Reid) 03. Erica (T.Reid) 04. Without Expression (T.Reid) 05. Sweater (T.Reid) 06. Something 'S Gotten Hold Of My Heart (R.Greenaway/R.Cooke) 07. Season Of The Witch (D.Leitch) 08. Writing On The Wall (T.Reid)/Summertime Blues(E.Cochran/J.Caskey)		

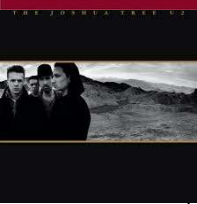
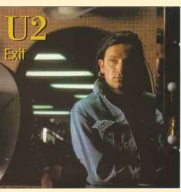
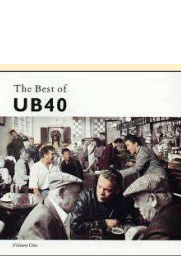
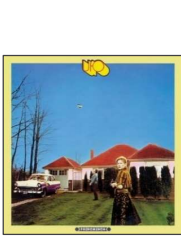
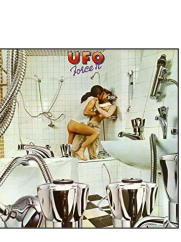
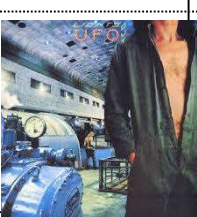
THE	インフェクテッド		1986	ニューウェーブ	CD	ザ・ザは、ボーカルを務める中心人物マット・ジョンソンのみが不変のメンバーであり、マットのソロ・プロジェクトともとえられる。そのザ・ザの2枚目のアルバム。「UK音楽界最後の良心」とまで言われ、デビュー以来数十年間、世間の風評や音楽産業界を極力まで無視し、リーダー、マット・ジョンソンの作りたい音楽だけを発表して現在まで到る稀有の存在。 1曲目の「Infected」のメタル・パーカッションに強靱なファンクは、今でも新鮮です。当時は踊り狂ったと言って過言ではありませんでした。苦勞して音を積み重ねているのに、圧倒的スピード感です。ほかの曲もインディだった頃とは比較になりません。彼は皮肉のきいた歌詞に特徴がある、と言われるのです。歌詞そのものを判るわけでもない極東人にはこれぐらい音を仕上げてもらって初めて親しめたような気がします。 4曲目「Angels of Deception」の盛り上がりにも感動します。ファンクだけでなく、ジャズ的なアレンジ、女声コーラスも加わってゴージャス。マット・ジョンソンのボーカルもよいです。また、ミディアム～スローテンポの3曲目の「HEARTLAND」と、6曲目「SLOW TRAIN TO DAWN」は、心に切に訴えてくる曲はやはりこのバンドの真骨頂だろうと思います。	1. Infected 2. Out Of The Blue (Into The Fire) 3. Heartland 4. Angels Of Deception 5. Sweet Bird Of Truth 6. Slow Train To Dawn 7. Twilight Of A Champion 8. The Mercy Beat	
THEATRE OF HATE	ウエスト・ワールド		1982	ニューウェイブ	レコード			
THEM (VAN MORRISON)	ストーリー・オブ・ゼム・フィーチャリン グ・ヴァン・モリソン			ヴァリテツ シュビート	CD	ブリティッシュ・インペイジョンを担った英国のバンドがほとんど再結成したのに対し、ゼムは一度も再結成することはなかった。少なくとも2つの理由が考えられる。リードボーカルのバン・モリソンがソロとしてあまりにも有名になり、ゼムのバンドリーダーだったことが忘れ去られているから。もう一つは、ゼムのメンバーは固定していなかったため、どの時期のラインアップで再結成すべきかわからないからである。ペルファストを拠点としたこのバンドは常に流動的だったが、それでも当時画期的であったアメリカ以外のリズム＆ブルース・バンドの元祖として、アニマルズやローリングストーンズと肩を並べる存在だったのである。 本作は短命だった彼らの完全な記録。ディスク2枚分に50もの名曲がズラリ。「Stormy Monday」「Turn on Your Lovelight」「I Got a Woman」といったR&Bの定番に加え、モリソンがソロになってからしばらくライブのレパートリーにしていたオリジナル「Gloria」や「Mystic Eyes」まで。さらに注目 はジミー・ヘイジのギター・ソロをフィーチャーしたバワフルなヴァージョンの「Baby Please Don't Go」、ボブ・ディランの「It's All Over Now, Baby Blue」の斬新なかヴァー（ベックのファンは『Odelay』で使われたサンプルを思い出すだろう）、そしてポール・サイモンの「Richard Cory」など。モリソンのソロの作品もすごいが、彼がまだ駆け出しのロッカーだった頃の栄光ももっと注目すべきだ。	1ストリー・オブ・ゼム パート1&2 2ドント・スタート・クライング・ナウ 3グローリア 4フィロソフィー 5フントゥ・ブラウン・アイズ 6ベビー・プリズ・ドント・ゴー 7ヒア・カムズ・ザ・ナイト 8オール・フォー・マイセルフ 9フン・モア・タイム(シングル・ヴァージョン) 10リトル・ガール 11アイ・ゲイヴ・マイ・ラヴ・ア・ダイアモンド 12ゴーン・ホーム・ベイビー 13マイ・リトル・ベイビー 14ミスティック・アイズ 15ドント・ルック・バック 16二人の恋の歌 17アイ・ライク・イット・ライク・ザット 18黒い影の男・ヴァージョン1 19ルード66	11ハロー・ジョセフィン 12ドント・ユー・ノウ 13ヘイ・ガール 14プリング・ゼム・オン・イン 15タイムズ・ゲッティン・タフアー・ザン・ソート 16ストミー・マンディ 17フライデイズ・チャイルド 18リチャード・コーリー(ヴァージョン1) 19マイ・ロンリー・サッド・アイズ 20アイ・キャン・オンリー・ギヴ・ユー・エヴリシ ング 21グッド・ユーウッド・ユー 22プリング・ゼム・オン・イン(USノ・ヴァージ ン・オルタネイト・ヴァージョン) 23リチャード・コーリー(ヴァージョン2) 24コール・マイ・ネーム(シングル・
THIN LIZZY	ファイトイング!!		1975	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	75年作、シン・リジィの通産5作目となったアルバムで、以降の彼等の個性を確立した転機作です。 スコット・ゴーフム、ブライアン・ロバートソンという二人のギタリストのツイン・リードにより、フィル・ライノットの表現力の幅が大きく広がったのだと思います。オープニングはバンドのライブの重要なレパートリーとなったポップ・シーガークのカヴァー、「ロザリー」。 この選曲はブリティッシュ・ハードの歴史の中でも、シン・リジィ程柔軟なセンスを持ったバンドはいなかった、という良い例だと思います。哀愁ギターと疾走するメロディ・ライン、フィルの独特の歌い回しが唯一無比の個性となり、シン・リジィがいよいよ黄金期を迎えようとする勢いが感じられる1枚です。		
THIN LIZZY	脱獄		1976	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	76年リリース作、シン・リジィの通産6作目となったアルバムです。 ブリティッシュ・ハードの新たなスタイルを確立したという意味で、彼等の最もわかりやすいキャッチーさが詰まっているアルバムだと思います。ボン・ジョヴィを始め、多くのアーティストによってカヴァーされた「ヤツらは町へ」を始め、ライブでの定番曲となった「カウボーイ・ソング」を含んでいます。スコット・ゴーフムとブライアン・ロバートソンによるツイン・リード体制もここで固まり、胸がワクワクするハード・ロック・アルバムとなっています。		
THIN LIZZY	ライブ・アンド・デン ジャラス		1978	ハードロック &ヘヴィ メタル	CD	78年リリース作、大英帝国の誇り、アイルランドの英雄、シン・リジィの初のライブ・アルバムとなった1枚。 ブライアン・ロバートソン在籍時の最後のツアーからの収録で、以降のゲイリー・ムーア時代で絶頂期を迎えるまでの総決算的なライブが堪能できます。当時のツアーでは前座バンドとして、ヒュー・イルイスが率いていたクローバー、そしてグラハム・パーカー＆ルーマアが担当していて、新人バンドの起用を積極的に行っていたフィル・ライノットの兄貴的な心気を感じられます。この両バンドを飛び入り参加させた模様も本作に収録されていて、シン・リジィがメタル、ハード・ロックにとどまらない影響力を持っていた事に改めて気づかれます。 更に言うまでも無い事ですが、名曲が実に多い強みがこのバンドの個性にもなっているわけで、大合唱できるメロディやしっとりさせるバラード、ハード・ロックのダイナミズム満載のドライブ感等、楽しいロック・ショーの要素が全て盛り込まれていると思われます。	1脱獄 2エメラルド 3サウスバンド 4ロザリー(カウガール・ソング) 5ダンシング・イン・ザ・ムーンライト 6虐殺 7それでも君を 8サギ師ジョニーとヤクザのジミー 9カウボーイ・ソング	10ヤツらは町へ 11甘い言葉に氣をつける 12勇士 13アー・ユー・レディ 14自殺 15シャ・ララ 16ベイビー・ド・ライヴ・ミー・クレイジー 17ザ・ロッカー
THIN LIZZY	ブラック・ローズ		1979	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	79年作、シン・リジィの通産9作目となったアルバムです。 余曲折を経て、ゲイリー・ムーアが正式参加、唯一彼がフルで参加したアルバムでもあります。その結果シン・リジィのアルバムの中でも、特別な輝きを得たものとなっています。 アイリッシュの伝統と、哀愁感と疾走感が同居したツイン・リードの素晴らしいが見事です。ゲイリーは後にソロ・キャリアで、アイルランド民謡とハード・ロックの自然な融合を果たしていますが、本作においてのフィル・ライノットのスマートな語り口から学んだ事は大きかったので、はないでしょうか、各曲のメロディの充実度も優れていて、70年代ブリティッシュ・ハード史においてユニークな立ち位置を獲得する事にも成功しています。フィル・ライノットの唯一無比の個性と、ゲイリー・ムーアのギタリスト、コンポーザーとしての魅力の融合こそが本作の最大の聴き所なり、彼等が作り上げたブルースだけに頼らない新しいハード・ロックは、以降のシーンに大きな影響を与えたのでした。 ポップかつメロディアス、さらに美しいギターが炸裂してるロック・ファンなら必聴と言える1枚です。		
THIRD WORLD	サード・ワールド		1976年	レゲエ	レコード	1976年の作品で、大手レーベルIslandからの彼らのメジャー・デビュー・アルバム。ルーツ・レゲエとソウルを融合させた音楽スタイル。1曲目「Satta Amassa Gana」は、The Abyssiniansでもよく知られるルーツ・レゲエを代表する曲。3曲目には、あのBurning Spearの代表曲で「Slavery Days」で、7分半を超える大作で、このアルバムが目玉曲のひとつです。4曲目「Brand New Beggar」は、彼らの初期の代表曲のひとつで、彼等らしいソウルっぽいハーモニーと、ルーツのリズムをうまく組み合わせた曲です。B面2曲目「Got To Get Along」などはかなりソウル色の強い曲。B面3曲目「Sun Won't Shine」は、彼らの初期のヒット曲として知られている曲です。最後の曲「Freedom Song」は、コーラス・ワークをうまく交えながら、曲を絶妙に盛り上げて行く展開がウマイです。今回のアルバムはメジャー・デビューという事もあり、彼らの意欲を強く感じるアルバム	Side A 1. Satta Amassa Gana 2. Kumina 3. Slavery Days 4. Brand New Beggar	Side B 1. Cross Reference 2. Got To Get Along 3. Sun Won't Shine 4. Freedom Song
THIRD WORLD	エチオピアへの道		1978年	レゲエ	レコード	サード・ワールドが78年にリリースしたサードアルバム。イギリスでのポップ・マーリー&ザ・ウェイラズの片腕として働き、ソウルR&Bの要素を取り入れISLANDから全世界にレゲエを広めたTHIRD WORLDの78年傑作アルバム。オージェイズのカヴァーでヒットしたシングル「Now That We've Found Love (愛の砦)」や「Cool Meditation (クールな瞑想)」などを収録したヒットアルバム。ソウル・グループThe O'Jaysのヒット曲のカヴァー5曲目の7分半以上に及ぶ大作「Now That We Found Love」(全英10位の大ヒット)や全英17位のヒットを記録した3曲目「Cool Meditation」、The Skatalitesの改作インスト・ナンバー6曲目「Journey To Addis」、さらにはこれまで6分半近くにも及ぶ4曲目「African Woman」など、彼らの代表作と言うのにふさわしい内容の濃いアルバムになっています。	Side A 1. One Cold Vibe (Couldn't Stop Dis Ya Boogie) 2. Cold Sweat 3. Cool Meditation 4. African Woman	Side B 1. Now That We've Found Love 2. Journey To Addis 3. Fret Not Thyself 4. Rejoice
THIRD WORLD	ラヴ・アイランド		1982年	レゲエ	レコード	ジャマイカ出身のレゲエバンド、サード・ワールドが82年リリースした7枚目。最初期にはフリー・ジャズそしてその後素朴なアフリカ回帰をレゲエに託してきたサード・ワールドが米国でのヒットを意識してスタイルを変えた最初のアルバムが『ラヴ・アイランド』。『ホット・ワンダーランド』ではスタイルがより洗練されている。A面1曲目は、ステュービー・ワンダーがプロデュースを買って出た。キーボードをプレイし、ソングライティングにも力を貸すなど、カリブの熱いリズムが見事に融合したソウルフルなアイランド・レゲエ〜ディスコ・ナンバー。A面3もステュービー・ワンダーのプロデュース。ジャクは日本独自	Side A 1. ラブ・アイランド 2. ライド・オン 3. プレイング・アス・トゥー・クロース 4. カリビアン・ラブソディー	Side B 1. ムービング・アップ 2. ユーフ・ガット・ザ・パワー 3. イン・ア・タイム・ライク・ジス 4. テイク・エム・アウト 5. ジャミン
38SPECIAL	スペシャル・フォーシズ			アメリカン ロック	レコード	ツアーを精力的にこなし、ポップでハードなアメリカン・ロック・バンドとしての人気も最高潮になる中で発表、これまでに以上にダイナミックでスケールの大きなサウンドを展開し、押しも押されぬ世代代表作となった5thアルバム。3作連続での参加となったサバイバーのジム・ベートルックとの共作によるシングル「悪い焦がれて」とアルバムがそれぞれ全米チャート10位を記録。	Side A 1. 悪い焦がれて 2. バック・ドア・ストレンジャー 3. バック・オン・ザ・トラック 4. チェイン・ライトニン	Side B 1. ラブ・ハウジン 2. ユー・キープ・ランニン・アウェイ 3. プレイキン・ルース 4. テイク・エム・アウト 5. ファイアースタータ
13TH FLOOR ELEVATORS	ザ・サイケデリック・サ ウンズ・オブ		1966	サイケデ リック	レコード	テキサスのサイゲデリック・ロック・バンドによる1966年リリースした「ザ・サード・デイズ・フロアー・エレヴェーターズ」のファースト・アルバム。このアルバムはサイケデリックという概念・意識拡張を意図的に表現しようとした世界最初のアルバムであり、ロックンロールが意識拡張と結びつき1960年代のサブカルチャーを形成してゆく過程で生まれた重要な遺産である。残念ながら当時はテキサス以外に拡がりをもたなかったが、そのアルバム・ジャケットとともにサイケデリックなヴィジョンのスタンダードとして今なおびることはない。 ロッキー・エリクソンのジャニス・ジョプリンに多大な影響を与えたワイルドなシャウト、リバーブがたっぷりかかった浮遊感溢れるステイシー・サザーランドのギター、そして極めて奇妙なトミー・ホールのエレクトリック・ジャグの過剰な響きは単なるロックンロールバンドからはみ出し、狂気と混沌とともに今まで存在しなかった13階への扉を開けた瞬間を捉えた記録なのだ。サイケデリックの音像化という点ではオランダ・アルバム「EASTERN EVERYWHERE」が優れている。	01. YOU'RE GONNA MISS ME 02. ROLLER COASTER 03. SPLASH 1 04. REVERBERATION 05. DON'T FALL DOWN 06. FIRE ENGINE	07. THRU THE RHYTHM 08. YOU DON'T KNOW (HOW YOUNG YOU ARE) 09. KINGDOM OF HEAVEN (IS WITHIN YOU) 10. MONKEY ISLAND 11. TRIED TO HIDE
14th FLOOR ELEVATORS	シークレット・マスターズ・コレクション Vol.1 ～ライブ・イン・ヒューストン67		1997	サイケデ リック	レコード	伝説のテキサス・サイケデリック・ガレージバンド、サーティーンズ・フロア・エレヴェーターズの幻の音源。1968年地元テキサスでのライブ盤。Roller CoasterやDon't Fall Down など、13THクラシックが目白押し。	1. Levitation 2. Roller Coaster 3. Fire Engine 4. Reverberation 5. Don't Fall Down 6. Tried To Hide	7. Splash 1 8. You're Gonna Miss Me 9. Monkey Island 10. Kingdom Of Heaven 11. She Lives (In A Time Of Her Own)
The Three Degrees	世界の恋人		1975	ソウル	レコード	1963年にフィラデルフィアで結成された女性コーラス・トリオ。1975年に海外とは違う内容で発売されたセカンド・アルバム。ギャンプル&ハフ・プロデュース、MFSB演奏の大ヒット・フリー・ソウル。この日本盤にのみ細野晴臣作曲、ティン・パン・アレー演奏によるディスコ名曲「Midnight Train」と安井かずみ作詞、筒美京平作曲、深町純アレンジのスリー・ディグリーズが日本語で歌うカタコト・ソウル「にがい涙」の2曲が収録されています。国内仕様と海外仕様では収録曲が違う	Side A 1. 涙でさようなら 2. 恋はシャンソン 3. 私は片想い 4. 一人ぼっちの夜 5. 愛の夢 6. 遠い恋人	Side B 1. 恋人達の季節 2. にがい涙 3. 二人でデート 4. 天使のささやき 5. 愛のコービー・カップ 6. ミッドナイト・トレイン

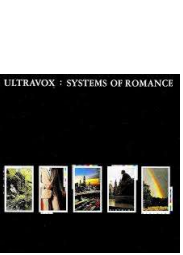
THREE DOG NIGHT	ハーモニー		1971年	ロック	レコード	71年8月に発表した通算7作目となる作品であり代表作の1枚。ポール・ウィリアムスやステイヴィー・ワンダーといったカバーを始め彼らのポップな魅力が詰まった作品。完成度は傑作。特にヒットチャートを賑わした①③⑨はもとより、ナイーブで魅力的な歌声のチャックネグロンの魅力を最大限に生かした④や⑥など、聴き手を飽きさせない素晴らしい出来栄え。単なるショーマンシップに走るアメリカンバンドとの評も一部にありましたが、ライブパフォーマンスも超一流。また、夏の終わりに④は繊細で盛り上がりのある旋律とネグロンの絶唱は心地よい残像として耳に残るはず。 このアルバムからシングルカットした曲の「オールド・ファッションド・ラヴ・ソング」(全米4位)、「ザ・ファミリー・オブ・マン」(全米12位)、「ネバー・ビーン・トゥ・スペイン」(全米5位)が大ヒットし、アルバムも全米最高8位を記録。	Side A 1. Never Been To Spain 2. My Impersonal Life 3. An Old Fashioned Love Song 4. Never Dreamed You'd Leave Me In Summer	Side B 1. Jam 2. You 3. Night In The City 4. Murder In My Heart For The Judge 5. The Family Of Man 6. Intro-Poem: Mistakes And Illusions/Peace Of Mind
THREE DOG NIGHT	セブン・セパレート・ブルース		1972	ロック	レコード	ダニ・ハットンが中心となって、チャック・ネグロン、コリー・ウェルズという3人のボーカルを擁した独特のサウンドを持つバンド。ビルボードのトップ40に21曲がチャート・インし、その内3曲が1位を獲得した。1972年発表の通算7作目にあたるアルバム。ここから「ブラック・アンド・ホワイト」が全米NO.1に輝いたのに続いて、「ピース・オブ・エイプリル」(全米19位)がシングル・ヒット。アルバムは全米最高6位を記録。彼らの曲はどれも基本的に外部の作曲家の手によるもので、彼らが発掘したミュージシャンは後にソロ・アーティストとして成功を収めた者が多い。レオ・セイヤー「ショウ・マスト・ゴー・オン」(最高位・全米4位)、ハリー・ニルソン「ワン」(全米5位)、ランディ・ニューマン「ママ・トールド・ミー」(全米1位)、ポール・ウィリアムズ「オールド・ファッションド・ラヴ・ソング」(全米4位)等がある。		
THREE DOG NIGHT	「喜びの世界」 クレイテスト・ヒッツ		1974	ロック	レコード	スリドッグナイト74年作。USA Dunhillオリジナル盤。ベスト決定版。洋楽を聴かない人でも一度は耳にした事がある1971年の全米No.1ソング「Joy To The World (喜びの世界)」が余りにも有名ですが、ポール・ウィリアムズがカーペンターズのために用意したと言われている同年11月リリースの「An Old Fashioned Love Song」が個人的にフェイバリット・ナンバー	Side A 1 Joy To The World 2 One 3 Sure As I'm Sitting Here 4 Old Fashioned Love Song 5 Let Me Serenade You 6 Shambala 7 Black And White	Side B 1 Never Been To Spain 2 One Man Band 3 Play Something Sweet 4 I'd Be So Happy 5 Liar 6 Family Of Man 7 The Show Must Go On
THREE DOG NIGHT	スーパー・ベスト		2009	ロック	CD	3人のリードボーカリストの特性を活かし、R&B、ハードなロック、内省的なシンガーソングライター作品など様々な表情を見せるが、それがすべてスリドッグ・ナイトのサウンドになっている。 またカバー・センスの素晴らしい・・・ポール・ウィリアムズ、ニルソン、エルトン・ジョン、ローラ・ニーロ、ランディ・ニューマン、ラス・バラード、レオ・セイヤー・・・本人たちがまだブレイクする前にそれらの作品を取り上げた嘆きの鋭さ・・・見事。	1. ジョイトゥ・ザ・ワールド 2. ファミリー・オブ・マン 3. ママ・トールド・ミー 4. イーライズ・カミング 5. ネバー・ビーン・トゥ・スペイン 6. オールド・ファッションド・ラヴ・ソング 7. ブラック・アンド・ホワイト 8. ワン	9. ショー・マスト・ゴー・オン 10. イージー・トゥ・ビー・ハード 11. ライア 12. シャンバラ 13. トライ・ア・リトル・テンダネス 14. レディー・サマンサ 15. ノー・バディ 16. フリーダム・フォー・ザ・スタリオン 17. ブリックヤード・ブルース
THROBBING GRISTLE	20 ジャズ・ファンク・グレーツ		1979	ニューウェイブ	レコード			
TIM BUCKLEY	グッバイ・アンド・ハロー		1967	ロック	レコード	1967年作品。ティム・バックリィ、セカンド・アルバム。美しく、優しく、そしてやがて切なく、さらに表情豊かに、その音楽世界が早くも完成の域に達した最高傑作。イギリスではビートルズが『サージェント・ペパーズ〜』を発表したころ、ティム・バックリィはロサンジェルズで、決して大きなセールスを稼ぐ事はないが後世に多大な影響を与え続けるアルバム作りに励んでいた。アルバムは、映像や文字で情報が入ってくるが誰一人現実感を伴って戦争を考えていないという現状を嘆いた「ノー・マン・キャン・ファインド・ザ・ウオー」で幕を開ける。圧巻は8分を越える大作「グッバイ・アンド・ハロー」だ。断片的な情景と心象風景を表裏一体にうたい、世代を重ね強大な力を付けて成長していくアメリカという国の中で、個人が人として生き続けるための勇気を奮い立たせる。全10曲からなるこのアルバムは、ティムの心の奥底にある眼差しを感じることが出来る。それは、生きる事に必死で、孤独で、さびしくて、だけど、どこか人を信じる事が出来ない、不安定でもろい眼差しである。この彼の心情は、この時代のこのアメリカの、鏡となって人々の心の中に映しだされたのである。	Side A 1. ノー・マン・キャン・ファインド・ザ・ウオー 2. カーニヴァル・ソング 3. プレザント・ストリート 4. 幻覚 5. アイ・ネヴァー・アスクト・トゥ・ビー・ユア・マウンテン	Side B 1. ンス・アイ・ワズ 2. 二人の幻影 3. 騎士 4. グッバイ・アンド・ハロー 5. モーニング・グローリー
TODD RUNDGREN	サムシング/エニシング		1972	ロック	レコード	マルチ・プレイヤーでオールジャンル・コンポーザーでもある天才トッド・ラングレンの代表作。珠玉のメロディラインを誇る「I Saw The Light」や「Hello It's Me」の他、複雑に入り組んだアレンジのキーボードを主体としたプログレ作品、完成度の高いフギーなど、とにかくあらゆるジャンルの楽曲が渾然と一体納められた名作。この2枚組の大傑作アルバムにおいてもラングレンは2つの大名曲で素晴らしいファルセットを披露している(「I Saw the Light」と「Hello It's Me」)。これらの曲以外でも、アルバムを通して彼はスタジオのコントロールを完璧に掌握しては、ほぼ全ての楽器を自分自身で演奏し、ロック・ジャンルの万華鏡といえるべきような音の実験を重ねている。	[Disc .1] 01. アイ・ソー・ザ・ライト (瞳の中の愛) 02. 所詮は同じ事 03. ウルフマン・ジャック 04. 冷たい朝の光 05. イット・テイクス・トゥー・トゥ・タンゴ 06. 甘い思い出 07. イントロ 08. プレスレス 09. ザ・ナイト・ザ・カルーセル・パレント・ダウン 10. セイヴィング・グレイス 11. マーリン 12. ソング・オブ・ザ・ヴァイキング 13. アイ・ウエント・トゥ・ザ・ミラー	[Disc .2] 01. ブラック・マリア 02. ワン・モア・デイ 03. 伝えられずにいられない 04. トーチ・ソング 05. 小さな赤い灯 06. オーヴァーチュア/マイ・ルーツ・マネー・メッシン・ウィズ・ザ・キッド 07. 風に舞うほこり 08. ビス・アーロン 09. ハロー・イツ・ミー 10. サム・フォークス・イズ・イーヴン・ホワイター・ザン・ミー 11. ユー・レフト・ミー・ソア 12. スラット
TODD RUNDGREN	サムシング/エニシング		1972	ロック	CD			
TODD RUNDGREN	ア・カベラ		1985	ロック	レコード	85年にリリースされたトッドの意欲作。タイトルどおりトッドお得意のワンマン多重録音(ヴォーカルをさまざまに重ねあわせて織りなした)。コーラスというよりヴォーカルの器楽性をもフルに探求されている。それまでありそうでなかった、人間の声だけで作られたアルバム。単なるアカベラではなく、声をイコライジングしてドラマやベースに見立ててバンドサウンドで聞かせたり、民俗音楽的なアプローチなどを導入したりと、トッドの音の魔術師としての才能が遺憾なく発揮された狂気の傑作。音楽性はこれまでのトッドの音楽と根本的には変わっていない。アカベラ的なポップな楽曲という感じで、これまでのように美しくメロディアスなコーラスを重視する姿勢は「プリテンドトゥケア」や「オネストワーク」のような美しい楽曲を生み出している。異色曲はイスラム社会を題材にした「バザー」で、まるでコーランの朗読のような西アジア的な世界を醸し出している。ラストのカバー曲はとても感動的。	Side A 1. ブルー・オルフェウス - 5:02 2. ジョニー・ジongo - 3:51 3. プリテンディング・トゥ・ケア - 3:40 4. ホジャ - 3:25 5. ロスト・ホライズン〜失われた地平線 - 4:57	Side B 1. サムシング・トゥ・フォール・バック・オン - 4:13 ミラクル・イン・ザ・バザー〜バザールの奇跡 - 3:12 ロックジョウ - 4:01 オネスト・ワーク - 2:40 マイティ・ラヴ - 4:30
TOMMY BOLIN	炎のギタリスト		1975	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	ハードロック・バンド「ディープ・パープル」の元メンバーのトミー・ボーリンの初のソロアルバム。若きトミーがそれまでに培ってきたありとあらゆるエッセンスを凝縮した凄いのアルバム。迫力のハードロックを基本に、グルーヴ渦巻くファンク、ジャジーでトリッキーなフュージョン、泣きのバラード、他にもソウルフルなラテン系サウンドと、ボサノバまでもを披露している。どの曲も完成度高い。もう一つの話は、この当時若手で売り出し中のミュージシャン達が大量参加していること。今では大御所中の大御所達ばかり。トミーの盟友グレンヒューズの他、ジェフ・カーロ、デビッド・フォスター、フィル・コリンズ、ヤン・ハマー、デビッド・サンボーン、ナラダ・マイケル・ウォルデン他。		
TOMMY BOLIN	當墓林 (魔性の目)		1976年9月	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	1976年9月に発表。遺作となってしまったアルバム、Deep Purple解散後、トミーが念願だった自分のバンド、Tommy Bolin Bandを結成し、ライブ活動を再開した頃にコロンビアと契約し発表した作品で、アコースティックな美しい曲とソウルフルなエレクトリックな曲が楽しめる。70年代ロックの甘く芳しい香りをプンプンさせている大名盤。とにかくハード・ロック・ギタリストとしての魅力よりも、メロディ・メイカーとしてのセンスが存分に発揮された感があり、バラエティに富んだナンパりが色褪せる事無く並んでいます。 ファンキーなレゲエ・タッチのオープニングから、バラード・メイカーとしてのセンスが秀逸な「Sweet Burgundy」のアメリカ人らしい可愛いポップ・センス、そして9分に及ぶ大ハード・ロック大会となった「POST TOASTEE」の冒頭の流れは、今聴いても飽きさせる事ありません。ラスト3曲は、この人のメロウでセクシーな魅力が堪能できるメロディアスなナンパりが揃い、パープルではうかがい知れなかった泣かせ上手な側面を思い知らされます。 ウエストコーストの風を感じさせる「SOMEDAY WILL BRING OUR LOVE HOME」、アコースティック調の「HELLO, AGAIN」ではヘタウマ的なヴォーカルで優しく囁きかけてくれ、「YOU TOLD ME THAT YOU LOVED ME」では雰囲気ガリと変えムディーなポップ・シンガーぶりを発揮しています。	Side A 1. バスティン・アウト・フォー・ロージー 2. スウィート・バーガンディ 3. ポスト・トースティ	Side B 1. シェイク・ザ・デビル 2. ジブシティ・ソウル 3. サム・ディ・ウィル・ブリング・ア・ワ・ラヴ・ホーム 4. ハロー・アゲイン 5. ユー・トールド・ミー・ザット・ユー・ラヴド・ミー
TOMORROW	トゥモロウ		1968	ロック	CD	1968年リリース。イエスのスーパーギター スティーブ・ハウが在籍したサイケデリックポップ「トゥモロウ」のアルバムで、キース・ウエストを中心とする幻想的なポップ・ワールドが全開。キース・ウエスト、トウィंक、スティーブ・ハウという個性が奇跡のようにかみ合った見事さです。サイケという側面も、ビートルズ直系のビート・ポップという側面もあり、どの曲も強い印象を残します。特にキース・ウエストの作曲センスと洞察が素晴らしい。彼は60年代、ほかにオペラのスコアも作曲しているようです。多彩な楽器を使っている上、その楽器の入れ方が見事で勢いだけのサイケではありません。しかも、そのポップさはブリティッシュならではの抑揚に富み、英国の香りをいっぱいに放つ。1曲目の「My white bicycle」は、さまざまなミュージシャンにもカバーされている。 トウィंकのベースはポール・マッカートニーを相当意識しているようです。ビートルズのリボルバー、サージェント・ペパー期を愛している人なら、このアルバム聴いておくべきでしょうね。米国西海岸から始まったムーブメントをこれだけ英国風にアレンジしてしまうのだから、この時代のブリティッシュ・ロックは底力があったと思います。	1My white bicycle 2Colonel Brown 3Real life permanent dream 4Shy boy 5Revolution 6Incredible journey of Timothy Chase 7Auntie Mary's dress shop 8Strawberry Fields forever 9Three jolly little dwarfs 10Now your time has come 11Hallucinations 12Claramount	13Real life permanent dream (2) 14Why 15Revolution (2) 16Now your time has come (2) 17Aquarian age 1810,000 words in a cardboard box 19Good wizzard meets wizzard 20Me 21Keith West 22On a Saturday 23Kid was a killer 24She 25Visit
TOMORROW	総天然色の夢			ロック	CD	イエスのスティーヴ・ハウが在籍していたことで知られるバンド、トゥモロウの未発表曲集。前半は映画「欲望」に提供した曲のデモ・ヴァージョンやオリジナル・アルバムやシングル曲の別テイク、それにBBC録音を収録。後半は、67年にジミヘンドリックス、ザ・フー、ピンクフロイド、アニマルズなどが出演した伝説のフェスティバルクリスマス・オン・アースでのライブを収録。	1アム・アイ・グラッド・トゥ・シー 2欲望 3コート・イン・ア・ウェブ 4レヴオリューション 5ホイ 6リアル・ライフ・パーマナント・ドリーム 7陽気な三人の小人 8レヴオリューション	9コート・イン・ア・ウェブ 10ショットガン&ザ・ダック 11マイ・ホワイト・バイシクル 12リアル・ライフ・パーマナント・ドリーム 13レヴオリューション 14ホイ 15ミスター・レインボウ 16ストロベリー・フィールズ・フォーエヴァー
TORME	バック・トゥ・パピロン		1985	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	ヴォーカル面の弱さを指摘されていたBernie Tormeはヴォーカルに元GIRLのPhillip Lewisを迎え起死回生と"Torme"を結成。プロデューサーにGillanの元同僚のJohn McCoyを迎え、作品制作に乗り出す事となる。時代は80年代メタルブーム、L.A.METALブーム後期という時期。アメリカ系HR/HM全盛期後期という事もあり、それを意識した感のある作品。 非常に洗練/ホビュラ化された感があり非常に整ったコンパクトな音楽性でメロディ重視。アコースティック・ギター仕様のメロウなものやシンセを生かした楽曲も存在。 また80年代というギターヒーロー重視の時代、Bernie Tormeもコンパクト感を非常に意識したソロを弾いています。 Phillip Lewis自身がグラム〜パンク分野経由のNWOBHMバンド"Girl"出身という事があり、またバンドという事で作曲のみならずアレンジに積極的に関わっている感があり、ホビュラ且つパンクの音楽性が強調された感があります。 (Phillip Lewisの作曲クレジットは少ないが後にPhillip Lewisが参加するL.A.GUNSの前哨戦的な作品の感もあり、アメリカ進出を見越した感もあり。		

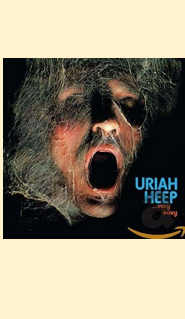
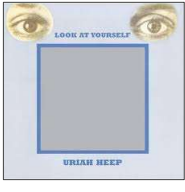
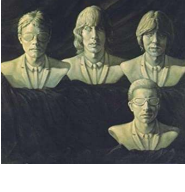
TOM VERLAINE	ワーズ・フロム・ザ・フロント		1982	ニューウェイブ	レコード	テレビジョンのトム・ヴァレインの3枚目のアルバム。		
TOM WAITS	ブルー・ヴァレンタイン		1978年9月	ロック	レコード	1978年に発表したアルバム。しがない人々の心情をユーモアに満ちた暖かい視線で語る、酔いどれの奇才、トム・ウェイツ。ジャジーな香りに包まれた都会の夜、トムのモノローグで演出された都会の夜…。彼が1978年に発表した今作は、それまでのトム・ウェイツのサウンドから大きく変貌を遂げる作品だ。ピアノを中心としたサウンドからギターを重視したサウンドへと移り、より生々しく、よりブルージーな世界観を表現していることは、タイトル曲「Blue Valentine」を聴けばよくわかるだろう。息をのむオーケストレーションがたまらないガーシュウインの「Somewhere」や、美しいピアノ・バラード「Kentucky Ave.」といった楽曲を収録。リトル・リチャード等との共演で知られるドラマー、アール・パーマー等が参加。	Side A 1. サムホエア 3:53 2. ドラッグストアの赤い靴 “Red Shoes by the Drugstore” 3:14 3. ミネアポリスの女からのクリスマス・カード 4:33 4. 血だらけのロミオ “Romeo Is Bleeding” 4:52 5. 29ドル 8:15	Side B 1. ロング・サイド・オブ・ザ・ロード 5:14 2. 墓場からの口笛 “Whistlin’ Past the Graveyard” 3:17 3. ケンタッキー・アヴェニュー 4:49 4. かわいい小さな弾丸 “Sweet Little Bullet from a Pretty Blue Gun” 5:36 5. ブルー・ヴァレンタイン 5:49
TOM ROBINSON BAND	パワーインザダークネス			パンク	レコード			
TOM ROBINSON BAND	パワーインザダークネス			パンク	レコード			
TOM ROBINSON BAND	TRB 2			パンク	レコード			
TOM ROBINSON BAND	TRB 2			パンク	レコード			
TOYAH	ブルー・ミーニング		1980年	ニューウェーブ	レコード	1980年発表の2ndアルバム。Robert Frippの妻。アヴァンギャルドなニューウェーブ・サウンドをより発展させた作品。同時期のニュー・ロマンティック/ポスト・パンクに本人の変幻自在のヴォーカルを融合させた前作の路線を踏襲しつつ、本人の音楽性の進化と精力的な活動を受けた歌唱力/バンド・アンサンブルの向上により楽曲/サウンドが飛躍的にレベル・アップ。以降の80年代期作品に継承されていく、本人のエキセントリックな美意識とアヴァンギャルドなニューウェーブの魅力はそのままに、よりオーヴァーグラウンドなスタイル/サウンドを確立した過渡期の秀作。	Seid A 1. イエヤ 2. スペイスト・ラーキング 3. 私のまぼろし 4. メキシコのミラ 5. ブルー・ミーニング	Seid B 1. タイガー・タイガー 2. ヴィジョン 3. インセクツ 4. ラブ・ミー 5. 彼女
TOURISTS	ツーリスト			ニューウェイブ	レコード			
TOURISTS	リアリティー・エフェクト			ニューウェイブ	レコード			
TOY DOLLS	シングلز83～84		1985	パンク	レコード	大ヒット曲「ネリーさんだ象」でお馴染み、トイ・ドールズのレアな初期3枚のシングル「Cheerio & Toodle' Pip」「Alfie From The Bronx」「We're Mad」をコンパイルした7曲入りミニアルバム。	Side A 1. Cheerio & Toodle Pip 2. H.O! 3. Alfie From The Bronx	Side B 1. Hanky Panky 2. We're Mad 3. Rupert The Bear 4. Deirdre's A Slag
TOY DOLLS	ふあっと・ボブ・ふいと		1991	パンク	CD	トイ・ドールズの91年のアルバム。ふとっちょボブの靴下と靴に捧げられたトイ・ドールズのアルバム。	01. トイ・ドール・トリック 02. ファット・ホブズ・ワイト! 03. ウイ・グワイ・ザ・ガバリー 04. スフィンクス・ステイクス 05. ロッド・ニース・メモリー 06. オルガ・クラック・コン 07. ビットン・ハイ・ア・バッド・バグ!	08. キッズ・イン・タイン・アンド・ウェア 09. フランキーズ・ガット・ザ・ブルース 10. ハンチ・オー・フェアリーズ 11. イエロー・ハート 12. バック・イン'79 13. コッパーズ・コフト・ケンス・キャッシュ! 14. トイ・ドール・トリック 15. タートル・クレイジー!
TRACEY THORN	遠い渚		1984年	ポップス	レコード	エブリシング・バット・ザ・ガール結成以前、マリン・ガールズの一員として活動する傍ら、弱冠20歳の現役女子大生であった彼女が発表した唯一のソロ作品。ボサノバやジャズを取り入れながらも、素朴でフォーキーなサウンドを展開する本作は、シンプルだからこそ普遍的な煌きを今も放っている。歴史的にみて革命的な作品だが、内容はトレイシー・ソーンによる淡々としたギター弾き語り作品。60年代サイケや70年代のフォークとも全く異なる視座の、実に冷めた内省的な印象の作品である。音楽史のすみっこでキラリと光る名盤。	Side A 1. スモール・タウン・ガール 2. シンプリ・クドアント・ケア 3. シースケープ 4. ファム・ファタル「宿命の女」 5. ドリーミー	Side B 1. ブレーン・セイリング 2. ニュー・オーブンド・アイズ 3. トゥー・ハッピー 4. ナイト&デイ 5. オン・マイ・マインド
TRACEY ULLMAN	夢見るトレイシー		1984	ポップス	レコード	16歳の時にベルリンでミュージカルデビューし、その後ロンドンで様々なミュージカルに出演、BBCのテレビシリーズにも出演。舞台・テレビで数々の賞を受賞している。1980年代にはアメリカに渡り、1980年代には歌手としても活動し、シングル「夢見るトレイシー」カースティ・マッコール「They Don't Know」のカヴァー曲は全米8位になった。1987年よりトークショー『トレイシー・ウルマンショー』の司会を務めて人気を確たるものとした。またドラマ『アリー-myラブ』ではアリーのセラピストとして出演し、エミー賞を受賞した。	1. Breakaway 2. Long Live Love(愛はいつまでも) 3. Shattered 4. Oh What a Night(今夜は最高!) 5. Life is a Rock but the Radio Rolled Me(ラジオでロックンロール) 	6. Move Over Darling 7. Bobby's Girl(ボビーに首ったけ) 8. They Don't Know 9. (I'm Always Touched By Your) Presence Dear(浮気な彼氏) 10. You Broke My Heart in 17 Places 11. I Close My Eyes and Count to Ten(瞳を閉じてワン・ツー・スリー)
TRACEY ULLMAN	セカンドアルバム		1985	ポップス	レコード	英国出身の人気コメディアン、トレイシー・ウルマンの2ndアルバム。前作に引き続き名門Stiff Recordsからリリースのヒット曲「Sunglasses」「Helpless」「You Caught Me Out」やユニー・フランシスのカバー「Where The Boys Are」を含む、ニューウェーブも取り入れてバラエティ豊かになった全12曲収録。	Side A 1. You Caught Me Out 涙のステップ・ダンス 2. Little By Little リトル・ビ・リトル 3. Baby I Lied あなたを見つめて 4. Terry テリー 5. Bad Motorcycle ロックン・ロール・モーターサイクル 6. Loving You is Easy ラビング・ユー	Side B 1. Sunglasses 想い出のサングラス 2. If I Had You あなたのそばに 3. Helpless ヘルペレス 4. Where the Boys Are ボーイ・ハント 5. Give Him a Great Big Kiss キスははやく 6. I Know What Boys Like 男の子のように
TRAFFIC	ミスター・ファンタジー		1967	ロック	レコード	スペンサー・デイヴィス・グループのヴォーカルとしてアメリカでの成功もつかもうとしていた絶頂期の67年にグループを脱退後、・デイヴ・メイスン(ギター)、ジム・キャバルディ(ドラム)、クリス・ウッド(フルート/サクソ)とトラフィックを結成し、'67年英アイランド社からデビュー・アルバム「ミスター・ファンタジー」を発表。音楽的には実験的要素が強(シタール、フルート、メロロン、オルガン等を使用したサイケデリック・ロック。インド音楽風、同時期のザ・ビートルズ(The Beatles)に影響されたカラフルなサイケデリック・ポップ、ブルース・ロック、ジャズ・ロックなど多彩なスタイルでバラエティーに富んでいます。内容としてはギターの音色が美しくトラディショナル風な楽曲『No Name, No Face, No Number』、インド音楽でシタールの音色が心地良い『Utterly Simple』、シンプルなロック調の『Coloured Rain』が秀逸全米16位の大ヒットとなった、『Dear Mr. Fantasy』『Coloured Rain』等、全10曲収録した大名作！	Side A 1. ヘヴン・イズ・イン・ユア・マインド 4:17 2. バークシャー・ボビーズ 2:55 3. ハウス・フォー・エヴリワン 2:02 4. ノー・フェイス、ノー・ネーム、ノー・ナンバ― 3:31 5. ディア・ミスター・ファンタジー 5:33 6. ディーラー 3:10	Side B 1. アッターニー・シンプル 3:17 2. カラード・レイン 2:41 3. ホープ・アイ・ネヴァー・ファインド・ミー・ゼア 2:07 4. キヴィング・トゥ・ユー 4:18

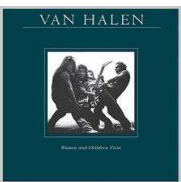
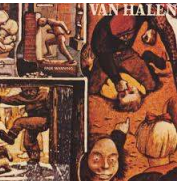
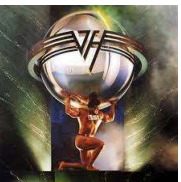
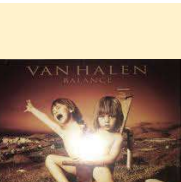
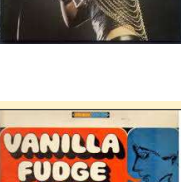
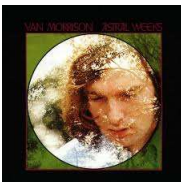
T.REX	電気の武者 (ペーパースリーブ仕様)		1971年9月	グラムロック	CD	のCM等でも頻繁に使われている名曲。T.REXの曲全般にも当てはまる事ですが、ボランならではの妖しいムード漂うこれらの曲は、今聴いても古さを感じさせないばかりか、むしろ現在未来のロック・スターが持つ、普遍的なクール感覚を示唆し続けていと言える。 ロックの原初的カッコよさがみなぎって一方で、ストリングスやブルースなど多彩なサウンドが重なって音にはしっかり厚みがある。イアン・マクドナルドやウエイクマンらプログレ系脈が参加している点にも注目 母国イギリスでは、初の全英アルバムチャート1位を通算8週獲得。アメリカでも全米最高32位に達した。また、シングルでは本作から、「ゲット・イット・オン」(全英1位・全米10位、「ジープスター」(全英2位)がヒットした。	1. マンボ・サン - Mambo Sun - 3:42 2. コズミック・ダンサー - Cosmic Dancer - 4:30 3. ジープスター - Jeepster - 4:12 4. モノリス - Monolith - 3:49 5. リーン・ウーマン・ブルース - Lean Woman Blues - 3:02	6. ゲット・イット・オン - Get It On - 4:26 ※1985年11月「パワー・ステーション」がこの曲をカバーしている(全米9位)。 7. プラネット・クイーン - Planet Queen - 3:14 8. ガール - Girl - 2:33 9. モティヴェイター - The Motivator - 4:01 10. ライフ・イズ・ア・ガス - Life's a Gas - 2:25 11. リップ・オフ - Rip Off - 3:42 ※全曲 マークボラン作成
T.REX	スライダー		1972	グラムロック	レコード	T・レックスが72年発表したアルバム。華麗なストリングスと骨太なバンド・アンサンブルが融け合った名盤。 アシッド・フォーク時代のTYRANNOSAURUS REXからロック化を図りT.REXと名義を変更しての3枚目で、彼独特のグラム・ロック・サウンドを完成させた前作と並ぶ代表作。ポップなメロディを歌い上げるセクシーなヴォーカル、賑やかな男性コーラス、Tony Viscontiによるストリングス・アレンジが一体となった「Metal Guru」と「Telegram Sam」の二大代表曲を始め、ヴァイオリンとギターが絡みあうヘヴィ・チューン「Buick Mackane」、ドリーミーな女性コーラスが彩るアコースティック・ナンバー「Main Man」など盛りだくさんの内容。骨太なバンド・アンサンブルによるキャッチーなメロディを、華麗なストリングスで包み込んだロック史に残る名盤。	Side A 1. メタル・グルー 2. ミスティック・レディ 3. ロック・オン 4. ザ・スライダー 5. ベイビー・プーメラン 6. スペースボール・リコシェット 7. ビューイック・マッケイン	Side B 1. テレグラム・サム 2. ラビット・ファイター 3. ベイビー・ストレンジ 4. ホールルーミス・オブ・マーズ 5. チャリオット・チューグル 6. メイン・マン
T.REX	スライダー (ペーパースリーブ仕様)		1972	グラムロック	CD			
T.REX	タンクス		1973	グラムロック	レコード	73年にリリースされた4作目のアルバム。イアン・マクドナルドやウエイクマンらプログレ系脈が参加している点にも注目 Luke」などセクシーなボラン・ブギーが堪能できるT・レックス絶頂期の『THE SLIDER』と並ぶ代表作。 元来の出自がサイケ・フォークだったマーク・ボランですが、その後フォークロック〜ブルース・ロック〜エレクトリック・ブギー〜ロックンロールと、様々な方向性のサウンドを披露するようになり・・・ Tレックス名義での通算4作目となるこのスタジオ作では、遂にソウル/ファンクのフォーマットを大々的に取り入れるように変化してきました。今にして考えてみると、こうした方向性に舵を切るのにもさほど違和感はなかったのかなという気にもなります。 当時、同じフィールドで活躍していたボウイにしてもフェリーにしても、この同時期にブラック・ミュージックの領域へと足を踏み入れ始めていました。 これまで、比較的ライブ感のあるプロダクションで作品づくりを行ってきたものを、かなり技巧を凝らしたトリッキーなものへと変化させてきているのも本作の特徴のひとつでもあり、作り込みが非常に多い作品。また、ウエイクマンやジョン・マクドナルドがプロデュースした数期の作品でありがたまたオリジナル・メンバーでのT・レックスとしても最期の作品となった。この時期のグループは低迷期を迎えており、従来の姿勢から抜け出そうとする前向きな部分は感じさせるものの、全体としては楽曲そのものはやや地味な印象は受ける。しかしサウンドそのものはよりソウルの新要素を強調した従来のとはまた違った派手さをもっており、時にホーンやピアノが全面に出た曲なども含み聞かぬ底気はある。ヒット曲的な代表曲は少ないが、地味な良い曲が多い作品と言えると思う。しかしながら 7.「ティーンエイジ・ドリーム」は究極の一曲とも言うべき曲であり、ヒット曲、名曲が数多いT・レックスの中でも傑出しまくった名曲中の名曲。非常にスケールの大きなソウル・バラードに仕上がっている。これは聞かすにはおけないと思う。正直なところ本作と次作『BOLAN'S ZIP GUN』は試行錯誤の産物であり、T・レックスの本道とは少し違うと思う。したがって初心者が最初に聞くべき作品ではないが、彼らの音楽が好きな人であれば共に外せない作品だと思う。何にしてもグラム・ロックの終盤・・・一つの歴史的な瞬間を刻んだ作品であるように感じられる。最後のアルバムとなる1977年の通算8作目の『ナイト・イン・ザ・ランド・オブ・ザ・デッド』からは12作目。 前作までのイメージを完全に払拭した正に新生T.Rexという感じの作品です。実際にボラン以外のメンバーは一新されています。シンプルで引き締まった演奏は新メンバーの力量も大きいのでしょうが、今聴いても全く古さを感じられないほど洗練されています。使用されている楽器・・・特にキーボード類の変化が曲そのもののイメージの変化にも大きな影響を与えています。ボランならメロトロンや生のストリングスが被せてあるであろう部分はソーナに変わり、リードやベースなどではミニムーグと思われるシンセが頻繁に出てくるのですが、この音色のセンスがすこぶる良い。シンセと気が付かないほどうまく使用されています。珍しいところでは曲によってはクラブも登場してきます。ハモンドやサクソも従来とは聞こえ方が全然違います。やはり無駄な音を省いたことが良い結果を生んだのでしょう。変則的なリズムを取り入れた Jaon B. Sad や従来通りのブギ、I Love To Boogie など全曲に変化があって、かつ統一感があるという典型的な名盤ですが、今までの重圧なアレンジがされていない(いわゆるT・レックスのイメージとはちょっと違う)のでこれがT・レックスの代表作とは言いいいのですが、それでもどこをどう聴いても紛れもないT・レックスのサウンド。特にT・レックスの食わず嫌いの人にオススメしたいアルバム。	Side A 1. Tenement Lady 2. Rapids 3. Mister Mister 4. Broken-Hearted Blues 5. Shock Rock 6. Country Honey 7. Electric Slim And The Factory Hen	Side B 1. Mad Donna 2. Born To Boogie 3. Life Is Strange 4. The Street And Babe Shadow 5. Highway Knees 6. Left Hand Luke
T.REX	ズインク・アロイと朝焼けの仮面ライダー (ペーパースリーブ仕様)		1974	グラムロック	CD	74年にリリースされた5作目のアルバム。イアン・マクドナルドやウエイクマンらプログレ系脈が参加している点にも注目 Zink Alloy and the Golden Knight of Tomorrow」は試行錯誤の産物であり、T・レックスの本道とは少し違うと思う。したがって初心者が最初に聞くべき作品ではないが、彼らの音楽が好きな人であれば共に外せない作品だと思う。何にしてもグラム・ロックの終盤・・・一つの歴史的な瞬間を刻んだ作品であるように感じられる。最後のアルバムとなる1977年の通算8作目の『ナイト・イン・ザ・ランド・オブ・ザ・デッド』からは12作目。 前作までのイメージを完全に払拭した正に新生T.Rexという感じの作品です。実際にボラン以外のメンバーは一新されています。シンプルで引き締まった演奏は新メンバーの力量も大きいのでしょうが、今聴いても全く古さを感じられないほど洗練されています。使用されている楽器・・・特にキーボード類の変化が曲そのもののイメージの変化にも大きな影響を与えています。ボランならメロトロンや生のストリングスが被せてあるであろう部分はソーナに変わり、リードやベースなどではミニムーグと思われるシンセが頻繁に出てくるのですが、この音色のセンスがすこぶる良い。シンセと気が付かないほどうまく使用されています。珍しいところでは曲によってはクラブも登場してきます。ハモンドやサクソも従来とは聞こえ方が全然違います。やはり無駄な音を省いたことが良い結果を生んだなのでしょう。変則的なリズムを取り入れた Jaon B. Sad や従来通りのブギ、I Love To Boogie など全曲に変化があって、かつ統一感があるという典型的な名盤ですが、今までの重圧なアレンジがされていない(いわゆるT・レックスのイメージとはちょっと違う)のでこれがT・レックスの代表作とは言いいいのですが、それでもどこをどう聴いても紛れもないT・レックスのサウンド。特にT・レックスの食わず嫌いの人にオススメしたいアルバム。	1. ヴィーナスの美少年 2. 悪魔のしもべはのろまが嫌い 3. 熱く激しく爆発する唇 4. 鎧河の国へ 5. 変革はお陽さまの如く 6. 名もなき狂人 7. ティーンエイジ・ドリーム 8. いやな液体	9. 横かしのカースマイル 10. ジャイヴで行こう / 燃えるスペインの今宵 11. 星空のソウル 12. 破滅への希望 13. 僕たちは復讐者(ひどいもの) 14. 豹の歌 / 主演：くちなしの花となめくじ野郎 以下、CDボーナス・トラック 15. トラック・オン 16. シッティング・ヒア
T.REX	地下世界のダンディ		1977年	グラムロック	CD	77年にリリースされた6作目のアルバム。イアン・マクドナルドやウエイクマンらプログレ系脈が参加している点にも注目 Dandy in the Underworld」は試行錯誤の産物であり、T・レックスの本道とは少し違うと思う。したがって初心者が最初に聞くべき作品ではないが、彼らの音楽が好きな人であれば共に外せない作品だと思う。何にしてもグラム・ロックの終盤・・・一つの歴史的な瞬間を刻んだ作品であるように感じられる。最後のアルバムとなる1977年の通算8作目の『ナイト・イン・ザ・ランド・オブ・ザ・デッド』からは12作目。 前作までのイメージを完全に払拭した正に新生T.Rexという感じの作品です。実際にボラン以外のメンバーは一新されています。シンプルで引き締まった演奏は新メンバーの力量も大きいのでしょうが、今聴いても全く古さを感じられないほど洗練されています。使用されている楽器・・・特にキーボード類の変化が曲そのもののイメージの変化にも大きな影響を与えています。ボランならメロトロンや生のストリングスが被せてあるであろう部分はソーナに変わり、リードやベースなどではミニムーグと思われるシンセが頻繁に出てくるのですが、この音色のセンスがすこぶる良い。シンセと気が付かないほどうまく使用されています。珍しいところでは曲によってはクラブも登場してきます。ハモンドやサクソも従来とは聞こえ方が全然違います。やはり無駄な音を省いたことが良い結果を生んだなのでしょう。変則的なリズムを取り入れた Jaon B. Sad や従来通りのブギ、I Love To Boogie など全曲に変化があって、かつ統一感があるという典型的な名盤ですが、今までの重圧なアレンジがされていない(いわゆるT・レックスのイメージとはちょっと違う)のでこれがT・レックスの代表作とは言いいいのですが、それでもどこをどう聴いても紛れもないT・レックスのサウンド。特にT・レックスの食わず嫌いの人にオススメしたいアルバム。	1. 地下世界のダンディ 2. 深紅色の月 3. 宇宙の舞踏会 4. きみに恋わずらい 5. ラブ・トゥ・ブギー 6. ミノの幻影	7. 悲しきジェイソン・B・サッド 8. グループはいいか? 9. 心はいつもロックン・ロール 10. 恋はあまのじゃく 11. 苦痛と愛 12. 十代の暴走
T.REX	イン・コンサート		1981年	グラムロック	CD	1971年のライブ音源。	A1 Bob Harris Intro / Ride A White Swan A2 Extracts From Rip-Off A3 Debora A4 Hot Love A5 Get It On	B1 Spaceball Ricochet B2 One Inch Rock B3 Metal Guru B4 Telegram Sam B5 Beltane Walk B6 Summertime Blues
T.REX	マークボラン 20TH CENTURY BOY			グラムロック	レコード	ロンドン出身のマーク・ボランがリーダー。1970年代前半のグラムロック・ムーブメントでは、デヴィッド・ボウイやロキシー・ミュージック、モット・ザ・フールなどとともに、ジャンルを代表するアーティストとなった。その音楽は、T・レクスタシーと呼ばれることもあった。1967年、アモース・ディック・ギターとヴォーカルのマーク・ボラン、パーカッションのスティヴ・ウットウの二人組で、ティラノザウルス・レックス(Tyrannosaurus Rex)を結成し、翌1968年にデビュー。サイケデリックなフォークロック・グループとして一部でカルト的な人気を誇った。1970年12月に「T.Rex」とバンド名を短縮、「ライド・ア・ホワイト・スワン」(全英2位)の大ヒットでスターダムに。1971年にベースのスティヴ・カーリーとドラムのビル・レジェンドが加わり、4人組のバンドになって初めてのアルバム『電気の武者』がUKチャート1位の大ヒット。「(バング・ア・ゴング)ゲット・イット・オン」[3](全英1位・全米10位)や「ジープスター」(全英2位)といったヒット・シングルも生まれ、イギリスでは人気グラムロック・グループとなった。また、この当時の彼らは「第2のビートルズ」との呼び声も高かった。デビュー当初からのプロデューサーであり、ストリングスを大胆に用いた独特のサウンドを構築したニー・ヴィスコンティも、彼らの成功に伴って制作者としての評価を高めた。そのマークボランのデビュー当時から軌跡を取めたアルバム。	Marc Bolan 1965-67 A1 Marc Bolan The Wizard (#1) 1:45 A2 Marc Bolan Beyond The Rising Sun 2:10 A3 Marc Bolan The Third Degree 2:21 A4 Marc Bolan San Francisco Poet 1:34 A5 Marc Bolan Hippy Gumbo (#1) 2:04 A6 Marc Bolan Misfit 1:50 A7 Marc Bolan The Perfumed Garden 1:50 A8 Marc Bolan Gulliver Smith 1:50 A9 Marc Bolan Jasper C. Debussy 2:04 A10 Marc Bolan Hot Rod Momma (#1) 2:58 A11 Marc Bolan Mustang Ford (#1) 1:44 A12 John's Childhood 1967	Tyrannosaurus Rex 1968-70 B1 Tyrannosaurus Rex Child Star 2:44 B2 Tyrannosaurus Rex Debora 3:08 B3 Tyrannosaurus Rex Demon Queen 1:37 B4 Tyrannosaurus Rex One Inch Rock (#2) 2:11 B5 Tyrannosaurus Rex Catblack (The Wizard's Hat) (#2) 2:48 B6 Tyrannosaurus Rex Pewter Suitor 3:07 B7 Tyrannosaurus Rex King Of The Rumbling Spires 2:08 B8 Tyrannosaurus Rex Do You Remember? 2:12 B9 Tyrannosaurus Rex By The Light Of The Magical Moon 2:48 B10 Tyrannosaurus Rex Once Upon The Seas Of Abyssinia 2:02
TUBES	チューブス		1977年	ロック	レコード	77年作、グラマスなヴィジュアルとシアトリカルなパフォーマンスも話題となった捻れた変態ポップ・サウンドを標榜した初期チューブスの真骨頂となる隠れ名盤。アル・クーバーのプロデュース。 デヴィッド・フォスターやトッド・ラングレンがプロデュースをした事で70年代のアメリカン・ポップ・バンドとしてマニアックな人気強いザ・チューブスですが、デビュー作である本作ではアメリカ版デフ・スクールとでも言うべき変態ポップ性に溢れ、ディーボやスパークスといった個性的なバンドと並べられるのではないでしょうが。実際スパーシー・サド・マゾ・ロックという形容句もあつた様で、アリス・クーバーの遺伝子を引き継ぐ存在であつただけに、当店で目せざるを得ません。グラマスなルックスとシアトリカルなステージが、更に彼等のイメージを難しくしていったと思われますが、サウンドは実にフリーキーです。 いきなり飛び出す「秋のデトロンは帝人です」という日本語に驚かされますが、彼等のインパクトはその後も豊富な音楽性によって持続していきます。ラスト・ナンバーの「White Punks On Dope」は、後にモトリュー・カルーがカバーした事で有名な。 これは「サンフランシスコの変態バンドからLAで勝負出来る音楽性」を表現するために制作された。バンドの持つ変態色、キワモノイメージを払拭し「ストレート」にイメージチェンジし、サウンドもスタイリッシュにヒット曲をチャートに叩き込む…というところで、フォスターに白羽の矢がたつたのは想像に難くない。何と言っても当時の売れっ子David Fosterを起用したわけなのでそれなりの音作りになった。要するに「クリーン」なイメージに出来上がったサウンドは、バンドの個性は鼻につかない程度に残しつつ、絶妙なアレンジでフックを設け、ポップに聴きやすく仕上がり、さらにアルバムからは8曲目「ドント・ウオント・トゥ・ウエイト・エニモア」のバラードが全米35位のヒットとなる。当時爆発的な影響力を持っていたMTVに乗り【Talk To Ya Later】や【ドント・ウオント・トゥ・ウエイト・エニモア】【Let's Make Some Noise】などが巷に溢れた。その中でもフロントマン「フィー・ウェイビル」の声やキャラクターは相変わらず最高にこ機嫌。 Tubesのデビューアルバムと並ぶ彼らの最高傑作。トッド・ラングレンによるプロデュース作品。 このアルバムはどの曲も曲そのものの出来映えが素晴らしい。メンバー自体はデビュー時と変わらないが、その後グレートフルデッドのメンバーとなるキーボードプレイヤーもいて演奏もグレイドアップされている。そしてドラムのブレイリー・プリンスは今もトッド・ラングレンとともに活躍している。 ジャケット裏のコムデギャルソンの服で決めたメンバー写真は時代を感じるが、サンフランシスコの寒くて重い空気ととても馴染んでいる。彼らはこの後再結成を繰り返しアルバムも数作リリースされているが、このトッド・ラングレン作は、デヴィッド・フォスターのプロデュース作品と比べると彼のこり押しミュージシャンを連れてこず、ゲストが居ないので自分たちの腕の見せどころであつて深く、聴きごたえがある。	Side A 1. アップ・フロム・ザ・ディープ 4:29 2. 限りなき世界 4:53 3. スペース・ベイビー 4:25 4. マラゲーニャ 3:53	Side B 1. ジャマイカの道 4:34 2. 光りある人生 4:01 3. ポーイ・クレイジー 4:09 4. ホワイト・パンクス 6:50
TUBES	不思議なチューブス		1981年	ロック	レコード	これは「サンフランシスコの変態バンドからLAで勝負出来る音楽性」を表現するために制作された。バンドの持つ変態色、キワモノイメージを払拭し「ストレート」にイメージチェンジし、サウンドもスタイリッシュにヒット曲をチャートに叩き込む…というところで、フォスターに白羽の矢がたつたのは想像に難くない。何と言っても当時の売れっ子David Fosterを起用したわけなのでそれなりの音作りになった。要するに「クリーン」なイメージに出来上がったサウンドは、バンドの個性は鼻につかない程度に残しつつ、絶妙なアレンジでフックを設け、ポップに聴きやすく仕上がり、さらにアルバムからは8曲目「ドント・ウオント・トゥ・ウエイト・エニモア」のバラードが全米35位のヒットとなる。当時爆発的な影響力を持っていたMTVに乗り【Talk To Ya Later】や【ドント・ウオント・トゥ・ウエイト・エニモア】【Let's Make Some Noise】などが巷に溢れた。その中でもフロントマン「フィー・ウェイビル」の声やキャラクターは相変わらず最高にこ機嫌。 Tubesのデビューアルバムと並ぶ彼らの最高傑作。トッド・ラングレンによるプロデュース作品。 このアルバムはどの曲も曲そのものの出来映えが素晴らしい。メンバー自体はデビュー時と変わらないが、その後グレートフルデッドのメンバーとなるキーボードプレイヤーもいて演奏もグレイドアップされている。そしてドラムのブレイリー・プリンスは今もトッド・ラングレンとともに活躍している。 ジャケット裏のコムデギャルソンの服で決めたメンバー写真は時代を感じるが、サンフランシスコの寒くて重い空気ととても馴染んでいる。彼らはこの後再結成を繰り返しアルバムも数作リリースされているが、このトッド・ラングレン作は、デヴィッド・フォスターのプロデュース作品と比べると彼のこり押しミュージシャンを連れてこず、ゲストが居ないので自分たちの腕の見せどころであつて深く、聴きごたえがある。	Side A 1. Talk To Ya Later 2. Sushi Girl 3. Amnesia 4. Mr. Hate 5. Attack Of The Fifty Foot Woman.	Side B 1. Think About Me 2. A Matter Of Pride 3. Don't Want To Wait Anymore 4. Power Tools 5. Let's Make Some Noise
TUBES	ラブ・ボム		1985年		レコード	Tubesのデビューアルバムと並ぶ彼らの最高傑作。トッド・ラングレンによるプロデュース作品。 このアルバムはどの曲も曲そのものの出来映えが素晴らしい。メンバー自体はデビュー時と変わらないが、その後グレートフルデッドのメンバーとなるキーボードプレイヤーもいて演奏もグレイドアップされている。そしてドラムのブレイリー・プリンスは今もトッド・ラングレンとともに活躍している。 ジャケット裏のコムデギャルソンの服で決めたメンバー写真は時代を感じるが、サンフランシスコの寒くて重い空気ととても馴染んでいる。彼らはこの後再結成を繰り返しアルバムも数作リリースされているが、このトッド・ラングレン作は、デヴィッド・フォスターのプロデュース作品と比べると彼のこり押しミュージシャンを連れてこず、ゲストが居ないので自分たちの腕の見せどころであつて深く、聴きごたえがある。	Side A 1. Piece by Piece 2. Stella 3. Come as You Are 4. One Good Reason 5. Bora Bora 2000/Love Bomb	Side B 1. Night People 2. Say Hey 3. Eyes 4. Muscle Girls 5. Theme From a Wooly Place 6. For a Song 7. Say Hey, Pt. 2 8. Feel It 9. Night People (Reprise)
TUFF DARTS タフ・ダーツ！	タフ・ダーツ！		1978	パンク	レコード	1978年颯爽とデビューしたタフ・ダーツ唯一のアルバム。その名のとおり、タフ&ルーズなロックンロールにロカビリー&ポップ風味も散りばめたの隠れた名盤。パンクに連さや荒っぽさだけを求めてしまうとピンとこないかも知れませんが、外見からは想像できないPOP感でアルバム。一枚ですぐに解散してしまったせいか軽視されがちだが、さすがにニューヨークという激戦区を生き抜いただけあって、捨て曲無しのしっかりしたアルバム。	Side A 1. フーズ・ビーン・スリーピング・ヒア 2. ニュークリア・ウエイスト 3. ヒア・カムズ・トラプル 4. シーズ・デッド 5. ラッツ 6. ファン・シティ	Side B 1. オール・フォー・ザ・ラヴ・オブ・ロックン・ロール 2. ラヴ・アンド・トラプル 3. ヘッド・オーバー・ヒールズ 4. スラッシュ 5. フォン・ブース・マン(P.B.M.) 6. マイ・キター・ライズ・プリーディング・イン・マイ・アームズ
20/20(TWENTY TWENTY)	トゥエンティ・トゥエンティ		1979	ニューウェイブ	レコード	20/20のファーストアルバム。日本では認知度が今一つだが、パワーポップの世界では知らない人はいないグループ。このアルバムはヘビィでパワフルなサウンドでありながらメロディはキャッチーでサイケ風味もあり、シンセサイザーを効果的に取り入れたアルバムで、「これぞパワーポップ」といった曲を次々と聴かせてくれます。代表曲「Yellow Pills」はパワーポップファンジンの名前にもなっている。5曲目の「Tell Me Why」も名曲。	Side A 1. The Sky Is Falling 7/79 2. Yellow Pills 3. Cheri 4. Out Of This Time 5. Tell Me Why (Can't Understand You) 6. Tonight We Fly	Side B 1. Remember The Lightning 2. She's An Obsession 3. Leaving Your World Behind 4. Backyard Guys 5. Jet Lag 6. Action Now

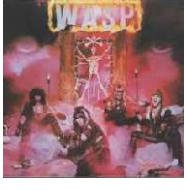
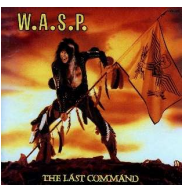
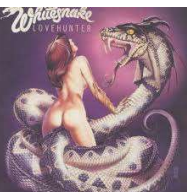
	Twisted Sister	ステイ・ハングリー		1984	ハードロック ク&ヘヴィ メタル	レコード	アメリカ合衆国出身のヘヴィメタル・バンド。グラムメタルの代表的バンドとされ、強烈なインパクトを放つボーカリスト ディー・スナイダー率いるバンドのサード・アルバム。。ダブル・プラチナムというビッグ・セールスを達成。ケバいいでたちに対応しい芝居がかった音作りの派手さ加減がたまらない。そして当時のロック・キッズのアンセムとなった「WE'RE NOT GONNA TAKE IT」を収録した名作。 ビルボード・アルバム・チャート最高位：15位	Side A 1. ステイ・ハングリー 2. ウィア・ノット・ゴナ・ティク・イット 3. BURN IN HELL / 地獄で燃えろ！！ 4. HORROR-TERIA(THE BEGINNING) / 恐怖の館	Side B 1. アイ・ウォナ・ロック 2. プライス 3. ドント・レット・ミー・ダウン 4. ビースト 5. S.M.F
	TYGERS OF PAN TANG	ワイドキャット		1980	ハードロック ク&ヘヴィ メタル	レコード	80年作、タイガーズ・オブ・パンタンジのデビュー・アルバム。80年代ブリテンジジユ・メタル・ブデンにとっては、欠かせない名盤の一つ。当時の彼等は4人組で、まだジョン・デヴァリアル、ジョン・サイクスという二人の美形が不在でしたが、以降の全盛期とは違った存在感をすでに放っています。初代ヴォーカリストのジェス・コックスは、そのアイドルっぽい甘いマスクに似合わず、かなりパンキッシュなヴォーカル・スタイルが個性で、どちらかと言うとヘタウマ的な魅力。1曲目から疾走するN.W.O.B.H.M.の典型とも言えるリフに乗っかるヴォーカルは、投げやり、無愛想にも思える吐き出し方をしていますが、その対比が当時の彼等を特別なバンドにしていたのは確かだと思っています。女子供を寄せ付けないかの様なスティックナリフと歌メロが全編を覆っているのですが、同時代の他のバンドと違い不思議と汗臭さを感じさせないのは、この独特のヴォーカルに要因があったのだと思われます。奇しくもアイアン・メイデンが翌年にリリースする大名盤とアルバムと同名となった「KILLERS」では、プログレッシブな展開も見せるバンド・サウンドと流れる様なギターの中で、クールにマイペースを保つジェス・コックスがなかなかカッコいいのですが、絶叫型ヴォーカリストが乱立していく時代の中では、かなり異色だったのではないのでしょうか。ポップなメロディには目もくれず、ひたすらメタリックナリフで押しまくるバンドのスタイルは、以降の彼等の洗練されたサウンドを予見させると同時に、N.W.O.B.H.M.の熱気が最高潮であった頃の空気をダイレクトに伝えてくれます。		
	TYGERS OF PAN TANG	スペルバウンド		1981	ハードロック ク&ヘヴィ メタル	レコード	81年作、ジョン・サイクスが加入していた事でも有名なタイガーズ・オブ・パンタンのセカンド・アルバム。NWOBHMの大きな波に乗った勢いが感じられる力作で、同年にリリースしたサード・アルバム「クレイジー・ナイト」と共に80年代初頭の英国メタルを象徴する名盤となっています。スピーディーでキャッチーナリフ、個性的なヴォーカルと歌メロは、アイアン・メイデンよりもしなやかで、デフ・レバードよりも男臭い魅力を放っていました。メロディの幅も広がり、当時の最先端メタルといったころだと思います。		
	TYGERS OF PAN TANG	クレイジー・ナイト		1981	ハードロック ク&ヘヴィ メタル	レコード	82年作、タイガーズ・オブ・パンタンのサード・アルバムとなった1枚です。本作リリース後間もなく、ジョン・サイクスが脱退、後にシン・リジィに参加し、名を上げる事となります。盛り上がるNWOBHMシーンの中で、ルックスと洗練されたメロディが注目されていたバンドですが、当時内部事情はあまり良くなかった様です。そういった様々な事情をよそに、サウンドの方は実にタイトで鋭いものとなっており、歌メロもキャッチーなものとなっているのが見事です。次作でデフ・レバードを意識したかの様なポップ展開をするのですが、ここでは良い意味でキャッチーなメタル・ソングへの固執がユニークなサウンドとなっています。彼等の得意としていた疾走感溢れるリフの炸裂、またハード・ポップへの接近も新たな魅力を生んでいます。		
	TYGERS OF PAN TANG	危険なパラダイス		1982	ハードロック ク&ヘヴィ メタル	レコード	82年作、タイガーズ・オブ・パンタンの通算4作目となったアルバムです。アルバム制作直前、ジョン・サイクスがオジー・オズボーンのオーディションを受けるために脱退(結局THIN LIZZYに加入)、看板ギタリストを失った彼等は、起死回生の新展開を試みます。ギタリストをフレッド・パーサーを迎え、プロデューサーにRUSHの仕事で名高いピーター・コリンズを抜擢。パンクバンドのベネレーションに在籍していたフレッド・パーサーをキーボーディストに起用し、バンドに新たな血を注ぎ込んだ。ナッシュビルの有名ミュージシャン集団によるメロディアス・ハード系バンド、RPMの、「Rendezvous」、50年代のヒット曲、「Love Potion Number 9」という異色のカヴァーを含み、外部ライターの大幅導入によるポップかつメロディアスなサウンドへ大胆な転身しますが、結果的にはバンドの寿命を縮める事になってしまいました。フレッド・パーサー単独作のミスティアスなミドル・ハード、「Tides」、DOKKENも真つ青な哀愁メロハー・ソング、「Paris By Air」等は、当時のメタル・シーンではかなりのインパクトがあったと思うのですが、一体何故ビッグ・ヒットをしなかったのか本当に不思議です。アメリカン・マーケット向けのクリアなミックスさえあれば、本作によりタイガーズが全米で先に旋風を巻き起こしていたかもしれないのです。それほどメロディの充実度は優れていて、いち早くN.W.O.B.H.M.の括りを脱しようとした実験性は斬新であったと思います。		
U	U2	ボーイ		1980	ニューウェ イフ	レコード	U2のデビュー・アルバム、プロデューサーにはジョイ・ディヴィジョンを手がけたマーティン・ハネットが参加する予定だったが、イアン・カーティスの自殺の影響で、ピーター・ガブリエルやXTCなどを手がけたスティーヴ・リリーホワイトが担当することになった。本作からサードアルバム『WAR(闘)』にかけてのサウンドは、リリーホワイト独特の残響処理が冷たく澄んだ雰囲気を感じ出している。オープニング・ナンバーの「I Will Follow」は、ボノが14歳の時に亡くした母親へ捧げた曲として有名であり、現在でもライブのセット・リストに頻繁に組み込まれている。なお、ジャケットには上半身裸の少年(ボノの親友の弟)の写真が使われているが、アメリカ盤では児童性的虐待を想起させるとみなされ、メンバー4人の写真に差し替えられている。	Side A 1. アイ・ウィル・フォロー - I Will Follow 2. トワイライト - Twilight 3. アン・キャット・ダブ - An Cat Dubh 4. イントゥ・ザ・ハート - Into the Heart 5. アウト・オブ・コントロール - Out of Control	Side B 1. ストーリーズ・フォー・ボーイズ - Stories for Boys 2. ジ・オーシャン - The Ocean 3. ア・デイ・ウィズアウト・ミー - A Day Without Me 4. アナザー・タイム、アナザー・プレイス - Another Time Another Place 5. ジ・エレクトリック・カンパニー - The Electric Co. 6. シャドウズ・アンド・トール・トゥリーズ - Shadows and Tall Trees
	U2	ボーイ		1980	ニューウェ イフ	レコード			
	U2	アイリッシュ・オクトーバー		1981	ニューウェ イフ	レコード	1981年作のU2の2枚目のアルバム。アイルランド出身というルーツや宗教観を色濃く反映した内省的な作品。「オクトーバー」ではジ・エッジがピアノを演奏し、「トゥモロー」ではアイルランド音楽の音楽器イーリアン・パイプスの憂いを帯びたイントロを聞かせるなど、バンドの音楽性は前作よりも拡がっている。しかし、テーマが煮詰められていないこと、ヒット曲を欠くこと[1]などから、U2のアルバム中ではやや評価が低い。制作準備中にはアメリカの公演先で、歌詞や曲の草稿を入れていたボノの靴が盗まれるという事件が起きた。リリースまで時間が迫る中、レコーディングスタジオで即興的に歌詞をつくった曲もある。この靴は2004年に発見者からの連絡で23年ぶりにボノの手元に戻った。ジャケットは、メンバー4人が港を背に立っている写真、といったシンプルなデザインになっている。歌詞カード表紙をひろげるとパノラマ写真になっており、メンバー4人の左側に背景が写っている(国内版にはない)。確認。	Side A 1. グロリア - Gloria 2. アイ・フォール・ダウン - I Fall Down 3. ブリック・スルー・ア・ウィンドウ - I Threw A Brick Through A Window 4. リジョイス - Rejoice 5. ファイアー - Fire	Side B 1. トゥモロー - Tomorrow 2. アイリッシュ・オクトーバー - October 3. ウィズ・ア・シャウト - With A Shout (Jerusalem) 4. ストレンジヤー - Stranger In A Strange Land 5. スカーレット - Scarlet 6. イズ・ザット・オール? - Is That All ?
	U2	アイリッシュ・オクトーバー		1981	ニューウェ イフ	レコード			
	U2	WER(闘)		1983	ニューウェ イフ	レコード	1983年作のU2のサードアルバム。全英チャート初登場1位獲得など、U2として初のビッグヒットを記録。シングルでもヒットした「ブラディ・サンデー」や「ニュー・イヤーズ・デイ」など、初期のU2を代表する楽曲が収録されている。北アイルランド紛争で起きた、1972年の血の日曜日事件の悲劇をテーマにした「ブラディ・サンデー」、核戦争を扱った「セカンド」、ポーランドの「連帯」をイメージした「ニュー・イヤーズ・デイ」などのメッセージングを収め、「社会・政治問題に積極的に関わるロックバンド」という今日まで続くU2のイメージを決定付けた。タイトルの『WAR(闘)』についてボノは『『WAR』とは色々なレベルにある『戦い』を扱ったものなんだ。国と国の戦いもある、市民権の戦いもある。人と人同士の戦いもあるんだ。勿論、男女間の戦いもある。確かに『戦い』がテーマだけど、決して否定的なアルバムなんかじゃないんだよ」と繰り返し触れている。WAR TOURのライブで「ブラディ・サンデー」を歌う際には「これは抵抗の歌ではない」と語り、ステージ上で白い旗を振るパフォーマンスを見た。緊迫感みざるアルバム前半から一転して、ラスト曲の「40」では穏やかな平和への祈りを聴くことができる(曲名は旧約聖書の詩篇40篇より)。この曲では通常とは逆に、ジ・エッジがベース、アダム・クレイトンがギターを弾いている。ジ・エッジは「セカンド」の一部でリードボーカルも担当している。	Side A 1. ブラディ・サンデー - Sunday Bloody Sunday 2. セカンド - Seconds 3. ニュー・イヤーズ・デイ - New Year's Day 4. ライク・ア・ソング - Like a Song... 5. ドラウニング・マン - Drowning Man	Side B 1. ザ・レフュジー - The Refugee 2. トゥー・ハーツ・ビート・アズ・ワン - Two Hearts Beat as One 3. レッド・ライト - Red Light 4. サレンダー - Surrender 5. "40" - "40"
	U2	WER(闘)		1983	ニューウェ イフ	CD			
	U2	ブラッド・レッド・スカイ =四騎=		1983	ニューウェ イフ	レコード	1983年作。U2の初のライブ盤。メロディー・メーカー誌で「パワー全開、そして全速力のU2のステージに巻き込まれた人は減さないゾクゾク感を体験するはず」。アルバムに収録されている8曲中5曲は、発売日のたった3ヶ月前に、ドイツのライン川沿いに建つザンクト・ゴアルスハウゼンのローレイ劇場にてレコーディングされた。そこでは彼らを代表する曲「Sunday Bloody Sunday」と「New Year's Day」が、6月に行われたコロラド州モリソン近くにあるレッド・ロックズ野外劇場では「Gloria」と「Party Girl」がレコーディングされた。アルバムはUKチャートで2位にランク・インし、73週間トップ40内に、そして見事に201週間トップ100位圏内での位置を保持した。世界規模の業績の一例として、全米では3ヶ月でゴールド・ディスク、18ヶ月でプラチナ・ディスク、そして1994年にはトリプル・プラチナ・ディスクを獲得している。	Side A 1. グロリア 2. 11オ'clock・ティック・タック 3. アイ・ウィル・フォロー 4. パーティ・ガール	Side B 1. ブラディ・サンデー 2. ジ・エレクトリック・カンパニー 3. ニュー・イヤーズ・デイ 4. 40
	U2	ブラッド・レッド・スカイ =四騎=		1983	ニューウェ イフ	CD			
	U2	焰(ほのお)		984年10月1日	ニューウェ イフ	レコード	1984年リリースのU2の4枚目のアルバム。ブライアン・イーノとダニエル・ラノアをプロデューサーに迎えて制作された意欲作！先行シングルとして発売され全英、全米で大ヒットした「プライド」収録！ストリートでシンプルなロック・サウンドを強調。アイルランド三部作でのバンク／ニューウェイヴ調の「ダイナミックで荒々しい直情」を洗練し、“シャープで繊細な叙情”へと転換することにみごとに成功し、以前よりも幅広い大衆性を獲得する足場を築いた作品。たとえば、最初は地味な感じの曲調を「雨だれ石を穿つ」のたとえのように繊細に粘って粘って徐々に聴く者の胸に入り込ませていくトラック1、4、7、9の演奏は、新生U2独特の静かに熱く燃えるロックの真骨頂。	Side A 1. ソート・オブ・ホームカミング 2. プライド 3. ワイヤー 4. 焰(ほのお) 5. フロムナード	Side B 1. 7月4日 2. バッド 3. インディアン・サマー 4. プレスリーとアメリカ 5. MLK/マーティン・ルーサー・キング牧師に捧ぐ

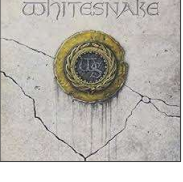
U2	ヨシュア・トゥリー		1987	ニューウェイブ	レコード	1987年作。U2の5枚目のアルバム。前作『焔』からの3年間、U2はアフリカ救済、エイズ撲滅などのチャリティイベントに参加して世界的な知名度を得ており、本作でその人氣が爆発する。全米チャートで9週連続1位を獲得し、全世界でのセールスは2,500万枚を超え[1]、同バンドのキャリアにおいて最も売れたアルバムとなっている。発売当時、アメリカの『TIME』誌はU2の写真を表紙に載せ、"Rock's Hottest Ticket"という見出しを付けた。グラミー賞では最優秀アルバム賞、最優秀ロック・グループ賞を獲得(1988年)。シングルヒットした「ホエア・ザ・ストリート・ハウ・ノー・ネーム」(1989年のグラミー賞最優秀パフォーマンス・ミュージック・ビデオ受賞)や「アイ・ステイル・ハヴント・ファウンド・ホワット・アタイム・ルッキング・フォー」「ウィズ・オア・ウィズアウト・ユー」は、U2の代表曲としてライブでも歌われ続けている。音楽面ではアメリカ文化への傾倒がより顕著になり、ブルースやカントリー、ゴスペルなどのルーツ・ミュージックを積極的に吸収し、従来のU2にはなかった静謐さと骨太さを併せ持ったコントラストの深い独自のサウンドを構築している。アメリカ政府の対ニカラグア政策(コントラ支援)を告発する「プレット・ザ・ブルー・スカイ」、イギリスの炭鉱労働者がモチーフの「レッド・ヒル・マイニング・タウン」、チリのピノチエト政権下の行方不明者をテーマにした「マザーズ・オブ・ザ・ディサピアード」など硬派な姿勢を貫きながら、セールスでも大成功した。	Side A 1. ホエア・ザ・ストリート・ハウ・ノー・ネーム(約束の地) 2. アイ・ステイル・ハヴント・ファウンド・ホワット・アタイム・ルッキング・フォー(終りなき旅) 3. ウィズ・オア・ウィズアウト・ユー 4. プレット・ザ・ブルー・スカイ 5. ランニング・トゥ・スタンド・スティル	Side B 1. レッド・ヒル・マイニング・タウン - Red Hill Mining Town 2. 神の国 3. ドリッパ・スルー・ユア・ワイヤーズ 4. ウントゥワー・ヒル 5. エグジット 6. マザーズ・オブ・ザ・ディサピアード
U2	アクトン・ベイビー		1991年11月19日	ニューウェイブ	CD	ルーツ・ミュージックに接近した1980年代後半の音楽性と決別し、対極的な「1990年代型U2」を宣言した作品。硬派なロックサウンドから、打ち込みを駆使したダンス・ビートへ転向し、歌詞も官能や不道徳を赤裸々にさらけ出すものになった。ボーカルのボノはファーストシングル「ザ・フライ」について「4人の男でヨシュア・トゥリーを切り倒している音だ」と表現した。その衝撃的な変身ぶりは、ファンを中心に多くの物議を醸した。しかしそれと同時に多くの新たなファンを獲得した作品でもあり、それまでの商業的な大成功の後でのこの大胆な路線変更は、以前とは違い多くのミュージシャンからも評価を得るものとなった。テクノ、ブレイクビーツ、トリップ・ホップなど多彩なアレンジを施しているが、オープニングのきらびやかな3曲から転じて、中盤以降はミディアムテンポの落ち着いたナンバーが並ぶ。	1. ズー・ステーション - Zoo Station 2. リアル・シング - Even Better Than the Real Thing 3. ワン - One 4. 夢の甞てまでも - Until the End of the World 5. ワイルド・ホーセズ - Who's Gonna Ride Your Wild Horses 6. ソー・クルエル - So Cruel	7. ザ・フライ - The Fly 8. ミステリアス・ウェイズ - Mysterious Ways 9. 世界を抱きしめて - Tryin' to Throw Your Arms Around the World 10. ウルトラ・ヴァイオレット - Ultraviolet (Light My Way) 11. アクロバット - Acrobat 12. 恋は盲目 - Love Is Blindness
U2	ポップ		1997年3月3日	ニューウェイブ	CD	1993年発売の『ZOO』から3年半ぶりの11枚目リリースされた9枚目のスタジオアルバム。1991年の『アクトン・ベイビー』から続いたU2の1990年代テクノロジ路線の総決算的な一枚となった。全米・全英チャートで1位を獲得し、「ZOOTVツアー」をしのぐ巨大ステージセットを持ち込んだ「PopMartツアー (PopMart Tour)」を世界各地で敢行した。制作スタッフでは、『ヨシュア・トゥリー』以降レコーディングエンジニアとして信頼してきたフッドをプロデューサーに起用。本作はポップカルチャーの柔軟性にもとづいたウォーホル的な方法論を用い、バンドの特徴である果敢な実験性を駆使することと新しい音色を巧みに融合させている。「Discotheque」は高揚感あふれるオープニング曲であり、「Staring at the Sun」は共通点の多い新興バンドであるオアシスの「Wonderwall」への解答である。また「If God Will Send His Angels」ではさまざまな要素を組み合わせて賛美歌をつくりだしている。本作において過渡期のU2は頂点に達している。	1. Discotheque (ディスコテック) 2. Do You Feel Loved (ドゥ・ユー・フィール・ラヴド) 3. Mofo (モーフオ) 4. If God Would Send His Angels (イフ・ゴッド・ウィル・センド・ヒズ・エンジェルス) 5. Staring At The Sun (ステアリング・アット・ザ・サン) 6. Last Night On Earth (ラスト・ナイト・オン・アース)	7. Gone (ゴーン) 8. Miami (マイアミ) 9. The Playboy Mansion (ザ・プレイボーイ・マンション) 10. If You Wear That Velvet Dress (イフ・ユー・ウェア・ザット・ヴェルヴェット・ドレス) 11. Please (プリーズ) 12. Wake Up Dead Man (ウェイク・アップ・デッド・マン)
U2	イグシッド		1994	ニューウェイブ	CD	1987年4月29日 rosemont シカゴでのライブ。	1. Where The Streets Have No Name6:26 2. I Will Follow4:22 3. Trip Through Your Wires3:49 4. I Still Haven't Found What I Am Looking For6:10 5. MLK2:27	6. The Unforgettable Fire4:37 7. Bullet In The Blue Sky5:22 8. Running To Stand Still4:25 9. Exit4:42 10. In God's Country3:11 11. Sunday Bloody Sunday5:51
UB40	サイニング・オフ		1980	ニューウェイブ	レコード	本作は1980年にグラデュエイトというレーベルから発表された、彼らのデビューアルバム。いきなり全英アルバム・チャート2位の大ヒットとなり、UKレゲエ・ブームの火付け役に躍り出た傑作。 1980年代後半から1990年代初頭にかけて、レゲエ・ポップス路線で国際的に人気を得てからの彼らの姿しか知らないという人が、おそらく現在では多くを占めることだろう。しかしバーミンガム出身の黒人／白人混成バンドである彼らは、当初は実にシリアスで重いメッセージを作品の中に込めてきたバンドである。 本作で聴かれる音の質感は全体的にまったりとして緩やかで、例えばスペシャルズやセレクトァなどのように、性急にガンガンと勢いで盛り上げる部分はほとんどない。かなり長尺の曲が多く含まれており、しかも収録曲のほとんどで、曲の後半にダブへ突入するスタイル(ショウケース・スタイル)を取り入れている。聴いているとゆっくりじんわりと体に染みこめる感じがして、慣れると非常にこれが心地良い。しかし、アメリカの有色人種に対する冤罪への抗議である"Tyler"や、南アフリカの人種隔離政策とUK国民である自覚を絡めて歌った"Burden Of Shame"など、曲の内容は非常に重くシリアスな内容のものが並ぶ。当時の暗く重い世相を反映したものと言えるが、現在でもこの生々しさは風化していない。ちなみに、本作の南アフリカ盤から"Burden Of Shame"がバンド側の許可なく外されたことから、彼らはグラデュエイトと決裂、新たに自身のプロダクションであるDEPインターナショナルを設立し、積極的な活動を展	Side A 1. タイラー 2. キング 3. 12バー 4. バーデン・オブ・シェイム 5. アデラ 6. アイ・シンク・イツ・ゴーイング・トゥ・レイン・アゲン 7. 25%	Side B 1. フード・フォー・ソート 2. リトル・バイ・リトル 3. サイニング・オフ 4. マダム・メデューサ 5. ストレンジ・フルーツ 6. リーファー・マッドネス
UB40	ザ・ベスト・オブ・UB40		1993/7/28	ニューウェイブ	CD	B40のメガ・ヒット・ナンバー「好きにならずにいられない」、「レッド・レッド・ワイン」を収録したベスト盤。世界一有名なレゲエ・バンドの全てがこの1枚に集約。	1. フード・フォー・ソート 2. キング 3. マイ・ウェイ・オブ・シンキング 4. ジ・アース・ダイズ・スクリーミング 5. ドリーム・ア・ライ 6. ドント・レット・イツ・バス・ユー・バイ 7. ドント・スロー・ダウン 8. ワン・イン・テン 9. レッド・レッド・ワイン	10. ブリーズ・ドント・メイク・ミー・クライ 11. メニー・リヴァーズ・トゥ・クロス 12. チェリー・オー・ベイビー 13. イフ・イット・ハプンズ・アゲイン 14. アイ・ゴット・ユー・ベイブ 15. ドント・ブレイク・マイ・ハート 16. シング・ア・ウ・アウン・ソング 17. ラット・イン・ミ・キッチン 18. メイビー・トゥモロウ
UFO	UFO登場		1970年	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	70年作、記念すべきUFOのデビュー・アルバム。フィル・モグ(Vo)、ビート・ウェイ(B)、ミック・ポルトン(G)、アンディ・バーカー(Dr)の4人のメンバー。当時彼等はマイナー・レーベルからのリリースとなり、本国イギリスではあまり注目されなかったが、本作からのシングル「カット、エディ・コクランの「カモン・エプリバディ」が日本、そしてドイツでヒットし、一躍ブリティッシュ・ハードのニューフェイスとして名を上げる。 本作及び次作を引っかけて彼等がドイツ公演でスコーピオンズと出会い、マイケル・シェンカーを邂逅するきっかけとなった事を考えると、この時期の彼等の音楽性も大きいと思われる。初代ギタリスト、ミック・ポルトンのブラック・サバス、レッド・ツェペリンからの影響を受けたプレイト、ブルースの拡大解釈とも言える実験性は、かなりユニークであった。当時のアンダーグラウンド・シーンに洗礼を受けたと思いきインプロヴィゼーションを多用した長尺ナンバーを展開。全編を通して伝統的なブリティッシュ・ロックの香りが漂う名作。フィル・モグの独特の歌い回しがすでに確立されているのも興味深いところ。何か新しい物を生み出そうというエネルギーが感じられる。	Side A 1. Unidentified Flying Object 2. Boogie For George 3. C' mon Everybody 4. Shake It About 5. (Come Away) Melinda	Side B 1. Timothy 2. Follow You Home 3. Treacle People 4. Who Do You Love 5. Evil
UFO	現象		1974年	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	74年リリース。UFOの通産3作目、クリサリス移籍第1弾となった大名盤です。 ご存知の様に、ドイツでツアーをしていたバンドは、スコーピオンズから引き抜いたマイケル・シェンカーを英国へ引き連れ、本作をレコーディングしています。結果、実質上UFOの輝かしい歴史の1作目として認知されている1枚です。 彼等のクラシック・ナンバーとなった2大名曲、「ドクター・ドクター」、「ロック・ボトム」は、マイケル抜きでは生まれなかったもので、この弱冠18歳の天才ギタリストに一気に注目が集まったわけです。ブルースに頼らない新たなブリティッシュ・ハードの誕生ともなりましたが、初期のサイケ色の残るユニークなメロディ作りもまだここでは同居しています。いろんな意味で全ロック・ファン必聴の1枚です。	Side A 1. オー・マイ 2. クリスタル・ライト 3. ドクター・ドクター 4. スペース・チャイルド 5. ロック・ボトム	Side B 1. トゥー・ヤング・トゥ・ノー 2. タイム・オン・マイ・ハンズ 3. ビルト・フォー・コンフォート 4. リップスティック・トレンジス 5. クイーン・オブ・ザ・ナイト
UFO	フォース・イット		1975年	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	75年リリース。前作「現象」でマイケル・シェンカーを加えブリティッシュ・ハードの新たな歴史を刻んだUFOが、1年も空けずに発表した大傑作です。ヒポノシスの代表作ともなったジャケット・カバーの秀逸さも良く語られますが、とにかく名曲が揃った1枚でも有名です。後に彼等の最も優れたアルバムとされるライヴ盤でも、本作から5曲がプレイされています。 マイケルのメロディ・メイカーとしてのセンスがここで完全に開花し、バンドとしても前作でまだ残っていたB級感覚が一気に洗練されたと思います。以降のUFOは70年代に続々と名作を発表していくわけですが、本作で完成させた独自のキャッチーなハード・ロックに自信があったからこそではないでしょうか。マイケルが作曲に関わった代表曲はもちろんUFOのクラシックとなっているのですが、フィル・モグとビート・ウェイの名コンビのベンによる「Out In The Street」の典型的なUFO節となるメロディアスなセンス、ビート・ウェイ単独作による「Too Much Of Nothing」の哀愁ハード・ロック路線もたまりません。圧巻はラスト曲なる「This Kids」から「Between The Walls」への流れで、アルバム中最もヘヴィと思われるチューンから一転、マイケルのギター・インストへと繋がっていくわけですが、この動から静へのあまりにも美しい構成は、その後のMSGと比較しても秀逸であると思われます。	Side A 1. レット・イット・ロール 2. シュート・シュート 3. ハイ・フライヤー 4. ラヴ・ロスト・ラヴ 5. アウト・イン・ザ・ストリート	Side B 1. マザー・マッシー 2. トゥー・マッシー・オブ・ナッシング 3. ビルト・ユア・ライヴ・アウェイ 4. ディス・キッズ
UFO	新たなる殺意		1977	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	77年作、UFOが初めてロン・ネヴィンソンと手を組んだアルバムで、恐らくマイケル・シェンカー在籍時の最高傑作であると思います。特にマイケルのメロディのひらめきが素晴らしく、バンドのキャリア史上最高と思われるバラード「トライ・ミー」での燃え上がる様な美しさは未だ感動を覚えます。ポップな歌メロと、鋭利な刃物の様なリフが絡むUFO節もいよいよ完成されたと思います。次作では更なるポップ展開を果しますが、本作での見事なソング・ライティングの方が勝る気がします。	01. 燃え上がるギター Too Hot To Handle 02. 自殺行為 Just Another Suicide 03. トライ・ミー Try Me 04. ライト・アウト Lights Out 05. ゲットイン・レディ Gettin' Ready 06. ひとりぼっちのロックン・ロール Alone Again Or 07. エレクトリック・フレイズ Electric Phase 08. ラヴ・トゥ・ラヴ Love To Love	
UFO	宇宙征服		1978	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	78年作、UFOの通産7枚目となったアルバムで、マイケル・シェンカーが本作を最後に最初の離脱をしてしまう事になる大名盤です。前作に引き続きロン・ネヴィンソンがプロデュース、メタリックな質感を殺さず、アメリカン・マーケット向きのポップなセンスを散りばめています。その結果彼等の定番曲となったオープニング・ナンバー、「Only You Can Rock Me」といった大名曲を生んでいます。マイケルのメロディの輝きは70年代におけるピークを迎えていたわけ、良く言われる様に不安定な状態にいらればいるだけセンスは常に研ぎ澄まされるというパラドックスをすでにここで見せているようにも思われます。対してバンドの人氣は絶頂期の最中、マイケルを失う事で本作以降のUFOは徐々に失速してしまうのですが、80年代ハード・ロック、とりわけメロディアスなN.W.O.B.H.M.サウンドへの大きなヒントともなったアルバムではないでしょうか。マイケルはこの後、一時的にスコーピオンズに参加、そしてえいよいよMSG結成へと大きく動いていく事になりますが、本作でのキラメキを更に開花させ神へと昇華するのも必然であったのであらうと思います。 その確固たる証拠にもなったのは、UFOにとっても名バラードの一つと言える「Born To Lose」の泣きまくる哀愁節でしょう。更に本作を飾るもう一つのバラード、「Looking Out For No.1」は、後にMSGで「Never Trust A Stranger」を残す隠れたメロディ・メイカー、ポール・レイモンド作となっています。	1.TOO HOT TO HANDLE 2.JUST ANOTHER SUICIDE 3.TRY ME 4.LIGHTS OUT 5.GETTIN, READY 6.ALONE AGAIN 7.ELECTRIC PHASE 8.LOVE TO LOVE	
UFO	ヘヴィ・メタル・エクス・ペリエンス」		1980	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	80年作、マイケル・シェンカーが離脱したUFOが発表したアルバムで、彼等の大きな転機ともなった傑作です。 迎えられたポール・チャップマンは、これで二度目にUFO搭乗となり、以前マイケルから追い出された感もあっただけに、本作では作曲面でも貢献しています。脱個性とでも言うべきポールのギターは、それまでのUFOのイメージを大きく変えてしまうものではありませんが、よりヴォーカルを聴かせるというバンド・スタイルに徹した事により音楽性の幅が広がっているのは確かです。邦題のセンスと同時期に盛り上がりつつあったNWOBHMのブームの煽りもあり、かなりメタリックなイメージもある1枚ですが、実は大陸的なおおらかさに溢れたメロディ先行型のサウンドであった事にまず驚かされます。 この辺はやはり大御所、ジョージ・マーティンがプロデュースを手掛けたという部分が大いなのでしょうが、バンドがあえて肩の力を抜いているのも功を奏した様にも思えます。アメリカン・マーケットでの大成功を目の前に離れていったマイケルを尻目に、UFOがB級臭さを完全に払拭し、洗練されたロック・バンドへ変貌しようとしていた姿も見受けられるのですが、80年代初頭の時代の空気、つまりは新しい波に乗り切れなかった良い意味でのメロディ指向によるこだわりが固らずもパッケージされていた気がします。 それが本作でUFOの長いキャリアの中でも特にユニークにしている、最大の理由だと思えます。全英11位でUFOではいちばん売れたアルバム。	1.アルファ・セントウリ 2.レットイン 3.ミステリー・トレイン 4.ディス・ファイアー・バーンズ・トゥナイト 5.ゴーン・イン・ザ・ナイト 6.ヤング・ブラッド 7.ノー・プレイズ・トゥ・ラン 8.テイク・イット・オア・リーヴ・イット 9.マネー・マネー 10.エニイディ	

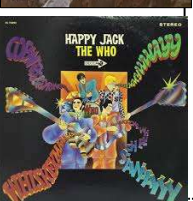
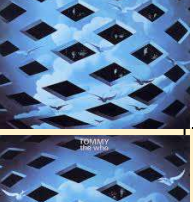
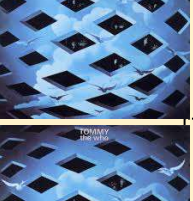
	UFO	UFOライブ		1979	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	79年リリース作、UFOの最高傑作として、そしてロックのライヴ・アルバムの名盤として今も語られる1枚です。 本作リリース直前にマイケル・シェンカーは1度目のUFO離脱をしていますが、それでもマイケルのキャリアの中でも外す事のできないアルバムです。70年代のプリティッシュ・ハード勢としてはシン・リジィと共に新たな時代を築き、80年代のNWOBHM勢にも大きな影響を残しています。その音楽性は、ブルースに頼らない陰と陽の使い方の巧さ、それは何よりもマイケルの作り出すメロディの貢献度が高かったわけですが、フィル・モグの独特の歌唱法、グイグイと引っ張るビート・ウェイのベースと、かなり強い個性を持っていました。ベスト的な選曲と、生々しいダイナミズムと、観客と一体となったドラマ性が本作を永遠の大名盤としています。これを聴かずしてUFOを語る事もできなければ、英国ハード史を知る事もできないのでは、と思えます。	01.ホット・ン・レディ 02.チェリー 03.レット・イット・ロール 04.ラヴ・トゥ・ラヴ 05.ナチュラル・シング 06.アウト・イン・ザ・ストリート 07.オンリー・ユー・キャン・ロック・ミー	08.マザー・メアリー 09.ディス・キッズ 10.ドクター・ドクター 11.アイム・ア・ルーザー 12.ライツ・アウト 13.ロック・ボトム 14.燃えたぎるギター 15.シュート・シュート
	UFO	UFOライブ		1979	ハードロック &ヘビー メタル	CD			
	U.K.	U.K.(震国の四士)		1978	プログレッシブ	レコード	最後のプログレ・バンドと呼ばれた伝説的バンド、U.K.の78年作のデビュー・アルバムです。 ジョン・ウェットン、エディ・ジョブソン、アラン・ホールズワース、ビル・ブラッフォードという本作限りのメンバーは、今では考えられないスーパー・グループとして、まさに80年代のエイジアのモデル・ケースとなりました。 変拍子の嵐、革新的なシンセ・ワーク、ジョン・ウェットンのブンブン喰るベース、そして洗練されたメロディがクールでありながらそれまでのプログレとは違う躍動感に満ちています。 キング・クリムゾンからASIAへと、プログレが先進性という命題を内包しつつ、皮肉な事に時代に合わせて形骸化していった流れの中で、気高く美しく今も輝いている大名盤です。	1.イン・ザ・デッド・オブ・ナイト 2.バイ・ザ・ライト・オブ・デイ 3.プレスト・ヴィヴァー・チェ・アンド・リプライズ 4.サーティー・イヤーズ 5.アラスカ 6.タイム・トゥ・キル 7.ホヴァー・モア 8.メンタル・メディテーション	
	U.K.SUBS	ブランド・ニュー・エイジ		1980	パンク	レコード			
	U.K.SUBS	ブランド・ニュー・エイジ		1981	パンク	レコード			
	ULTRAVOX!	ウルトラヴォックス !			ニューウェイブ	レコード			
	ULTRAVOX!	HA! HA! HA! ウルトラヴォックス !		1977	ニューウェイブ	レコード	77年リリース作、ウルトラヴォックスのセカンド・アルバムとなった1枚です。 SEX PISTOLSの「Never Mind the Bollocks 勝手にしやがれ!!」とほぼ同時期にリリースされながら、早くもポスト・パンクの旗手として見なされていたのは、その先鋭的なサウンドにあったのだと思います。 性急なビート、吐き捨て型の攻撃的ヴォーカルは、当時のパンク・シーンを象徴するものとなっていますが、ドラムマシン、シンセを融合した実験性はやはり革新的であったと思います。 同時代のロキシー・ミュージック、あるいはデフ・スクールに通じるアート・ロック的なメロディ、サウンドもユニークなのですが、本作の場合積極的にパンク・シーンに接近していながらもインテリジェンスもしっかりと残すという確信犯とも言えるあざとさが目立つ気がします。 結果的には彼等の後継となるXTCが更に明解なスタイルを確立していく中、ジョン・フォックスはここでの疾走感を簡単に捨て、クラウト・ロックへと接近していくわけです。 変態的なギター音が鳴り続く中、「HIROSHIMA MON AMOUR」等を聴かされると、確かにNEW WAVEとしか呼びようがなかったのだという事が良くわかります。		
	ULTRAVOX!	HA! HA! HA! ウルトラヴォックス !		1977	ニューウェイブ	レコード			
	ULTRAVOX!	システム・オブ・ロマンス			ニューウェイブ	レコード	78年作、ウルトラヴォックスのサード・アルバムとなった1枚で、カルト・ヒーローであった彼等がその後のシーンに大きな影響を与えた重要作です。 オリジナル・メンバーであるジョン・フォックス在籍時の最後のアルバムであり、バンド名にビックリ・マークが付いた最終作です。 フライアン・イーノ、スティーヴ・リリー・ホワイトとタッグを組んできた彼等は、パンクとエレクトロ、あるいはパワー・ポップとアヴァンギャルドを理想的に融合したサウンドを作ってきましたが、本作ではドイツの重鎮、コンニー・ブランクをプロデューサーに迎えています。 クラフトワークからスコーピオンズまで手掛けてきたこの偉大なプロデューサーにより、テクノ・パンクでも表現すべき方法論が極まれ、後にJAPANやYMO等で顕著になるスタイルを確立しています。 まさにニュー・ウェイヴとしか呼べなかった斬新なサウンドは、少し早すぎたのでしょうか、ウルトラヴォックスの名はニュー・ロマンティック・ブームの中でミッジ・ユーロ主導の元で有名になりますが、本作ではキワモノ、異端児としてのイメージが強かったのではないのでしょうか。 「Slow Motion」ではDEVOを軽く蹴散らすかの様なハネ具合を見せ、「Just For A Moment」ではボウイとイーノのベルリン三部作を遙か後ろに回すかの様な美しさを見せ、「Maximum Acceleration」ではやがて訪れる80年代エレ・ポップをすでに予見しているかの様な大衆性も展開しているという、実に凄いアルバムだと思っています。		
	ULTRAVOX!				ニューウェイブ	レコード			
	ULTRAVOX!	ヴィエナ		1980年7月11日	ニューウェイブ	レコード	ウルトラヴォックスの4枚目のアルバム。前作『システム・オブ・ロマンス』リリース後に脱退したジョン・フォックスの後を受けたミッジ・ユーロが加入し、最初に参加したアルバム。アルバムは全英3位を記録し各国でチャートインを果たすなど、バンドにとって初めてと言える商業的成功を手にした作品である。3枚目のシングル「ヴィエナ」は当時のニューロマンティックブームの後押しもあり、本国イギリスや欧州各国で大ヒットを記録。		
	ULTRAVOX!	エデンの嵐		1981年9月11日	ニューウェイブ	レコード	1981年リリースのウルトラヴォックスの5枚目のアルバム。前作「ヴィエナ」が大ヒットを記録した影響もあり、本作も英国でトップ10入りする大ヒットを記録し、ニュー・ウェイヴ・シーンをリードするバンドとなる。前作同様にプロデューサーがコンニー・ブランクが担当し、本作品に収録された楽曲はすべてメンバー4人の共作。メロディーも明るいポップなもののというよりは地味に味わい深いものになっている。しかし、ミッジ・ユーロのボーカルはオペラ的で、やっぱり1号に比べると明るい。この組み合わせが得も言われぬ深みをアルバムに与えているように思います。この頃、ヒューマンリーグが全米制覇し1位を獲得したが、ウルトラヴォックスは何故かアメリカ受けせず、ヨーロッパでは売れたが何故かアメリカでは売れなかった。	Side A 1. ザ・ヴォイス 6:00 2. ウィ・スタンド・アローン 5:40 3. エデンの嵐 / Rage in Eden 4:13 4. 追憶 / I Remember 4:59	Side B 1. 幻想の壁 / The Thin Wall 5:41 2. ストレンジャー・ウィズイン 7:26 3. アクセント・オン・ユース 5:57 4. 上昇 / The Ascent 1:07 5. 忘却の彼方 4:30 / Your Name (Has Slipped My Mind Again
	UNDERTONES	アンダートーンズ			パンク	レコード			
	UNDERTONES				パンク	レコード			

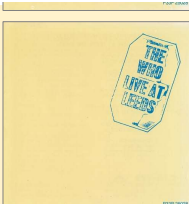
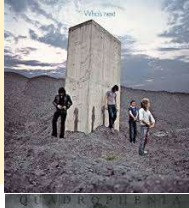
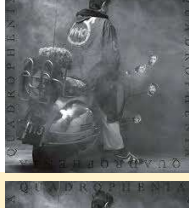
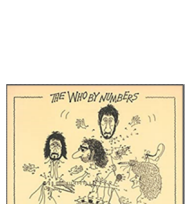
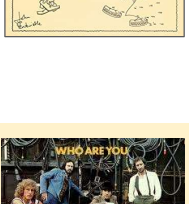
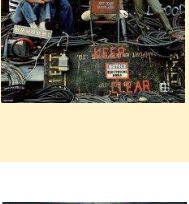
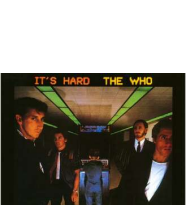
	UNDERTONES					パンク	レコード			
	UNDERTONES	オール・ラップト・アップ (シングル盤ベスト)		1980		パンク	レコード			
	URIAH HEEP	ユーライア・ヒープ・ファースト		1970		ハードロック &ヘビーマタル	CD	70年作、プリティッシュ・ハードの歴史を語る上で重要なバンドの一つとなっているユーライア・ヒープの記念すべきデビュー作。本国イギリスのオリジナル盤では、「VERY 'EAVY...VERY 'UMBLE」のタイトルでリリースされ、ジャケットもホラー調のおどろおどろしいものとなっています。蜘蛛の巣だらけのミラに見えますが、彼等の作品中では最も強烈なものかもしれません。アメリカ盤では、竜とムカデが混ざった様なモンスターのイラストがジャケットとなり、(本作ジャケット内部で見られます)、こちらかなりイッちゃってる気がします。タイトルはシンプルに「URIAH HEEP」のみとなっています。日本でも「ユーライア・ヒープ・ファースト」、「ヴェリー・イーヴェリー・ヴェリー・アンブル」と数種類のタイトルで発表されているため、ややこしい状態になっています。原題の意味はおそらく、「とってもヘヴィで、とってもハンブル(地味、控え目)」だと思われますが、くっつけてジミではありません。以降の彼等の代表曲ともなったオープニング・ナンバー、「ジブシー」では彼等最大の個性となったケン・ヘンズレーのハモンド・オルガンのアグレッシヴな響き、ミック・ボックスのワウを多用したギター、そしてデヴィッド・バイロンのヴィブラート歌唱を中心としたコーラス・ハーモニーの集大成とでもいうべき完成度を誇っています。すでにツェッペリン、バーブル、サバスにより盛り上がっていたプリティッシュ・ハードの新たな波の影響下にありながら、独自のサウンドを確立していると思われます。プログレともされたドラマティックな構成もユニークで、名バンドの予兆を感じさせる傑作です。	1. Gypsy 2. Walking in Your Shadow 3. Come Away Melinda 4. Lucy Blues 5. Dreammare 6. Real Turned on 7. Ill Keep on Trying 8. Wake Up (Set Your Sights 以下、CDボーナストラック 9. Gypsy 10. Come Away Melinda 11. Born in a Trunk	
	URIAH HEEP	ソールズベリー		1971		ハードロック &ヘビーマタル	CD	71年作、ユーライア・ヒープのセカンド・アルバム。前作リリースから僅か7ヵ月後に発表された本作は、ドラマーの交代、そしてキーボードのケン・ヘンズレーが作曲に関わる様になり、いよいよ彼等の独自性の開花が見られます。デヴィッド・バイロンの七色ヴォーカル、ミック・ボックスのワウワウ・ギター、ケン・ヘンズレーのハモンド・オルガン、そしてクイーンより先行していた幻想的かつミステリアスなコーラス・ハーモニーが一体となり、プリティッシュ・ハードの新たな夜明けとなったのです。叙情的なセンスもここから始まったと言える、彼等が未だにプログレ・バンドとして語られるのも良く理解できます。特にラストのアルバム・タイトル曲は、16分を超える大作となっており、プラス・オーケストラによる壮大なドラマ性は、まるでピンク・フロイドの「原子心母」のメタル・ヴァージョンとも言える大作で、この1曲を聴くためだけでも必聴と思えるアルバムです。	1. Bird Of Prey(肉食鳥) 2. The Park(公園) 3. Time To Live(生きる) 4. Lady In Black(黒衣の娘) 5. High Priestess(尼僧) 6. Salisbury(ソールズベリー) 以下、ボーナス・トラック 7. Simon The Bullet Freak(サイモン・ザ・ブレット・フリーク) 8. High Priestess(尼僧) シングル・ヴァージョン)	
	URIAH HEEP	対自核		1971		ハードロック &ヘビーマタル	レコード	1971年に発表した3作目。イギリスでは1971年11月13日付の全英アルバムチャートで39位となり、バンド初の全英チャート入りを果たした。日本初回盤LP (YS-2649)は1972年3月10日に発売され、オリコンLPチャートでは19週トップ100入りして、最高5位を記録する大ヒットとなった。本作のリリース当時、『レコード・ミラー』誌では「各メンバーの演奏は美しいが、誰一人としてやり過ぎておらず、その結果、ハーモニー・ロック界で最上のアルバムの一つとなった」と評された。また、Donald A. Guariscoはオールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「ユーライア・ヒープのアルバムの中でも、特に良質かつ一貫性のある作品の一つであり、1970年代のヘヴィメタルの中でも最高の瞬間である」と評している。Eduardo Rivadaviaは、Ultimate Classic Rockの企画「ユーライア・ヒープの楽曲トップ10」において、「七月の朝」を9位、「瞳に光る涙」を7位、「対自核」を1位に挙げている		
	URIAH HEEP	悪魔と魔法使い		1972		ハードロック &ヘビーマタル	レコード	1972年に発表した4作目。全英アルバムチャートでは11週トップ100入りし、最高20位を記録した。アメリカのBillboard 200では自身最高の23位に達して、バンド初の全米トップ40アルバムとなり、1972年10月にはRIAAによってゴールドディスクの認定を受けた。また、本作からのシングル「安息の日々」はBillboard Hot 100で39位を記録し、バンド唯一の全米トップ40シングルとなった。日本初回盤LP (YS-2737)は1972年8月10日に発売され、23週オリコンLPチャート入りして最高28位を記録した。Donald A. Guariscoはオールミュージックにおいて5点満点中4.5点を付け「ユーライア・ヒープが、ゴシック調ヘヴィメタルの巨匠としての名声を確立したアルバム」「1970年のヘヴィメタルに興味のある方なら、絶対にかけてみる価値がある」と評している		
	URIAH HEEP	魔の饗宴		1972		ハードロック &ヘビーマタル	レコード	1972年に発表した5作目。全英アルバムチャートでは3週トップ100入りし、最高28位を記録した。アメリカでは、本作がBillboard 200で31位に達して自身2作目の全米トップ40アルバムとなり、1973年1月にはRIAAによってゴールドディスクの認定を受けた。また、本作からのシングル「盲目/スウィート・ロレイン」はBillboard Hot 100で91位を記録した。日本初回盤LP (YZ-1)は、1972年12月10日に発売され、21週オリコンLPチャート入りして最高43位を記録した。Donald A. Guariscoはオールミュージックにおいて5点満点中3点を付け「『悪魔と魔法使い』ほど首尾一貫しておらず、まとまりに欠けているが、やはり聴き所は多い」と評している[10]。Eduardo Rivadaviaは、Ultimate Classic Rockの企画「ユーライア・ヒープの楽曲トップ10」において、「スウィート・ロレイン」を8位、「サンライズ」を5位に挙げている		
	UTOPIA	太陽神		1977年		ロック	レコード	77年発表の3作目のして最高傑作。カシム・サルトンが加入して4人組以降のラインナップが揃った。大作指向のユートピアとしては紛れもない最高傑作で、これ以降には大作指向が完全に薄れるので、グループとしても“やり尽くした”のだろう。曲はポップさを増し、コーラスも充実し(4. はほとんど賛美歌の世界)、もはや非の打ちどころがないと思う。既に前作までの雰囲気 が薄れ後のコンパクト路線が見えかくれている。曲の方もトッドの比率がかなり下がり、本当の意味でのグループとしての作品になっていると思う。プログレ云々よりもフュージョンと言った方が 良い演奏に分厚いコーラスが絡む様はトッドの関わった作品の中でも最も意欲的なものだと思う。ヒロシマ〜ナ〜ガ〜サキーの6. はヘヴィーな名曲だけインパクト強すぎで ずかね。	Side A 1. OVERTURE.MOUNTAINTOP AND SUNRISE / COMMUNION WITH THE SUN 2. MAGIC DRAGON THEATRE 3. JEALOUSY 4. ETERNAL LOVE 5. SUNBURST FINISH	Side B 1. HIROSHIMA 2. SINGRING AND THE GLASS GUITAR
	UTOPIA	ディフェイス・ザ・ミュージック 『ミート・ザ・ユートピア』		1980		ロック	レコード	80年作、下町・ラジカル性溢るエドピアの通算6作目となったアルバムで、ボウ・マニアにとっては隠れ名盤、珍盤として知られる1枚です。元々トッドのプログレ志向欲を満たすための別プロジェクトだったユートピア、やはり先天的なパワー・ポップーとしての血は抑えきれなかったのか、徐々に優良ポップ・バンド化していきましたが、このアルバムはそのトッドのポップ欲の究極と言っていいかもかもしれません。全編ビートルズ・オマージュ、当時はパロディとして伝えられていたのはその邦題のセンスによるものが大きかったと思いますが、もろに元ネタが誰にでもわかってしまうだけに遊びとして捉えられたのも仕方なかったのかもしれませんが。何しろ旧邦題は「ミート・ザ・ユートピア」、各曲のタイトルも全て日本独自のものが与えられていました。タイトルだけ読めばネタバレするという丁寧な工夫とも取れますが、アレンジやメロディの一部はまさにビートルズ、歌詞は原曲とは一切関係のないものとなっています。ただそこはやっぱりポップ・マエストロのトッドの仕事だけに、ビートルズ愛はもちろんオリジナルのパワー・ポップ・ソングとして成立してしまっ完成度が 異常です。	Side A 1. 抱きしめたいぜ 2. キャント・バイ・ミー・クリスタル・ボール 3. 泣きたいダンス 4. アクト・シニイリ 5. ホワイル・マイ・ロリネス・ジェントリー・ウィーブ 6. エイト・デイズ・ア・ウィーク・イズ・ノット・ライト	Side B 1. ドライヴ・マイ・カー・トゥ・ホーム 2. ユア・マザー・シュッド・ノウ・ザ・ホイ・ポリイ 3. エリナー・リグビーはどこへ 4. フィクシング・ア・ホール・イズ・ゲティン・グ・ベター 5. マックスウェルズ・シルバー・ハンマー・イズ・オールウェイズ・レイト 6. ミッシェルの微笑み 7. エヴリバディ・フィールズ・フォーエヴァー
V	UTOPIA	スウィング・トゥ・ザ・ライト		1982年		ロック	レコード	前作がビートルズのパロディーだったせいか、本作のジャケットは66年にジョンレノンの「ビートルズはキリストよりも人気がある」という失言をきっかけに全米でビートルズ排斥運動が起こり、ビートルズのアルバムを燃やした事件の報道写真が使われている。内容は「TRKW」ほどポップすぎず、「オプriebion」ほどリアスではなく、中庸な印象が残るアルバムだが、非常に丁寧に作られたアルバム。全体を通して非常にポップな作りになっていて、幸福な気分が させられる。特に2曲目や3曲目、B面は「マネー」や「オンリー・ヒューマン」が特に良い。	Side A 1. スウィング・トゥ・ザ・ライト 2. ラインストラタ 3. ジ・アップ 4. ジャンク・ロック 5. シャイニー	Side B 1. フォー・ザ・ラヴ・オブ・マネー 2. ラスト・ダラー・オン・アース 3. 華氏451 4. オンリー・ヒューマン 5. ワン・ワールド
	VANDENBERG	ネザーランドの神話		1982		ハードロック &ヘビーマタル	レコード	82年作。デヴィッド・カヴァーデイルの右腕として知られる事となるエイドリアン・ヴァンデンバーグが率いたヴァンデンバーグのデビュー作。当時オランダからのバンドという事で話題になりましたが、NWOBHMシーンの煽りもあり欧州メタルの新星として日本でもかなり注目されました。情感溢れるエイドリアンの確かなプレイと、王道ハード・ロック・スタイルを守りながら、メロディの輝きがあった。特にパワー・バラードという言葉がまだ定着していなかった時代にシングル・カットされた名曲、「バーニング・ハート」の美しさは彼等のイメージを決定付けたと思います。プリティッシュの哀愁感と、新世代のドラマチックな構成は、マイケル・シェンカーをも凌駕するビューティフル・ロックの予感を持たせた。奇しくもUFOとタイトルが似ている「Out In TheStreets」というナンバーもありますが、スピード感もありながら陰と陽、明と暗のコントラストを巧みに使い分けるソング・ライティングのセンスは、プリティッシュ・ハードからの影響、そして欧州特有の驕りをわかりやすく提示してくれています。		
	VAN HALEN	炎の導火線		1978年2月10日		ハードロック &ヴィーメタル	レコード	新たなハード・ロックの幕開け！新時代のギターヒーローの誕生を告げたデビュー・アルバム！エドワード・ヴァン・ヘイレンの独特なライト・ハンド奏法によるギター・ソロ、激しいリフなど、今も色あせることのない衝撃の作品。レコーディングはスタジオライブに近く、ほぼ全曲一発録りだった。プロデューサーはテッド・テンブルマン。「悪魔のハイウェイ」は、後に『リトル★ニッキー』(2000年公開)の映画サウンドトラックに使用された。「ユー・リアリー・ガット・ミー」は、キンクスが1964年に大ヒットさせた楽曲のカヴァー。「アイス・クリューマン」は、ブルース・ミュージシャンのジョン・ブリムのカヴァー。アルバムは全米19位に達し、1stシングル「ユー・リアリー・ガット・ミー」は全米36位、2ndシングル「悪魔のハイウェイ」は84位に達した。アルバムはロング・セラーとなり、1996年の時点でアメリカでの売上が1000万枚を超え、RIAAによりダイヤモンド・ディスクに認定された。	悪魔のハイウェイ - "Runnin' with the Devil" - 3:35 暗黒の爆撃 - "Eruption" (Eddie Van Halen) - 1:42 ユー・リアリー・ガット・ミー - "You Really Got Me" (Ray Davies) - 2:38 叶わぬ賭け - "Ain't Talkin' 'bout Love" - 3:49	アィム・ザ・ワン - "I'm the One" - 3:46 ジェイミーの涙 - "Jamie's Cryin'" - 3:29 アトミック・パンク - "Atomic Punk" - 3:03 おまえは最高 - "Feel Your Love Tonight" - 3:42 リトル・ドリーマー - "Little Dreamer" - 3:23 アイス・クリューマン - "Ice Cream Man" (John Brim) - 3:19 炎の叫び - "On Fire" - 2:57
	VAN HALEN	炎の導火線		1978年2月10日		ハードロック &ヘヴィメタル	CD			
	VAN HALEN	伝説の爆撃機		1979年3月23日		ハードロック &ヘヴィメタル	レコード	1979年に発表したセカンド・アルバム。ヴァン・ヘイレンのアルバムとしては初めて、全米トップ10入りを果たした(最高6位)。「踊り明かそう」(全米15位)、「ビューティフル・ガールズ」(全米84位)といったシングル・ヒットも生んだ。「悪いあなだ」は、1983年にディー・ディー・ワーウィックやベティ・エヴェレットといったR&B歌手がヒットさせた楽曲のカヴァーで、リンダ・ロンシュタットが1974年に発表したヴァージョンが全米1位を獲得したことで知られる。「スパニッシュ・フライ」は、ガット・ギターを使用したインストゥルメンタル。	悪いあなだ - "You're No Good" (Clint Ballard Jr.) - 3:16 踊り明かそう - "Dance The Night Away" - 3:06 サムボディ・ゲット・ミー・ア・ドクター - "Somebody Get Me a Doctor" - 2:52 ボトムズ・アップ! - "Bottoms Up!" - 3:05 オウタ・ラヴ・アゲイン - "Outta Love Again" - 2:51	輝ける空 - "Light Up the Sky" - 3:13 スパニッシュ・フライ - "Spanish Fly" - 1:00 生か死か - "D.O.A." - 4:09 ウィメン・イン・ラヴ... - "Women in Love..." - 4:08 ビューティフル・ガールズ - "Beautiful Girls" - 3:56

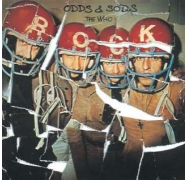
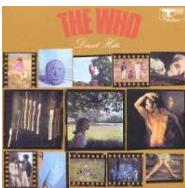
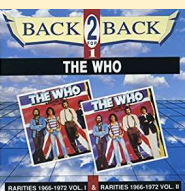
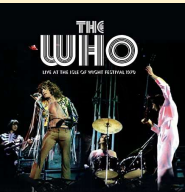
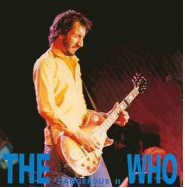
	VAN HALEN	暗黒の掟		1980年3月26日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1980年に発表したサード・アルバム。カヴァー曲は収録されず、ヴァン・ヘイレンのアルバムとしては初めて、全曲オリジナルで固められた。ダークな楽曲の比重が高く、allmusic.comでは「純然たるバーティー・アルバムだった前2作から、成熟、または幾分シリアスな方向へ必然的に変化した」と評されている。「トラ!トラ!」は、「理由なき暴走」につながる短いインストゥルメンタル。「戦慄の悪夢」は、スライドギターを多用したブルース調の楽曲。アルバムは全米6位に達し、シングル「ロックン・ロール・ベイビー」は全米55位。全英ではアルバムが15位。	ロックン・ロール・ベイビー - "And the Cradle Will Rock..." - 3:31 エヴリバディ - "Everybody Wants Some!!" - 5:05 フールズ - "Fools" - 5:55 ロメオ・デライト - "Romeo Delight" - 4:19 トラ!トラ! - "Tora! Tora!" - 0:57	理由なき暴走 - "Loss of Control" - 2:36 ウィスキー・ロック - "Take Your Whiskey Home" - 3:09 戦慄の悪夢 - "Could This Be Magic?" - 3:08 シンプル・ライム - "In A Simple Rhyme" - 4:33
	VAN HALEN	戒厳令		1981年4月29日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1981年リリースの4枚目のアルバム。いきなりハードなドライブで始まる「ミーン・ストリート」で幕をあげ、自在にそして、骨太にロックする、まさにアメリカのハード・ロック・バンドとしての展望を開いた作品。エディのギターもさらに切れ味を増して全開に駆け巡る。3作目と同様、全曲メンバーによるオリジナルで、楽曲そのものはやや地味な印象を受けるものの、その分、エディのテクニカルなギター・プレイが全編にわたって炸裂。メンバーの表現力にもそれぞれ幅が出て来ており、プレイヤーとしての成長が実感できる内容となっている。音楽的には前作の技巧派ヘヴィ・ロック路線を更に推し進めたエディが大衆ウケよりも冒険性を追求した非常にギター度の高い作品である。	Side A 1. ミーン・ストリート 2. ダーティ・ムーヴィーズ 3. シナース・スウィング 4. ヒア・アバウト・ایت・レイトー	Side B 1. アンチェインド 2. ブッシュ・カムズ・トゥ・シャヴ 3. これが愛だって 4. サンディ・アフタヌーン 5. 一歩踏み出せ
	VAN HALEN	1984		1984年1月9日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1984年に発表したアルバム。通算6作目。アルバム・ジャケットでは、ローマ数字でMCMXXXIVと記載されている。本作を最後に、初代ヴォーカリストのデイヴィッド・リー・ロスが一度脱退した。エドワード・ヴァン・ヘイレンがキーボードを多用し、「ジャンプ」ではギター・ソロとキーボード・ソロの両方をエディが演奏した。「1984」は、キーボード演奏によるインストゥルメンタルで、「ウェイト」もキーボード中心のバックিংとなっている。発売から2か月で100万枚を突破し、ビルボードでは、マイケル・ジャクソンの『スリラー』に次ぐ、自身最高位の2位を記録。最終的には1,000万枚以上を売り上げ、ダイヤモンド・ディスクに認定された。第1弾シングル「ジャンプ」は、自身初の全米1位獲得曲となった。他に「ウェイト」(全米13位)、「パナマ」(全米13位)、「ホット・フォー・ティーチャー」(全米56位)もシングル・ヒット	1984 - "1984" - 1:07 ジャンプ - "Jump" - 4:04 パナマ - "Panama" - 3:32 トップ・ジミー - "Top Jimmy" - 3:00 ドロップ・デッド・レッグス - "Drop Dead Legs" - 4:14 ホット・フォー・ティーチャー - "Hot for Teacher" - 4:44	ウェイト - "Til I Wait" (Edward Van Halen, Alex Van Halen, Michael Anthony, David Lee Roth, Michael McDonald) - 4:45 ガール・ゴーン・バッド - "Girl Gone Bad" - 4:35 ハウス・オブ・ペイン - "House of Pain" - 3:19
	VAN HALEN	5150		1986年3月24日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1986年に発表したアルバム。通算7作目で、本作よりサミー・ヘイガーが加入。ヴァン・ヘイレン初の全米1位を3週連続で獲得した。先行シングル「ホワイ・キャント・ディス・ビー・ラヴ」は全米3位に達し、更に「ドリームス」(全米22位)、「ラヴ・ウォークス・イン」(全米22位)、「ベスト・オブ・ボース・ワールド」(ビルボード・メインストリーム・ロック・チャート12位)、「サマー・ナイツ」(メインストリーム・ロック・チャート33位)もシングル・ヒットした。「グッド・イナフ」は、1987年公開の映画『スペースボール』で使用された。本作に伴うツアーでは、サミーも一部楽曲(エディがキーボードを弾く曲や、自分のソロ・アルバムからの曲等)でギターを担当。その模様は、DVD『ライヴ・ウィズアウト・ア・ネット』で確認できる。	グッド・イナフ - "Good Enough" - 4:04 ホワイ・キャント・ディス・ビー・ラヴ - "Why Can't This Be Love" - 3:47 ゲット・アップ - "Get Up" - 4:37 ドリームス - "Dreams" - 4:54	サマー・ナイツ - "Summer Nights" - 5:06 ベスト・オブ・ボース・ワールド - "Best of Both Worlds" - 4:48 ラヴ・ウォークス・イン - "Love Walks In" - 5:11 "5150" - "5150" - 5:44 インサイド - "Inside" - 5:02
	VAN HALEN	バランス		1995年1月24日	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	ヴァン・ヘイレンの通産10作目のアルバムで、サミー・ヘイガー在籍時の作品としては最後の1枚となった。86年作の「5150」以来、彼等のアルバムは全て全米No.1という事実は、改めて安定した人気ぶりに驚かされます。本作ももちろんチャートのトップとなり、ビッグ・バンドとしての貴様を見せつけてくれました。初顔合わせとなったブルース・フェアバーンとの相性も良く、彼等のポップ・サイドが更に洗練されています。シングル・ヒットした「キャント・ストップ・ラヴィン・ユー」は、ヴァン・ヘイレンのハード・ポップ路線としては最終型の完成度を誇り、実際80年代から続いたポップ指向はここで完結しています。ジャケットに映るのは幼い時代のウルフギャングで、日本ではジャケットが差換えられているのも有名だと思ひます。ドラマティックな名バラード、「ノット・イナフ」ではエディの盟友、スティーヴ・ルカサーがバック・コーラスのみでゲスト参加しているというのも珍しいと思われます。肉食系の圧倒的なパワー、カラフルなギターと重厚なリズム隊、せつないメロディもこなすスーパー・バンドの全ての魅力をフェアバーン・ブランドによって凝縮した、と言える大作です。	1. セヴンス・シール 2. キアント・ストップ・ラヴィン・ユー 3. ドント・テル・ミー 4. アムステルダム 5. ビッグ・ファット・マネー 6. ストラング・アウト	7. ノット・イナフ 8. アフターショック 9. ドゥーイン・タイム 10. バルチリウム 11. テイク・ミー・バック (DEJA-VU) 12. フィーリン
	VAN HALEN	アトミック・パンク		1994	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	ヴァン・ヘイレンの有名なブート盤の一つで、 彼等のデビュー前のライブを収録した貴重な音源 です。ジャケット表記には、(live in St. Petersburg, FL-May 29, 1990)とありますが、これは間違いで、ブート物にありがちないい加減さが、内容の方は重要な記録。もちろん デヴィッド時代の77年10月15日、ロサンゼルス のPasadena Civic Auditoriumで行われた ライブ の模様というのが正しい。サウンドボード録音によるもので、当時のものとしてはかなり音質は優れていたと思われます。彼等が「炎の導火線」で衝撃的なデビューをするのが、78年2月で、それ以前に大きめのホールでお披露目ライブをやっていたという事で、オーディエンスも呆気にとられているのか、まるでスタジオリヴの様に淡々と進んでいくのが興味深いところです。セットリストは1stから9曲、そしてセカンドの「伝説の爆撃機」に収録される「Somebody Get Me a Doctor」、「生か死かD.O.A.」がすでにプレイされています。エディのプレイも若さと荒々しさ、デヴィのパフォーマーとしての資質が生々しく伝わる1枚としては、ファンなら是非とも聴いておきたい1枚と思われます。	1. On Fire 2. Feel Your Love Tonight 3. Runnin' With The Devil 4. Atomic Punk 5. Little Dreamer 6. Somebody Get Me A Doctor 7. Ice Cream Man 8. 叶わぬ賭け Ain't Talkin' 'Bout Love 9. Eruption 10. D.O.A. 11. You Really Got Me	
	VANILLA FUDGE	キープ・ミー・ハンギング・オン (ペーパースリップ仕様)		1967	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	1967年作、アメリカン・ハードの始祖と目せられる伝説的に語られる「ヴァニラ・フエッジ」の衝撃的デビュー・アルバムです。カーマイン・アピス、ティム・ボガード、マーク・スタイン、ヴィンス・マーテルからなる4人組、ほぼ同時期にデビュー作をリリースしたヴェルヴェット・アンダーグラウンドと同じニューヨーク出身という事もあり、サイケ、ガレージ、アート・ロックの一派とされましたが、今改めて聴いても本作の音は革新的であったと思われます。ビートルズの「涙の乗車券」、「エリナ・リグビー」、カーティス・メイフィールドの「People Get Ready」、ソニー&シェールの「Bang Bang」、ゾンビーズの「She's Not There」等のカヴァー曲で占められていますが、オルガンのシンフォニックな響きとヘヴィ極まりないリズム隊が絡む一大ハード・ロック大会となっています。サイケティックなムードを確実に醸しながら、当初はハーフ・スピード・ヘヴィ・ロックと形容された通り、極端に原曲をスローにアレンジし重量級戦車が突き進む様な地響きと共にメロディを聴かせてくれます。その典型となったのがシュープリームスの名曲のカヴァー、「You Keep Me Hanging On」であったのは有名であると思われます。アルバム・ヴァージョンは元々7分近い大作として収録されており、イントロの妖しげなムードから重く静かに盛り上がりっていくこの曲は、原曲の良さを生かしながらも完全なるオリジナル・ヘヴィ・ナンバーとして成立してしまっています。彼等のこの手法はイギリス勢にも大きな影響を与え、YESやDEEP PURPLE、URIAH HEPPへと受け継がれたと言われています。またジェフ・ベックはリズム隊である、アピスとボガードを引き抜いたというのも有名な話でしょう。ブルースからハード・ロックへの架け橋となったツェッペリンが巨大な存在であったのに対し、このヴァニラ・フエッジのデビュー作はその後のメタル史にまた違った道を示したのは明白であると思われます。	1. 乗車券 2. 人々は準備をする 3. 彼女はそのこにいない 4. バンバン 5. STRA (Illusions Of My Childhood-Part One)/You Keep Me Hanging On/WBER(Illusions Of My Childhood... 6. Take Me For A Little While/RYFI (Illusions Of My Childhood-Part 3) シングル 7. エレノア・リグビー/エルドス	
	VAN MORRISON	アストラル・ウィークス		1968	ロック	レコード	1968年にリリースされたヴァン・モリソンのスタジオ・アルバム。商業的には大きなセールスを記録しなかったが、専門家の間では非常に高く評価されており、リリースから33年後の2001年にようやくゴールド・ディスクに認定された。ヴァンの長いキャリアの中でも、次作「Moondance」と並ぶ最重要アルバム。ヴァン・モリソンは欧米では"Van the Man"と呼ばれるくらいの知名度と人気を誇りますが、日本での知名度は低い。元々ZEMと言うブリティッシュブリティッシュビートのヴォーカリストとして活躍し、ソロ活動となるが、当時から日本での知名度も低かったが、ヴォーカリストとしては超一流。このアルバムでサポートするミュージシャンはほとんどがNYのジャズミュージシャンで、モリソンの歌に合わせて半ば即興的に演奏をし2日間で完成したと言われ、チャールズミンガスやオーネットコールマンとの共演経験者、MJQのメンバーといったすごい面々なので、ストリングスのオーバーダビングを除いてはほぼ一発OKの曲が多かったとのこと。ゼム解散後、一人孤独と闘いながら歩み始めた独自の道を、アコースティック風の調べに乗せて紡がれる8編の短編小説、本当に素晴らしい。アコースティックとは言ったものの、当時流行のフォーク・ロックとは違う、ジャズ系のセッションミュージシャンが練りなす即興性の高い演奏をバックに、ヴァンのソウルフルな歌声が縦横無尽に絡む様は、ロックのノリと一線を画す、不思議な高揚感が全体を包みこむ感じが、まさに圧巻。モリソン自身の歌も、後の彼の作品にはないほどの魂の叫び的な響きがあり、自身で回想している通り、「生きている死ぬかの瀬戸際で必死だった。」という状況がこういう結果になった。音楽性はR&B、ジャズ、フォーク、ケルト音楽の要素を取り入れた独特のスタイルで、中でも楽曲『Beside You』と『Sweet Things』の出来は秀逸。	Part 1 - "In The Beginning" 1. アストラル・ウィークス - Astral Weeks - 7:06 2. ビサイド・ユー - Beside You - 5:16 3. スウィート・シング - Sweet Thing - 4:25 4. サイプラス・アヴェニュー - Cyprus Avenue - 7:00 Part 2 - "Afterwards" 1. 若き恋人たち - The Way Young Lovers Do - 3:18 2. マダム・ジョージ - Madame George - 9:45 3. バレリーナ - Ballerina - 7:03 4. スリム・スロー・スライダー - Slim Slow Slider - 3:17	
	VAN MORRISON	ムーンダンス		1970	ロック	CD	ヴァン・モリソンのソロ3作目。初のセルフ・プロデュース作品。ジャズ、ソウル、ブルース、フォークなど多種多様なジャンルを内包した音楽センスに脱帽する傑作。永遠の代表曲「キャラヴァン」「ムーンダンス」を収録。本アルバムでのフィーチャー・ナンバーを観ると全て彼のオリジナルだが、フォークノカントリー・ポップの「And It Stoned Me」、「Everyone」、ジャズ・テイストのタイトル・ナンバー「Moondance」、そしてバラードの「Crazy Love」、「Brand New Day」がある。この「Crazy Love」は、ロッド・スチュワートが2006年のアルバム『Still the Same: Great Rock Classics of Our Time』でカバーしている。ほぼオリジナルを踏襲したロッド・バージョンだが、それぞれに味があって甲乙付難い。このほかR&B・ロック・スタイルの「Caravan」、ソウル・ポップの「Come Running」、ジャズ・ポップ・テイストの「These Dreams of You」、ラテン・スタイルの「Glad Tidings」など、“Van Morrison”の幅広いジャンルのパフォーマンスはこの頃から既に全開といった印象がある。	1. ストーン・ミー 2. ムーンダンス 3. クレイジー・ラヴ 4. キャラヴァン 5. イントゥ・ザ・ミスティック 6. ム・ランニング 7. ジーズ・ドリームス・オブ・ユー 8. ブラウン・ニュー・デイ 9. エヴリワン 10. 嬉しい便り	
	VAPORS	ニュー・クリアー・デイズ		1980	ニューウェイブ	レコード			
	VELVET UNDERGROUND&NICO	ヴェルヴェット・アンダーグラウンド&ニコ		1967年3月	アンダーグラウンド	レコード	1967年発売。ジャケットはウォーホルのデザイン。バナナ絵のジャケットからバナナ・アルバムとも呼ばれ、衝撃のデビュー・アルバム。プロデューサーのアンディ・ウォーホルの依頼によりいくつかの曲でニコが歌っている。発売当時は3万枚しか売れずヒットしなかったが、後世への影響力が強いアルバム。ストレートなロックン・ロールとノイズの饗宴。ルー・リードとジョン・ケイルという二人の天才のせめぎ合いが奇跡の名盤を生んだ！アルバムの発売日が延期されると、ヴァーヴでマザーズ・オブ・インヴェンションのデビュー・アルバム『フリーク・アウト』を制作した音楽プロデューサーのトム・ウィルソンは、グループにシングルとしてヒットする可能性のある楽曲が必要だと考えた。ウィルソンの依頼によりリードとケイルは「日曜の朝」を書き上げ、11月、ニューヨークのメイフェア・レコーディング・スタジオで録音が行われた。12月、シングル「日曜の朝」が発売。B面にはニコがリード・ボーカルを務める「宿命の女」が収録された。	Side A 1. 日曜の朝 Sunday Morning 2:53 2. 僕は待ち人 I'm Waiting For The Man 4:37 3. 宿命の女 Femme Fatale 2:35 4. 毛皮のヴィーナス Venus In Furs 5:07 5. ラン・ラン・ラン Run Run Run 4:18 6. オール・トゥモロウズ・パーティーズ All Tomorrow's Parties 5:55 Side B 1. ヘロイン Heroin 7:05 2. ...	
	VELVET UNDERGROUND&NICO	ヴェルヴェット・アンダーグラウンド&ニコ		1967年3月	アンダーグラウンド	CD			

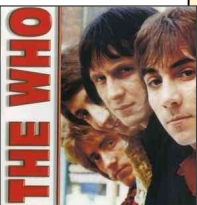
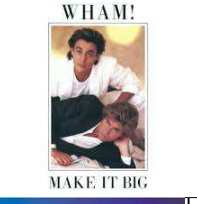
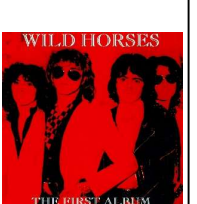
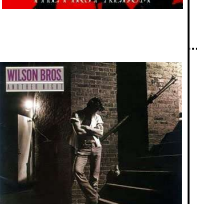
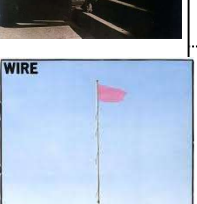
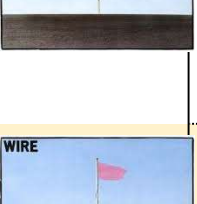
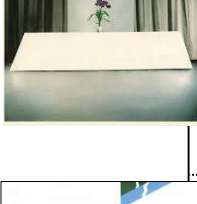
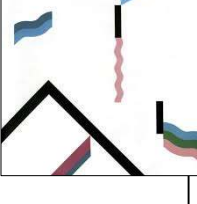
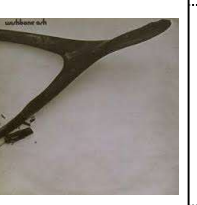
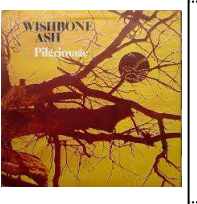
	VELVET UNDERGROUND	ヴェルヴェット・アンダーグラウンドⅢ		1969年3月	アンダーグラウンド	CD	ヴェルヴェット・アンダーグラウンドの3枚目のアルバム。1曲目の「CANDY SAYS」の余りに物悲しいしっとりとした始まり。哀しいほどに美しい、名曲です。また、2「What Goes On」と6「Beginning To See The Light」は、強力なロックンロール。ジョン・ケイルが抜けたあとのルー・リードらしさが出ているのは、バラード曲よりこちらかも知れません。中盤の4「PALE BLUE EYES」5「JESUS」で更に物憂げに心をもっていかれ、「THE MURDER MYSTERY」に良い意味で突然に面を食らう。この曲は凄い。私にはうまく言えない、イカれた何か、ひたすら続く歪んだ自己の吐露のような・・・。 直前の8「THAT'S THE STORY OF MY LIFE」とは明らかに異質なだけに、この2曲の落差には驚かされます。ラストは落ち着いた遊び心を感じる「AFTER HOURS」。アルバムを構成する10曲全体の流れも違和感などなく、完成度がとても高いと思います。圧倒的評価を受けるのは言うまでもなく1st及び2ndですが、この3rdも前2作に負けない鬱々とした気だるさと、鈍く光る輝きを持っているのではないのでしょうか。	1. キャンディ・セッツ 2. ホット・ゴーズ・オン 3. サム・カインダ・ラヴ 4. ベイル・ブルー・アイズ 5. ジーザス 6. ビギニング・トゥ・シー・ザ・ライト 7. アიმ・セツ・フリー 8. ザツ・ザ・ストーリー・オブ・マイ・ライフ 9. 殺人ミステリー 10. アフター・アワーズ	
	VENTURES	ノック・ミー・アウト		1965年2月	ロック	CD	1965年2月リリース。エレキ・ブームの真只中にリリースされたベンチャーズ最高傑作アルバム！10番街の殺人、夢のマリナー号 アイ・フィール・ファイン他、名曲満載	1. アイ・フィール・ファイン 2. ラヴ・ボーションNo.9 3. トゥモロウズ・ラヴ 4. オー・プリティ・ウーマン 5. 夢のマリナー号 6. ウォーク・イン・ザ・ルーム 7. 10番街の殺人 8. シーズ・ノット・ゼア 9. ロンリー・ガール 10. ゴーン・ゴーン・ゴーン 11. バード・ロッカーズ 12. バード・ロッカーズ	
	VIBRATORS	ビュア・マニア			パンク	レコード			
	VIBRATORS	バイブレイターズ V2			パンク	レコード			
	VIRGIN PRUNES	イフ・アイ・ダイ、アイ・ダイ		1982	パンク	レコード			
	VISAGE	ヴィサージ		1980	ニューウェイブ	レコード	80年作、テクノ・ポップ、そしてニュー・ロマンティックの先駆けともなったヴィサージのデビュー・アルバムです。当時はニュー・オーダーもまだジョイ・ディヴィジョンの悲劇から脱せられず、ヒューマン・リーグもポップ展開をする前の事で、このヴィサージの登場は確かに新しい波として何かを感じさせるものがあっただと思います。ポスト・パンク世代のクラブ・オーナー、スティーヴ・ストレンジを中心とした、いわばプロジェクト・バンドで、サウンド面で貢献しているのは当時リッチ・キッズを脱退し、シン・リジィをサポートしていたミッジ・ユーロ。本作をきっかけにミッジをバンドに誘うウルトラヴォックスのビリー・カリー、元マガジンのデヴィ・フォーミュラー、やはり元マガジンで、スージー&ザ・バンシーズやPILのギタリストとして有名なジョン・マクガフ等。実に魅力的なメンバーに囲まれたストレンジは女装の走りとも言える華麗なヴィジュアルで、妖しげなエレ・ポップ・サウンドを展開し、ボウイ、ロキシー・ミュージックが築いてきたダンディズムを欧州的な驕りのあるメロディとクラフトワーク、YMO以降のテクノ・サウンドをポップに昇華させています。今聴くと80's的なチープさがとてつもなくいいかがわしく響くのと同時に、英国ニュー・ウェイヴの産声がこれ程グラマスなものであつた事に改めて気づかされます。		
	VISAGE	ダンス(舞)		1982	ニューウェイブ	レコード	ニューロマンティック・ムーヴメントの元祖！！ヴィサージ『舞-ダンス-』(原題:The Anvil)！！チャートでは1stアルバムくらいしか売れなかったけど、MaxellのCMで覚えてる方もいるかもしれない"Night Train"収録。というかもはや1stと双璧をなす完璧な出来である。	A1The Damned Don't Cry4:43 A2Anvil (Night Club School)4:39 A3Move Up4:25 A4Night Train4:29 B1The Horseman4:41 B2Look What They've Done4:49 B3Again We Love4:44 B4Wild Life4:26 B5Whispers5:38	
	WAS(NOT WAS)	ん？・・・WAS		1981	ニューウェイブ	レコード			
	W.A.S.P	魔人伝		1984年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	W.A.S.P.の衝撃のメジャーデビューアルバム。LAメタル大名盤。LA仕込のメロディアスなHM／HRナンバーが目白押しの迫力ある作品。バンドは一躍、LAメタル、グラム・メタルの先導者として祭り上げられた。ブラッキーの理想的なメタル・ヴォイスは、アンセム型の「覚えやすい歌メロ」をしっかりと聴かせてくれ、パワー・バラードにおいても表現力に優れているところを見せてくれている。当時はかなりのクレイジーぶりブラッキーの優れた時代感覚が、極限にまで詰め込んだメタルのギャグ的側面、エンターテインメント性が見事に本作を名盤としているが話題となっていたギタリストのクリス・ホルムズも、ツボを抑えたプレイによりW.A.S.P.を正統派アメリカン・ハードのDNAと、80年代メタルとしてのトレンドを与えている。曲も完成度は非常に高く、捨て曲なしである。音楽的にもっと再評価がされていい筈。	Side A 1. 悪魔の化身 2. ラヴ・マシーン 3. 狂気の炎 4. B.A.D. 5. スクール・デイズ	Side B 1. ヘリオン 2. スリーピング 3. オン・ユア・ニーズ 4. トーメンター 5. 死の拷問
	W.A.S.P	ラスト・コマンド		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	85年作。W.A.S.P.のセカンド・アルバム。センセーショナルなデビューを飾った彼等は、LAメタルの象徴的な存在としてキャラが一人歩きしたいの感がありますが、本作により王道メタル・サウンドを売りにする硬派なイメージを押し出しています。過激なヴィジュアルではなく、音に圧倒的な説得力を持たせたこの路線変更は、見事80年代メタル・ファンの心を掴み、彼等の代表作となりました。元々クレバーなブラッキー・ローレスはニューヨーク・ドールズにも一時期参加していた程のベテランだけに、一過性のグラム・メタルのブームをすでに見切っていたのかもしれない。ハード・ロックのツボを良く知ってるソング・ライティングが、クワイエット・ライオットをトップに伸ばしたプロデューサー、スベンサー・プロファーの分厚いサウンド・プロダクションにより聴き応えのある1枚にしています。そのクワイエット・ライオットのメンバー、カルロス・サヴァーゾとチャック・ライトがコーラスでゲスト参加。またオープニング・ナンバーの「Wild Child」は、ブラッキーがニッキー・シックスと組んでいたSISTER時代の曲らしく、モトリー・クルー用に提供をしようとしたところ、ニッキーからヴィンス・ニールには合わないとして断られたというわくつきのナンバーです。		
W	WESTWIND	ラヴ・イズ・・・ウエストウインド		1970	フォークロック	CD	70年リリース。60年代末のロンドンで結成されたフォーク・トリオ「ウエストウインド」がラリー・ベジのレーベルに残した唯一のアルバム。クリスタルな女性ヴォーカルを軸にメンバー3人のアコースティック・ギターとヴォーカル・ハーモニーが織りなす世界は、シンプルなバックと共に、シーカーズとも比較される60年代前半のグリニッチ・ヴィレッジ・フォークに同時代のポップ・センスを巧みに融合、さらに英国風のノスタルジックな味わいもブレンドした名作。ジャケットの印象通りのサウンドで、英国叙情に包まれたポップなメロディーと男女Voによる物憂いハーモニー、オーボエなどの管楽器と弦楽器による可憐なアレンジが素晴らしい英国フォークの傑作。当時、日本盤でシングルも出たタイトル曲など、佳曲揃い。ジャケからして気品に溢れていますが、音もそのまんま！男女ヴォーカルのハーモニー、オーボエなどの管楽器と弦楽器が織りなす可憐なアレンジ。唯一作なのが惜しまれる。	1. Goodbye Butterfly 2. Sleepy City 3. Love Is A Funny Sort Of Thing 4. Sun Across The Snow 5. How Many Stars 6. Robin Hill	7. Goodtimes 8. Fisherman's Song 9. Sweeney Todd 10. Rosemary 11. Harbour Lights 12. Home Is Where My Heart Is
	WHITE LION	プライド		1987年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	80年代ヘビメタを代表するバンド、ホワイトライオン 白ライオン のセカンドにして名盤がこれ。シングルのWait, When The Children CryをビルボードTOP3に送り込み、200万枚以上も売りあげた大ヒットアルバム。⑥『WAIT』⑧『TELL ME』⑩『WHEN THE CHILDREN CRY』といったヒット曲を生み出した。特にWhen The Children Cryの間奏は、他に類を見ない美しさだ。ハードポップなギターワークが素晴らしい作品です。今作の魅力は(というよりこのバンドの魅力は)ギターのウィット・ブラタのギターワークで、早弾きだけにとよらない印象に残るソロを展開しています。曲もあからさまに悪い曲はなく、特に前半の哀愁を含んだ楽曲群は楽しめます。特に、LADY OF THE VALLEYのギターソロは鳥肌もの。全米で200万枚以上のセールスを記録するが、この後、残念ながら今作以外ではあまり成功を収めることはできませんでした。	Side A 1. Hungry 2. Lonely Nights 3. Don't Give Up 4. Sweet Little Loving 5. Lady Of The Valley	Side B 1. Wait 2. All You Need Is Rock N Roll 3. Tell Me 4. All Join Our Hands 5. When The Children Cry
	WHITESNAKE	トラブル		1978	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	78年作、それまでデヴィッド・カヴァーデイルのソロ・プロジェクトの模様を呈していたホワイドス・ニイクがパープルでの盟友、ジョン・ロードを迎え、いよいよ本格的なバンドとしてスタートした第一弾となったアルバムです。ビートルズのカヴァー「ディ・トリッパ」が象徴している様に、ブリティッシュ・ハードの伝統であるタメの効いたノリと、ソウルフルなヴォーカルが絡むハード・ロックの原型がここできています。後期パープルで顕著だったソウルフルなハード・ロック色が、よりスマートでポップになっているのが印象的です。実に味わい深いバンド・サウンドに乗っかるセクシーなヴォーカル、これこそが当時のホワイドスニイクの魅力であったわけですが、この時期の彼等を未だ愛する人が多いのは納得できる1枚です。前述のかなりタイトにアレンジされた「DAY TRIPPER」、あの沢田研二もかつてカヴァーとして取り上げた事があるらしい「LIE DOWN」、スピーディーに疾走する「NIGHTHAWK」、メロディアスな哀愁節が秀逸な「THE TIME IS RIGHT FOR LOVE」等、実に良曲が多い傑作です。	Side A 1. テイク・ミー・ウィズ・ユー 2. ラヴ・トゥ・キープ・ユー・ウォーム 3. ライ・ダウン 4. デイトリッパー 5. ナイトホーク	Side B 1. ザ・タイム・イズ・ライト・フォー・ラヴ 2. トラブル 3. ベルジャン・トムズ・ハット・トリック 4. フリー・フライト 5. ドント・メス・ウィズ・ミー
	WHITESNAKE	ラヴ・ハンター		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	79年作、ホワイドスニイクのセカンド・フル・アルバム。いよいよバンド・サウンドが固まり、優れた楽曲が揃う事で、元パープルのヴォーカリストからホワイドスニイクが新たなブリティッシュ・ハードの担い手となった瞬間が本作であったと思います。ライブでの重要なレパートリーとなった「Walking In The Shadow Of The Blues」、陽性のパーティー・ロック・タイプの魅力も加わった「Rock'n' Roll Women」、80年代の彼等の新たなスタイルの原型とも言える「Medicine Man」、そして小曲ながら、キャリア最高と言える珠玉の名バラード、「We Wish You Well」等々、実に名曲が多いアルバムです。	Side A 1. ロング・ウェイ・フロム・ホーム 2. ザ・シャドー・オブ・ザ・ブルース 3. ヘルプ・ミー・スルー・ザ・デイ 4. メディシン・マン 5. ユー・アンド・ミー	Side B 1. ミーン・ビジネス 2. ラヴ・ハンター 3. アウトロー 4. ロックン・ロール・ウィーメン 5. ウィー・ウィッシュ・ユー・ウェル

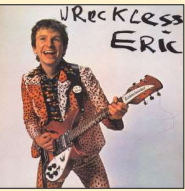
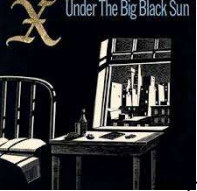
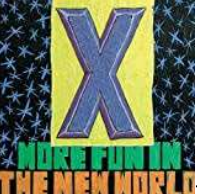
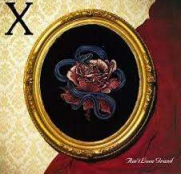
	WHITESNAKE	フルール・フォー・ユア・ラヴィング		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1980年に発表した4枚目でホワイтスネイクの最高傑作。元ディー・パープルのイアン・ペイス(ds)を新メンバーに迎え、さらに完成度を増したサード・アルバム。シングル「フルール・フォー・ユア・ラヴィング」は全英最高位13位を記録。アルバムも全英チャート初のトップ10入りの最高位6位のヒットを記録(アメリカでは、初のチャートインを果たし、最高90位に達した)し、80年代のブリティッシュ・ハード・ロックの輝かしい幕開けを告げる作品となった。また、「ブラインドマン」は、デイヴィッド・カヴァーデールのソロ・アルバム『ホワイтスネイク』(1977年)収録曲のセルフ・カバー。	Side A 1. フール・フォー・ユア・ラヴィング 4:16 2. スウィート・トーカン 3:37 3. レディ・アン・ウィリング 3:42 4. キャリー・ユア・ロード 4:05 5. ブラインドマン 5:08	Side B 1. エイント・ゴナ・クライ・ノー・モア 5:50 2. ラヴ・マン 5:02 3. ブラック・アンド・ブルー 4:04 4. シーズ・ア・ウーマン 4:10
	WHITESNAKE	フルール・フォー・ユア・ラヴィング		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	WHITESNAKE	ライヴ・アット・ハマースミス		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1978年に録音・1980年に発表したライブ・アルバム。日本のポリドール・レコードが独自に制作したライブ・アルバム。デイヴ・ドウル在籍時に行われた、ハマースミス・オデオン公演が収録されている。「ティク・ユア・ライフ」と「ミストゥリー・テッド」は、デイヴィッド・カヴァーデールが在籍していたディー・パープルの楽曲のセルフ・カバーで、いずれもオリジナル・ヴァージョンはアルバム『紫の炎』(1974年)に収録されている。特に「ミストゥリー・テッド」は聴きものとなっています。パンク、ニューウェイヴ全盛期のイギリスで、これ程熱いハード・ロックを演っていた事が本当に奇跡的とも思えますが、現在のホワイтスネイクにも脈々と流れるソウルフルな歌唱は本当に見事です。今では「ライヴ…イン・ザ・ハート・オブ・ザ・シティ」とカップリングされている	Side A 1. カム・オン - 4:01 2. テイク・ユア・ライフ - 5:40 3. ライ・ダウン - 4:17 4. ハート・オブ・ザ・シティ - 6:29	Side B 1. トラブル - 4:55 2. ミストゥリー・テッド - 10:45
	WHITESNAKE	カム・アンド・ゲット・イット		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	81年作、ホワイтスネイクの4枚目のアルバム。エロジャケットとして有名にもなったアルバムで、白蛇が大きく開けた口が目目される事となりました。前年の「Ready an' Willing」からシングル・ヒットした「フルール・フォー・ユア・ラヴィング」は、ポップでソウルフルというホワイтスネイクのイメージを決定付け、N.W.O.B.H.M.ブームに上手に乗っかる事に成功した彼等、ここでは時代に流されない頑固さを感じさせてくれます。DEEP PURPLEのメンバーが3人揃っているという意味でも彼等もOLD WAVEという解釈もありましたが、同時代のHR/HMシーンの中でセクシーかつキャッチーなハード・ロックという独自のスタンスを確立したのは大きかった。英国ではもちろん、ここ日本でもRAINBOWやMSGと並んで大きな支持を得ていた中、彼等の勢いがそのままパッケージされたのが本作でした。ファンキーなハード・ロック路線はそのまま貫かれています。が、「Don't Break My Heart Again」に代表される、デイヴィッド・カヴァーデールのクールな面がより強調された渋さが新たな魅力に繋がったと思われます。前作と比べるとやや派手さに欠ける部分もあるのですが、逆に味わい深いナンバーが増え、より軽めのR&R色が強くなる次作の事も踏まえて考えると、本作でのセクシー路線は彼等のキャリアの中でも重要視されるべきだと思います。また注目すべきは、ツェッペリンの方法論がすでにここで導入されていると思われる点で、特に「Hit An' Run」では後の「Still Of The Night」を予感させたり、「Till The Day I Die」でのアコースティック指向等、70年代ハード・ロックが色濃く残っているという点でも、本作が一応の初期ホワイтスネイクの終着点であったとも考えられます。	1. カム・アンド・ゲット・イット -- 3:58 2. ホット・スタッフ -- 3:21 3. ドント・ブレイク・マイ・ハート・アゲイン - 4:02 4. ロンリー・デイズ、ロンリー・ナイツ - 4:15 5. ワイン、ワイン・アンド・ソング - 3:45	6. チャイルド・オブ・バビロン - 4:47 7. ウッド・アイ・ライト・トゥ・ユー - 4:28 8. ガール - 3:55 9. ヒット・アンド・ラン - 3:23 10. ティル・ザ・デイ・アイ・ダイ - 4:28
	WHITESNAKE	スライド・イット・オン (イギリス・ヴァージョン)		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	84年作、ホワイтスネイクのゲフィン移籍第一弾アルバムであり、当時のHR/HMシーンの最重要人物と言える大物A&R、ジョン・カドナーが関わった仕事としても記憶に残る1枚となりました。USA盤はオリジナルとはミックス、曲順が変更され、キース・オルセンの手腕によりラジオ・フレンドリーなサウンドへと生まれ変わっています。USミックスではギターはミッキー・ムーディーからジョン・サイクスへ、ベースはコリン・ホッジキンソンからニール・マーレイへと差換えられていますが、ここでは派手さに欠けるものの、70年代から続くホワイтスネイクの色気のあるバンド・サウンドが展開されています。カリスマ性のあるヴォーカリストを中心に据え、コージー・パウエルを含む優れたミュージシャン集団による、メロディのはっきりした整理されたハード・ロック、という構想はすでにかなり洗練された形で実現されていたと思います。特にメル・ギャレーのソングライターとしてのセンスが光ってる大傑作です。残念ながら本作制作時の黄金ラインナップは本作限りで崩壊し、ご存知の様にすでにコージー、そしてメルも他界してしまいました。それ	Side A 1. Gambler (英語版) 3:57 2. Slide It In 3:20 3. Standing in the Shadow 3:32 4. Give Me More Tim 3:41 5. Love Ain't No Stranger 4:13	Side B 1. Slow an' Easy 6:09 2. Spit It Ou 4:11 3. All or Nothing 3:34 4. Hungry for Love 3:57 5. Guilty of Love 3:18 6. Need Your Love So Bad (日本盤ボーナストラック) (英語版) 3:14
	WHITESNAKE	スライド・イット・オン (アメリカンミックス・ヴァージョン)		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード		Side A 1. Slide It In 3:20 2. Slow an' Easy 6:08 3. Love Ain't No Stranger 4:18 4. All or Nothing 3:40 5. Gambler 3:58	Side B 1. Guilty of Love 3:24 2. Hungry for Love 3:28 3. Give Me More Time 3:42 4. Spit It Out 4:26 5. Standing in the Shadow 3:42
	WHITESNAKE	白蛇の紋章〜サーペンス・アルバス		1987	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1987年に発表。スタジオ・アルバムとしては7作目。全米では、マイケル・ジャクソンの『バッド』に次ぐ、最高2位。全英8位。コージー・パウエル脱退し後任に、エインズレー・ダンバーが加入。後に正式メンバーとなるエイドリアン・ヴァンデンバーク(元ヴァンデンバーク)が参加。スーパーギタリスト、ジョン・サイクスの作曲能力までもがスーパーであったことを証明したアルバム。さらに、エイドリアンヴァンデンバークが④ヒアアイゴアアゲインで素晴らしいギターソロを披露している。ジョン・サイクスはホワスネ脱退後、ブルーマードを結成し、ヴォーカリストとしても開花。	Side A 1. クライミング・イン・ザ・レイン 5:37 2. バッド・ボーイズ 4:06 3. スティル・オブ・ザ・ナイト 6:36 4. ヒア・アイ・ゴア・アゲイン 4:34	Side B ギヴ・ミー・オール・ユア・ラヴ 3:31 イズ・ディス・ラヴ 4:43 チルドレン・オブ・ザ・ナイト 4:24 ストレイト・フォー・ザ・ハート 3:39 ドント・ターン・アウェイ 5:10
	Witchfynde	エム地獄を与える		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	英国のヘビーマetalバンド、N.W.O.B.H.M(英国ヘビーマetalのニューウェーブ)のパイオニアの一人。1974年にBsのリチャード・プロワーとVoのニール・ハーヴェイによってイギリスのダービーシャーで結成。リチャード・プロワーはアティオフェルというバンドでギタリストのトレバー・テイラー(別名モンタロ)を発見した。1975年にリチャード・プロワーがバンドを脱退すると、リードギタリストのモンタロ、ベーシストのアンドロ・コールトン、ドラマーのグラ・スコアスピーと共にウィッチフィンデを改革し、その後スティーブ・ブリッジス(ボーカル)が加入。1979年に初のシングル「Give 'Em Hell」をリリースし、1980年にロンデレ・レコードでデビューアルバム「Give 'Em Hell」をリリースした。1980年の夏にデフ・レバードとイングランドをツアー。彼らの音は、プログレッシブとハードロックなどの影響のミックスと重金屬音の様々な側面だけでなく、悪魔の画像の顕著な使用を組み込んだ。ウィッチフィンデは1984年に「ロード・オブ・シン」LPの後に活動がなくなり、1999年に改革され、モンタロとグラ・スコアスピーが唯一のオリジナルメンバーとなる。		
	WHO	マイジェネレーション		1965	ブリティッシュビート	レコード	1965年12月にリリースされたイギリスのロック・バンド、ザ・フーのファースト・アルバム。発売元はブランズウィック・レコード。プロデューサーは、キンクスなどをてがけたシェル・タルミー。全12曲中9曲がオリジナル曲であり、残る3曲はメジャー・デビュー前より彼らが演奏していたR&Bや初期モータウンのナンバーのカバーである。本作は全英チャートの5位につけるヒットとなった。プロデューサーのシェル・タルミーと印税の取り分をめぐる対立し、タルミーとの契約を破棄するが、タルミーは「自分のプロデュース作品は自分に著作権がある」と主張し、本作の版權とマスターテープを握っていた。1967年になるとブランズウィックが閉鎖し、本作は廃盤となってしまう[7]。以降、長きに渡り本作がザ・フーのカatalogから姿を消す事になった。	Side A アウト・イン・ザ・ストリート - Out in the Street アイ・ドント・マインド - I Don't Mind (James Brown) グッズ・ゴーン - The Good's Gone ラ・ラ・ライズ - La-La-Lies マッチ・トゥー・マッチ - Much Too Much マイ・ジェネレーション - My Generation Side B ザ・キッズ・アー・オールライト - The Kids are All Right	
	WHO	マイジェネレーション		1965		レコード			
	WHO	デラックス・エディション (2002年版) マイジェネレーション		1965		CD	ザ・フーの1965年に発表された幻のファースト・アルバムが遂に日本初登場!しかもボーナス・トラック18曲を追加したデラックス・エディション。	ディスク: 1 1 アウト・イン・ザ・ストリート 2 アイ・ドント・マインド 3 ザ・グッズ・ゴーン 4 ラ・ラ・ライズ 5 マッチ・トゥー・マッチ 6 マイ・ジェネレーション 7 キッズ・アー・オールライト 8 フリーズ・フリーズ・フリーズ 9 イッツ・ノット・トゥルー 10 アイム・ア・マン 11 ア・リーガル・マター 12 ジ・オックス 13 サークルス 14 アイ・キャント・エクスプレイン 15 ボールド・ヘッデッド・ウーマン 16 ダディ・ローリング・ストーン	ディスク: 2 1 リー・ヴィング・ヒア 2 ルビー 3 シャウト・アンド・シミー 4 ヒート・ウェイヴ 5 モータリング 6 エニタイム・ユー・ウォント・ミー 7 エニハヴ・エニホエア・エニウェイ 8 インスタント・パーティー・ミクスチャー 9 アイ・ドント・マインド 10 ザ・グッズ・ゴーン 11 マイ・ジェネレーション 12 エニタイム・ユー・ウォント・ミー 13 ア・リーガル・マター 14 マイ・ジェネレーション
	WHO	マイジェネレーション		1965	ブリティッシュビート	レコード	アメリカではザ・フーとタルミーが決別した1966年4月になってからリリースされている(発売元は米デッカ・レコード)。『The Who Sings My Generation』のタイトルでジャケットをビッグ・ベンを背景にした4人のメンバーを写した写真に差し替え、収録曲についても若干変更しリリースされた。また、英国盤ではモノラル・ミックスのみでのリリースだったが、米国盤ではモノラルと擬似ステレオの2バージョンでリリースした。	Side A 1. アウト・イン・ザ・ストリート 2. アイ・ドント・マインド - 3. グッズ・ゴーン 4. ラ・ラ・ライズ 5. マッチ・トゥー・マッチ 6. マイ・ジェネレーション	Side B 1. キッズ・アー・オールライト 2. フリーズ・フリーズ・フリーズ 3. ゴッズ・ゴーン 4. リーガル・マター 5. インスタント・パーティー
	WHO	マイジェネレーション		1965		CD			

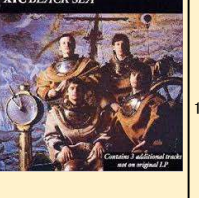
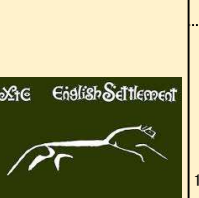
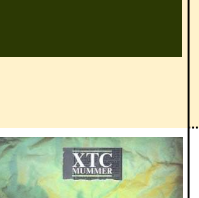
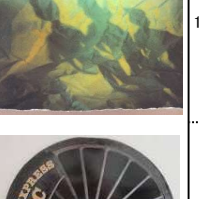
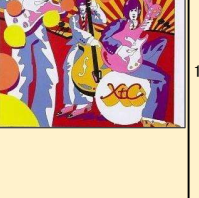
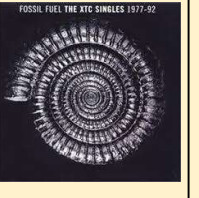
WHO	ハッピージャック		1966	ブリティッシュビート	レコード	ザ・フーの2作目のアルバム。1966年12月9日リリース。。アメリカでは収録曲を差し替え、『ハッピー・ジャック』のタイトルで、1967年5月にリリースした。発売元はデッカ・レコード。全英4位、全米67位を記録。プロデュースは、マネージャーであったキット・ランバート。レコーディングは1966年8月から11月にかけて、ライブ活動と並行しながら散発的に行われた。当初のアルバムタイトルは『ジグソー・パズル』だった。1stアルバムではカバー曲が3曲あったが、本作ではマーサ&ザ・ヴァンデラスの「恋はヒートウェーブ」1曲のみ。また、本作で初めてジョン・エントウィッスルやキース・ムーンがリード・ボーカルをとる曲が収録された。本作の大きな特徴として、メンバー全員が最低1曲以上自作曲を提供している点が挙げられる。これはザ・フーの全てのオリジナル・アルバムで本作が唯一であるが、これは当時、マネージャーのクリス・スタンブがザ・フーの楽曲を管理していたエセックス・ミュージックから「メンバー全員が2曲ずつ曲を書いたら各自に現金500ポンドを前払いする」という約束を取り付けていたためである。またタウンゼントの曲が全10曲中4曲と半分に満たないが、これもザ・フーの全オリジナル・アルバム中本作のみである。本作ではエントウィッスルが得意とするホルンやチェンバロなど、前作では使用されなかった楽器が次々に導入され、楽曲やサウンド面に幅を持たせている。本作では外部ミュージシャンの起用はなく、「くもの巣と謎」で使用されたトロンボーンやチューバといった管楽器も全てメンバーによる演奏であるアルバムジャケットのデザインはアラン・アルドリッジ。	Side A ラン・ラン・ラン ボリスのくも野郎 - Boris the Spider アイ・ニード・ユー ウィスキー・マン 恋はヒートウェーブ - Heatwave くもの巣と謎 - Cobwebs and Strange	Side B 1.ふりむかないで 2.恋のマイウェイ 3.ソー・サッド・アバウト・アス 4.クイック・ワン
WHO	ハッピージャック		1066		レコード			
WHO	(1995年リマスター版) ハッピージャック		1066		CD	各国盤 アメリカでは「恋はヒート・ウェイヴ」が削除され、代わりにシングルリリースされていた「ハッピー・ジャック」を収録し、タイトルも『ハッピー・ジャック』と改題してリリースした。ジャケットデザインはイギリス盤のものと変わらず、タイトル文字だけを変えたものとなっているが、裏ジャケットのデザインは大きく異なり、各メンバーの紹介文が記載されていた。イギリス盤はモラルのみでのリリースだったが、アメリカではモノラルとステレオの2バージョンでリリースしている。だが実際の音源では、トゥルーステレオと擬似ステレオのものが混在していた	以下、1995年リマスター版でのボーナストラック 11. バットマン - Batman (Neal Hefti) 12. バケット・T - Bucket "T" (Dean Torrence, Roger Christian, Donald J. Altfield) 13. バーバラ・アン - Barbara Ann (Fred Fassett) 14. ディスガイズ - Disguises 15. ドクター・ドクター - Doctor Doctor (Entwistle) 16. アイヴ・ビーン・アウェイ - I've Been Awhile (Entwistle)	17. イン・ザ・シティ - In the City (Entwistle, Moon) 18. ハッピー・ジャック (アコースティック・ヴァージョン) - Happy Jack 19. マン・ウィズ・マネー - Man with Money (Don Everly, Phil Everly) 20. マイ・ジェネレーション/希望と栄光の国 - My Generation/Land of Hope and Glory (Townshend, Edward Elgar)
WHO	(ペーパーズリープ仕様) ハッピージャック		1066		CD			
WHO	セルアウト		1067	ブリティッシュビート	レコード	1967年に発表。ザ・フーの第3作目のアルバム。発売元はトラック・レコード(イギリス)およびデッカ・レコード(アメリカ)。プロデューサーはキット・ランバート。本作は、ザ・フー初のコンセプト・アルバムである。曲間に架空のラジオ局のジングル曲やコマーシャル・ソングを挟むことにより、アルバム自体がさながらラジオ番組のようになっている。本作がリリースされた1967年はサイケデリック・ムーブメントの最盛期であり、その影響を受け、サイケデリック色の強いポップでカラフルなサウンドとなっている[1]。ザ・フーのスタジオアルバムで、全曲がオリジナル曲で占められたのは本作が初めてであり、さらにモノラル版が製作されるのは本作で最後となる。また、イギリス、アメリカ両国でタイトル、収録曲、ジャケットデザインが統一されるのも本作が初めてである。但し、アメリカ盤では「メダック」という曲が契約上の問題で「Spotted Henry」に変更されている(楽曲自体は同じ)。再発時にはイギリス盤と同じ「メダック」に戻された。アルバム全体にストーリー性があるわけではないが、ここでの試みはグループにとっての代表作の1つであるロック・オペラ・アルバム『トミー』(1969年)にも活かされている。本作収録の「ラエル」は前作『ア・クイック・ワン』収録の「クイック・ワン」に続くミニ・オペラ作品で、この曲の一節が『トミー』収録の「スパークス」にも登場する。また「アルメニアの空」は、ザ・フーのオリジナル曲で唯一外部ミュージシャンによって作曲されたものである。作者のジョン・“スピーディ”・キーンはビート・タウンゼントの友人で、元々はキットというバンドのドラマーで、後にタウンゼントプロデュースのもと、ジミー・マッカロクらとサンダークラブ・ニューマンを結成し、1969年に「サムシング・イン・ジ・エアー」で全英チャートの1位を獲得している。	Side A アルメニアの空 - Armenia City in The Sky (John Keen) ハインツ・ベイクト・ビーンズ - Heinz Baked Beans (John Entwistle) マリナー・アンス - Mary Anne With The Shaky Hand オドロノ - Odorono いれずみ - Tattoo 過ぎし二人の恋 - Our Love Was [15] 恋のマジック・アイ - I Can See For Miles	Side B アイ・キャン't・リーチ・ユー - I Can't Reach You メダック - Medac (Entwistle) リラックス - Relax けちのサイラス - Silas Stingy (Entwistle) 夜明け - Sunrise ラエル(その1、その2) - Rael 1 & 2
WHO	セルアウト		1967		レコード			
WHO	(1995年リマスター版)セルアウト		1967		CD		1995年リマスター版 ボーナストラック 14. ラエル(その2) - Rael 2 15. グリタリング・ガール - Glittering Girl 16. メランコリア - Melancholia 17. サムワンス・カミング - Someone's Coming (Entwistle) 18. ジャガー - Jaguar	19. アーリー・モーニング・コールド・タクシー - Early Morning Cold Taxi (D.Langston, R.Daltrey) 20. 山の魔王の宮殿にて - Hall Of The Mountain King (Greig/arr.The Who) 21. ガルズ・アイズ - Girl's Eyes (Keith Moon) 22. マリー・アンス (オルタナティヴ・ヴァージョン) - Mary Anne With The Shaky Hand [Alternative Version] 燃13. える女 - Glow Girl
WHO	(ペーパーズリープ仕様) セルアウト		1967		CD			
WHO	ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	レコード	69年作。ザ・フーの通算4作目2枚組の大作です。良く言われている様に、それまでポップ・チャートを賑わすヒット曲を多く放ってきたロック・バンドというイメージから一気にビッグ・バンドへと昇華した大転機作となっています。一大ロック・オペラとして描かれたのは三重苦の生涯を持つ少年の人生を描いたもので、本作からはそのストーリー全貌を把握するのはかなり困難なものとはなっています。本作制作当時から映画化の計画が進められ、75年に奇才、ケン・ラッセル監督作品として公開されています。ザ・フーのメンバー、その他多くのロック・ミュージシャンが出演し、当時としては画期的な手法でメディアミックス戦略の走りと言えたと思います。 サウンド自体は決して難解なものではなく、ライブ・バンドとして定評のあった彼等のダイナミズムと、ビート・タウンゼントのメロディ・メイカーぶりがようやく理想的なスタジオ・ヴァージョンとして結晶化されたものとなっています。 「ピンボールの魔術師 Pinball Wizard」、「僕は自由だ I'm Free」がシングル・カットされ、全体のドラマティックな構成はもちろん、各曲が独立したポップ・ソングとして成立しているのが特徴的です。彼等の代表曲として有名な「See Me Feel Me」は、本作の所々で聴かれる重要な一節でもあり、元々はラスト曲の「俺達はいしないよ We're Not Gonna Take It」の後半部分となっています。 ザ・フーがここで確立した知的で多彩な音楽性は、ビートルズ、ストーンズに匹敵するキャリアを築きましたが、日本ではこうしたマニアックなバンドのスタイルが長い間彼等の正当評価を邪魔していたのも事実かもしれません。	Side A 序曲 - Overture イッツ・ア・ボーイ - It's a Boy! 1921 - 1921 すてきな旅行 - Amazing Journey スパークス - Sparks 光を与えて - Eyesight to the Blind(The Hawker) (Sonny Boy Williamson II) Side B クリスマス - Christmas 従兄弟のケヴィン - Cousin Kevin (John Entwistle) アシッド・クイーン - The Acid Queen アンダー・チュア - Underture	C面 大丈夫かい - Do You Think It's Alright? フィドル・アバウト - Fiddle About (Entwistle) ピンボールの魔術師 - Pinball Wizard ドクター - There's a Doctor ミラー・ボーイ - Go to the Mirror! トミー、聞こえるかい - Tommy Can You Hear Me? 鏡をこわせ - Smash the Mirror センセーション - Sensation
WHO	(1995年リマスター版)ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	CD			
WHO	(ペーパーズリープ仕様) ロック・オペラ “トミー”		1969	ハードロック	CD			
WHO	キッズ・アー・オールライト		1979	ハードロック	レコード	1979年発表。ザ・フーのドキュメンタリー映画『キッズ・アー・オールライト』のサウンドトラック・アルバム。映画には使用されなかった「恋のマジック・アイ」、「マイ・ワイフ」、「ジョイントゥゲザー」も収録されている。また、本作収録の「ハッピー・ジャック」は、レコード音源を使用した映画版とは異なり、1970年のリーズ大学でのライブ音源が使用されている(オリジナルLPには「スウェーデン公演より」と誤記された。また「マジック・バス」は本作のためにステレオにリミックスしたバージョン、「トミー、聞こえるかい」は、エンディングがアルバム『トミー』(1969年)に収録されているものと異なり、フェイドアウトしない別バージョンである。映画で使用された「シャウト・アンド・シミー」、「恋のピンチ・ヒッター」、「リリーのおもかげ」、「サクセス・ストーリー」、「くもの巣と謎」、「バーバラ・アン」、「フー・アー・ユー」は収録されていない。	Side A マイ・ジェネレーション アイ・キャン't・エキスプレイン ハッピー・ジャック 恋のマジック・アイ - I Can See for Miles マジック・バス 不死身のハード・ロック Side B エニクエイ・エニハウ・エニホエア ヤングマン・ブルース マイ・ワイフ ババ・オライリイ	C面 クイック・ワン トミー、聞こえるかい スパークス ピンボールの魔術師 シェー・ミー・フィール・ミー D面 メドレー: ジョイントゥゲザー／ロードランナー／マイ・ジェネレーション・ブルース - Medley: Join Together/Road Runner/My Generation Blues (Townshend, McDaniel) 無法の世界 - Won't Get Fooled Again
WHO	(ペーパーズリープ仕様) キッズ・アー・オールライト		1979	ハードロック	CD			
WHO	ライヴ・アット・リーズ		1970	ハードロック	レコード	70年リリース。ザ・フーの初のライブ・アルバム。本作こそがハード・ロック・ライブとしての元祖と信じる人も多いであろう大名盤です。6曲のみの収録で、その圧倒的な音量と荒々しいプレイを凝縮したもの。前作の「トミー」の大成功により、ロック・バンドとしての確固たる地位を確立しながら、文学的な流れで語られる事が多く、肉体言語としてのロックのダイナミズムを好むファンからは過小評価がされ、特に日本ではその傾向が強く、このバンドの本質が見えにくくなっていったと思われます。 本作でライブ・バンドとしての魅力がようやく伝わり、各メンバーの技量も改めてはつきりしたと思います。特にジョン・エントウィッスルとキース・ムーンの強力なリズム隊の、それこそ凶暴なパワーには今聴いても圧倒され、ロジャー・ダルトリイが優れたハード・ロック・ヴォーカリストであった事も、ここで証明された気がします。もちろんビート・タウンゼントという稀代のギタリストについては、今更付け加える事などないのですが、ロックが元々持っていた破壊力を牽引していたのは、この人に他ならないと思います。バラエティに富んだナンバーが彼等の魅力でもありましたが、やはり特筆すべきは14分を超える「マイ・ジェネレーション」であろうと思います。一瞬たりとも耳が離せないのは、やはりハード・ロックとして完璧に成立しているのが大きいのではないのでしょうか。	Side A ヤング・マン・ブルース - Young Man Blues (Mose Allison) 恋のピンチ・ヒッター - Substitute サマータイム・ブルース - Summertime Blues (Eddie Cochran, Capehart) シェイキン・オール・オーヴァー - Shakin' All Over (F. Heath)	Side B マイ・ジェネレーション - My Generation マジック・バス - Magic Bus
WHO	(1995年リマスター版)ライヴ・アット・リーズ		1970	ハードロック	CD			

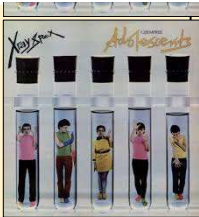
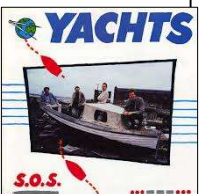
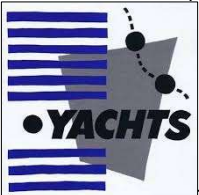
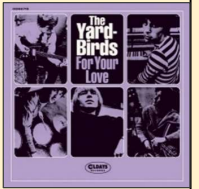
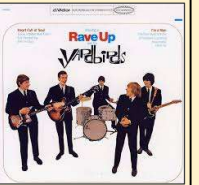
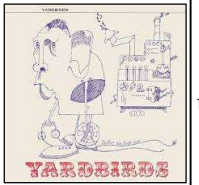
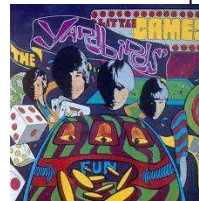
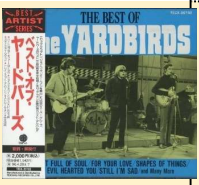
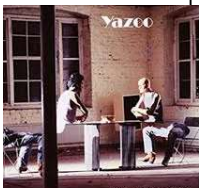
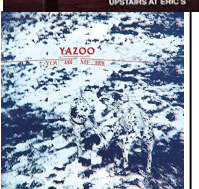
WHO	(デラックス・エディション) ライヴ・アット・リーズ		1970	ハードロック	CD		デラックスエディションの2枚目のトラック 1. 序曲 06:52 2. イッツ・ア・ボーイ 31 3. 1921 02:26 4. すてきな旅行 03:18 5. スパークス 04:23 6. 光をえて 01:58 7. クリスマス 03:19 8. アシッド・クイーン 03:34 9. ピンボールの魔術師 02:53 10. 大丈夫かい 22 11. フィドル・アバウト 01:13 12. トミー、聞こえるかい 56 13. ドクター 23 14. ミラー・ボーイ 03:24 15. 鏡をこわせ 01:19 16. 奇蹟の治療 13 17. サリー・シン普森 04:01 18. 僕は自由だ 02:38 19. トミーズ・ホリデイ・キャンプ 01:01 20. 俺達はいないよ 08:48	
WHO	フーズ・ネクスト		1971	ハードロック	レコード	71年作。ザ・フーの通算5作目のアルバム。69年作の一大ロック・オペラ、「トミー」、70年のハード・ロック・ライヴとしての礎となった「ライヴ・アット・リーズ」と、それぞれ時代を代表する傑作をリリースした後、彼等が名実共にトップ・バンドとなった事を象徴した1枚となりました。不謹慎なジャケットと共にロック史に残る大名盤としても知られ、彼等の代表曲と言えるナンバーも多く含まれています。 当時として画期的だったシンセのインパクトと、中盤でのキース・ムーンのプロデュースによるヴァイオリンがユニークな構成を魅せるキャッチーな「ババ・オライリー」、彼等のキャリア史上最も素晴らしいバードとなった「ビ・ハインド・ブルー・アイズ」、以降の80年代ハード・ロックにも影響を与え、事実多くのバンドにカバーされている「無法の世界」、ジョン・エントウィッスル作の好ハード・ロック・ナンバー、「マイ・ワイフ」等、良曲がズラリと並んでいます。 本作は上記のエントウィッスルのナンバーを除いた全ての曲は、元々ロック・オペラ第2弾として映画化する予定だった「ライフハウス」のために用意されたものでした。 制作半ばでこれまでのコンセプトを排除し、バンドの状態の素晴らしい、ライヴ・バンドとしての実力、そして曲の良さを一つのアルバムにまとめる事で、結果としてライヴ感溢れるダイナミックなハード・ロック作として本作が生まれる事となります。 シンセの使い方や、プログレッシヴな側面に彼等の実験性も見えてとれますが、音楽性としてはむしろ古き好きロックというべきですが、とにかく捨て曲無し、全てのメロディが素晴らしい一言に尽きます。 またすでに兩人共故人となっていますが、リズム隊の凄さが目立つのも特徴的で、本作の荒々しさ、繊細さ、ドラマ性を見事に盛り立てている事に改めて感動させられます。	Side A ババ・オライリー - Baba O'Riley バーゲン - Bargain ラヴ・エント・フォー・キーピング - Love Ain't for Keeping マイ・ワイフ - My Wife (Entwistle) ソング・イズ・オーヴァー - The Song is Over Side B ゲッティング・イン・チューン - Getting in Tune ゴーイング・モービル - Going Mobile ビ・ハインド・ブルー・アイズ - Behind Blue Eyes 無法の世界 - Won't Get Fooled Again	
WHO	(ペーパー・スリーブ仕様) フーズ・ネクスト		1971	ハードロック	CD		リマスター版(1995年)ボーナストラック ※1.~9. オリジナル版に同じ 10. ピュア・アンド・イージー - Pure and Easy (Original Version) 11. ベイビー・ドント・ユードゥ・イット - Baby Don't You Do It (Holland-Dozier-Holland) 12. ネイキッド・アイ - Naked Eye (Live at the Young Vic 26/4/71)	13. ウォーター - Water (Live at the Young Vic 26/4/71) 14. トゥー・マッチ・オブ・エニシング - Too Much of Anything (Original Version) 15. アイ・ドント・イーヴン・ノウ・マイセルフ - I Don't Even Know Myself 16. ビ・ハインド・ブルー・アイズ - Behind Blue Eyes (Original Version)
WHO	四重人格		1973	ハードロック	レコード	ザ・フーの1973年10月にリリースした6作目のアルバム。ロック・オペラ・アルバム。2枚組の大作でありながら、イギリス、アメリカ共にチャートの2位につける大ヒットとなった。サウンド面では前作「フーズ・ネクスト」で初めて導入したシンセサイザーが多用され、前作以上に複雑で色彩豊かな音造りになっている。それまでもビート・タウンゼントが最も多くの楽曲を製作してきたが、全曲タウンゼントの曲で占められたアルバムは本作が唯一。物語の舞台は1960年代中期のロンドン、モッズ少年のジミーの多重人格と精神的な葛藤を軸に展開される。『トミー』や頓挫した「ライフハウス」とは異なり、自分達のルーツを題材にしているが、自叙伝ではなく、ザ・フーの歴史がメンバーではなく観客によって作られてきた事を示しているという。また、主人公のジミーを支配する4つの人格は、それぞれザ・フーのメンバー4人の人格を割り振ったものである。収録曲中4曲は、メンバー4人を反映するテーマ曲となっている。「ヘルプレス・ダンサー」はロジャー・ダルトリの、「ベル・ボーイ」はムーンの、「ドクター・ジミー」はエントウィッスルの、そして「愛の支配」はタウンゼントのテーマである。1979年、本作を元にした映画『さらば青春の光』が公開され、モッズ・リバイバル・ブームを引き起こした。	Side A ぼくは海 - I Am the Sea リアル・ミー - The Real Me 四重人格 - Quadrophenia カット・マイ・ヘアー - Cut My Hair 少年とゴッドファーザー - The Punk and the Godfather Side B ぼくは一人 - I'm One ダーティ・ジョブス(汚れた仕事) - The Dirty Jobs ヘルプレス・ダンサー - Helpless Dancer イズ・イット・イン・マイ・ヘッド(ぼくの頭の中に) - Is It in My Head? アイヴ・ハッド・イナフ(ぼくはもうたくさん) - I've Had Enough	Side C 5:15(5時15分) - 5:15 海と砂 - Sea and Sand ドゥロンド(溺れるぼく) - Drowned ベル・ボーイ - Bell Boy Side D ドクター・ジミー - Doctor Jimmy ザ・ロック - The Rock 愛の支配 - Love Reign o'er Me
WHO	(ペーパー・スリーブ仕様) 四重人格		1973	ハードロック	CD			
WHO (Various Artists)	「さらば青春の光」オリジナルサウンドトラック		1979年	ハードロック	レコード	The Whoにインスパイアされた1979年のモッズ映画『さらば青春の光』のサウンドトラック。The Who の1974年発表ロック・オペラ・アルバム『Quadrophenia(四重人格)』をフランク・ロダム監督が映画化し、モッド・リヴァイヴアルのきっかけとなった1979年映画『さらば青春の光』のサウンドトラック・アルバム(LPリイシュー。主演Phil Daniels、共演Sting、Leslie Ash、Ray Winstone。1965年の英国を舞台に、モッズ青年の日常やロッカーズとの抗争を通して当時の英国カルチャーや青春の挫折を描き出した秀作。「5:15」、「Love Reign O'er Me」、「Bell Boy」などのThe Whoによる13曲の中には、このサウンドトラック用に新録音されたものや新たにリミックスされたものが多数。そして「Get Out And Stay Out」、「Four Faces」、「Joker James」の3曲は、『Quadrophenia』未収録曲。さらにはJames Brown、Booker T & The MGs、The Ronettesなど、60年代を代表する大ヒット曲も収録。	Disc 1 Side A 1. I Am The Sea 2. The Real Me 3. I'm One (5.1 Mix) 4. 5:15 5. Love Reign O'er Me (Soundtrack Mix) Side B 1. Bell Boy (Album Version) 2. I've Had Enough 3. Helpless Dancer (Soundtrack Mix) 4. Doctor Jimmy (Soundtrack Mix)	Disc 1 Side A 1. Zoot Suit / The High Numbers 2. Hi Heel Sneakers / Cross Section 3. Get Out And Stay Out 4. Four Faces 5. Joker James 6. The Punk And The Godfather Side B 1. Night Train (Single Version) / James Brown 2. Louie Louie - The Kingsmen 3. Green Onions (Single Version) / Booker T & The MG's 4. Rhythm Of The Rain / The Cascades 5. He's So Fine (2000 Digital Remaster) / The Chiffons 6. Be My Baby / The Ronettes 7. Da Doo Ron Ron / The Crystals
WHO	(1995年リマスター版) ザ・フー・バイ・ナンバーズ		1975	ハードロック	レコード		Side A 1. スリッパ・キッド 2. ハウエヴァー・マッチ・アイ・ブーズ 3. スクイズ・ボックス 4. ドリーミング・フロム・ザ・ウエイスト 5. イマジン・ア・マン	Side B 1. サクセス・ストーリー 2. ゼイ・アー・オール・イン・ラヴ 3. ブルー・レッド・アンド・グレイ 4. ハウ・メニー・フレンズ 5. イン・ア・ハンド・オア・ア・フェイス
WHO	ザ・フー・バイ・ナンバーズ		1975	ハードロック	CD	1975年発表のアルバム。『四重人格』(1973年)以来約2年ぶりとなるオリジナルアルバム。プロデュースには「フーズ・ネクスト」(1971年)にも参加したグリーン・ジョーンズが、またピアノでニック・ホプキンスが同じ「フーズ・ネクスト」以来久々に参加した。本作は「フーズ・ネクスト」以来のノン・コンセプトアルバムとなる。シンセサイザーを大々的に用い、効果音まで取り入れ、重厚かつ複雑なサウンド作りがなされた前作『四重人格』とは打って変わり、本作では必要最低限のコンボで、比較的シンプルな音造りがなされている。タウンゼントの詞作面でも大きな変化が現れており、仕事の重圧や堕落した音楽業界への皮肉、また家庭内の問題など、現実的かつ個人的な問題をテーマにしたものが多く、タウンゼントのソロ作品とみなすファンもいる[5]。パッケージもシングル・スリーブでシンプルなものとなっている。ジャケットのイラストはジョン・エントウィッスルによるもので、これは彼の息子が持っていた塗り絵から着想を得たものである。 ウクレレ伴奏で歌われる「ブルー・レッド・アンド・グレイ」、ジョン・レノンの代表曲を連想させる「イマジン・ア・マン」など、他のアルバムに比べ、比較的穏やかな曲を中心に構成されている。他にシングル「スクイズ・ボックス」などを収録。	Side A 1. スリッパ・キッド 4:29 2. ハウエヴァー・マッチ・アイ・ブーズ 5:03 3. スクイズ・ボックス (Squeeze Box) 2:41 4.「ドリーミング・フロム・ザ・ウエイスト (Dreaming from the Waist) 4:08 5.「イマジン・ア・マン (Imagine a Man) 4:00 Side Two #タイトル時間	Side B 1. サクセス・ストーリー (John Entwistle)3:20 2. ゼイ・アー・オール・イン・ラヴ3:00 3. ブルー・レッド・アンド・グレイ2:47 4. ハウ・メニー・フレンズ4:06 5. シ・ア・バンド・オア・ア・フェイス3:25 以下、CDボーナストラック 11スクイズ・ボックス(ライヴ) 12ハインド・ブルー・アイズ(ライヴ) 13ドリーミング・フロム・ザ・ウエイスト(ライヴ)
WHO	フー・アー・ユー		1978	ハードロック	CD	1978年にリリースされたザ・フーの8枚目のアルバム。本作発表後間もなく、ドラマーのキース・ムーンが死亡したため、本作はムーンが参加した最後のオリジナルアルバム。前作『ザ・フー・バイ・ナンバーズ』から3年という、ザ・フーとしてはそれまでで最も長いインターバルを空けての発表となった。プロデュースは前作に引き続き参加となるグリーン・ジョーンズに加え、ビート・タウンゼントの当時の義弟であり、後にザ・フーのアルバムのリイシューのリマスターリングを任されることになるジョン・アストリーが参加している。比較的簡素な音造りだった前作とは打って変わり、本作ではオーケストラや打ち込みを大胆に導入した、『四重人格』(1973年)のような重厚な音造りがなされている。ジョン・アストリーによれば、これはタウンゼントの意向で、アメリカでのラジオ放送で受けるように狙いをさだめたものだという[4]。招かれたゲスト・ミュージシャンもこれまでで最多で、アンディ・フェアウェザー・ロウや元ソニービーズのロッド・アーセントらが参加した。オーケストラ編曲を担当したテッド・アストリーはジョン・アストリーの実父である。本作はザ・フーのオリジナルアルバムで、初めて全米でのチャート順位が全英を上回った。	Side A 1.「ニュー・ソング - New Song」4:12 2.「ハド・イナフ - Had Enough」(ジョン・エントウィッスル)4:30 3.「905」(ジョン・エントウィッスル)4:02 4.「シスター・ディスコ - Sister Disco」4:21 5.「ミュージック・マスト・チェンジ - Music Must Change」4:37	Side B 6.「トリック・オブ・ザ・ライト - Trick of the Light」(ジョン・エントウィッスル)4:48 7.「ギター・アンド・ペン - Guitar and Pen」5:58 8.「ラヴ・イズ・カミング・ダウン - Love Is Coming Down」4:06 9.「フー・アー・ユー - Who Are You」6:21
WHO	(ペーパー・スリーブ仕様) フェイス・ダンシズ		1981	ハードロック	CD	ザ・フーが1981年に発表したオリジナル・アルバム。全英2位、全米4位を記録。1978年9月7日に急逝したキース・ムーンの後任の新ドラマー、ケニー・ジョーンズ加入後の初のオリジナルアルバムである。ムーンの死後、彼の興味は明らかにザ・フーよりもソロ活動の方に向きつつあった。1980年4月、タウンゼントは第3作目のソロアルバム『エンパティ・グラス』をリリース。全米5位につける大ヒットとなったが、これが新メンバーのジョーンズに「ザ・フーよりもソロの方にいい曲を回している」という不満を抱かせる。さらにはロジャー・ダルトリもジョーンズのドラム・プレイに不満を持っており、そのダルトリもまた、ザ・フーの活動よりも自身の主演映画『マックヴィガー』の撮影を優先し、他のメンバーを苛立たせるなどして、バンド内には不穏な空気が漂い始めていた。そのような中で本作の製作は、1980年6月より始まった。プロデューサーにはイギリスを成功に導いたビル・シムジクが迎えられ、録音は12月まで断続的に行われた。本作も前作『フー・アー・ユー』同様、打ち込みを使用したポップかつ音数の多い重厚なサウンドが特徴である	Side A 1.「ユー・ベター・ユー・ベット - You Better You Bet」5:36 2.「ドント・レット・ゴー・ザ・コート - Don't Let Go the Coat」3:44 3.「キャッシュ・キャッシュ - Cache Cache」3:57 4.「クワイエット・ワン - The Quiet One」(ジョン・エントウィッスル)3:10 5.「ディ・ユー・スティー・マイ・マネー - Did You Steal My Money」4:11	Side B 6.「ハク・キャン・ユードゥ・イット・アローン - How Can You Do It Alone」5:26 7.「デリリー・レコーズ - Daily Records」3:27 8.「ユー - You」(ジョン・エントウィッスル)4:31 9.「アザサートトリッキー・デイ - Another Tricky Day」4:55 1997年リイシューCDボーナストラック 10.「アイ・ライク・ナイトメアーズ - I Like Nightmares」3:09 11.「イッツ・イン・ユー - It's In You」4:59 12.「サム・バディー・セイヴド・ミー - Somebody Saved Me」5:31 13.「ハク・キャン・ユードゥ・イット・アローン
WHO	(ペーパー・スリーブ仕様) イッツ・ハード		1982	ハードロック	CD	ザ・フーのオリジナルアルバム。1982年発表。イギリスで11位、アメリカで8位を記録。解散前最後の、そしてジョン・エントウィッスルおよびケニー・ジョーンズが参加した最後のオリジナルアルバム。前作『フェイス・ダンシズ』で復活を印象付けて見せたザ・フーであったが、メンバーの不仲に加え、妻との関係も悪化していたタウンゼントは、1度は断ったドラッグに再び手を出すようになり、1981年9月には一時心臓停止になるほどの深刻な状況にまで陥った。リハビリを経て回復はしたものの、バンドの終焉はもはや誰の目から見ても明らかだった。4作目のソロアルバム『チャイニーズ・アイズ』の制作を終えたタウンゼントは、アメリカでの配給先であるワーナー・ブラザーズともう1枚ザ・フーのアルバムを作るという契約を消化するために、新作アルバムの制作に着手する。タウンゼントは「俺がバンドのために書いた曲は、すごく上手い曲だと思う」新作はザ・フーのこれまでの作品の中でも一番攻撃的だと本作に対する自信をのぞかせたが、ダルトリは本作を嫌っており、本作完成時タウンゼントに「こんなゴミは出すべきじゃない」と言い放ったことを明かしている。イギリスでは『セル・アウト』(1967年)以来15年ぶりにトップ10入りを見た。アメリカでは8位につけたものの、『トミー』(1969年)以来獲得し続けたプラチナディスクに届かず、ゴールド認定にとどまっている。批評家筋からの評価もおおむね否定的なものが多く、ローリングストーン誌は「アルバム全体にグループの再燃した絆と再発見された価値観が伝わってくるような活気に満ち溢れている」と好意的に評したが[9]、オールミュージックでは「印象に残るメロディーとエネルギーがほとんどない」、ロバート・クリストガウからは「古典的なひどいイギリスのアートロックに最も近いもの」とまで手厳しく批評された。	Side A 1.「アセナ - Athena」3:46 2.「イッツ・ユア・ターン - It's Your Turn」(ジョン・エントウィッスル)3:39 3.「クックス・カウンティ - Cooks County」3:51 4.「イッツ・ハード - It's Hard」3:47 5.「デンジャラス - Dangerous」(エントウィッスル)3:36 6.「エミネンス・フロント - Eminence Front」5:39 Side B 7.「戦争は知らない - I've Known No War」5:56 8.「ワン・ライフズ・イナフ - One Life's Enough」2:22 9.「ワン・アット・ア・タイム - One at a Time」(エントウィッスル)3:20 10.「ホワイ・ディッド・アイ・フォー・ザット - Why Did I Fall for That」3:56 11.「ア・マン・イズ・ア・マン・イズ・ア・マン・イズ・ア・マン」3:58	
WHO	エンドレス・ワイヤー				CD	ザ・フーが2006年に発表したアルバム。再結成後としては初のスタジオ・アルバムで、『イッツ・ハード』以来24年ぶりの新作アルバム。偉大なるロック・レジェンドの復活は、それまで数々のイベントやフェスを中心にライヴ活動こそ継続的にあったものの、こうして21世紀に新作が聴けたのは奇跡的な事かもしれません。 2002年、ジョン・エントウィッスルの逝去により、とうとうオリジナル・メンバーは二人のみとなってしまいましたが、ビート・タウンゼントは変わらずマルチ・プレイヤーぶりを発揮、ロジャー・ダルトリも枯れた味わいを用いた具合に聴かせてくれます。この二人を中心に、ビートの彼女たちもあるレイチェル・フラウ、サイモン・タウンゼント、ザック・スターキー、ピノ・パラーディノとずっとサポートしてきたお馴染みのメンバーが並び、OASISに引き抜かれたザックの後任として新たにピーター・ハンティントンが迎えられています。アルバムは二部構成となっており、後半はビートの小説をロック・オペラ化した「ワイヤー & グラス 〜ミニ・オペラ」が収録されています。この辺の特殊性もいかにザ・フーといった趣が強いと思われます。 前作の「イッツ・ハード」や、ビートのソロ作の延長線上にあるサウンドが目立ちますが、全体的にはアコースティック調の穏やかな作風となっている感があります。 ロック・バンドとしてのダイナミズムはアルバム後半で堪能でき、聴き応えはかなりの1枚ではないでしょうか。	1. フラグメンツ - 3:58 2. バープルドレスの男 - "A Man in a Purple Dress" - 4:14 3. マイク・ポストのテーマ 4:28 4. イン・ジ・イーサー 3:35 5. ブラック・ウインド・アイズ 3:07 6. 2000年 - "Two Thousand Years" - 2:50 7. ゴッド・スピークス・オブ・マーティロビンス 3:26 8. イッツ・ノット・イナフ 4:02 9. ユー・スタンド・バイ・ミー 1:36 10. ワイヤ&グラス〜ミニ・オペラ 11. サウンド・ラウンド 1:21	12. ビック・アップ・ザ・ピース 1:28 13. アンホーリー・トリニティー 2:07 14. トリビーのピアノ - "Tribly's Piano" - 2:04 15. エンドレス・ワイヤー 1:51 16. フラグメンツ・オブ・フラグメンツ 2:23 17. ウィ・ガット・ア・ヒット - "We Got a Hit" - 1:18 18. ゼイ・メイド・マイ・ドリーム・カム・トゥルー 1:13 19. ミラー・ドア - "Mirror Door" - 4:14 19. ティー&シアター - "Tea & Theatre" - 3:24

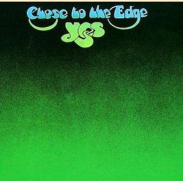
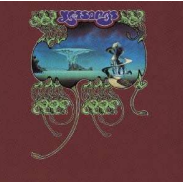
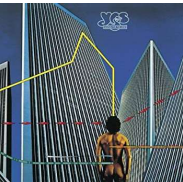
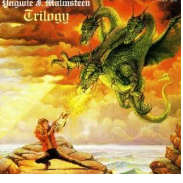
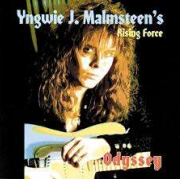
	WHO	フー		2019		CD	13年ぶり12枚目の新作。全米2位・全英3位。ビート・タウンゼントとD. サーディ(ノエル・ギャラガー、オアシスなどを手掛ける)が共同プロデュース。メンバーはビート・タウンゼント(G)、ロジャー・ダルトリイ(Vo)の他はおなじみのザック・スターキー(Ds)、ピノ・バラディーノ(B)、そしてサイモン・タウンゼント(G)、ベンモント・テンチ(Key)、カーラ・アザー(Ds)、ジョーイ・ワロンカー(Ds)、ゴードン・ギルトラップ(G)も参加。ジャケットは、ザ・ビートルズ『サーージェントペパー』のデザインで有名なイギリスのポップ・アーティストピーター・ブレイク]が担当。	1. All This Music Must Fade オール・ディス・ミュージック・マスト・フェイド ※シングル 2. Ball and Chain ボール・アンド・チェーン 3. I Don't Wanna Get Wise アイ・ドント・ワナ・ゲット・ワイズ 4. Detour デイトウアー 5. Beads On One String ビーズ・オン・ワン・ストリング 6. Hero Ground Zero ヒーロー・グラウンド・ゼロ 7. Street Song ストリート・ソング 8. Billie Jean ビリー・ジェン ※シングル	
	WHO	オッズ&ソッズ		1974	ハードロック	レコード	ザ・フーのコンピレーション・アルバム。1974年発表。全英10位、全米15位を記録。旧邦題は『不死身のハードロック』。1964年から1973年までのアウトテイクを編集した未発表曲集である。発表当時の1974年、ビート・タウンゼントとロジャー・ダルトリイは映画『トミー』の製作に、またキース・ムーンも別の映画への出演などで忙殺されており、メンバー中最もスケジュールに余裕のあったジョン・エントウィッスルが未発表曲の発掘および編集作業を行った。ザ・フーがデビューした1964年からの10年間で発表したオリジナルアルバムは6作で、他のアーティストと比べてその数は決して多くはないものの、この他にも『Who's For Tennis?』(1968年)、『ライフ・ハウス』(1971年)、『ロック・イズ・デッド〜不死身のハードロック』(1972年)と、3枚のアルバムとさらに1970年にも5曲入りのEPが製作されたがいずれも未発表となっており、この時点でのザ・フーの未発表曲のストックは大変な数になっていた。本作に収録された曲は、実質的なデビューシングルである「アイム・ザ・フェイス」を除き、いずれも上記4作品からのものである。ただし、これらの楽曲は完全に未発表だった訳ではなく、曲によってはコンサートで披露されていたり、またデモ・バージョンがタウンゼントのソロ・アルバムに収録されたりしていたので、コアなファンの間ですでに知られていたものもあった。レコードには歌詞カードの他に、タウンゼントによる各曲の解説も付属している。	Side A 1. ポストカード - "Postcard" (John Entwistle) - 3:27 2. ナウ・アイム・ア・ファーマー - "Now I'm a Farmer" - 3:59 3. プット・ザ・マネー・ダウン - "Put the Money Down" - 4:14 4. リトル・ビリー - "Little Billy" - 2:15 5. トゥー・マッチ・オブ・エニシング - "Too Much of Anything" - 4:26 6. 燃える女 - "Glow Girl" - 2:20	Side B 1. ピュア・アンド・イージー - "Pure and Easy" - 5:23 2. 大きな信頼 - "Faith in Something Bigger" - 3:03 3. アイム・ザ・フェイス - "I'm the Face" (Peter Meaden) - 2:32 4. ネイキッド・アイ - "Naked Eye" - 5:10 5. 不死身のハードロック - "Long Live Rock" - 3:54
	WHO	(1995年リマスター版) オッズ&ソッズ『不死身のハードロック』		1974		CD		1.ポストカード 2.ナウ・アイム・ア・ファーマー 3.プット・ザ・マネー・ダウン 4.リトル・ビリー 5.トゥー・マッチ・オブ・エニシング 6.燃える女 7.ピュア・アンド・イージー 8.大きな信頼 9.アイム・ザ・フェイス 10.ネイキッド・アイ 11.不死身のハードロック	12.リーヴィング・ヒア (MONO) (ボーナストラック) 13.ベイビー・ドント・ユー・ドウ・イット (MONO) (ボーナストラック) 14.サマータイム・ブルース (ボーナストラック) 15.アンダー・マイ・サム (ボーナストラック) 16.マリリー・アンス (ボーナストラック) 17.マイ・ウェイ (ボーナストラック) 18.ヤング・マン・ブルース (ボーナストラック) 19.カズン・ケヴィン・モデル・チャイルド (MONO) (ボーナストラック) 20.ピンボール・ウィザード (MONO) (ボーナストラック)
	WHO	(ペーパースリプ仕様) オッズ&ソッズ『不死身のハードロック』		1975		CD			
	WHO	ダイレクト・ヒッツ		1968	ハードロック	レコード	1968年に発売した4枚目のアルバムだが、1966年～1968年までに発売したシングル盤を集めた編集盤。		
	WHO	ミーティ・ピーティ・ビッグ・アンド・パウンシィ		1971	ハードロック	レコード	ザ・フーのベスト・アルバム。全英9位[1]、全米11位[2]を記録。1968年にリリースした『マジック・バス〜ザ・フー・オン・ツアー』(アメリカ向け)および『ダイレクト・ヒッツ』(イギリス向け)以来3作目となるが、上記2作には権利上の問題により収録できなかったシェル・タルミーのプロデュース作品を収録し、全世界共通のオールタイムのベスト盤としてはこれが初となる。収録曲はほとんどがシングルA面曲で占められているが、このうち「アイム・ア・ボーイ」と「マジック・バス」は、シングル・ミックスとは異なるバージョンで収録されている。「アイム・ア・ボーイ」の方は1966年10月3日に再録された別バージョン、「マジック・バス」はオリジナルよりも演奏時間が1分以上長いロング・バージョンを擬似ステレオで収録しているまた「キッズ・アー・オールライト」はアメリカでのシングル・カットで使用されたエディット・バージョンである。タイトルは当初は「ザ・フー・ルック・バック」になる予定だったというが、ビート・タウンゼント曰く「それじゃまるで俺たちみんな死んじまったみたいだからさ」ということで変更になった	Side A 1.アイ・キャン・エキスプレイン2:05 2.キッズ・アー・オールライト2:45 3.ハッピー・ジャック2:12 4.恋のマジック・アイ4:06 5.リリーのおもかげ (Pictures of Lily) 2:43 6.マイ・ジェネレーション3:18 7.シーカー3:11	Side B 1.エニウェイ・エニハウ・エニホエア 2:42 2.ピンボールの魔術師2:59 3.リーガル・マター2:48 4.ボリスのくも野郎 (Boris the Spider) 2:28 5.マジック・バス4:33 6.恋のピンチ・ヒッター (Substitute) 3:49 7.アイム・ア・ボーイ3:41
	WHO	ストーリー・オブ・ザ・フー		1976	ハードロック	レコード	76年リリース。WHO自身がセレクトした全26曲で65年～71年までのアルバム、シングルからピックアップしたもので、それまで手に入りにくい曲があり、当時は話題となったアルバム。	A1 Magic Bus(試聴) A2 Substitute A3 Boris The Spider A4 Run, Run, Run A5 I'm A Boy A6 Heat Wave A7 My Generation B1 Pictures Of Lily B2 Happy Jack B3 The Seeker B4 I Can See For Miles B5 Bargain B6 Mary Anne With The Shaky Hand	C1 Amazing Journey C2 The Acid Queen C3 Do You Think It's Alright? C4 Fiddle About C5 Pinball Wizard C6 I'm Free C7 Tommy's Holiday Camp C8 We're Not Gonna Take It D1 Summertime Blues D2 Baba O'Riley D3 Behind Blue Eyes D4 Dogs D5 Won't Get Fooled Again
	WHO	リアリティー 1 & 2		1983	ハードロック	CD	シングルを中心としたアルバム未収録曲集、VOL.1とVOL.2をカップリング。「アンダー・マイ・サム」や「リレイ」の完全版はこれでしか聴けない。	1. サークルズ(インスタント・パーティー) 2. ディスガイジズ 3. バットマン 4. パケット・T 5. パーバ・アン 6. イン・ザ・シティ 7. アイヴ・ビーン・アウェイ 8. ドクター・ドクター 9. ラスト・タイム 10. アンダー・マイ・サム 11. サムワンス・カミング 12. マリー・アンス	13. ドッグズ 14. コール・ミー・ライトニング 15. ドクター・ジキル & ミスター・ハイド 16. ジョイント・トゥゲザー 17. ドント・ノウ・マイセルフ 18. ヘヴン・アンド・ヘル 19. ワイルド・ボーイ 20. レッツ・シー・アクション 21. 奴等に伝える 22. ウスブマン 23. ヒア・フォー・モア 24. ウォーター 25. ベイビー・ドント・ユー・ドウ・イット
	WHO	ワイト島ライブ1970		1996	ハードロック	CD	ザ・フーが1996年に発表したライブ・アルバム。ザ・フーは、1969年5月よりロックオペラ・アルバム『トミー』に伴う長期のコンサートツアーを行っており、この第3回ワイト島音楽祭はその一環で出演したものである。音楽祭は8月26日から31日にかけて開かれ、ザ・フーは4日目の29日に出演する予定だったが、ウッドストック・フェスティバル同様スケジュールが遅延し、ザ・フーの登場は30日の午前2時(3時という説もある[3])になってからだった。ザ・フーは彼らのキャリアの中でも最高の60万人という数の聴衆の前で2時間以上に渡る演奏を行ったが、ビート・タウンゼントによればこの時の演奏は「いいものとは言えなかった」という。	Disc1 1. ヘヴン・アンド・ヘル - Heaven and Hell (John Entwistle) 5:16 2. アイ・キャン・エキスプレイン - I Can't Explain 2:45 3. ヤング・マン・ブルース - Young Man Blues (Mose Allison) 6:06 4. アイ・ドント・ノウ・マイセルフ - I Don't Even Know Myself 6:11 5. ウォーター - Water 10:53 6. 序曲 - Overture 5:08 7. イッツ・ア・ボーイ - It's a Boy 1:33 8. 1921 - 1921 2:27 9. すてきな旅行 - Amazing Journey 3:19 10. スパークス - Sparks 5:10 11. 光を与えて - Eyesight to the Blind (The Hawker) (Sonny Boy Williamson II) 1:58 12. クリスマス - Christmas 3:25	Disc2 1. アシッド・クイーン - The Acid Queen 3:41 2. ピンボールの魔術師 - Pinball Wizard 2:50 3. 大丈夫かい - Do You Think It's Alright? 0:22 4. フィドル・アバウト - Fiddle About (Entwistle) 1:15 5. トミー、聞こえるかい - Tommy Can You Hear Me? 0:58 6. ドクター - There's a Doctor 0:22 7. ミラー・ボーイ - Go to the Mirror 3:32 8. 鏡をこわせ - Smash the Mirror 1:16 9. 奇跡の治療 - Miracle Cure 0:13 10. 僕は自由だ - I'm Free 2:24 11. トミーズ・ホリデイ・キャンプ - Tommy's Holiday Camp (Keith Moon) 1:01 12. 俺達はいないよ - We're Not Gonna Take It 9:37 13. サマータイム・ブルース - Summertime Blues (Eddie Cochran, Jerry Capehart) 3:24 14. ラン・ラン・ラン 15. ボリスのくも野郎 16. ハッピー・ジャック 17. 恋のマイ・ウェイ 18. リリーのおもかげ 19. イック・ワン 20. 恋のピンチ・ヒッター (ヴァージョン2) 21. シーカー 22. 僕は自由だ 23. シェイクン・オール・オーヴァー[スプーンフル 24. 奴らに伝える! 25. 不死身のハードロック 26. ボリスのくも野郎 (ラジオ1・シングル)
	WHO	BBCセッションズ		2000	ハードロック	CD	1999年リリース作品。英国BBC放送出演時のスタジオ・ライブを集めたアルバム。メンバーのインタビューや、ラジオ用シングルも収録。主に1965~7年頃の演奏が収められている。R&Bのカヴァーも2曲収められ、初期の彼らの荒削りな側面が楽しめる1枚。貴重な歴史的パフォーマンス！60年代の代表曲を中心にオリジナル・アルバム未収録のカヴァー曲、ラジオシングル等を収録したBBCラジオ放送用のスタジオ・ライブ全26曲	1.マイ・ジェネレーション (ラジオ1シングル) 2.エニウェイ・エニハウ・エニホエア 3.グッド・ラヴィン 4.ジャスト・ユー・アンド・ミー 5.リーヴィング・ヒア 6.マイ・ジェネレーション 7.グズ・ゴーン 8.ラ・ラ・ライズ 9.恋のピンチヒッター 10.マン・ウイズ・マネー 11.ダンシング・イン・ザ・ストリート 12.ディスガイジズ 13.アイム・ア・ボーイ	14.ラン・ラン・ラン 15.ボリスのくも野郎 16.ハッピー・ジャック 17.恋のマイ・ウェイ 18.リリーのおもかげ 19.イック・ワン 20.恋のピンチ・ヒッター (ヴァージョン2) 21.シーカー 22.僕は自由だ 23.シェイクン・オール・オーヴァー[スプーンフル 24.奴らに伝える! 25.不死身のハードロック 26.ボリスのくも野郎 (ラジオ1・シングル)
	WHO	THE WHOシングル・ボックス		2004	ハードロック	CD	THE WHOがリリースした4つのレーベルからのシングルを限定ボックス。“I CAN'T EXPLAIN”、“ANYWAY, ANYHOW, ANYWHERE”、“MY GENERATION”などなどキャリアのスタートからの6枚に加え、バンドのファースト・シングル、THE HIGH NUMBERS名義の“ZOOT SUIT / I'M THE FACE”に未発表シングル“CIRCLES / INSTANT PARTY MIXTURE”をコンパイルした全8枚。		
	WHO	デインジャラス 2		1992	ハードロック	CD	1982年12月17日のオンタリオ州からのサウンドボード録音。 キースムーン時代のライブ	1. Pinball Wizard 2:31 2. See Me, Feel Me 4:19 3. Love Ain't For Keepin' 2:19 4. 5:15&05 5. Love, Reign O'er Me 4:48 6. Long Live Rock 5:02 7. Won't Get Fooled Again 9:46 8. Naked Eye 6:38 9. Squeeze Box 2:22 10. Twist And Shout 3:41	
	WHO	ピンボール・ウィザード		1993	ハードロック	CD	Live At The Capitol Centre, Largo, December 1973 キースムーン時代のライブ	1. The Real Me 5:47 2. Bell Boy 4:52 3. Doctor Jimmy 7:46 4. I Can't Explain 2:33 5. Summertime Blues 3:48 6. My Generation 6:16 7. Pinball Wizard 2:56 8. See Me, Feel Me 5:42 9. Won't Get Fooled Again 8:37	

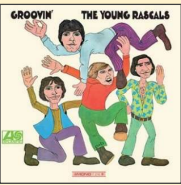
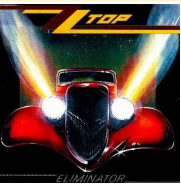
WHO	1969 - ウィンター・タイム・トリップ		1999	ハードロック	CD	Live at Leeds40周年ボックスに、この度初収録されたHull公演は、Leeds公演の翌日、1970年2月15日の公演を録音したもの。今回のHullは、ドラムの音についてはワイト島どころかLeedsよりもよく録音されていると思った。全体的にLeeds同様、エネルギーほとばしる演奏で、2曲ほどに演奏のヨレがあるものの、これまで同時期のLive音源をBootで集めてきた印象で言えば、実際のところヨレは当たり前なので、やはり演奏的には非常に安定していた公演と思えた。 キースムーン時代のライヴ ◆トラック1-13:1969年11月2日、ワシントンD.C.のジョージタウン大学マクドノー体育館でのライヴ ◆トラック:14-18:ハル大学、ハル、イングランド、1970年2月15日でのライヴ。 【全社時間:66:38】	1. Overture 4:02 2. It's A Boy 1:49 3. Twenty-One 2:23 4. Amazing Journey / The Blind 5:31 5. Eyesight To The Blind 1:51 6. Heaven And Hell3:16 7. I Can't Explain 2:19 8. Fortune Telle 2:28 9. Tattoo 2:45	10. Summertime Blues 3:11 11. Shakin' All Over 5:25 12. My Generation2:31 13. See Me, Feel Me 5:48 14. Heaven And Hell 3:29 15. I Can't Explain2:17 16. Fortune Teller2:58 17. Tattoo 2:55 18. Young Man Blues 7:21 19. I Believe My Own Eyes (New Tommy Song, 1993) 4:12
WHAM!	ファンタスティック		1982	ポップス	レコード	幼なじみのソウル好きな2人の少年、ジョージ・マイケルとアンドリュー・リッジリーによって結成されたワム！が1983年に発表した、ファンキーで若々しいデビューアルバム。〈1〉〈4〉〈5〉〈8〉などのシングル・ヒットでアイドル的な人気を得た彼ら、当初は「影で他の人が曲作っているんじゃないの？」とイギリスのマスコミたちに疑われたそうだが、そのくらい楽曲の質は高いということ。ミラクルズのカヴァー〈3〉や、セクシーな〈6〉なども、デビュー作とは思えない出来だ。	Side A 1. バッド・ボーイズ (George Michael) 3:19 2. サンシャイン・ビート (Michael) 4:43 3. ラブ・マシーン (Pete MooreBilly Griffin) 3:19 4. ワム・ラップ (MichaelAndrew Ridgeley) 6:41	Side B 1. クラブ・トロピカーナ (MichaelRidgeley) 4:28 2. 初めての恋"Nothing Looks the Same in the Light" (Michael) 5:53 3. カム・オン (Michael) 4:24 4. ヤング・ガンス (Michael) 3:55
WHAM!	ファンタスティック		1982	ポップス	CD			
WHAM!	メイク・イット・ビッグ			ポップス	レコード	ワム!によるセカンドアルバムで、1984年にリリースされた。アルバムはイギリスとアメリカの両方で1位を記録した。日本でもオリコン洋楽アルバムチャートで1984年12月3日付から通算11週1位を獲得した[4]。4曲がシングルカットされ、全てが欧米の両方でチャートのトップとなった。「ケアレス・ウィスパー」は、イギリス以外では、シングルがリリースされたときからジョージ・マイケルのソロとしてクレジットされており、「恋のかけひき」は、次のアルバム『エッジ・オブ・ヘヴン』に後に収録されることとなる「ラスト・クリスマス」と両A面でリリースされた。	1. ウキウキ・ウエイク・ミー・アップ "Wake Me Up Before You Go-Go" - 3:50 2. 恋のかけひき "Everything She Wants" - 5:01 3. ハートビート "Heartbeat" - 4:42 4. 消えゆく思い "Like a Baby" - 4:12 5. フリーダム "Freedom" - 5:05	1. イフ・ユー・ワール・ゼア "If You Were There" - 3:38 2. アイズレー・ブラザーズ作曲 3. クレジット・カード・ベビー "Credit Card Baby" - 5:08 4. ケアレス・ウィスパー "Careless Whisper" - 6:30
WHAM!	エッジ・オヴ・ヘブン		1986	ポップス	レコード	解散表明後の1986年にリリースしたラスト・アルバムには、北京でのライヴ音源「ブルー」のほか、「ラスト・クリスマス」「ディファレント・コーナー」といった定番の名曲全8曲を収録		
WILD HORSES	ザ・ファースト・アルバム		1980	ハードロック &ヘヴィ メタル	レコード	80年作。ワイルド・ホーズのアルバム。NWOBHMが光速の如く盛り上がりろうとしていた時代、男臭い世界を華やかに彩ったバンドの一つです。元THIN LIZZY、元RAINBOWのメンバーが結成したスーパードゥーグループ的な感じで紹介され、日本ではメンバーのルックスと、親しみやすいポップ・センスにより、女性人気も高く一躍メタル界のアイドル的存在となる。サウンドとしてはシン・リジィからの影響が強く、幅広い音楽性がこのバンドのイメージを曖昧にしていたのかもしれませんが、メタル・バンドというよりはブリテンッシュ・ロックの集大成的なセンスが、ある意味通好みと言えたと思います。ジミー・ペインのちょっと可愛いヴォーカル、ブライアン・ロバートソンのむせび泣くギターとクールな声、そして脇を固めるニール・カーターとクワイヴ・エドワーズの職人ぶりも見事でした。フィル・ライノットとジミーの共作となったポップ・バラード「FLYAWAY」はNWOBHM隆盛期に残る名曲。同時期の多くのバンドがメタリックな音に集約されていたのに対し、あくまでも英国的な引きの魅力を持ちあわせていたと強く感じます。		
WILSON BROS	アナザー・ナイト		1979	AOR	レコード	1979年作品。スティーヴ・ルカサーのギターがクールに炸裂するAAORの名作。イングランド・ジョン&ジョン・フォード・コーリーらに楽曲を提供し、ヒットを記録したスティーヴとケリーのソングライター・チーム・ウィルソン・ブラザーズが、79年に残したワン&オンリー作。自らのメロディに加え、トッド・ラングレンらの楽曲を採り上げたり、ヴォーカル/コーラス・ワークには非凡なセンスが。ほぼ全編で活躍するスティーヴ・ルカサーのギター・ワークは、数あるセッションの中でもベストに数えられるほど。	Side A 1. Feeling Like We're Strangers Again / 愛にひとりぼっち 2. Another Night / アナザー・ナイト 3. Thanking Heaven / 愛をありがとう 4. Shadows / シャドウズ 5. Just Like A Lover KNowS / 恋人たちの予感	Side B 1. Lost And A Long Way From Home / 終わりになき旅路 2. Can We Still Be Friends / 友達でいさせて 3. Ticket To My Heart / チケット・トゥ・マイ・ハート 4. Take Me To Your Heaven / 君のすべてを今夜 5. Like Yesterday / ライク・イエスタデイ
WIRE	ピンク・フラッグ		1977	ニューウェイブ	レコード	ワイヤーのデビューアルバム。1977年12月発売。1976年に結成されたワイヤーは翌1977年4月1日、ロンドンのコヴェント・ガーデンにあるThe Roxyにて行われていたパンク・フェスティバルでライヴ演奏を行った。そのパンク・フェスの演奏を音源化しようとしていた、当時EMIのA&Rだったマイク・ソーンに声をかけられ、バンドはハーヴェストと契約し、12月に本作でデビューを果たした。結成当時のメンバーは楽器にすら触ったことがない初心者だったこともあり、本作には長くて3分台、短いもので1分に満たない荒削りでパンキッシュな楽曲が収録された。また、その演奏能力を逆手に取ったミニマルなリフの繰り返しやシンプルなコード進行、基本的なロックのフォーマットを無視した曲構成や展開は、後続のアーティストに多大な影響を及ぼした。	Side A ロイター "Reuters" - 3:03 フィールド・デイ・フォー・ザ・サンデイズ "Field Day for the Sundays" - 0:28 スリー・ガール・リンバ "Three Girl Rhumba" - 1:23 エクス・ライオン・テーマ "Ex Lion Tamer" - 2:19 ロウ・ダウン "Lowdown" - 2:26 スタート・トゥ・ムーヴ "Start to Move" - 1:13 ブラジル "Brazil" - 0:41 イッツ・ソー・オビヴィアス "It's So Obvious" - 0:53 サージョンス・ガール "Surgeon's Girl" - 1:17 ピンク・フラッグ "Pink Flag" - 3:47	Side B ザ・コマーシャル "The Commercial" - 0:49 ストレイト・ライン "Straight Line" - 0:44 106 ビーツ・ザット "106 Beats That" - 1:12 ミスター・スーツ "Mr. Suit" - 1:25 ストレンジ "Strange" - 3:58 フラジャイル "Fragile" - 1:18 マネキン "Mannequin" - 2:37 ディファレント・トゥ・ミー "Different to Me" (アネット・グリーン) - 0:43 チャンプス "Champs" - 1:46 フィーリング・コールド・ラヴ "Feeling Called Love" - 1:22 "12 X U" - 1:55
WIRE	ピンク・フラッグ		1977	ニューウェイブ	CD			
WIRE	消えた椅子(チェアーズ・ミッシング)		1978	ニューウェイブ	レコード	、ワイヤーの2ndアルバム。1978年8月発売。前作でのミニマリスティックリフをフィーチャーしたサウンドを引き継いでいるものの、同時代のプログレッシブ・ロックやサイケデリック・ロック、アート・ロックを意識した複雑な曲構成を追い求めた。プロデューサーのマイク・ソーンがキーボード演奏で参加したこともあり、より表現の幅が広がった。アルバムは全英48位を記録。アルバムからのセカンドシングル「アウトドア・マイナー」は全英51位を記録した	Side A プラクティス・メイクス・パーフェクト "Practice Makes Perfect" - 4:11 フレンチ・フィルム・ブラード "French Film Blurred" - 2:34 アナザー・ザ・レター "Another the Letter" - 1:07 メン・セカンド "Men 2nd" - 1:43 マルロンド "Marooned" - 2:21 サンド・イン・マイ・ジョイント "Sand in My Joints" - 1:50 サックト・イン・アゲイン "Being Sucked in Again" - 3:14 ハートビート "Heartbeat" - 3:16	Side B マーシー "Mercy" - 5:46 アウトドア・マイナー "Outdoor Minor" - 1:44 アイ・アム・ザ・フライ "I Am the Fly" - 3:09 ミステリアス・トゥデイ "I Feel Mysterious Today" - 1:57 フロム・ザ・ナースリー "From the Nursery" - 2:58 ユースト・トゥ "Used To" - 2:23 トゥー・レイト "Too Late" - 4:14
WIRE	WIRE 154		1979	ニューウェイブ	レコード	ワイヤーの3rdアルバム。1979年9月発売。バンド最高の全英39位を記録。バンドはアルバム発表の翌年に一度目の解散をする。ちなみにアルバムタイトルの154とはアルバムリリースまでにバンドがこなしたギグの回数である。	Side A アイ・シュッド・ハヴ・ノウン・ベター "I Should Have Known Better" - 3:52 トゥー・ピープル・イン・ア・ルーム "Two People in a Room" - 2:00 15日 (ジャコブンの暴動) "The 15th" - 3:05 アザー・ウィンドウ "The Other Window" - 2:07 シングルKO "Single K.O." - 2:23 ア・タッチング・ディスプレイ "A Touching Display" - 6:55 オン・リターニング "On Returning" - 2:06	Side B ア・ミューチュアル・フレンド "A Mutual Friend" - 4:28 ブレスト・ステイト "Blessed State" - 3:28 ワンス・イズ・イナフ "Once Is Enough" - 3:23 北韓41度西経93度 "Map Ref. 41° N 93° W" - 3:40 インダイレクト・エンクワイアリーズ "Indirect Enquiries" - 3:36 40ヴァージョズ "40 Versions" - 3:28
WISHBONE ASH	光なき世界		1970	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	特にロックが限りなくジャズに接近し、即興演奏の比重が大きくなっていった時代である。だから演奏力のないバンドは淘汰されていった。そういう時代背景の中から現れた彼らは当然高いレベルの演奏テクニックを有していたのである。このアルバムは発売当時セールス面ではそれ程売れなかったようだが、内容は傑作とまではいかないが、たいへん力作である。楽曲もいかにもイギリスらしく、どこか陰影のあるメロディラインは特に日本人には受ける。3は名曲である。ソリッドで荒削りな演奏は、なんとも言い知れぬ緊張感がある。彼らの作曲能力には非凡なものを感じる。弱点を挙げるならばやはりボーカルの非力さであろう。		
WISHBONE ASH	巡礼の旅		1971	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	1971年に発表した2作目。全英アルバムチャートでは9週トップ100入りし、最高14位を記録した。アメリカでは7週にわたりBillboard 200入りを果たして、最高174位を記録した。Dave Slegierはオールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「デビュー作では、プギヤブルースだけを基盤としたロック・バンドだったが、バンドは2作目の『巡礼の旅』で、その創造力を知らしめた」[1]バンドはこのアルバムで、やや沈静化した感もあるが、ソングライティングの多様化により、印象的なギター・プレイが更なる高みに達した。ウィッシュボーン・アッシュの全アルバムの中でも『百眼の巨人アーガス』に次ぐ作品である」と評している[7]。		
WISHBONE ASH	百眼の巨人アーガス		1972	ハードロック &ヘビー メタル	レコード	イギリスでは1972年5月20日付の全英アルバムチャートで初登場3位となり、バンド唯一の全英トップ10アルバムとなって、合計20週トップ100入りした。アメリカでは13週にわたりBillboard 200入りを果たして、1972年7月29日に最高169位を記録した。ノルウェーではバンド初のアルバム・チャート入りを果たし、3週トップ40入りして最高21位を記録した。William Ruhlmannはオールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「様々なスタイルの音楽を、彼ら独自の方法で融合して個性的なサウンドを作り上げた作品」[1]「The King Will Come」や「Warrior」における中世的な感銘の歌詞は、音楽に荘厳な色を与える手法として、当時のブリティッシュ・ロック界で広く用いられていたが、これらの曲では、ツイン・リード・ギターやジャムのスペースを伴ったアレンジが巧みに機能している」と評している		

	WISHBONE ASH	百眼の巨人アーガス		1972	ハードロック&ヘビーメタル	CD			
	WOODENTOPS	ジャイアント		1986	ニューウェイブ	レコード			
	WOODSTOCK			1970	ロック	レコード	ロック・フェスの原点、ウッドストック。1969年8月に開催され、全世界に衝撃的な反響を与えたこのロック・フェスティバルは、ポピュラー・ミュージック史及びサブカルチャー史において“60年代最重要事件”の一つとして記憶され、1960年代アメリカのカウンターカルチャーを象徴する出来事として語り継がれることとなる。クロスビー、スティルス、ナッシュ・アンド・ヤング、ジミ・ヘンドリックス、サンタナ、ザ・フー、ジェファーソン・エアプレーン、テン・イヤーズ・アフター、ジョー・コッカー、キャンド・ヒート、バターフィールド・ブルース・バンド、ジョーン・バエズ他、超豪華アーティストによる名唄、名演を収めた歴史的記録作品。		
	WRECKLESS ERIC	レックレス・エリック		1978	パブロック	CD	1978年作品。1977年シングル「Whole Wide World」のヒットで、初期STIFFレーベルを代表するパブ・ロッカー&シンガーソングライターとして人気を博したレックレス・エリックの記念すべきデビュー・アルバム。イアン・デューリーやニック・ロウもプロデュースに参加したファースト・アルバム。その相当個性的なボーカルは今なお唯一無比の、パブ・ロック・ファン必携の1枚。	1. レコネ・シェリー 2. ラグスン・タターズ 3. ワックスワークス 4. テレフォーニング・ホーム 5. グロウン・アップス 6. ホール・ワイド・ワールド 7. ラフ・キッズ 8. パーソナル・ハイジン 9. プレイン・ジープス 10. セマフォア・シグナルズ	
X	X	ロサンゼルス		1980	パンク	レコード	ロサンゼルス・インディーズ・レーベル・スラッシュ・グラフィティ・リリースされたXのデビュー・アルバム。ドアーズのリーダーだったレイ・マンザレクがプロデュース。Xは1977年に別々のローカル・バンドで活動していたベース・ヴォーカルのジョン・ノマンセン・ドウシャック(John Nommensen Duchac, 1953-)とギター・ビリー・ズーム(Billy Zoom, 1948-)にドラマーのD・J・ボーンブレイク(D.J. Bonebrake, 1955-)が加わり「ラモーンズ+ロカビリー」というアイディアのパンク・バンドを試行していたところ、ジョンが詩の朗読会でナンパしてきた女性ヴォーカルのエクセネ・セルヴェンカ(Exene Cervenka, 1956-)をメンバーに加えて正式に発足したロサンゼルス・バンドです。ロカビリー風パンク・ロックというアイディアが受けて、一躍ロサンゼルス・アンダーグラウンド・シーンの人気バンドになりました。チャート上ではアメリカではトップ200入りに届かずイギリスのインディーズ・チャート14位が最高でしたが、ロサンゼルス・アンダーグラウンド・パンク・シーンの存在を知らしめた本作は、当時のグランド・グロリアス紙の年間ベスト・ロック・アルバムに選出されています。	Side A A1. Your Phone's Off the Hook, But You're Not - 2:25 A2. Johnny Hit and Run Paulene - 2:50 A3. Soul Kitchen (John Densmore, Robbie Krieger, Ray Manzarek, Jim Morrison) - 2:25 A4. Nausea - 3:40 A5. Sugarlight - 2:28	Side B B1. Los Angeles - 2:25 B2. Sex and Dying in High Society - 2:15 B3. The Unheard Music - 4:49 B4. The World's a Mess; It's in My Kiss - 4:43
	X	ワイルド・ギフト		1981	パンク	レコード	セカンド・アルバム『ワイルド・ギフト(Wild Gift)』はL. A. パンクの歴史的な名盤としてファースト・アルバム以上の評価を受けている。	Side A 1. The Once Over Twice - 2:31 2. We're Desperate (Billy Zoom) - 2:00 3. Adult Books (Billy Zoom) - 3:19 4. Universal Corner - 4:33 5. I'm Coming Over - 1:14 6. It's Who You Know - 2:17	Side B 1. In This House That I Call Home - 3:34 2. Some Other Time - 2:17 3. White Girl - 3:27 4. Beyond and Back - 2:49 5. Back 2 the Base - 1:33 6. When Our Love Passed Out on the Couch - 1:57 7. Year 1 - 1:18
	X	ブラック・サン		1982	パンク	レコード			
	X	ブラック・サン		1982	パンク	レコード			
	X			1985	パンク	レコード			
	X	エックス・アンソロジー		2006	パンク	CD	エックスのアンソロジー・アルバム。ジョン・ドウとエクセネ・セルヴェンカ:西海岸のパンクの王と女王!ハイパワーのパンカビリーから煮えたぎるアコースティックセットまで、この2枚組CDセットには最高のトラック(We're Desperate;Johnny Hit & Run Paulene)のアルバムに加え、ほとんどが未発表のデモ、アウトテイク、リハーサル、伝説的なライブショーのカット。バンドからのメモと彼らを崇拜する音楽仲間からの証言、さらにバンドメンバー自身のコレクションからの排他的な写真が含まれています。	Disc1 1Los Angeles 2The World's A Mess; It's In My Kiss 3Yr Ignition 4Year One 5Hungry Wolf 6We're Desperate 7Beyond & Back 8Back 2 The Base 9Blue Spark 10Some Other Time 11Sex And Dying In High Society 12Motel Room In My Bed 13Heater 14The Once Over Twice 15Because I Do 16In This House I Call Home 17Soul Kitchen Side A 1. Radios in Motion(Andy Partridge) 2:54 2. X Wires (Colin Moulding) 2:06 3. This Is Pop? (Andy Partridge) 2:41 4. Do What You Do (Colin Moulding) 1:16 5. Statue of Liberty (Andy Partridge) 2:55 6. All Along the Watchtower (Bob Dylan) 5:43	Disc: 2 1The New World 2Breathless 3Poor Girl 4What's Wrong With Me 5How I (Learned My Lesson) 6The Have Nots 7Someone Like You 8The Stage 9See How We Are 10Surprise Surprise 114th Of July 12Arms For Hostages/Country At War 13Wild Thing 14Burning House Of Love 15Devil Doll 16True Love 17Call Of The Wreckin' Ball
	XTC	気楽にいこうぜ		1978年1月20日	ニューウェイブ	レコード	1978年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCのファースト・アルバム。元のタイトルは「ブラック・ミュージック」であり、ブラックユーモアと同じ理由でアンディは気に入っていたが、黒人音楽と間違われる可能性を危惧して、白人のやっている音楽という意味を込めて「ホワイト・ミュージック」に変更される。		
	XTC	気楽にいこうぜ (デジタルリマスター ペーパースリーブ仕様)		978年1月20日	ニューウェイブ	CD		以下、CDボーナス・トラック 13. Science Friction (Andy Partridge)3:13 14. She's So Square (Andy Partridge) 3:06 15. Dance Band (Colin Moulding)2:41 16. Hang on to the Night (Andy Partridge) 2:09 17. Heatwave (Colin Moulding) 2:12 18. Traffic Light Rock (Andy Partridge) 1:40 19. Instant Tunes (Colin Moulding) 2:34	
	XTC	GO 2		978年10月6日	ニューウェイブ	レコード	1978年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCのセカンド・アルバム。タイトルは、日本の囲碁に由来する。	1.「Meccanik Dancing (Oh We Go!）」Andy Partridge2:34 2.「Battery Brides (Andy Paints Brian)」Andy Partridge4:35 3.「Buzzcitty Talking」Colin Moulding2:40 4.「Crowded Room」Colin Moulding2:53 5.「The Rhythm」Colin Moulding2:58 6.「Red」Andy Partridge3:01	7.「Beatown」Andy Partridge4:35 8.「Life Is Good In The Greenhouse」Andy Partridge4:41 9.「Jumping In Gomorrah」Andy Partridge2:03 10.「My Weapon」Barry Andrews2:20 11.「Super-Tuff」Barry Andrews4:24 12.「I Am The Audience」Colin Moulding3:38
	XTC	GO 2		1978年10月6日	ニューウェイブ	レコード			

	XTC	GO 2		1978年10月6日	ニューウェイブ	レコード			
	XTC	ドラムス・アンド・ワイヤーズ		1979年8月17日	ニューウェイブ	レコード	1979年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCの3枚目のアルバム。このアルバムでは前作までキーボードを担当していたバリー・アンドリュースからデイヴ・グレゴリーにメンバー変更があった。ドラム音が重要だったことと、方向性が金属的であることから、タイトルは「ドラムと金属針」となっている。	Side A 1. Making Plans for Nigel (Colin Moulding) 4:13 2. Helicopter (Andy Partridge) 3:54 3. Day in Day Out (Colin Moulding) 3:46 4. When You're Near Me I Have Difficulty (Andy Partridge) 3:20 5. Ten Feet Tall (Colin Moulding) 3:12 6. Roads Girdle the Globe (Andy Partridge) 5:11	Side B 1. Real by Reel (Andy Partridge) 3:46 2. Millions (Andy Partridge) 5:37 3. That is the Way (Colin Moulding) 3:12 4. Outside World (Andy Partridge) 2:40 5. Scissor Man (Andy Partridge) 3:59 6. Complicated Game (Andy Partridge) 4:53
	XTC	ブラック・シー		1980年9月12日	ニューウェイブ	CD	1980年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCの4枚目のアルバム。ニューウェーブ全盛期に異端の目で見られながら、のちに大きな影響力を与えるに至ったXTCらしい、ひねくれたポップ満載の1枚。当時、売れっ子プロデューサーだったスティヴ・リリーホワイト(のちにU2なども手がける)の、リズムを主体としたプロデュースを受けて、革新的なアルバムに仕上がった。特に聞き手を圧倒するアルバム出だし3曲は、王道であるブリティッシュポップから、ワールドミュージックらしい複雑なリズムの演奏へと変奏する驚くべき展開。今なお色褪せることなく、XTCの革新性を感じられる1枚である。タイトル候補はいくつかあったが、結局は海に関連した「ブラック・シー」が適当につけられ、ジャケットも潜水服を着ている。	1. レスベクタブル・ストリート (Andy Partridge) 3:37 2. ジェネラルズ・アンド・メイジャーズ (Colin Moulding) 4:04 3. リヴィング・スルー・アナザー・キューバ (Andy Partridge) 4:44 4. ラヴ・アット・ファースト・サイト(Colin Moulding) 3:07 5. ロケット・フロム・ア・ボトル (Andy Partridge) 3:30 6. ノー・ラングエイジ・イン・アワ・ラングス (Andy Partridge) 4:52	7. スモークレス・ゾーン (Andy Partridge) 3:50 8. ドント・ルーズ・ユア・テンパー (Andy Partridge) 2:32 9. ザ・ソナンプリスト (Andy Partridge) 4:38 10. タワーズ・オブ・ロンドン (Andy Partridge) 5:23 11. ベイバー・アンド・アイアン (Andy Partridge) 4:17 12. パーニング・ウィズ・オブティミズム・フレイムス(Andy Partridge) 4:15 13. サージェント・ロック (Andy Partridge) 3:56 14. ドラヴェルズ・イン・ニヒロン(Andy Partridge) 6:56
	XTC	イングリッシュ・セツルメント (デジタルリマスター ペーパースリーブ仕様)		1982年2月12日	ニューウェイブ	CD	1982年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCの5枚目のアルバム。オ・アルバム。XTCの最高傑作にあがる本作。特に、純英国的なディが全面に展開されているアルバム。1、2と、コリンのキャッチーな曲から入るところが、意外性がある面白い。そこから、静と動が交錯するプロレシッな3、コーラスが折り重なって幻想的に盛り上げてくる4(個人的ハイライト)、超ハイテンション、血管ぶちきれそうな歌が凄いと、アンティ節炸裂。ただ、そこまでがあまりにクリティが高すぎて、後半も素晴らしい曲が多い。静謐で凝ったリズムのたゆたうような6等、名曲揃い。ゲートリバーブの一点突破ではなく、もっと複雑なビートとリズムを多用し、ドラムの音色への拘りよりも、ビートやリズムの組み立て方そのものが複雑なものに変わっており、ワールド・ミュージック的なリズムの導入が図られている。また、ビートの大きな変化は曲作りや他のアレンジにも影響をもたらしている。ソングライティングについては、さらに複雑で捻くれまくったメロディーを奏でようになってきたし、ギターについてもアコースティックギターが大幅に導入されている。キーボードも楽曲全体のパラנסを整えることに重点が置かれるように変化してきている。こうした変化はアルバム全体でいつの作品を作り上げる意識をも強め、コンセプトアルバムとまではいかないにしても、70年代後半の初期パンク出身のバンドとは全く思えないモダンポップの理想形とも言える大傑作である。これはXTCの最高傑作である。	1. Runaways (Colin Moulding) 4:34 2. Ball and Chain (Colin Moulding) 4:32 3. Senses Working Overtime (Andy Partridge) 4:50 4. Jason and the Argonauts (Andy Partridge) 6:07 5. No Thugs in Our House (Andy Partridge) 5:09 6. Yacht Dance (Andy Partridge) 3:56	7. All of a Sudden (Andy Partridge) 5:21 8. Melt the Guns (Andy Partridge) 6:34 9. It's Nearly Africa (Andy Partridge) 3:55 10. Knuckle Down (Andy Partridge) 4:28 11. Fly on the Wall (Colin Moulding) 3:19 12. English Roundabout (Colin Moulding) 3:59 13. Snowman (Andy Partridge) 5:03
	XTC	ママー		1983年8月30日	ニューウェイブ	レコード	プロデューサーにスティヴ・ナイとボブ・サージエントを迎えて制作した6枚目のアルバム。録音中にテリー・チェンバースが脱退してドラムスがピーター・フィリップスの代打となっていることとアンディの神経衰弱によるためか、これまでのXTCと比べると極めてフォーク的なアプローチが目立つアルバム。特にコリン・ムールディングの活躍が目覚ましく、グループでも最高の名曲の一作、(84') バンドを一段上の段階に持っているだけに血、即ち気骨が重要と語っていたことを裏付けるように、キャリア的に見ても最もアグレッシブかつハードな仕上がりで、ガシガシ刻まれるリズムに蘇生したかのようなパートリッジのボーカルが効いている。彼らの場合、伝統的なブリティッシュビートを踏襲した曲と、如何にもニューウェーブ然とした革新的なサウンドに分かれるが、今回は明らかに後者の要素が上。スリしたギターのカッティングが秀逸なWAKE UP、ハワード・ジョーンズにも通じる哀愁漂うTHIS WORLD OVER、ジャケットをそのまま音にしたようなTRAIN RUNNING LOW ON SOUL COALなんかがまさにそう。マニアックな展開の曲が多かったりであり商業的な成功を狙った内容とは思えないが、その割にシンセ類の多用や、ブラック・シー以上に顕著になったゲートリバーブのせいで、実は最もメジャーに近いサウンドだったりする。まあ方向性が完全に定まっていたわけではないみたい。勢いが空回りしたのか一部で捨て曲も見られる。なのでついつい“快速モード”で聴いてしまうのだが、音作りのユニークさは彼らの中でもぶっぎり面白さ。NWバンドとしてはこの辺りがピークだったのでしょう。	Side A 1. ビーティング・オブ・ハーツ 03:54 2. ワンダーランド 04:48 3. ラヴ・オン・ア・ファームボーイズ・ウェイジズ 03:57 4. グレイト・ファイアー 03:46 5. デリヴァー・アス・フロム・ジ・エレメンツ 04:34	Side B 1. ヒューマン・アルケミー 05:09 2. レイディバード 04:31 3. イン・ラヴィング・メモリー・オブ・ア・ネーム 03:14 4. ミー・アンド・ザ・ウインド 04:15 5. ファンク・ポップ・ア・ロール 03:12
	XTC	ザ・ビッグ・エクスプレ ス(デジタルリマス ター ペーパースリー ブ仕様)		1984年10月15日	ニューウェイブ	レコード	1984年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCの7枚目のアルバム。XTCがコンサート活動の停止を宣言する直前にリリースした通算7作目のいわくつきのアルバム。前作では神経症とかで元気のなかったアンディ・パートリッジが、リーダーとしての意地を見せつけた渾身の一作、(84') バンドを一段上の段階に持っているだけに血、即ち気骨が重要と語っていたことを裏付けるように、キャリア的に見ても最もアグレッシブかつハードな仕上がりで、ガシガシ刻まれるリズムに蘇生したかのようなパートリッジのボーカルが効いている。彼らの場合、伝統的なブリティッシュビートを踏襲した曲と、如何にもニューウェーブ然とした革新的なサウンドに分かれるが、今回は明らかに後者の要素が上。スリしたギターのカッティングが秀逸なWAKE UP、ハワード・ジョーンズにも通じる哀愁漂うTHIS WORLD OVER、ジャケットをそのまま音にしたようなTRAIN RUNNING LOW ON SOUL COALなんかがまさにそう。マニアックな展開の曲が多かったりであり商業的な成功を狙った内容とは思えないが、その割にシンセ類の多用や、ブラック・シー以上に顕著になったゲートリバーブのせいで、実は最もメジャーに近いサウンドだったりする。まあ方向性が完全に定まっていたわけではないみたい。勢いが空回りしたのか一部で捨て曲も見られる。なのでついつい“快速モード”で聴いてしまうのだが、音作りのユニークさは彼らの中でもぶっぎり面白さ。NWバンドとしてはこの辺りがピークだったのでしょう。	Side A 1. 目を覚ませ 2. 僕のブリティ・ガール 3. ロバになったおまえ 4. カモメの叫び 5. 失われた世界にて	Side B 1. スモールタウン物語 2. ウソつき鳥 3. 権力国家 4. 君が欲しい 5. 太陽のある情景 6. 停まらない石炭列車
	XTC	ザ・ビッグ・エクスプレ ス(デジタルリマス ター ペーパースリー ブ仕様)		1984年10月15日	ニューウェイブ	CD	1984年にヴァージン・レーベルからリリースされた XTCの7枚目のアルバム。XTCがコンサート活動の停止を宣言する直前にリリースした通算7作目のいわくつきのアルバム。前作では神経症とかで元気のなかったアンディ・パートリッジが、リーダーとしての意地を見せつけた渾身の一作、(84') バンドを一段上の段階に持っているだけに血、即ち気骨が重要と語っていたことを裏付けるように、キャリア的に見ても最もアグレッシブかつハードな仕上がりで、ガシガシ刻まれるリズムに蘇生したかのようなパートリッジのボーカルが効いている。彼らの場合、伝統的なブリティッシュビートを踏襲した曲と、如何にもニューウェーブ然とした革新的なサウンドに分かれるが、今回は明らかに後者の要素が上。スリしたギターのカッティングが秀逸なWAKE UP、ハワード・ジョーンズにも通じる哀愁漂うTHIS WORLD OVER、ジャケットをそのまま音にしたようなTRAIN RUNNING LOW ON SOUL COALなんかがまさにそう。マニアックな展開の曲が多かったりであり商業的な成功を狙った内容とは思えないが、その割にシンセ類の多用や、ブラック・シー以上に顕著になったゲートリバーブのせいで、実は最もメジャーに近いサウンドだったりする。まあ方向性が完全に定まっていたわけではないみたい。勢いが空回りしたのか一部で捨て曲も見られる。なのでついつい“快速モード”で聴いてしまうのだが、音作りのユニークさは彼らの中でもぶっぎり面白さ。NWバンドとしてはこの辺りがピークだったのでしょう。		
	XTC	スカイラーキング		1986年10月27日	ニューウェイブ	CD	1986年にヴァージン・レーベルとゲフィン・レーベルからリリースされた XTCの8枚目のアルバム。XTCを語る上でははずすことはできない作品。アルバムの曲順は「1日の流れ」というコンセプトで並べられており、A面は昼のイメージで比較的明るい曲、B面は夜のイメージで暗めの曲が配置されている。曲自体は静かで穏やかなものが多い。そして、アコースティックな感覚を前面に出した曲はバンドの音とは言えない。一聴すると地味であり、彼らの他の作品と比較してもインパクトはあまり感じられないのだが、聞き込むほどに味がでて、最後には一音たりと無駄がない完璧なポップ・アルバムということに気付かされる。スルメのような作品である。レコーディング中のトッド・ラングレンとアンディ・パートリッジの衝突が生んだ結果なのかもしれないが、穏やかな曲が並んでいるにも拘わらずアルバム全体から感じられる張り詰めた緊張感は凄い。XTCのアルバムの中でも完成度の高さは随一である。ライブ活動を停止し、“レコーディングだけのバンド”となったXTCでなければ生み出すことが出来なかった傑作である。	1. サーマーズ・ゴールドロン 2. グラス 3. ザ・ミーティング・プレイス 4. スーパー、スーパーガール 5. バレエ・フォー・ア・レイニー・デイ 6. 1000アンブレラズ 7. シーズン・サイクル	8. アーン・イナフ・フォー・アス 9. ビッグ・ディ 10. アナザー・セサライト 11. マーメイド・スマイルド 12. ザ・マン・フォー・セイルド・アラウンド・ヒズ・ソウル 13. ダイング 14. サクリフィシャル・ボンファイアー
	XTC	オレンジズ・アンド・レ モンズ (デジタルリマスター ペーパースリーブ仕 様)		1989年2月27日	ニューウェイブ	CD	1989年にヴァージン・レーベルからリリースされたXTCの9枚目のアルバム。きつとコンセプトはサイケデリックなのだろう。露骨にそれと分かるジャケットからもその意気込みが伝わってくる。トッド・ラングレンと作り上げた前作「スカイラーキング」はXTCとしては異色のアルバムではありながらも紛れもない傑作だった。アンディはその仕上がりに激怒したらしいが、改めて「スカイラーキング」を仕切り直したのが、このアルバムだと思つてよいと思う。タイトルは前作収録の名曲中の名曲「Ballet For Rainy Day」の歌詞の冒頭からとられている。かなりXTCらしい毒気を取り戻した作品であり、怒りながらも、当てつけのようにも感じるほど完成度の高い曲が、かつバラエティ豊かに並んでいるアルバムである。特に前半の流れは曲の完成度も相まってため息が出るほど素晴らしい。1. ではタブラなどのインド・パーカッションとテープの逆回転風フレーズが飛び出し、2. では必殺のポップ・ナンバーが聞き手の頬を殴りつけるかのような衝撃を与えてくれる。3. も激ポップな曲。4.はプラスが登場するし、本アルバムのハイライトの一つと言える。5. もサイケ時代のビートルズを曲、スピリット共々に感じる素晴らしい出来である。アレンジがかなり凝っているためか、後半はややくだい印象も受けるが、XTCを語る上でも絶対に必要な代表作の一つだと思ふ。	1. ガーデン・オブ・アスリイ・ディライツ 2. メイヤー・オブ・シンブルトン 3. キング・フォー・ア・ディ 4. ヒア・カムズ・プレジデント・キル・アゲイン 5. ザ・ラヴィング 6. プラ・スケルトン・ステップス・アウト 7. ワン・オブ・ザ・ミラリオンズ	8. スケアクロウ・ビーブル 9. ミアリ・ア・マン 10. シニカル・デイズ 11. アクロス・デイズ・アンシーブ 12. ザ・マン・フォー・セイルド・アラウンド・ヒズ・ソウル 13. ダイング 14. ミニチュア・サン 15. チョークヒルズ・アンド・チルドレン
	XTC	シングلز・コレクショ ン 1977-82		1982年11月	ニューウェイブ	レコード	XTCが1982年にリリースしたコンピレーション・アルバム。1977年～1982年に発売したシングル盤を収録したベスト盤。	1. Science Friction ~ 3:12 2. Statue Of Liberty (自由の女神像) ~ 2:24 3. This Is Pop (これはポップですか) ~ 2:39 4. Are You Receiving Me (あなたは私を受け入れていますか) ~ 3:03 5. Life Begins At The Hop (人生はホップで始まる) ~ 3:45 6. メイキング・プラン・フォー・ナイジェル ~ 3:53 7. Wait Till Your Boat Goes Down ~ 4:34	1. Generals and Majors ~ 3:42 2. Towers of London ~ 4:38 3. Sgt. Rock (Is Going to Help Me) ~ 3:36 4. Senses Work Overtime ~ 4:33 5. Ball and Chain ~ 4:30
	XTC	シングلز・コレクショ ン 1977-92		1996年9月	ニューウェイブ	CD	1996年にリリースされたXTCによる英国のコンピレーションアルバムです。シングルのA面が全曲収録。1982年の『Waxworks: Some Singles 1977-1982』、1985年の『The Compact XTC』に続く3枚目のグレイテスト・ヒッツ・アルバムとなった。ヴァージン・レコードのUKシングル31曲全てを年代順に収録している。特に前半は捨て曲一切なしのウルトラ・クレイジー・ポップのオン・パレード。	ディスク1 1. Science Friction ~ 3:14 2. 自由の女神 ~ 2:52 3. これはポップですか? ~ 2:40 4. あなたは私を受け入れていますか? ~ 3:04 5. 人生はホップで始まる” (コリン・モールドディング) ~ 3:47 6. Making Plan for Nigel” (モールドディング) ~ 4:12 7. Ten Feet Tall” (モールドディング) ~ 3:13 11. Sgt. Rock (Is Going to Help Me)” ~ 4:20 9. Generals and Majors” (モールドディング) ~ 3:36 10. Towers of London” ~ 4:38 11. Sgt. Rock (Is Going to Help Me)” ~ 3:36 12. Love at First Sight” (モールドディング) ~ 3:07 13. Respectable Street” ~ 3:07 14. Senses Work Overtime” ~ 4:34 15. ボールとチェーン” (モールドディング) ~ 4:30	ディスク2 1. Great Fire” ~ 3:50 2. ワンダーランド” (モールドディング) ~ 4:15 3. Love on a Farmboy's Wages” ~ 3:59 4. All You Pretty Girls” ~ 3:59 5. This World Over” ~ 4:45 6. ウェイク・アップ (モールドディング) ~ 3:40 7. グラス (モールドディング) ~ 2:42 8. The Meeting Place” (モールドディング) ~ 3:13 9. 親愛なる神よ” ~ 3:37 10. シンブルトン市長” ~ 3:57 11. キング・フォー・ア・ディ (モールドディング) ~ 3:36 12. The Loving” ~ 3:54 13. 失望した” ~ 3:38 14. ビーター・パンクシンヘッドのバラード” ~ 5:03 15. ラッピング・イン・グレイ” ~ 3:46
	X-RAY SPEX	X光線と発砲スチロー ル		1978	パンク	レコード	1976年に結成したパンク・バンド。フロント・ウーマンのポリー・スタインがセックス・ピストルズのライヴに強く影響を受けたことが結成のきっかけとなったことは有名な話。1978年に発表したデビュー・アルバム『X光線と発砲スチロール (原題: Germ Free Adolescents)』は初期パンクの金字塔的作品として現在でもロングセラーとなっている。1995年、2作目となる『コンシャス・コンシューマー』を発表。2011年4月25日、ポリーが53歳で死去。	1. アーティフィシャル (人造物) 2. オブセッスト・ウィズ・ユー (あなたはただの...) 3. ウォリアー・イン・ウールワース (ウルウォースのパンクス共) 4. レッ・サブマージ (地下へもぐろう) 5. アイ・キャン・ドゥ・エニシング (何もできない...) 6. アイデンティティ	1. ジェネティック・エンジニアリング (技術の紀元) 2. アイ・リヴ・オフ・ユー (人は誰かにたよって) 3. アイ・アム・ア・ボーザー (気どり屋) 4. ジャーム・フリー・アダルセンツ (殺菌時代) 5. プラスティック・パンク 6. ザ・ディ・ザ・ワールド・タンド・デイグロウ (未来社会の狂気)

	X-RAY SPEX	X光線と発砲スチロール		1978	パンク	レコード		1. Oh Bondage! Up Yours! 2. I Am A Cliche 3. Day The World Turned Day-Glo 4. I Am A Poseur 5. Identity 6. Lets Submerge 7. Germ Free Adolescents 8. Age 9. Obsessed With You 10. Genetic Engineering 11. I Live Off You 12. Art-I-Ficial	13. I Can't Do Anything 14. Plastic Bag 15. Highly Inflammable 16. Warrior In Woolworth 17. Prefabricated Icon (Rough Mix) 18. I Can't Do Anything (Instrumental) 19. Warrior In Woolworth (Instrumental) 20. Genetic Engineering (Rough Mix) 21. Art-I-Ficial (Rough Mix) 22. I Live Off You (Rough Mix) 23. Obsessed With You (Rough Mix) 24. Lets Submerge (Rough Mix)235. Identity (Rough Mix) 25. The Day The World Turned Day-Glo (Rough Mix)
Y	YACHTS				ニューウェイブ	レコード			
	YACHTS	情熱の航海			ニューウェイブ	レコード			
	YACHTS				ニューウェイブ	レコード			
	YARDBIRDS	ファイヴ・ライヴ・ヤードバース		1964年12月	ロック	CD	ヤードバースのデビュー・アルバム。1964年に録音・発表したライブ・アルバム。1964年3月にマーキー・クラブで録音が行われた。同年6月発売のデビュー・シングル「アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド」(ビリー・ボーイ・アーノルド、10月発売のセカンド・シングル「グッド・モーニング・リトル・スクールガール」(サニー・ボーイ・ウィリアムソン世のカヴァー)を経て、12月に本作がリリースされた。本作のためのライブ録音では、「アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド」もセットリストに入っていたが、ポール・サミュエル＝スミスが誤ってテープから消してしまったため、未収録になったという。また、本作に収録された「グッド・モーニング・リトル・スクールガール」のライブ録音は、シングル・ヴァージョンとは異なり、エリック・クラプトンとサミュエル＝スミスがリード・ボーカルを担当した。 本作は当時アメリカでは発売されず、クラプトン脱退後の1965年11月に発売されたアメリカ企画のアルバム『ハヴィング・ア・レイヴ・アップ』には、本作から「スモークスタック・ライトニング」、「リスペクタブル」、「アィム・ア・マン」、「ヒア・ティス」の4曲が収録された。「演奏の面でも音質の面でも、1960年代中期としては最良のライブ・レコードである」と評している	1. トゥー・マッチ・モンキー・ビジネス (Chuck Berry) - 3:52 2. アイ・ガット・ラヴ・イフ・ユー・ウオント・イツ (Slim Harpo) - 2:40 3. スモークスタック・ライトニング (Howlin' Wolf) - 5:35 4. グッド・モーニング・リトル・スクールガール (Sonny Boy Williamson) - 2:44	5. リスペクタブル (O'Kelly Isley, Ronald Isley, Rudolph Isley) - 5:35 6. ファイヴ・ロング・イヤーズ (Eddie Boyd) - 5:21 7. プリティ・ガール (Elias McDaniel) - 3:00 8. ルイズ (John Lee Hooker) - 3:43 9. アィム・ア・マン (E. McDaniel) - 4:33 10. ヒア・ティス (E. McDaniel) - 5:11
	YARDBIRDS	フォー・ユア・ラヴ		1965	ロック	CD	エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ジミー・ペイジという3大ギタリストが相次いで参加したバンドとして知られるヤードバースのファースト(65年)。初の大ヒット「フォー・ユア・ラヴ」を受けて米エピック・レコードが音源を寄せ集めて独自の編集で1枚のアルバムに仕上げたもので、内訳は新旧の英米シングル音源+ジェフ・ベック加入後の新録音などで構成され、デビュー時のギタリストであるクラプトンと2代目のベック双方のプレイが混在する1枚となっている。アメリカのデビューアルバム11曲にボーナストラック13曲を追加している。	1For Your Love 2I'm Not Talking 3Putty (In Your Hands) 4I Ain't Got You 5Got To Hurry 6I Ain't Done Wrong 7I Wish You Would 8A Certain Girl 9Sweet Music(Take 3) 10Good Morning Little Schoolgirl 11My Girl Sloopy 12Baby What's Wrong 13Boom Boom	14Honey In Your Hips 15Talkin' 'Bout You 16I Wish You Would(long Version) 17A Certain Girl(Alternate Take) 18Got To Hurry(Take 4) 19Sweet Music(Take 4) 20Heart Full Of Soul(Sitar Version) 21Steeled Blues 22Paff Bumm(German Issue) 23Questa Volta 24Paff Bumm(Italian Version)
	YARDBIRDS	ハヴィング・ア・レイヴ・アップ		1965	ロック	CD	1965年にリリース。エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ジミー・ペイジという3大ギタリストが相次いで参加したバンドとして知られるヤードバースのアメリカでのセカンド。当時は本国イギリスとアメリカではアルバムの内容が違った A面はジェフ・ベックが参加してからの曲で、B面はエリック・クラプトン在籍時のものからなる。 大ヒット「ハート・フル・オブ・ソウル」「アィム・ア・マン」を収め、リリース前後の全米ツアーも奏功してベストセラーとなった。前半がベックをフィーチャーした英米でのシングル、後半がクラプトンを軸とする英ファーストからのピックアップ曲で構成。初期のナマの魅力とポップ指向のスタジオ曲がコンパクトに楽しめる内容だ。また、4曲目の「Still I'm Sad」は、リッチーブラックモア率いるレインボウのファーストアルバムとライブ盤『On Stage』でも演奏されている曲。	1Mr. Your A Better Man Than I 2Evil Hearted You 3I'm A Man 4Still I'm Sad 5Heart Full Of Soul 6Train Kept A Rollin' 7Smokesatck Lightning 8Respectable 9I'm A Man 10Here 'Tis	11Shapes Of Things 12New York City Blues 13Jeff's Blues(Part 1) 14Someone To Love(Part 1) 15Someone To Love(Part 2) 16Like Jimmy Reed Again 17Chris Number 18What Do You Want 19Here 'Tis 20Here 'Tis(Version For Rsg) 21Stroll On
	YARDBIRDS	ロジャー・ジ・エンジニア		1966年7月15日	ロック	レコード	ヤードバースにとって2作目だが、スタジオでレコーディングされた新作アルバムとしては最初のアルバム。プロデューサーはポール・サミュエル・スミスおよびサイモン・ネビア＝ベル。全英20位、全米52位を記録。 本作の正式なタイトルは『Yardbirds』であり、「ロジャー・ジ・エンジニア」というタイトルは本作の表ジャケットのイラストに書かれた一文から採られた通称であったが、いつしかこちらの呼称が一般的になり、現在では正式にこのタイトルで扱われている。ジェフ・ベックがリードギタリストとして在籍していたグループ最盛期の頃の作品。彼らのルーツであったブルースの他、インド音楽やグレゴリオ聖歌、トラッド・フォークといった様々な音楽の要素を取り入れた実験的な作風。歌詞は主にキース・ルーフによるものである。アルバムジャケットのアートワークはクリス・ドレーヤ、ライターノーツはジム・マッカーティがそれぞれ担当。タイトルの由来になった「ロジャー・ジ・エンジニア」とは、本作のレコーディング・エンジニアであるロジャー・キャメロンのことである。尚、本作のリリースを待たずにサミュエル＝スミスがバンドを脱退、ベックもこの年の12月に脱退したため、このラインナップでのアルバムは、本作が唯一となっている。	Side A 1. ロスト・ウィメン 3:16 2. オーヴァー・アンダー・サイドウェイズ・ダウン 2:24 3. ナッツ・ア・ブルー(いつも一人ぼっち) 3:04 4. アイ・キャント・メイク・ユア・ウェイ(空しい人生) 2:26 5. ラック・マイ・マインド(恋の傷あと) 3:15 6. フェアウェル 1:29	Side B 1. ホット・ハウス・オブ・オマガラーシッド 2:39 2. ジェフズ・ブギー 2:25 3. ヒーズ・オールウェイズ・ゼア(悲しきだめ) 2:15 4. ターン・イントウ・アース(さすらう心) 3:06 5. ホワット・ドゥ・ユー・ウオント(君のためなら) 3:22 6. エヴァー・シンス・ザ・ワールド・ビギン(愛がなければ) 2:09
YARDBIRDS	リトル・ゲームス		1967	ハードロック&ヘビーマタル	レコード	67年作「ヤードバースのオリジナル・スタジオ・アルバム」としては最後の作品で、4代目ギタリストとなったジミー・ペイジ主導による意欲的ポップ作です。クラプトンの抜けた穴を埋めるべく誘われたペイジは、その座をジェフ・ベックを推し、後にベーシストとして自身は参加する事になりますが、ここでは単なるギタリストとしてではなく、いよいよ実験性に満ちたセンスを開花させています。ポップ展開を強いられた事からも、バンドはザ・フーそのまんまの「Tinker Tailor Soldier Sailor」、「Drinking Mauddy Water」におけるペイジお得意となるブルース改作路線、王道プリティッシュ・ポップ節が炸裂した「Ha Ha Said The Clown」、ビートルズ風のサイケ・ポップ、「Goodnight Sweet Josephine」等、かなりシングル・ヒットを狙ったメロディが目立ちます。ただ本作はやはり後にツェッペリンへと確実に繋がる、ペイジのセンスが聴き所になっています。アルバム・タイトル曲はジョン・ボー・ジョーンズがアレンジャーとしてチェロを導入、更に、シタール、タブラ、オーボエを大胆に使用した「White Summer」、ヴァイオリンの弓を使ったプレイが印象的な「Glimmses」では、完全なるツェッペリン・サウンドをすでに確立しています。後にエアロスミスがカヴァーする「Think About It」は、本作中最もハードなナンバーで、疾走するヘヴィ・ブルースのスタイルをもここに成立。エフェクトの多用や、当時の最先端技術に頼ったせいか、かなりサイケ、フラワームーヴメントに歩み寄った感もあるが、ツェッペリンへの大いなる一歩としてかなり興味深く聴けるアルバム。			
YARDBIRDS	ベスト・オブ・ヤードバース		1994	ロック	CD	この盤に収録されている曲にこそ彼らの魅力があるとと言ってもいい。エアロスミスやDrフィールグッド等70年代のバンドがカバーしているブルーススタンダードは彼らから引き継いだ孫請けのような名曲と証明できる盤。現在では「フォー・ユア・ラブ」「ハヴィング・レイヴ・アップ」が再発されているが、その2枚を1枚でカバーできる重宝なベスト盤。	1ハートせつなく 2フォー・ユア・ラヴ 3トレイン・ケプト・ア・ローリン 4シェイプス・オブ・シングス 5いじわるな娘 6グッド・モーニング・リトル・スクールガール 7アィム・ア・マン 8スティル・アィム・サッド 9アィム・ノット・トーキング 10アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド 11マイ・ガール・スルービー 12ア・ソング・オブ・ロマン		
YAZOO	オンリー・ユー		1982	エレクトロニクス	レコード	1981年英国エセックスで結成されたポップ・デュオ、ヤズー。デベッシュ・モードの結成メンバーであったヴィンス・クラークと、ソウルフルな声を持つヴォーカリスト、アリソン・モイエからなるヤズーは、英国ではMute Records、アメリカではSire Recordsと契約し、1982年にデビュー・アルバム「UPSTAIRS AT ERIC」を発表。全英アルバム・チャートの2位を獲得したこのアルバムからは、「Only You」や「Don't Go」などのヒット・シングルが世に送り出された。ソウルフルでエモーションalヴォーカルと、シンセ・ポップを組み合わせた斬新なサウンドで当時のミュージック・シーンにセンセーションを巻き起こしたヤズーの原点とも言える全英2位の大ヒット・アルバム。スタンダード・ナンバーとして数多くのミュージシャンに愛される「オンリー・ユー」、ダンス・ヒット・チューン「ドント・ゴー」、「シチュエーション」の3大ヒット曲を収録	Side A 1. Don't Go 2. Too Pieces 3. Bad Connection 4. I Before E Except After C 5. Midnight 6. In My Room	Side B 1. Only You 2. Goodbye 70's 3. Tuesday 4. Winter Kills 5. Bring Your Love Down (Didn't I)	
YAZOO	オンリー・ユー		1982	エレクトロニクス	CD				
YAZOO	愛にさよなら		1982	エレクトロニクス	レコード	ファーストと比べ、ストレートにキャッチーで＝ゾリ＝の良い曲が少ない、どちらかと言うとアリソンのブルースシンガーとしての音楽的方向性を前に押し出した感じの内容で、ボーカルに倣っていたALISONが曲の半分を書くようになり、それが前作とは違う深みをもたらしたのだと思います。Vince のエレクトロ路線は控えめ。VINCEの曲はここでは若干地味な印象です。結果としてALISONの曲の方が目立つ構成で、作曲に関しても非凡なことを証明しています。前作がVINCEのアルバムなら本作はALISONのアルバムということがいえる。エレポップでありながら非常に落ち着いたトーンで構成されており、ポップスターになる願望がなかったという彼女の発言を裏付けるような内容です。 尚、英盤と米盤では収録曲に差異があり、前者には珍しくVINCEがボーカルをとる“HAPPY PEOPLE”を、後者にはシングル“NOBODY’ S DIARY”のB面にも収録されていたダンスナンバー“STATE FARM”が収録されています。	1Nobody's Diary4:30 2Softly Over4:01 3Sweet Thing3:41 4Mr. Blue3:24 5Good Times4:18 6Walk Away From Love 3:18	7Ode To Boy3:35 8Unmarked3:34 9Anyone3:24 10Happy People2:56 11And On3:12	

YES	イエス・ファースト・アルバム		1969年7月25日	プログレ	レコード	このデビュー・アルバムではサイケデリックなボーグ・ロックといった趣の音楽を披露している。ジョン・アンダーソン、クリス・スクワイア、ピーター・バンクスの厚みのあるコーラス、トニー・ケイのグルーヴ感のあるオルガン、ジャズの影響が顕著なバンクスのギター・ソロなどが印象的である。スクワイアとビル・ブルフォードのリズム・セクションは既にバンドのトレード・マークとなるほどの個性があり、バンクスのギターはウェス・モンゴメリーからビート・タウンゼントまでを自由に往来するような振幅の広さがある。 全8曲の収録曲のうち、2曲がカバー作品。「アイ・シー・ユー」の原曲はパーズのアルバム『霧の五次元』(1965年)、「エヴリ・リトル・シング」の原曲はビートルズのアルバム『ビートルズ・フォー・セール』(1964年)に収録された。これらの曲には大胆なアレンジによる再構築が施された。6曲のオリジナル曲の作者にはアンダーソンかスクワイア、もしくは両者が記されている。「ハロルド・ランド」とはジャズ・サクソ奏者の名前であり、ブルフォードのアイデアで曲名になった[1]。「ビヨンド・アンド・ピフォア」「スウィートネス」では、イエスの前身「メイベル・グリアーズ・トイショップ」のギタリストのクライヴ・ペイリーが共作者に記されている。「ビヨンド・アンド・ピフォア」はスクワイアがメイベル・グリアーズ・トイショップに在籍中にペイリーと共作したサイケデリック・ソングである。	Side A 1. ビヨンド・アンド・ピフォア 2. アイ・シー・ユー 3. 昨日と今日 4. ルッキング・アラウンド	Side B 1. ハロルド・ランド 2. エヴリ・リトル・シング 3. スウィートネス 4. サヴァイヴァル
YES	イエス・サード・アルバム		1971年3月19日	プログレ	レコード	71年作、イエスの3作目で、初のメンバーによる全曲オリジナル曲によるアルバムとなった1枚です。 前作からエンジニアとして関わっているエディ・オフォードがプロデュース、このタグは以降8作目まで続き、イエス・サウンドの原型がここで出来上がっていると思われます。ステイヴ・ハウが本作から参加した事がやはり大きく、それまでのクラシック指向だけではなく、大きく音楽性の幅が広がったのが目立ちます。 ライブでの重要曲となったナンバーも多く、初期イエスを知るには必聴と言える1枚です。	Side A 1. ユアーズ・イズ・ノー・ディスグレイス – “Yours Is No Disgrace” (イエス) 2. クラップ – “Clap” (ハウ) 3. スターシップ・トゥルーパー – “Starship Trooper” 4. ライフ・シーカー – “Life Seeker” (アンダーソン) 5. ディシレーション – “Disillusion” (スクワイア) 6. ワーム – “Wurm” (ハウ)	Side B 1. アイヴ・シーン・オール・グッド・ピープル – “I’ve Seen All Good People” 2. ユア・ムーヴ〜心の光〜 – “Your Move” (アンダーソン) 3. オール・グッド・ピープル – “All Good People” (スクワイア) 4. ア・ヴェンチャー – “A Venture” (アンダーソン) 5. パーペチュアル・チェンジ – “Perpetual Change” (アンダーソン、スクワイア)
YES	こわれもの		1971年11月26日	プログレ	レコード	72年作。イエスの通産4作目となったアルバムで、彼等を一気に大ブレイクさせた初期の傑作。 前作で加わったステイヴ・ハウが持ち込んだクラシックからカントリーまでもカヴァーする幅広い音楽性が、ここでは更に奥深いものとなってイエス・サウンドを確立しています。その貢献者となったのは、ストロークスを脱退したリック・ウェイクマンでした。ここでジョン・アンダーソン、ビル・ブラッフォード、クリス・スクワイア、ハウ、ウェイクマンという、彼等のキャリア史上最強と言えるラインナップの誕生となり、いよいよ英国プログレの重要な歴史を作る事となります。 各メンバーのソロ・ワークを挟み込み、多彩な個性のぶつかり合いとなりながら、本作が散漫にならなかったのは、トータル・コンセプトのブレの無さ、そして代表曲となった「ラウンドアバウト」で見られるメロディの良さがあったからだと思います。繊細でありながら非常に良く計算尽くされた緻密な構成は、ハード・ロックのダイナミズムと、クラシックの荘厳さを獲得し、最後まで保たれる異様な緊張感でもって耳を惹きつけます。 本作からタグを組んだ、ロジャー・ディーンのジャケット・ワークも新しい歴史の誕生であったと思います。 70年代英国プログレの濃密な味を知るには、必聴の1枚と言える大名盤です。	Side A 1. ラウンドアバウト(アンダーソン、ハウ)・・・シングルカットされ、大ヒット曲。 2. キャンズ・アンド・ブラムス 3. 天国への架け橋 “We Have Heaven”(アンダーソン) 4. 南の空 “South Side of the Sky” (アンダーソン、スクワイア)	Side B 1. 無益の5% “5% for Nothing” (ブルーフォード) 2. 遥かなる想い出 “Long Distance Runaround” (アンダーソン) 3. ザ・フィッシュ(スクワイア) 4. ムード・フォー・ア・デイ (ハウ) 5. 燃える朝やけ “Heart of the Sunrise” (アンダーソン、スクワイア、ブルーフォード)
YES	危機		1972年9月13日	プログレ	CD	72年リリース作、イエスの通算5作目にして彼等の最高傑作と言われる1枚。 前作の「こわれもの」の成功により、イエスはその演奏力と曲の構成力が評価されました。バンドは更なる実験性を拡大させ、他のプログレ勢とは一線を隔した緻密さ、大胆さを両立させたのが本作で、その完成度の高さゆえ、バンドは皮肉にもアルバム・タイトル通り危機的状況に陥り、メンバーの脱退により少しづつ崩壊していったのでした。 アルバムは二つの象徴的な組曲と、カラフルでめまぐるしい展開が目立つ大作曲の、計3曲で構成されています。 前作でも見せたメンバーそれぞれの個性の主張が、ここでは全編を通してバトルが続き、時にアヴァンギャルドに、時にハード・ロック的に、そして時に叙情的に繰り広げられていきます。 静と動の見事なコントラストが、それぞれの曲を冗長にする事なく常に緊張感を感じさせながらも、メロディは大衆的な美しさを誇っているのも特徴的です。 それぞれのパートが強烈な自己主張をする様は、下手をすれば全てがバラバラになっていくギリギリ寸前のスリルを感じさせてくれます。 イエスはここでピークを迎えますが、本作での凄まじいぶつかり合いのせいか、リック・ウェイクマン、ビル・ブルフォードの脱退により、彼等のキャリアは一度幕を引く事になりました。	1. 危機：着実な変革 / 全体保持(トータル・マス・リテン)/ 盛衰 / 人の四季 18:50 2. 同志：人生の絆 / 失墜 / 牧師と教師 / 黙示 10:09 3. シベリアン・カートゥル 8:57	
YES	イエスソングス		1973	プログレ	レコード	イエスが1973年に発表した3枚組の初の公式ライブ・アルバム。エス全盛期のライブを当時アナログ3枚組に収めたもので、彼等がプログレ勢の中でも圧倒的な演奏力を誇っていた事を証明した作品となりました。 71年から72年にかけてのツアーからの収録で、一部ビル・ブラッフォードが在籍していた音源も含まれていますが、後任のアラン・ホワイトがなんと三日間の練習期間を経てバンドに参加したという経緯もあり、イエスの大きな転換期という時代を象徴したアルバムにもなっています。 ステイヴ・ハウの参加により大きくバンドが進化した「サード・アルバム」、そしてブラッフォードの個性的なプレイが強固な骨格となった「こわれもの」、「危機」からのナンバーがほとんどとなったレパートリーは(一部リック・ウェイクマンのソロ作、「ヘンリー8世と6人の妻」からの曲がプレイされています)、確かに強力なリズム隊があってこそ成立するものでした。クリス・スクワイアが作り出す分厚いサウンドに、シャープな切れ味で躍動感を生んでいたブラッフォードのドラムの欠如は、バンドにとっては致命的とも思われましたが、これまでジョン・レノンと手堅い仕事をしてきたホワイトの正確さは、他のメンバーのフレキシブルな側面を活かす事に貢献したのかもしれない。ライブならではのアレンジも楽しめるのですが、何よりもとても生演奏とは思えない正確さ、音の緻密さに驚かされます。ジョン・アンダーソンのヴォーカル・ワークの見事さも特筆すべきで、同時代のプログレ勢には見られなかった個性を彼が担っていたとも思えます。楽器を持つ人間ならだれでも各パート毎に集中して聴き込んでしまいそうな圧倒的なバンド・サウンド、スタジオ・アルバムに勝る各メンバーのダイナミズムとドラマ性が、初期イエスの最高傑作としても言い切ってもいい完成度です。 1977年にリリース。イエスのスタジオ・アルバムとしては通算8作目。メンバーのソロ活動の後、3年ぶりに発売された作品。リック・ウェイクマンが復帰し、初めてセルフ・プロデュースとなり、またジャケットのデザインもロジャー・ディーンからヒポボシスに変わるなど、新たな意気込みが感じられる意欲作。代表曲「悟りの境地」を収録した、新しい息吹を感じさせる作品。1曲目収録のタイトル・トラック、そのイントロ部分で流れるハウのブルーザー・ギターに意表を突かされる、そんな出だしの本作ではありますが、全体通して聴くと、未だど真ん中のプログレ路線を貫いていることが分かる。バンドの本領を発揮した快作となっています。本作で特筆すべきなのは、何と言っても復帰参加したリック・ウェイクマンのキーボード・プレイでしょう。とにかく、超秀逸な超絶テクや美メロが怒濤の如く押し寄せてくるアルバムであり、聴いていて圧倒される。今までの難解でとっつきにくいアルバムから一転、全曲がメロディアスでキャッチーな造りで聴きやすいアルバムでもある。 【メンバー】ジョン・アンダーソン(Vo)、クリス・スクワイア(B)、ステイヴ・ハウ(G)、リック・ウェイクマン(Key)、アラン・ホワイト(Dr)	ディスク: 1 Side A 1. オープニング (ストラヴィンスキー作曲「火の鳥」から抜粋) 2. シベリアン・カートゥル 3. 燃える朝やけ Side B 1. パーペチュアル・チェンジ 2. 同志	ディスク: 2 Side A 1. ムード・フォー・ア・デイ 2. ヘンリー8世と6人の妻から抜粋 3. ラウンドアバウト Side B 1. アイヴ・シーン・オール・グッド・ピープル 2. 遥かなる想い出「ザ・フィッシュ」 ディスク: 3 Side A 1. 危機 Side B 1. ユアーズ・イズ・ノー・ディスグレイス 2. スターシップ・トゥルーパー
YES	究極		1977年	プログレ	レコード	1977年にリリース。イエスのスタジオ・アルバムとしては通算8作目。メンバーのソロ活動の後、3年ぶりに発売された作品。リック・ウェイクマンが復帰し、初めてセルフ・プロデュースとなり、またジャケットのデザインもロジャー・ディーンからヒポボシスに変わるなど、新たな意気込みが感じられる意欲作。代表曲「悟りの境地」を収録した、新しい息吹を感じさせる作品。1曲目収録のタイトル・トラック、そのイントロ部分で流れるハウのブルーザー・ギターに意表を突かされる、そんな出だしの本作ではありますが、全体通して聴くと、未だど真ん中のプログレ路線を貫いていることが分かる。バンドの本領を発揮した快作となっています。本作で特筆すべきなのは、何と言っても復帰参加したリック・ウェイクマンのキーボード・プレイでしょう。とにかく、超秀逸な超絶テクや美メロが怒濤の如く押し寄せてくるアルバムであり、聴いていて圧倒される。今までの難解でとっつきにくいアルバムから一転、全曲がメロディアスでキャッチーな造りで聴きやすいアルバムでもある。 【メンバー】ジョン・アンダーソン(Vo)、クリス・スクワイア(B)、ステイヴ・ハウ(G)、リック・ウェイクマン(Key)、アラン・ホワイト(Dr)	Side A 1. 究極 2. 世紀の曲り角 3. バラレルは宝	Side B 1. 不思議なお話を 2. 悟りの境地
YNGWIE MALMSTEEN	ライジング・フォース		1985年3月5日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1984年に発表されたイングヴェイ・マルムスティーンのソロ第1作目のスタジオ・アルバム。アルカトラスにおいて自らのギタープレイと作曲能力を示したマルムスティーンが、日本のレコード会社からの強力なプッシュによりインストゥルメンタルを主軸にさらなるミュージシャンシップを発揮させたアルバムである。このアルバムで示された、ヴァイオリンを思わせるレガートなギター演奏や、クラシック音楽とヘヴィメタルを高次元でクロスオーバーさせた楽曲は、ロック・シーンならびにギター・シーンに多大な影響を与え、新ジャンル「ネオクラシカルメタル」として多くのフォロワーを生み出すに至った。	1.「ブラック・スター」(Black Star)(Instrumental)4:53 2.「ファー・ビヨンド・ザ・サン」(Far Beyond The Sun)(Instrumental)5:52 3.「ナウ・ユア・ジッパズ・アー・バーンド」(Now Your Ships Are Burned)イングヴェイ・マルムスティーン4:11 4.「イヴィル・アイ」(Evil Eye)(Instrumental)5:14	5.「イカサスの夢・組曲 作品4」(Icarus' Dream Suite Op.4)(Instrumental)8:33 6.「アズ・アバヴ、ソー・ピロウ」(As Above, So Below)イングヴェイ・マルムスティーン4:39 7.「リトル・サベージ」(Little Savage)(Instrumental)5:22 8.「フェアウェル」(Farewell)(Instrumental)0:49
YNGWIE MALMSTEEN	マーチング・アウト		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1985年発表。イングヴェイ率いるスウェーデンの血「ライジング・フォース」のデビュー・アルバム。その強烈なパワーとイングヴェイの超早弾きギター・ワークの伝説が始動した衝撃のアルバム！1stソロアルバムが世に出る前から制作準備が始まり、新バンドRising Force結成後のほぼフルメンバー（ほぼと言う言葉にご注意）でレコーディングされたが、資金的にも時間的にも全く余裕がなかったという事が、録音の音質とミックスの拙さに現れてしまった部分が残念な作品。楽曲は後にも先にも類を見ない攻撃的かつヘビーな作品目白押しで、ボーカルのジェフをはじめ、バンドの若さが炸裂している。捨て曲なしで全曲完璧	Side A 1. プレリュード 2. ファイル・シー・ザ・ライト・トゥナイト 3. ドント・レット・イット・エンド 4. ディサイプルス・オブ・ヘル 5. アイ・アム・ア・ヴァイキング	Side B 1. OVERTURE 1383(序曲1383) 2. アンギッシュ・アンド・フィアー 3. オン・ザ・ラン・アゲイン 4. ファスター・ウィズアウト・フェイス 5. コート・イン・ザ・ミドル 6. マーチング・アウト
YNGWIE MALMSTEEN (Rising Force)	トリロジー		1986	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	86年度リリース。インギーの初期トリロジー（三部作）の最終章となった86年作のアルバムで、その壮大なギャグとも思われかねないジャケットが印象的な1枚です。 ヴォーカルがジェフ・スコット・ソートからマーク・ポールズに変わり、よりドラマチックなヴォーカル・ナンバーが増え、曲調もかなりキャッチーになった事により、ネオクラシカル・メタルの拡散にも貢献した1枚です。 優れたヴォーカリストとポップなセンスの導入、というリッチー・ブラックモアが後期レインボーで導入した方法論をここでも踏襲したわけですが、イングヴェイの場合は自己主張とメタルとしての総合完成度のバランスを本作により調和させたと思います。 有無を言わせぬ圧倒的技量とイングヴェイのキャラクター、サウンドの大衆性が最も優れていたと思われる時期で、ビギナーにもオススメの1枚です。	Side A 1. ユードント・リメンバー 2. ライアー 3. クイーン・イン・ラヴ 4. クライグ 5. フュリ	Side B 1. ファイヤー 2. マジック・ミラー 3. ダーク・エイジズ 4. トリロジー・スーツ OP:5
YNGWIE MALMSTEEN (Rising Force)	オデッセイ		1988年4月8日		レコード	86年リリース。悪夢の自動車事故から完全復活をしたイングヴェイの4作目のアルバムでヴォーカルに、あのレインボーのヴォーカルだったジョー・リン・ターナーを迎えての作品。事故の後遺症は全然感じさせません。一曲目のライジングフォースは、今でも80年代ヘビーメタル有線で流れている、イングヴェイのソロ作の中でもシンプルでストレートなリフ、疾走感が最高なナンバー。全体の内容は従来イメージから一新しアメリカ市場を意識した曲が多く、本人的にはこのアルバムは気に入ってないらしいが、全体的にはキャッチーさは勿論だが、ギターソロ部とバックリフとでメリハリがあり、主旋律に華を持たせている感です。ここではいつもの超速弾き満載のギタープレイは影を潜め、ヴォーカルに寄り添った形のソウルフルに感じられ彼のギタープレイが目光る。早や弾きを好む人には物足りないと好みも二分するかと思うが、楽曲の良さでは恐らく最高傑作といえる。切なクブルーザーなハスキーヴォイスのジョーの魅力が存分に楽しめる。歌唱力のあるヴォーカルだとやはり違うと思われる傑作アルバムだ。	Side A 1. ライジング・フォース 2. ホールド・オン 3. ヘヴン・トゥナイト 4. ドリーミング 5. バイト・ザ・パレット 6. ライアウト・イン・ザ・ダンジョンズ	Side B 1. デジャ・ヴー 2. クリスタル・ボール 3. ナウ・イズ・ザ・タイム 4. ファスター・ザン・スピード・オブ・ライト 5. クラカ 6. メモリーズ
YNGWIE MALMSTEEN	ファイアー・アンド・アイス		1992	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	イングヴェイがボリドールからエレクトラへ移籍した第一弾となる6枚目のアルバム。日本では初のオリコン1位を記録したアルバムで、その後の安定した人気を確立していますが、何故かそれ程評価が高くないのも特徴的な1枚です。 当時はまだ「光速のブタ野郎」と愛情を込めて呼ばれてはいなかったと思いますが、そろそろ天才らしいとも言えるその人間性が問われる時期でもあったのだと思います。 自由奔放に弾きまくる姿に圧倒されつつも、次々とメンバーを切り捨てていく傍若無人ぶりがこの人のイメージを固定化していた事が、ヒュアなメタル・ファンには受け付けられない事が本作への評価に繋がっているのかもしれない。 内容的にはかなり真摯に頑張っているものだと思うのですが、やれる事全部やりました的なハリキリ具合が若干お腹いっぱいといった印象を残します。 それでも超ポップ展開をした「Teaser」、哀愁節全開の「Cry No More」、スピード・チューンの正統派メタルとなった「Forever Is A Long Time」、80年代型のキャッチーが新鮮なアルバム・タイトル曲等、実に優れたナンバーが揃っているだけに、本作をととても駄作と言える事はできません。 ただ実はこれらのナンバーが優れているのは、ヴォーカリスト、ヨラン・エドマンの歌唱に頼る部分が大きいと思うのです。彼を本作限りで切ってしまった事が、個人的にはかなり大失敗だったと考えているのですが、ヨランがその後スウェーデンの滅り鳥シンガーに化してしまった	1. パーペチュアル(Perpetual)(Instrumental) 4:14 2. ドラゴンフライ(Dragonfly) 4:49 3. ティーザー(Teaser) 3:29 4. アイ・メニー・マイルス・トゥ・バビロン(How Many Miles To Babylon) 6:10 5. クライ・ノー・モア「Cry No More」 5:17 6. ノー・マーシー(No Mercy) 5:32 7. セ・ラ・ヴィ「C'est La Vie」 5:19 8. レビヤタン (Leviathan)(Instrumental) 4:24	9. ファイアー・アンド・アイス (Fire And Ice) 4:31 10. フォーエヴァー・イズ・ア・ロング・タイム (Forever Is A Long Time) 4:28 11. アイム・マイ・オウン・エネミー (I'm My Own Enemy) 6:09 12. オール・アイ・ウォント・イズ・エヴリシング (All I Want Is Everything) 4:02 13. ゴールド・ドーン (Golden Dawn)(Instrumental) 1:28 14. ファイナル・カーテン (Final Curtain) 4:46

Z	YOUNG MARBLE GIANTS	クローサル・ユース		1980	ニューウェーブ	レコード	ギタリスト/ソングライターのスチュアート・モックスハム、その弟でベーシストのフィリップ・モックスハム、シンガーのアリソン・スタットンという3人からなるヤング・マーブル・ジャイアンツが、1980年に残した唯一のアルバムにして、今もなおミニマルポップの金字塔として世界中の音楽ファンに人気アルバム。唯一無二の歌声、ギター、ベース、リズムボックスによって奏でられるミニマルなサウンドで構成された本作は、ヤング・マーブル・ジャイアンツにしか作り出せなかった紛れもない傑作であり、ポストパンクの中で最も重要なレコードの一つ。リイシュー盤の2枚目には『Salad Days』『It's The War Over』『Final Day』『Testcard EP』といった貴重なEPやシングル、コンピレーションの楽曲が収録され、また1980年ニューヨークで行われた貴重なアメリカ公演のライブDVDが付属。	Side A 1. Searching For Mr Right 2. Include Me Out 3. The Taxi 4. Eating Noddemix 5. Constantly Changing 6. N.I.T.A. 7. Colossal Youth Side B 1. Music For Evenings 2. The Man Amplifier 3. Posed By Models 4. The Clock 5. Clicktalk 6. Zebra Trucks 7. Sporting Life 8. Wind in the Rigging	Side C 1. Have Your Toupee Ready 2. The Man Shares His Meal With His Beast 3. Hayman 4. Loop The Loop 5. Ode To Booker T Side D 1. Final Day (single) 2. Radio Silents (同じ) 3. Cakewalking (同じ) 4. This Way (同じ) 5. Posed By Models (Testcard E.P.) 6. The Clock (同じ) 7. Clicktalk (同じ) 8. Zebra Trucks (同じ) 9. Sporting Life (同じ)
	YOUNG RASCALS	グルーヴィン		1967	ロック	CD	全米ナンバーワン・ヒット「グルーヴィン」をフィーチャーしたサード・アルバム。「ガール・ライク・ユー」「高鳴る心」など名曲満載のヒット・アルバム。1967年作品。 1967年に2枚目の全米ナンバーワン・シングルとなった、彼らの代表曲と呼んで差し支えない「グルーヴィン」をフィーチャーしたサード・アルバム。「グルーヴィン」は、ハーモニカやパーカッションが響くどこなサウンドに、フェリックス・キャヴァリエのソウルフルなヴォーカルが見事に溶けあった、まさに彼らの真骨頂ともいえる名曲中の名曲。続くトップ・テン・ヒット「ガール・ライク・ユー」は軽快なシャッフル・ビートにスリリングなプラス・セクションが絡むジャジーなサウンドで新境地を見た。さらにエディ・ブリガディのドラマティックなヴォーカルが素晴らしい「高鳴る心」など、聴き所満載。後にパット・ベネターがカバーしたことでも知られる1966年のシングル「ユー・ベター・ラン」、ステイヴィー・ワンダーの「太陽のあたる場所」の素晴らしいカバーに加えて、メンバーのオリジナル曲も実験的で、全体的にポジティブなパワーに溢れたアルバム。アルバム・チャートで全米5位を記録	1「ガール・ライク・ユー」 2ファインド・サムバディ 3アイム・ソー・ハッピー・ナウ 4スエノ 5高鳴る心 6グルーヴィン 7イフ・ユー・ニュー 8アイ・ドント・ラヴ・ユー・エニーモア 9ユー・ベター・ラン 10太陽のあたる場所 11イツ・ラヴ	
	Y&T	アースシェイカー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	81年作。イエスタデイ&トゥデイからY&Tへと改名した第1弾、通産3作目となったアルバムで、イギリスで勃発したNWOBHMシーンに引きずられる様にして、アメリカン・バンドの好盤として紹介されました。それまでのアメリカン・ハードの徹底的にカラッとしたダイナミズム、パーティー・ロック的な陽性のノリだけではなく、ブルースを根底にした欧州的な憂鬱感が同居している個性が注目されていたのだと思います。ロバート・プラント以降のハイトーン・ヴォーカルではなく、デヴィ・メニケッティのソウルフルな声も特徴的でした。 イギリスはもちろん、ここ日本でも本作のドラマチックなバラードと、熱いハード・ロックの対比が支持を受けていたのではないのでしょうか。 陰と陽、明と暗、このコントラストの美しさこそが以降のY&Tを名バンドとしていくわけですが、「ブラック・タイガー」、「ミーン・ストリーク」と続く大名盤と本作を合わせ、三部作として考える事もできると思います。その発端が「レスキュー・ミー」であり、7分を超える一大バラード、「アイ・ビリーヴ・イン・ユー」だったのでしょう。		
	Y&T	アースシェイカー		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	Y&T	ブラック・タイガー		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作。Y&Tの通産4作目で、A&Mへ移籍後にYesterday & TodayからY&Tに改名後の第2弾となったアルバム。日本では早くから話題となった1枚で、特に静と動、明と暗のコントラストが見事なサウンドが圧倒的な支持を受けるのでした。デヴィ・メニケッティのエモーショナルなギターとソウルフルなヴォーカルは、それまでのハード・ロック、メタルの熱い部分を忠実に受け継いだものではありましたが、何よりもメロディの素晴らしいさが新鮮だったのだと思います。その代表的なものが「フォーエヴァー」であり、過剰に成りすぎない泣きのギターから、一気にドラマティックに燃え上がっていく構成はマイケル・シェンカーとUFOの「ドクター・ドクター」を凌駕したのではないのでしょうか。時代がやがてポップ・メタル化へと推移していく中、一際重厚で情熱的なハード・ロックを展開してくれた大名盤。		
	Y&T	ミーン・ストリーク		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作。Y&Tの通産5作目。前作「ブラック・タイガー」と対になうような1枚で、彼等の絶頂期を象徴する大名盤です。ブリティッシュ・ハードからの影響をエモーショナルにプレイするスタイルは最早職人的な巧みが見られ、デヴィ・メニケッティの熱いギターとヴォーカルが当時のバンド勢の中では群を抜いていると思います。 ソウルフルなハード・ロックに対して、やはりバラード・タイプのメロディアスなナンバーが特に絶品で、「ロズリー・サイド・オブ・タウン」、日本のファンに捧げられた「ミッドナイト・イントロ・キョー」、「センチメンタル・フル」等は、イントロから震えが止まらない程の美旋律を聴かせてくれます。男泣きを許してくれるメタル、というのはこういうサウンドを言うんじゃないのでしょうか。彼等がLAメタルを意識する以前の、緩急、静と動の美を誇っていた最後のアルバムとも言え、日本人の琴線に触れるワビサビをも感じさせるハード・ロック・ファン必聴の1枚ではないでしょうか。		
	ZOMBIES	オデッセイ・アンド・オラクル		1968年4月19日	ロック	CD	1968年リリース。ゾンビーズの通算2作目のアルバム、ゾンビーズの最高傑作にして、ポップ・アルバム界の最高峰。1960年代のUKサイケデリック・ポップを代表するアルバム。独自のグルーヴ感溢れる楽曲が超クール。本作では多大にサイケデリックムーブメントの影響を受け、サウンド面でもメロトロンを多数の曲で導入するなど意欲的な作品だったが、メンバーの中でポールとコリンはセールスに伸び悩むバンドの将来に対し明るい見通しが立たないことに幻滅しており、レコーディングが進むにつれてメンバー間の人間関係が悪化。このため、1967年12月中旬に最後のライブを行った後、バンドは解散となった。大ヒット曲「ふたりのシーズン」収録。	1. 独房44 (Care of Cell 44) ロッド・アージェント 3:57 2. エミリーにバラを (A Rose for Emily) ロッド・アージェント 2:19 3. 彼去りし後には (Maybe After He's Gone) クリス・ホワイト 2:34 4. ビーチウッド・パーク (Beechwood Park) クリス・ホワイト 2:44 5. ローソクの様に (Brief Candles) クリス・ホワイト 3:30 6. 夢やぶれて (Hung Up on a Dream) ロッド・アージェント 2:41	ここからアナログSide Bになる 7. 変革 (Changes) クリス・ホワイト 3:20 8. 私と彼女は (I Want Her, She Wants Me) ロッド・アージェント 2:53 9. 今日からスタート (This Will Be Our Year) クリス・ホワイト 2:08 10. ブッチャーズ・テイル (Butcher's Tale) クリス・ホワイト 2:48 11. フレンズ・オブ・マイン (Friends of Mine) クリス・ホワイト 2:18 12. ふたりのシーズン (Time of the Season) ロッド・アージェント 2:20 以下、CDボーナストラック 13. She Loves The Way They Love Her 14. スモーキーティー 15. イフ・イット・ドント・ワーク・アウト 16. アイ・ノウ・シー・ウィル 17. ラーキング・インザ・サン
	ZZ TOP	イリミネーター		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作。ZZトップが全米の国民的支持を受ける事となった大ヒット作で、彼等の通産8作目のアルバム。80'sポップを象徴する当時の最先端エレクトロの大胆な導入が、彼等独自のノリと見事融合し、時代に乗っただけでなく、80年代メタルを牽引する事にもなった意欲作です。それまで汗と埃とビールの匂い、エンジンの大爆音にこそビッタリな彼等のサウンドは、ここで一気にターボ化した。基本はブリとブルースを強引にポップ・チューンにした様な豪快なハード・ロックなのですが、そこにシンセサイザーが乗っかるというかつて目新しい手法ではないのですが、これが実に気持ちがいい。アメリカ人大好き、というのが良く理解できるのですが、このシンプルなロックのダイナミズムは世界共通の快感でもあったと思います。 オープニングの「ギミ・オール・ユア・ラヴィン」でのアメリカン・ハードの王道節、ヒット・シングルとなったモダンなミドル・ポップ・チューン、「レッグス」のカッコ良さは今聴いてもウキウキしてしまいます。		
	ZZ TOP	アフターバーナー		1990	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	90年作。9作目となったアルバムで、彼等のキャリアの中でも最大のセールスを上げたヒット・アルバム。80'sメタルの激ポップ化の潮流を分析する上では、やはり外せない1枚だと思います。前作の「イリミネーター」のシンセ導入路線を更に強化、80'sのキラキラ・ポップ感覚に溢れた内容となっています。ジャケット・ワークも当時のアメリカン・プログレ・ハード系のスペース・ナデザインとなり、完全なモダン・ハード・ロックへと変貌しています。 持ち前のハード・ドライヴィング・センスと、キャッチーなメロディ、加えて80年代のエレ・ポップ風アレンジが、それまで酒と煙草と汗の象徴であった様なバンド・イメージを覆し、誰もが楽しめるポップ・メタルとしての味わいを湛えています。		
オムニバス	Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	お気に入りの80'sナンバーワン		2015年7月24日	ロック	CD	ソニーのザ・ネイションズ・フェイバリット80年代ナンバーワンスは、1980年代にイギリスのチャートで1位になった60枚のシングルをまとめています。3枚のディスクにまたがって、ボリスの「Every Breath You Take」、ペットショップ・ボーイズの「ウエスト・エンド・ガールズ」、ボニー・タイラーの「Total Eclipse of the Heart」などのクラシック・ヒット・トラックが収録されています。いくつかの曲はうまく持ちこたえていますが、他の曲は時代のネオン過剰に窮屈に感じますが、すべて典型的な80年代で]	Disc 1 1. Every Breath You Take – Police 2. Billie Jean – Jackson, Michael 3. I Wanna Dance with Somebody (2000 Remaster) – Houston, Whitney 4. There Must Be an Angel (Playing with My Heart) – Eurythmics 5. Don't You Want Me – Human League 6. Wake Me Up Before You Go-Go – Wham! 7. Come on Eileen – Dexys Midnight Runners 8. Karma Chameleon – Culture Club 9. Tainted Love – Soft Cell 10. You Spin Me Round (Like a Record) (Original 7" Mix) – Dead or Alive 11. House of Fun – Madness 12. Two Tribes – Frankie Goes to Hollywood 13. West End Girls (Remastered) – Pet Shop Boys 14. The Reflex – Duran Duran 15. Train – Smokey Robinson	Disc 3 1. Total Eclipse of the Heart (Single Version) – Tyler, Bonnie 2. I Want to Know What Love Is – Foreigner 3. Eye of the Tiger – Survivor 4. The Final Countdown – Europe 5. Stand and Deliver – Adam and the Ants 6. This Ole House (Single Version 2004 Remaster) – Stevens, Shakin' 7. The Power of Love (Radio Edit) – Rush, Jennifer 8. Perfect – Fairground Attraction 9. Frankie – Sister Sledge 10. I Feel for You – Khan, Chaka 11. Fame – Cara, Irene 12. Give It Up – KC & the Sunshine Band 13. 99 Red Balloons – Nena 14. La Bamba – Lobos 15. Down Under – Men at Work 16. ...

	Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	史上最高!クラシック ロック(グレイテスト・エ ヴァー・クラシック・ ロック)		2016年2月22日	ハードロッ ク&ヘヴィ メタル	CD	グレイテスト・エヴァー・クラシック・ロックは、スペクトラムのメタリックな端(モーターヘッド、 ジューダス・プリースト、ディオ)から、サザン・ロック(リナード・スキナード、ZZトップ、オールマ ン・ブラザーズ・バンド)や、イギリスの国民的バンド(シン・リジィ、モット・ザ・フール等)から、 ザ・プリテンダーズのようなニューウェーブ系のロック等、ハードロック系のバンドのヒット曲を纏 めたアルバム。59曲収録。	1-1Free-All Right Now 1-2Meatloaf* With Cher-Dead Ringer For Love 1-3Elton John-Saturday Night's Alright (For Fighting) 1-4Rod Stewart-Maggie May 1-5Warren Zevon-Werewolves Of London 1-6Bachman Turner Overdrive*-You Ain't Seen Nothin' Yet 1-7The Guess Who-American Woman 1-8Foghat-Slow Ride 1-9Grateful Dead*-Friend Of The Devil 1-10The Scorpions*-Wind Of Change 1-11Matthews' Southern Comfort- Woodstock 1-12The Velvet Underground-I'm Waiting For The Man 1-13The Cars-Just What I Needed 1-14The Pretenders-Brass In Pocket 1-15The Runaways-Cherry Bomb 1-16Zodiac Mindwarp & The Love Reaction* -Prime Mover 1-17Hanoi Rocks-Malibu Beach Nightmare 1-18The Sensational Alex Harvey Band- Vambo Marble Eye 1-19Tesla-Love Song 2-1Heart-Barracuda 2-2ZZ Top-La Grange 2-3Judas Priest-Livin' After Midnight 2-4Kiss-Rock And Roll All Nite 2-5The Sweet-Ballroom Blitz 2-6George Thorogood*-Bad To The Bone 2-7The Velvet Underground-White Light/White Heat 2-8Nazareth (2)-Hair Of The Dog 2-9Mott The Hoople-Roll Away The Stone 2-10Deep Purple-Smoke On The Water 2-11Kansas (2)-Carry On Wayward Son 2-12Stealers Wheel-Stuck In The Middle With You 2-13Barclay James Harvest-Child Of The Universe 2-14Uriah Heep-Easy Livin' 2-15Bad Company (3)-Feel Like Makin' Love 2-16The Allman Brothers Band-Midnight Rider 2-17Joe Walsh-Rocky Mountain Way 2-18Dio (2)-We Rock 2-19Diamond Head (2)-Starcrossed (Lovers Of The Night) 2-20Motörhead-Overkill 3-1Lynyrd Skynyrd-Sweet Home Alabama 3-2Thin Lizzy-The Boys Are Back In Town 3-3Jethro Tull-Aqualung 3-4Status Quo-Whatever You Want 3-5The Scorpions*-Rock You Like A Hurricane 3-6Foreigner-Juke Box Hero 3-7Asia(2)-Heat Of The Moment 9. オーディナリー・ワールド(デュラン・デュラン) 10. 自由への疾走(レニー・クラヴィッツ) 11. おおキャロライナ!!(シャギー) 12. カンターループ(US3) 13. テイク5(XL) 14. ミスター・ウエンドル(アレステッド・ディヴェ ロップメント) 15. アイ・ドント・ワナ・ファイト(ティナ・ターナー) 16. それが愛というものだから(ジャネット・ジャ クソン)
	Now That's What I Call Music! 1 Various Artists (ヴァリアス・アーティスト)	ヒット曲 ヴァリアス・アーティ ス		1993	ロック	CD	最新ヒットコンピレーションの決定版。UK大ヒットシリーズ「NOW」が日本での最新ンヒット曲を 収録したアルバム。	1. 伝説のチャンピオン(クイーン) 2. 好きにならずにいられない(UB40) 3. コーリング・ユー(ホリー・コール) 4. 明日(あす)への誓い(ポール・マッカート ニー) 5. エニタイム(ギルバート・オサリヴァン) 6. イッツ・トゥー・リアル(ベリンダ・カーライル) 7. ゴー・ウエスト(ベット・ショップ・ボーイズ) 8. 愛にすべてを捧ぐ(ミートローフ)